

令和3年度 文部科学省委託事業

「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」報告書

弘前大学教育学部多文化リソースルーム

はじめに .....	1
I. 研究拠点校の支援について .....	6
I-1 研究拠点校に及び多文化リソースルームにおける支援の概要と本章の構成 .....	6
(資料1) 支援体制一覧 .....	8
(資料2) 支援実績 .....	10
I-2 研究拠点校の多文化版「個別の教育支援計画」「個別の支援計画」 .....	11
(資料3) 青森市立[ ]小学校 .....	12
(資料4) 青森市立[ ]小学校 .....	20
(資料5) 青森市立[ ]小学校 .....	32
(資料6) 青森市立[ ]中学校 .....	36
(資料7) 青森市立[ ]中学校 .....	41
(資料8) 青森県立[ ]高等学校 .....	44
(資料9) 青森県立[ ]高等学校 .....	48
(資料10) 青森県立[ ]高等学校 .....	53
I-3 多文化共生の学校づくりへの取組 .....	56
I-3-1 多文化共生の学校づくりへの取組（青森市立小学校編） .....	56
I-3-2 多文化共生の学校づくりへの取組（県立高等学校編） .....	59
I-4 研究拠点校における支援の効果検証 .....	62
(資料11) R 中学校 .....	64
(資料12) S 小学校 .....	69
(資料13) T 高等学校 .....	77
(資料14) U 中学校 .....	86
(資料15) W 小学校 .....	91
(資料16) X 高等学校 .....	100
(資料17) Y 高等学校 .....	107
(資料18) Z 小学校 .....	114
I-5 関係者による成果と課題の記述 .....	122
I-5-1 教育委員会としての成果と課題 .....	122
I-5-2 研究拠点校としての成果と課題 .....	128
II. 高校進学ガイダンス .....	137
(資料19) スライド「青森県の高校進学ガイダンスとその背景」 .....	139
III. 支援人材の養成に向けて .....	144
III-1 青森県日本語指導サポータースキルアップ研修 .....	145
III-2 研究拠点校校内研修及び弘前市教育委員会研修 .....	147
III-2-1 研究拠点校校内研修「多文化共生に向けたユニバーサルデザインを踏まえた	

環境づくりと授業の在り方」	147
III-2-2 研究拠点校校内研修及び弘前市教育委員会研修「多文化共生の教室をつくる」…	150
III-3 弘前大学における支援人材の育成	
－日本語教育科目の開講と支援人材としての教職大学院生	154
IV. 多文化リソースルーム活用・資料整備状況	160
IV-1 多文化リソースルーム活用実績について	160
(資料20) 多文化キッズ交流会 in 弘前大学	161
IV-2 資料貸し出し件数及び資料整備状況	162
(資料21) 多文化リソースルーム 書籍目録	163
V. 日本語0プログラムと支援の実際	171
VI. 地域の支援ネットワークの強化	175
VI-1 研究協議会	175
VI-2 教育委員会との連携	175
VI-3 県内関係団体との連携	178
VII. ガイドブックの作成に向けて	181

## はじめに

本報告書は、令和 2 年度に始まった文部科学省委託事業「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」の令和 3 年度の実績をまとめたものである。

報告書の構成は目次を参照していただきたいが、事業実施 2 年目にあたる本年度は、年度当初から 1 年間を通して研究拠点校での実践が行われたことから、研究拠点校における取組内容とそれに対する関係者の受け止めについての内容が厚くなっている。また、弘前大学教職大学院生の支援員としての養成と派遣、高校進学ガイダンスの実施、多文化リソースルームにおける支援実践等、弘前大学多文化リソースルームとして新たに取り組んだ内容についても報告する。報告書の最後には、「青森県版 多文化共生に向けた日本語指導が必要な子どもの受け入れガイドブック」（仮称）の骨子案を示した。

報告書の各章の内容は詳細なデータの提示となっているが、全体像をつかんでいただくため、以下、本事業の進展を通して大きく変化しつつある青森県の外国につながる子ども支援の概況について述べておきたい。

令和 2 年度の「多文化共生に向けた日本語指導の充実に調査研究」によって設置された弘前大学教育学部多文化リソースルーム（以下、多文化リソースルーム）は、令和 2 年度から 3 年度にかけて、青森県内の小学校・中学校・高等学校を研究拠点校として調査研究を進め、関係機関と連携して多文化共生に向けた日本語指導とキャリア支援、それを支える人材育成、支援ネットワークの構築に取り組んできた。内容は以下のとおりである。

### (1) 青森市立小中学校における支援体制の構築と多文化共生の取組

青森市は、県庁所在地であり日本語指導が必要な児童生徒は決して少なくない自治体であったが、日本語支援員が入る支援は行われていなかった。これに対し、多文化リソースルームは、青森市教育委員会と連携して支援員・スーパーバイザーの派遣を開始した。令和 3 年度の研究拠点校は、小学校 3 校及び中学校 2 校、対象生徒数は 7 名となっている。この中には不就学になっていた生徒が学齢を過ぎて中学校に就学した事例も含まれている。支援にあたっては、学校教員と支援員、多文化スーパーバイザーがケース会議を開き、独自様式による個別の教育支援計画・個別の指導計画を策定した。年度途中で他県に転校する生徒が出たが、その際には、保護者の了承のもと、これらの計画を転校先に送るなど継続的な日本語指導に向けた資料として役立った。

また、子ども自身の気持ちへの配慮もあって、すべての学校で実施されたわけではないが、一部の拠点校では、児童生徒が母語で表現することを尊重し、互いの文化を知り合う環境づくりを進めるなど、積極的に多文化共生を意識した取組が展開された。

研究拠点校においては、日本語指導を受けている子どもと学校教員を対象とした効果検証として 2 月に聞き取り調査を行った。また、研究拠点校と所管する教育委員会に、それぞれ成果と課題についてまとめた報告を提出してもらった。支援体制・指導内容の改善に向けて、重要なデータが得られている。

さらに、令和 2 年度作成の日本語 0 プログラムについても、日本語 0（ゼロ）で入学あるいは転入した児童生徒の在籍校を所管する教育委員会、及び、当該児童生徒の支援員に対してアンケート調査を行い、

同プログラムの修正を行っている。

## (2) 県内市町村教育委員会からの問合せと連携

多文化リソースルームが県内で次第に認知されるようになり、令和 3 年度は、年度当初に青森県国際交流協会を介して平川市教育委員会から、年度後半には五所川原教育委員会から直接、相談が入った。いずれも受け入れ経験がない自治体に、急に日本語指導が必要な児童が転入してくる状態が生じたための相談であった。両市教育委員会とも速やかに予算を用意できたため、相談の上、本事業の研究拠点校に準ずるかたちで位置づけ、多文化リソースルームから支援員とスーパーバイザーを派遣して、支援を開始することができた。

また、おいらせ町教育委員会からは、外国籍生徒の在留資格と学習の継続に関わる相談が入り、多文化リソースルームから、情報提供を行った。

青森県内では徐々に支援のネットワークが広がりを見せつつあるといえる。

## (3) 青森県立高等学校における支援体制の構築

令和 2 年度から引き続き、青森県立高校 3 校で支援を実施し、高校における支援が定着しつつある。全日制普通科の高校においては、日本語指導だけでなく、大学進学に向けたキャリア支援、多文化共生の取組などが積極的に取り組まれている。他の 2 校は、令和 3 年度はいずれも通信制課程での支援となった。通信制は、スクーリング日が少なく、日本語を継続的に学ぶ環境を作ることが難しいため、いずれもスクーリング以外の日に日本語指導を行っている。このうち、1 校の在籍生徒については、弘前大学の比較的近くに居住していることから、多文化リソースルームで週 2、3 回の日本語指導を受ける体制をつくった。日本語を学ぶ意味を実感しながら学べるように、バスの乗降、スーパーマーケットでの買い物、保護者の経営する店での対応など、体験的な活動と日本語指導を結び付けた校外学習も実施した。

こうした取組を通じて、県内の高等学校における日本語指導の必要性の認識は広がっており、小中学生とその保護者を対象とした高校進学ガイダンスの実施や、青森県教育委員会の来年度以降の取組につながりつつある。

## (4) 弘前大学教育学部多文化リソースルームにおける学習支援・資料活用

多文化リソースルームの学習支援スペースは、上述の通信制に通う生徒の学習支援に活用されているほか、令和 3 年度には、弘前市立小学校に通う日本語指導が必要な児童の放課後学習も実施された。また、夏休みには、多文化キッズ交流会も実施され、コロナ下で人数は少なかったが、複数の小学生が来室、交流した。これらの学習支援や交流には、弘前大学教職大学院の学生や学部生が関わり、(5) で述べるように教員養成における日本語支援人材養成にもつながっている。

多文化リソースルームが収集した資料は、支援員によって積極的に活用され、来室以外に、郵送での貸出等にも対応している。また、資料整備には教職大学院生も携わっており、教員になる学生たちが実際に教材を手に取り、理解する機会となっている。

## (5) 大学の授業及びスキルアップ研修講座、校内研修等による人材育成

多文化リソースルームは、令和 3 年度から、1 種の教員免許を取得済みの教職大学院生を、学校生活支

援員として派遣する試みを始めた。教職大学院生は、教員としてのさまざまな力量形成に努めているが、特に教職大学院の必修科目「教育における社会的包摂」において、文科省の「モデルプログラム」の「子どもの実態把握」「社会的背景の理解」にあたる内容を中心に「異文化間能力の涵養」や「学校づくり」について学び、「多文化共生社会の実現」に向けて社会的正義や公正性への鋭敏な感性を養うよう指導を受けている。加えて、支援員として派遣される者は、学部の教養科目「日本—日本語教育を知る」の科目を履修し、学習者の心理、文法、教材・教具、教授法等など日本語教育の専門的知識（「モデルプログラム」の「日本語・教科の力」の育成に該当）について学び、さらに、後述のスキルアップ研修も受講している。派遣にあたっては、支援日報を作成し自己の取組を省察するとともに、多文化スーパーバイザーから、対象となる児童生徒の実態に合わせて指導の在り方についての助言を受けて支援経験を積み重ねている。

また、多文化リソースルームは、昨年度に引き続き、青森県国際交流協会及び青森大学日本語教育センターと連携して、子どもの日本語教育に特化したスキルアップ研修講座を開講した。このスキルアップ講座は、日本語教育の中でも、子どもの日本語教育に特化した内容となっており、県内で子どもへの日本語指導に携わっている、あるいはこれから携わりたいと考えている人が広く参加している。令和3年度には、教科の理解につなげる日本語支援とリライト教材をテーマとし、弘前大会会場、青森大会会場、八戸市を中心とした Zoom での参加者をオンラインで結んで実施した。教職大学院生をはじめとする多文化リソースルーム支援員、青森県国際交流協会主催の青森県日本語指導サポーター養成講座修了生、青森大学の日本語教育関係科目を履修している学生、NPO 法人みちのく国際日本語教育センターの日本語支援員、弘前市教育委員会の日本語支援員、学校教員など、のべ90名が参加した。

さらに、研究拠点校や弘前市教育委員会主催教員研修等においても、大別して2つのプログラムを実施している。ひとつは、「多様な言語・文化を持つ子どもたちが共に学ぶための授業のユニバーサルデザイン」のプログラム、もうひとつは、子どもの実態把握や社会的背景を踏まえた上で、「生活言語と学習言語の違いと学力保障」、「多文化共生の学級・学校づくりと母語・母文化の尊重」、「連携した支援のために一個別の教育支援計画・個別の指導計画」を中心的に扱うプログラムである。

#### (6) 高校進学ガイダンスの開催と県内関係者のネットワーク強化

多文化リソースルームは、青森県教育委員会との共催で、青森県国際交流協会の協力を得、また市町村教育委員会、NPO と連携して、青森県で初めての高校進学ガイダンスを実施した。これにより、県内に暮らす外国につながる子ども・保護者が、高校進学について母語で情報を得ることができ、開催者側は外国につながる子ども・保護者の支援ニーズを理解することができた。また、県内の関係者の連携を強化することにつながり、今後のネットワーク構築の基礎となったといえる。

#### (7) 青森県教育委員会による県内全体を意識した取組への発展

本事業を通して協働してきた青森県教育委員会は、令和4年度から「AOMORI 多文化共生推進事業」を開始することとなった。具体的には、以下の取組を実施する見通しである。

- ・「日本語指導スタートアップパッケージ」による日本語支援の実施
- ・中学生・高校生の進学・キャリア支援の充実のための取組
- ・外国人保護者と学校の連携のための取組

以上のように、令和3年度「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」を通して、青森県内の状況は確実に変化してきた。

ただし、現在の状況を後退させることなく、日本語指導が必要な児童生徒への日本語教育、多文化共生の学級づくり・学校づくりを持続的なものとし発展させていくために、以下の課題が残されている。

A) 成果の本格的な検証

本年度、子ども本人及び教員を対象として試行したウェルビーイングの枠組みによる効果検証結果を分析し、それを踏まえた、より本格的な効果検証の実施。

B) 研究拠点校で取り組んだプログラム内容の周知

各学校で取り組まれている指導や取組の特徴や優れた点について、分析しわかりやすく提示すること。指導のめやすとなる日本語0（ゼロ）プログラムを完成させること。

C) 「受け入れガイドブック」の完成

本年度作成した骨子案について関係機関で検討を重ね、青森県内の様々な立場の関係者がともに拠り所とすることができる、青森県版の「多文化共生に向けた日本語指導が必要な子どもの受け入れガイドブック」（仮称）を完成させること。

D) 子どもの日本語指導を担当することができる教員養成のための、本格的な体制の整備。

教員志望者が日本語指導について幅広く学ぶことができることを目的とした、大学における科目の設置や、多文化リソースルームの在り方についての踏み込んだ検討。

今後は、以上の課題を意識しつつ、弘前大学教育学部多文化リソースルームとして、さらに取組を進めていきたい。この報告書は、その土台となる基礎データとしての側面を有するものである。

調査研究の遂行にあたっては、青森県教育委員会、市町村教育委員会、学校関係者、（公財）青森県国際交流協会、青森大学日本語教育センター、NPO法人みちのく国際日本語教育センター、そして研究協議会構成員の皆様に、絶大なるご協力をいただいた。

ここに、深く感謝申し上げます。

令和4年3月

弘前大学教育学部多文化リソースルーム代表

吉田 美穂

## 研究協議会構成員

吉田美穂（弘前大学教職大学院）

桐村豪文（弘前大学教職大学院）

土岐賢悟（弘前大学教職大学院）

笹森圭子（弘前大学多文化リソースルーム）

石塚ゆかり（青森大学）

田中真寿美（青森中央学院大学）

齋藤ひろみ（東京学芸大学）

松岡洋子（岩手大学）

淋代秀樹（青森県教育庁学校教育課）

村元治（弘前市教育委員会教育センター）

工藤哲也（青森市教育委員会指導課）

坂本寛実（平川市教育委員会）

黒滝智司（五所川原市教育委員会）

松林義一（おいらせ町教育委員会）

藤本徹（（公財）青森県国際交流協会）

明日山幸子（NPO 法人みちのく国際日本語教育センター）

葛西裕美（青森県社会福祉協議会）

高橋清樹（認定 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ）

各拠点校 担当教員の皆様



## I. 研究拠点校の支援について

### I-1 研究拠点校及び多文化リソースルームにおける支援の概要と本章の構成

本項では、研究拠点校における支援の概要を述べ、I章の構成について説明する。

令和3年度の研究拠点校及び各研究拠点校の指導に携わった関係者は、p.8～9の表I-1-1の通りである。

表に掲載した学校のうち、平川市立[ ]小学校及び五所川原市立[ ]小学校は、準研究拠点校としての扱いとなっている。両校は、令和3年度の支援計画策定後に日本語指導が必要な児童の転入が生じ、平川市の場合は、青森県国際交流協会を介して、五所川原市の場合は直接、弘前大学教育学部多文化リソースルームに相談が寄せられた。受け入れ経験のない自治体への急な転入は、散在地域では珍しくなく、こうした際の対応こそが問われているケースであると考えられた。調査研究事業の予算に組み込まれていなかった両校については、教育委員会に検討を依頼し、平川市は当初のDLAの実施や支援計画立案の部分を除くすべての支援予算を市が負担、五所川原市は支援の多くの部分を占める日本語支援員・母語支援員の費用を市が負担という形で支援が実施された<sup>1</sup>。両校については、支援の枠組みは研究拠点校と同様であるが、研究協議会委員については、市教育委員会の担当指導主事のみに入っていた。

また、弘前市立小学校児童の多文化リソースルームにおける支援は、学校との連携ではなく、弘前市教育委員会の把握のもと、保護者と多文化リソースルームの合意で実施されている放課後の支援である。

また、令和3年度には、支援員のカテゴリーとして、日本語支援員と母語支援員に加え、学校生活支援員を新たに設定した。これは、将来的に教員になる可能性のある学生を積極的に支援員として派遣することで、日本語指導ができる教員の養成を意識したものである（これについては、III-5を参照のこと）。

各学校及び多文化リソースルームにおける月別の支援実績（1月まで）の一覧が、p.10の表I-1-2である。一部の学校では、オンラインでの支援も行っているため、その内訳も示した。オンライン支援では、令和4年2月から書画カメラも活用し、指導に効果を上げつつある。

令和3年度の研究拠点校・準研究拠点校では、多文化版の個別の教育支援計画・個別の指導計画が策定されている。各校の指導内容の概要は、これらの資料から把握できると考え、I-2に、研究拠点校ごとの個別の教育支援計画・個別の指導計画を掲載した。

また、特に多文化共生に向けて特徴的な取組を行った学校については、I-3で取り上げて記載した。青森市内の小学校の事例と、青森県立高校（全日制）の事例である。

以上の研究拠点校での取組については、令和3年2月に効果検証を実施した。その結果をI-4にまとめて掲載している<sup>2</sup>。効果検証にあたっては、OECDの“Measuring What Matters for Child Well-being and

<sup>1</sup> 今回の2つのケースでは速やかに予算について対応していただけたが、さらに小規模な自治体では困難な可能性も高いと考えられる。散在地域ではそうした場合の対応こそが問われるということが、これらの事案から明らかになったといえる。

<sup>2</sup> コロナ下のため、一部の学校では効果検証が実施できない場合があった。

Policies” (OECD, 2021) に示された子どものウェルビーイング測定の枠組みを参照して実施している<sup>3</sup>。

さらに、各研究拠点校での取組や本調査研究について、研究協議会委員と所管する教育委員会の担当者が捉えた成果と課題についてはそれぞれ報告を依頼し、I-5に掲載した<sup>4</sup>。

吉田 美穂（弘前大学）

---

<sup>3</sup> OECD, 2021, Measuring What Matters for Child Well-being and Policies

[https://read.oecd-ilibrary.org/social-issues-migration-health/measuring-what-matters-for-child-well-being-and-policies\\_e82fded1-en#page1](https://read.oecd-ilibrary.org/social-issues-migration-health/measuring-what-matters-for-child-well-being-and-policies_e82fded1-en#page1)（2022年2月10日最終閲覧）

<sup>4</sup> 一部、委員の体調不良等により、掲載できない学校があった。

表 I -1-1 支援体制一覧

	学 校 名	研究協議会委員	S 多文化スーパーバイザー J 日本語支援員 L 学校生活支援員 M 母語支援員 C キャリア支援 T 通訳 ※オンライン_____ 半分オンライン_____
1	青森市立 [ ] 小学校	教頭 [ ] [ ]	S 石塚ゆかり J 小山田由佳・栗橋邦雄 M 刘海燕 T 古川こんゆ
2	青森市立 [ ] 小学校	教頭 [ ] [ ]	S 石塚ゆかり・笹森圭子 J&M 渡辺怜 J 藤泉・永倉真緒 T Shonda Cunningham
3	青森市立 [ ] 小学校	教頭 [ ] [ ]	S 石塚ゆかり・笹森圭子 J 栗橋邦雄・小山田由佳 L 中村優花 M 刘海燕 T 古川こんゆ
4	青森市立 [ ] 中学校	学年主任 [ ] [ ]	S 笹森圭子・石塚ゆかり J 小野闔摩・工藤睦美・木村恵子 M Chantrakantanond Sasiwara
5	青森市立 [ ] 中学校	校長 [ ] [ ]	S 石塚ゆかり J 新山和子・藤泉 L 永倉真緒 M 刘海燕 T 古川こんゆ
	以上 5 校所管教育委員会担当者		工藤哲也（青森市教育委員会指導主事）
6	おいらせ町立 [ ] 小学校	教頭 [ ] [ ]	S 明日山幸子・石塚ゆかり J 大西昌江
	以上 1 校所管教育委員会担当者		中村光博（おいらせ町教育員会）
7	青森県立 [ ] 高等学校	教頭 [ ] [ ]	S 笹森圭子 J 工藤美由紀・清藤素子 T Manita Shrestha L 松田衣織・伊藤未祐・三浦峻敬・森川喜介
8	青森県立 [ ] 高等学校	学級担任 [ ] [ ]	S 吉田美穂・笹森圭子 J 藤泉・高島明音 T 古川こんゆ

9	青森県立 [ ] 高等学校	教頭 [ ] [ ]	S 吉田美穂 J 明日山幸子
	以上 3 校所管教育委員会担当者		淋代秀樹（青森県教育委員会指導主事）
10	平川市立 [ ] 小学校	* 準拠点校	S & J 笹森圭子 T 三上拓也 L 鳥山純大・佐藤絢音・葛西泉花・ 木村郷・濱谷大輔
	以上 1 校所管教育委員会担当者		坂本寛実（平川市教育委員会指導主事）
11	五所川原市立 [ ] 小学校	* 準拠点校	S & J 笹森圭子 M 半澤成知 T 柿崎マリ
	以上 1 校所管教育委員会担当者		黒滝智司（五所川原市教育委員会指導主事）
12	多文化リソースルーム （弘前市の小学生）		S & J 笹森圭子 L 伊藤未祐・三浦峻敬・森川喜介
	以上 1 校所管教育委員会担当者		村元治（弘前市教育委員会指導主事）

表 1-1-2 令和3年度 支援実績 (1月まで)

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月							
	支援回数	1回当たりの平均支援時間	支援回数	1回当たりの平均支援時間	支援回数	1回当たりの平均支援時間	支援回数	1回当たりの平均支援時間	支援回数	1回当たりの平均支援時間	支援回数	1回当たりの平均支援時間	支援回数	1回当たりの平均支援時間	支援回数	1回当たりの平均支援時間	支援回数	1回当たりの平均支援時間	支援回数	1回当たりの平均支援時間						
青森市立 小学校	16	3:52	18	3:31	17	3:30	8	3:30	4	3:30	8	3:26	10	2:06	12	2:00	10	2:00	6	2:00						
青森市立 小学校 (うちオンライン)	9	2:00	10	1:42	17	1:14	6	1:10	家族で一時帰国												4	1:30	4	1:55		
青森市立 小学校	6	4:30	18	3:30	22	3:30	15	3:26	6	3:30	20	3:30	20	3:30	19	3:28	15	3:28	10	3:30						
青森市立 中学校	12	2:30	11	1:54	16	2:00	15	2:28	4	2:45	6	2:00	12	2:15	12	1:50	9	2:20	5	2:00						
青森市立 中学校	18	2:44	13	1:45	15	1:43	13	1:44	5	1:50	5	1:12	6	1:00	9	1:00	8	1:11	転校、支援終了							
おいらせ町立 小学校	7	4:04	5	3:48	8	3:37	転校、支援終了																			
青森県立 高等学校			5	2:48	8	3:00	7	3:24	2	2:00	4	2:30	9	2:54	8	2:42	3	3:20								
同生徒のリソースルームでの支援	10	3:09	3	3:18	9	2:24	7	2:36	5	2:12	6	2:18	3	2:18	7	2:30	9	2:12	8	1:30						
青森県立 高等学校 (うちオンライン)	7	1:30	6	1:30	10	1:15	10	1:30	8	1:00	8	1:40	10	1:30	13	1:30	10	1:30	7	1:30						
青森県立 高等学校	(6)	1:30	(5)	1:30	(7)	1:20	(6)	1:30	(6)	1:30	(4)	1:30	(7)	1:30	(8)	1:30	(5)	1:30	(6)	1:30						
平川市立 小学校 [単]			6月支援開始		3	1:40	3	1:50	3	2:00	3	1:30	4	1:52	4	1:30	1	1:30	2	1:30						
五所川原市立 小学校 [単]			5	4:00	15	4:00	5	4:00	3	4:00	3	4:00	11	4:00	7	4:00	6	4:00	8	4:00						
弘前市立小学校児童のリソースルームでの支援 [独自]			11月支援開始												2	1:00	4	1:00	3	1:00						
			11月支援開始												2	1:00	4	1:00	3	1:00						

## I-2 研究拠点校の多文化版「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」

この項では、研究拠点校ごとの多文化版「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を掲載する。多文化版「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の様式は、令和2年度に作成されており、今年度は実際の支援において研究拠点校・準研究拠点校でも活用された。

多文化リソースルームが展開する支援においては、いずれの学校においても、学校教員・多文化スーパーバイザー・支援員によるケース会議が開かれ、その場で子どもの様子や指導方針、課題等が話し合われている。多文化版「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」は、基本的にこのケース会議の前後で策定され、確認される文書である。「個別の教育支援計画」は数年単位の長期の計画であり、「個別の指導計画」は3学期あるいは前期・後期ごとなどを単位とする短期の計画である。具体的には、受け入れ段階でまず数年間を見通した「個別の教育支援計画」が作成され、こちらは時々に見直したり加筆したりすることはあるものの大きく変更されることはない。「個別の指導計画」は、学期当初のケース会議で作成され、その学期等の終わりや長期休暇などに開かれたケース会議で評価欄が記入される。そして、それを踏まえて次の学期の「個別の指導計画」が作成される、というように連続した流れで1年間で2～3枚が作成される。したがって、長期の「個別の教育支援計画」、短期の「個別の指導計画」を併せてみていけば、子どもの背景、それを踏まえた長期的な支援の方向性、その時々の子どもの様子、短期的な目標とその手立て、一定期間の取組後の評価、成果と課題などが見えてくると考えられる。

しかし、活用の実際をみると、課題があることがわかる。一部の学校では、「個別の教育支援計画」が複数作られる一方、「個別の指導計画」の評価の欄が空欄になっていた。日常の教員と支援員の対話やケース会議などで評価が話し合われている可能性はあるが、「個別の指導計画」に評価としては書き込まれていない。有効に活用されるためには、より充実したガイダンスが必要であると考えられる。また、活用の中で、それぞれの子どもの状況をみながら実施されているDLAの結果についても記載する欄がある方がよいという意見が出た。様式や、多文化スーパーバイザーや支援員へのガイダンスの在り方について、来年度以降、改善していきたい。

なお、支援開始後、早い段階で転校が決定したおいらせ町の小学校については、個別の教育支援計画・個別の指導計画は策定できなかった。また、準研究拠点校については作成しているが掲載はしていない。

掲載にあたっては、個人情報保護のため、研究拠点校に確認の上、一部の情報を伏せている。

吉田 美穂（弘前大学）

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】 個別の教育支援計画 〔 ■■■ 小学校 〕

氏 名				性 別	男	国籍	中国
フリガナ				生年月日			
学校での表記				母 語 使用言語	中国語		
住 所				連 絡 先			
	続 柄	氏 名	国 籍	本人との言語	日本語使用状況・備考		
家 族 構 成	父		中国	中国			
	母		中国	中国・日本			
保護者への通知	<input type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要						
保護者面談 説明会等	<input type="checkbox"/> 日本語で可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input type="checkbox"/> 通訳が必要						
来 日 時 期	編入の8か月前		滞 日 予 定	日本在住予定			
将来の進路希望	日本に長く在住する予定。日本の大学への進学を希望している。						
年 齢	学 年	居住国・ 市町村	就学前の状況、在籍学校、 不就学などの状況	担 任	支 援 員	支 援 時 間	備 考
0-1		中国					
1-2		"					
2-3		"					
3-4		"					
4-5		"					
5-6		"					
6-7	小1	"					
7-8	小2	"					
8-9	小3	日本青森		N先生	A		
9-10							
10-11							
11-12							
12-13							
13-14							
14-15							
15-16							
16-17							

生活の様子	得意なこと 好きなこと	絵を描くのが大好き。ピアノを習っている為、楽譜が読める。 短距離を走るのが早い。
	苦手なこと	じっとしているのが比較的苦手。
本人・保護者の 願 望	本 人	日本の学校に慣れて、友達をたくさん作りたい。 将来は軍人になりたい。
	保 護 者	日本で、大学教育まで受けさせたいと考えている。
長 期 目 標 (期間： 年)	日本語で行われる授業内容を理解できるようになる。 母語や母文化を大切にしながら、日本人の友人を多く作り、校内での国際交流で積極的な発信ができるようにする。	
言語・文化的 配 慮	<p>学校生活上の配慮 (1)</p> <p>1-1 日本語が十分でないことを周囲が理解して、健康や安全を守れるようにする。 特に災害時など。</p> <p>2-1 学級活動や行事を通して、文化の違いをお互いに尊重しながら友人関係を持つことができる。</p>	
	<p>日本語及び教科学習上の配慮 (2)</p> <p>1-2 2年程度は、日本語支援員がついて、日本語の基礎・基本を身に付ける。</p> <p>2-4 平易な日本語、短い発問を工夫する。 図工や音楽、算数など得意な教科での活躍の場を設ける。また、意図的な指名を工夫するなどして、成就感を味わわせる。 家庭学習の課題に付箋をつけるなどして、保護者も本人も取り組みやすいような工夫をする。</p>	
	<p>母語・母文化尊重に向けた配慮 (3)</p> <p>2 社会科や総合的な学習の時間等、授業で世界の国や文化を取り上げるときや、行事の中などで母文化について発信してもらおう機会を積極的につくる。</p>	
支 援 体 制 関 係 機 関 と の 連 携	<p>弘前大学教育学部多文化リソースルームから、支援員を派遣。</p> <p>また、保護者面談等で通訳が必要な時も、通訳の派遣を依頼する。</p> <p>校内で、担任・教務主任・管理職・支援員・スーパーバイザーを構成員とするケース会議を定期的に関き、個別の支援計画を作成し、協働して支援にあたる。</p>	
作 成 者	学級担任： N 先生	日本語支援員： A

令和 年 月 日 保護者氏名

㊞



## 言語・文化的配慮の観点・項目と具体例

### 観点（１）学校生活上の配慮

- （１）－１ 日本語を母語としないことによる学校生活上の困難への配慮
  - （１）－１－１ 行動のめやすになる表示などのユニバーサルデザイン  
例) ピクトグラム等 特に災害時の対応 サバイバル日本語の修得支援
  - （１）－１－２ 児童生徒同士のコミュニケーションをとりやすくする配慮  
例) 翻訳機 電子辞書等
- （１）－２ 母文化が異なるための学校生活上の困難への配慮
  - （１）－２－１ コミュニケーション上の配慮  
例) 身体接触 学校文化（清掃、持ち物、部活動、行事、行動規範等）  
例) ものの貸し借り、けんかなどをめぐる文化によるコミュニケーションの違い
  - （１）－２－２ 施設・設備面での配慮  
例) 給食 トイレ 宗教（お祈りの場所等）

### 観点（２）日本語及び教科学習上の配慮

- （２）－１ 学習内容の変更・調整
  - （２）－１－１ 教育課程の違いへの配慮  
例) 学んだことのない科目や学習内容への配慮
  - （２）－１－２ 母語・母文化の違いから生じる困難度が高い科目の取り出し指導  
例) 国語科、社会科、家庭科等を別室で指導
- （２）－２ 教材や方法上の配慮
  - （２）－２－１ 教材の工夫  
例) 実物・模型・絵・写真・図の活用 学習の流れがわかるワークシートの活用
  - （２）－２－２ 体験的な活動の導入  
例) 実験やフィールドワーク
  - （２）－２－３ デジタルツールの活用  
例) 翻訳機、タブレットの活用
  - （２）－２－４ やさしい日本語による説明  
例) その授業内の重要事項をやさしい日本語でゆっくり説明する

### 観点（３）母語・母文化の尊重と多文化共生の取組

- （３）－１ 本人の心理面を考慮した母語や母文化の尊重  
例) 日常的な尊重による、自尊心やアイデンティティ、保護者との関係への配慮
- （３）－２ 周囲との間での互いの文化の理解と多文化共生に向けた取組  
例) 社会科・家庭科・芸術科、総合的な学習の時間、行事等での相互理解の機会
- （３）－３ 国による教育制度等の違いに配慮した取組  
例) 日本の高校への進学に向けた母語での情報提供

## 支援体制 関係機関との連携

- 校内支援体制 ケース会議を設定し、定期的に個別の支援計画を見直し、協働して支援にあたる 等  
(担任、学年主任・教務主任・養護教諭等の関係職員、管理職、支援員、スーパーバイザー等)
- 関係機関との連携 所管教育委員会 弘前大学多文化リソースルーム 地域のNPOや国際交流協会等との連携の  
具体的なあり方

## 母語・母文化の尊重のために

### 【基本的な考え方】

日本の学校では当たり前と思っけていても、相手の母文化では当たり前でないことがたくさんあります。次の2つの姿勢を基本として対応していきましょう。

- ① 日本の学校教育の考え方や指導方針について、理由や背景も含めて丁寧に説明し、理解してもらう。
- ② 宗教など相手にとって大切な価値観を尊重し、受け入れる。

### 配慮を必要とする可能性のある言語・文化的な違いの例

#### トイレ

- ・ジェンダーフリー（みんなのトイレ等）

#### 宗教上の習慣

- ・礼拝室
- ・ウドゥ（シャワーコーナー。お祈り前に身を清めなければならないため）
- ・モスクへ行く（金曜午後）

#### 食事への配慮

- ・宗教上禁止または嫌悪されている食材
- ・ラマダン（断食期間）日没後は食べられる
- ・弁当  
昼食は帰宅して食べる、  
冷たい食事を食べない文化、  
「日本の弁当」のイメージと違うもの
- ・食器を持ち上げて食べない文化

#### 宗教による禁止または嫌悪事項

- ・歌、踊り、楽器、自画像を描く、水泳など
- ・左手を使うことは避ける（ヒンドゥー教）
- ・頭をなでる

#### 遅刻・欠席

- ・欠席するときに連絡をしない
- ・家事や下の子の面倒を見るのが優先  
されるため学校を休む／遅刻する

#### 教具・教材

- ・教材・教具は購入する必要がある
- ・教育は無償の国もある
- ・制服（ある場合）、体操服、ジャージ、  
内履き、〇〇袋、〇〇セットなど

#### 行事への参加

- ・児童生徒は参加することになっている（国によっては任意や修学旅行など宿泊を伴う活動がない／教育活動に入らない）
- ・保護者の参加の有無  
（PTA、運動会、授業参観など）

#### 身だしなみ

- ・服装、化粧、香水、アクセサリ等  
（宗教的なものもある 例 ビアス（お守り））

#### 部活動（特に体育系）

- ・中・韓では、部活動はほとんどない
- ・米では、スポーツ系の部活動は学校ではなくエリート（アスリート）養成

#### 未就学の可能性がある教科

- ・国 全般、書写
- ・社 地域学習、日本の歴史
- ・理 植物の栽培、実験
- ・算 九九、計算方法の違い
- ・音 リコーダー、鍵盤ハーモニカ
- ・体 跳び箱、マット運動

#### ジェスチャーの違い

- ・OKサイン（親指と人差し指で○を作る）→国によっては「お金」の意味
- ・おいでおいでの手招き  
→国によっては「あっち行け」の意味

#### 採点方法の違い

- ・赤ペンを使わない
- ・正答に○→正答に✓

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】個別の指導計画

{ ■■■ 小学校 }

学年・組	ふりがな 本人氏名
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ 同級生と、ものおじせず、元気いっぱい交流できる。 黒板の内容を書き写す時など、集中して、なるべく美しく書く様に努力している。 コンパスで書く円、絵なども同様で、美意識が高いと思われる。</p> <p>つまずいているところ 元気が良すぎて、日本の学校生活のルールから、はみ出してしまう。 絵を描くのが大好きで、勉強時間でも、いろんな所に絵を描いてしまう。</p>
短期目標 (期間:学期)	<p>学校生活 学校のルールを守る。もしそれが出来なければ、叱られて、謝らなければならない事を理解する。 勉強時間は絵を描かず、勉強に集中すること。</p> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 取り出し:「日本語学級」の教科書をもとに、ひらがな・カタカナ・漢字等、読み書きの基礎固めをする 入り込み:先生のお話、同級生の発言に耳を傾け、理解するよう努める。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 授業最後の「感想」の場面、担任の先生から「母語でも、いいよ」と言われたら、母語で感想を述べる事が出来るようにする。</p>
手立て	<p>学校生活 取り出し:絵本の読み聞かせから、基本的ルールを理解するようにする。悪い事をしたら叱られる。そして、謝る。もし何かを壊してしまったら自分で直さなければならない。 入り込み:まだまだ分からないルールも多いと思う。もし間違った事をしたら「ごめんなさい」、ルールを覚えてもらったら「ありがとう」と言える心を持つ。「ありがとう」等を言えたらポイントをつけるポイントカードを継続する。 親しくなりたい、友達になりたいという思いが相まって、友達にとっては激しすぎるスキンシップになっている。「友達になりたいから。加減を知らないから。」と許されている状態だが、友達とのトラブルにならないよう、特に隙間時間などに目を離さないようにする。極力教師がいっしょにつくようにする。</p> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 取り出し:「今日これを勉強します」と最初に目標を提示。(教科書を何ページやる、等) 目標を達成したら、花丸を書いて評価する。(母国にはない花丸が大好きなようです) 入り込み:クラスみんなの話が「わからない」と思うと、あきらめて絵を描こうとしてしまう。 授業に集中する為に、絵を描くであろうノートは、サブバックに移動する。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 日本語で表現する事がむずかしい「感想」は、まず、母語で表現するよう促す。母語を話してはいけないと思っている所があるので「母語で感想をのべてもいいよ」と理解してもらいたい。</p>
評価	
作成者	学級担任: N先生      日本語支援員: A

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】 個別の教育支援計画 〔 ■■■ 小学校 〕

氏 名				性 別	男	国籍	中国
フリガナ				生年月日			
学校での表記				母 語 使用言語	中国語		
住 所				連 絡 先			
	続 柄	氏 名	国 籍	本人との言語	日本語使用状況・備考		
家 族 構 成	父		中国	中国	挨拶程度		
	母		中国	中国・日本	簡単な日常会話は可能		
保護者への通知	<input type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要						
保護者面談 説明会等	<input type="checkbox"/> 日本語で可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 通訳が必要						
来 日 時 期	編入の8か月前		滞 日 予 定	日本在住予定			
将来の進路希望	日本に長く在住する予定。日本の大学への進学を希望している。						

年齢	学年	居住国・市町村	就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況	担任	支援員	支援時間	備 考
0-1		中国					
1-2		〃					
2-3		〃					
3-4		〃					
4-5		〃					
5-6		〃					
6-7	小1	〃					
7-8	小2	〃					
8-9	小3	日本青森		N先生	A		
9-10	小4	〃		N先生	B		A(5月まで)
10-11							
11-12							
12-13							
13-14							
14-15							
15-16							
16-17							

生活の様子	得意なこと 好きなこと	絵を描くこと、ピアノをひくことが好き。 スキーが得意。運動クラブに所属（部活動のクラブ化）。 算数が得意。
	苦手なこと	算数の問題がより抽象的で文章題が増えてきているため学習面でつまづいているところがあるが、支援を拒否することがある。 国語は授業についていくことが難しく、長文理解や作文を書くことに苦手意識があるが、補充するための取り出し授業を嫌がる傾向がある。
本人・保護者の 願 望	本人	将来は軍人になりたい。
	保護者	日本で大学に進学させたいと考えている。
長期目標 (期間：1年)	①年齢相応の教科用語を使用し、教科学習に積極的に参加できるようにする。 ②興味のある課題に対して、意味のまとまりのある段落に分けて文章を書けるようにする。 ③母語や母文化の魅力を自ら発信し、多文化を尊重する心を持ち、国際感覚を醸成する。	
言語・文化的 配 慮	学校生活上の配慮（1） ①日常生活でよく使われる語彙や表現を使って、自分から質問したり、説明したりする。 ②母語が使えない状況においても、健康や安全を守るよう配慮する。特に、災害時や病気・けがの時等に必要な情報を得ることができるようにしておく。 ③支援員がいない状況でも学級活動に積極的に参加できるよう座席やグループ学習等を配慮し、友人同士が助け合えるよう環境づくりを行う。	
	日本語及び教科学習上の配慮（2） ①スムーズに取り出し授業に取り組めるよう、先生方と連携して学習環境づくりに取り組む。教科学習の内容に関心が持てるよう、取り出し授業では先行型学習を心がけ、学習言語に慣れさせていく。 ②取り出し授業において、学年相応の教科書を音読し、抽象的な語彙や文章の大意を理解できるように支援する。また、教科書の中の未習の語彙や漢字を推察することができるように習慣づけ、クラスに戻ったときに自立して教科学習に取り組めるように支援する。教科学習でグループや学級全体の話し合いを聞いて理解し、簡単な日本語で自分の考えを発表したりすることができるようにする。 ③書く力を身につけるため、まずは作文を写すことから始め、基本的な文章構成を理解させた上で、自分と関係のあるテーマについて、日常よく使われる語彙を使って短い文を書けるようにしていく。担任および家庭と連携しながら、作文への苦手意識を克服できるようにする。	
	母語・母文化尊重に向けた配慮（3） ①社会科や総合的な学習の時間等、授業で世界の国や文化を取り上げるときや、行事の中などで母文化について発信してもらおう機会を積極的につくる。 ②全校児童が通る廊下の一部に母文化を紹介する作品等を飾り、多文化共生の学校づくりに努める。	
支援体制 関係機関 との連携	①弘前大学教育学部多文化リソースルームから、日本語、生活支援、母語支援員をそれぞれ派遣。また、保護者面談等で通訳が必要な時も、通訳の派遣を依頼する。 ②校内で、担任・教務主任・管理職・支援員・スーパーバイザーを構成員とするケース会議を定期的に関き、個別の支援計画を作成し、協働して支援にあたる。	
作成者	学級担任：N先生 日本語支援：A B	

令和 年 月 日 保護者氏名

㊞

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】個別の指導計画

[ ■■■小学校 ]

学年・組	ふりがな 本人氏名
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ 明るく、ものおじしない性格のため、同級生に積極的に声をかけて輪の中に入って行く。そのため、日本語を「話す」「聞く」ことに関しては日々成長している。「読む」ことも少しずつ慣れてきて算数の教科書なども、教師に当てられると読めるようになった。「書く」ことについては、板書をしっかりとノートに写すことができるようになった。計算問題も積極的に取り組んでいる。</p> <p>つまづいているところ 教科書を正確に読んで理解することやまとまった文章を書くことができていない。漢字だけではなく、ひらがなも出てこないことがある。授業中、緊張感に欠け手遊びをしたり、姿勢を崩したり、整列する際ふざけて動いたり、階段の壁を叩きながら走っておりたりすることがある。算数は得意であるが、見直しをせず間違えたり、文章題の問題を読まずに諦めてしまったりすることがある。</p>
短期目標 (期間:学期)	<p>学校生活 授業に集中して教師の話の聞くことができる。探求心を高め、学習に対するモチベーションを上げる。</p> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 教師の指示のもと、取り出し授業を行い、教科につながる日本語を学び、内容理解を深める。教科書等の長文を文節やまとまりに区切って音読し、段落の意味や内容を理解することができる。表示上のルールに留意して、意味のまとまりのある段落に分けて文章を書くことができる。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 中国と日本の文化的背景の違いを理解し、価値観、世界観、歴史観の違いを乗り越えて、クラスメイトと協力し合うことができる。</p>
手立て	<p>学校生活 保護者と連携して、意欲を持って学習に取り組めるようにしていく。また、手遊びにつながる文房具は持参させない等、集中して授業を受けられるようにする。</p> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 未習の漢字や語彙、複雑な文章構成の文の意味を推察する練習をしていく。 長文を読み、重要な点を抜き出したり、考えたことを発表したりして、内容の理解を深める。 日記、感想文など、様々なジャンルの「書く」ことに特化した教材などを使い、日本語で自分の気持ちを表現できるようにする。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 クラス活動の中に、中国文化を紹介する機会を作っていく。漢字については、母国・中国の文化を否定せず、違いを意識しながら日本ではこう書くのだと導いていく。</p>
評価	
作成者	学級担任： N先生      日本語支援員：A B

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】 個別の教育支援計画 〔■■■■小学校〕

氏名				性別	女	国籍	アメリカ
フリガナ				生年月日			
学校での表記				母語 使用言語	英語		
住所				連絡先			
	続柄	氏名	国籍	本人との言語	日本語使用状況・備考		
家族構成	父		アメリカ	英語			
	母		アメリカ	英語			
	兄		アメリカ	英語			
	弟		アメリカ	英語			
	弟		アメリカ	英語			
保護者への通知	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要						
保護者面談 説明会等	<input type="checkbox"/> 日本語で可能 <input checked="" type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input type="checkbox"/> 通訳が必要						
来日時期	2012年		滞日予定	日本在住予定			
将来の進路希望	未定						
年齢	学年	居住国・ 市町村	就学前の状況、在籍学校、 不就学などの状況	担任	支援員	支援 時間	備 考
0-1							
1-2							
2-3							
3-4							
4-5							
5-6							
6-7	小1			T先生			
7-8	小2	〃	〃	〃			
8-9							
9-10							
10-11							
11-12							
12-13							
13-14							
14-15							
15-16							
16-17							

生活の様子	得意なこと 好きなこと	図工、友達作り、スポーツ
	苦手なこと	整理整頓 容姿について触れられること。
本人・保護者の 願 望	本 人	
	保 護 者	学校生活を楽しむこと。
長 期 目 標 (期間：3年)	日本語で行われる授業内容を理解できるようにする。 母語や母文化を大切にしながら、日本人の友人を多く作り、校内の国際交流で積極的な発信ができるようにする。	
言語・文化的 配 慮	<p>学校生活上の配慮（1）</p> <p>1－1 日本語が十分でないことを周囲が理解して、健康や安全を守れるようにする。特に災害時など。</p> <p>2－1 学級活動や行事を通して、文化の違いを互いに尊重しながら友人関係を持つことができる。</p> <p>2－2 アレルギー（りんご）</p>	
	<p>日本語及び教科学習上の配慮（2）</p> <p>1－2 2年程度は、日本語支援員がついて、日本語の基礎・基本を身につける。困難度が高い科目の取り出し指導。 例) 国語・算数 必要に応じて別室で指導。</p> <p>2－1 学習の流れがわかるワークシートの活用。ルビ有り教科書の使用。</p> <p>2－4 その授業内の重要事項をやさしい日本語でゆっくり説明する。 例) 国語・算数</p>	
	<p>母語・母文化尊重に向けた配慮（3）</p> <p>2 社会科や総合的な学習の時間等、授業で世界の国や文化を取り上げるときや、行事の中などで、母文化について発信してもらう機会を積極的につくる。</p> <p>3－1 必要に応じて、母語の使用を多くする。</p>	
支 援 体 制 関 係 機 関 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弘前大学教育学部多文化リソースルームから、支援員を派遣してもらう。また、保護者面談等で通訳が必要な時も、通訳の派遣を依頼する。</li> <li>・ 校内で、担任、教務主任、管理職、支援員、スーパーバイザーを構成員とするケース会議を定期的に行き、個別の支援計画を作成し、協働して支援にあたる。必要に応じて、養護教諭や教育委員会に状況を報告する。</li> </ul>	
作 成 者	学級担任： T先生	日本語支援員：

平成 年 月 日 保護者氏名

㊦

※ A3の様式の裏面は、p.14-15と同じであるため省略。



作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】個別の指導計画

〔■■■■小学校〕

学年・組	ふりがな 本人氏名
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ 支援員が入ったことで、授業内容が理解できるようになり表情も明るくなる。 支援員が入ったことで、積極的に学習に取り組む姿勢がみられる。</p> <p>つまづいているところ 体調が悪いと訴え、保健室によく行く。</p>
短期目標 (期間:1学期)	<p>学校生活 友達との会話を増やし、自分の気持ちを伝えられるようにする。</p> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 教科の内容を確認し、所属学級でもやっていることのエッセンスを捉えられるようにする。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 異なる言語・文化を持つ自分について、肯定的な気持ちを持てるようにする。</p>
手立て	<p>学校生活 取り出しの時間—支援員との会話などを通して、リラックスして過ごせる環境をつくる。 国語で気持ちを表す語彙を取り上げ、会話の中で使えるようにする。 所属学級の時間—これまで話しやすそうだった児童と同じ班にして、友達と話すチャンスを増やす。 本人の気持ちを読み取れるようにする。 保健室—本人が自分の気持ちや状態をことばにできるよう、時間を取って対応する。 利用時間を決めて、クールダウンさせ気持ちを落ち着かせるようにする。</p> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 取り出しの時間 —授業内容と並行して学習支援を行い、所属学級で安心して授業に参加できるようにする。 所属学級の時間 —その日の学習の重要な部分を、やさしい日本語でゆっくり話すようにする。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 道徳、特別学級の時間で、色々な国の文化を学ぶ単元を取り入れ、母文化の紹介をしてもらう。</p>
評価	
作成者	<p>学級担任： _____</p> <p>日本語支援員： _____</p>



生活の様子	得意なこと 好きなこと	—スポーツ・パソコン・理科・歴史・計算すること —物事の仕組みについて知ること
	苦手なこと	—漢字（興味はある） —音に敏感
本人・保護者の 願 望	本 人	将来は日本ではなく、アメリカに帰国することを希望
	保 護 者	学校生活を楽しむこと。
長 期 目 標 (期間：3年)	日本語で行われる授業内容を理解できるようにする。母語や母文化を大切にしながら、日本人の友人を多く作り、校内の国際交流で積極的な発信ができるようにする。	
言語・文化的 配 慮	<p>学校生活上の配慮（1）</p> <p>1－1 日本語が十分でないことを周囲が理解して、健康や安全を守れるようにする。特に災害時など。</p> <p>1－2 日本語が十分でない為、言葉が出てこないことを学校全体で共通理解を図り、コミュニケーション上の配慮をする。学校生活を楽しむこと。</p> <p>2－1 学級活動や行事を通して、文化の違いを互いに尊重しながら友人関係を持つことができる。</p>	
	<p>日本語及び教科学習上の配慮（2）</p> <p>1－2 2年程度は、日本語支援員がついて、日本語の基礎・基本を身につける。困難度が高い科目の取り出し指導。例) 国語 別室で指導。</p> <p>2－1 学習の流れがわかるワークシートの活用。ルビ有り教科書の使用。</p> <p>2－4 その授業内の重要事項をやさしい日本語でゆっくり説明する。 例) 国語・社会・理科・算数</p>	
	<p>母語・母文化尊重に向けた配慮（3）</p> <p>2 社会科や総合的な学習の時間等、授業で世界の国や文化を取り上げるときや、行事の中などで、母文化について発信してもらう機会を積極的につくる。</p> <p>3－1 必要に応じて、母語の使用を多くする。</p>	
支 援 体 制 関 係 機 関 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弘前大学教育学部多文化リソースルームから、支援員を派遣してもらう。また、保護者面談等で通訳が必要な時も、通訳の派遣を依頼する。</li> <li>・ 校内で、担任、教務主任、管理職、支援員、スーパーバイザーを構成員とするケース会議を定期的に関き、個別の支援計画を作成し、協働して支援にあたる。必要に応じて、養護教諭や教育委員会に状況を報告する。</li> </ul>	
作 成 者	学級担任：	日本語支援員：

平成 年 月 日 保護者氏名 ㊦

※ A3の様式の裏面は、p.14-15と同じであるため省略。

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】個別の指導計画

〔■■■■小学校〕

学年・組	ふりがな 本人氏名
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <p>支援員が入ったことで、授業の理解度が高まった。 支援員が入ったことで、積極的に学習に取り組む姿勢がみられる。 自信を持って授業に参加できている。</p> <p>つまづいているところ</p> <p>積極的に自分から友達に声掛けしない。 回数は減ってきてはいるが、保健室に行く。(特に午後)</p>
短期目標 (期間:1学期)	<p>学校生活 友達との会話を増やし、自分の気持ちを伝えられるようにする。</p> <hr/> <p>日本語・教科学習(取り出し・入り込み等) 教科の言葉を事前に調べ、所属学級の授業でもやっていることのエッセンスをとらえられるようにする。</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 異なる言語・文化を持つ自分について、肯定的な気持ちを持てるようにする。</p>
手立て	<p>学校生活 取り出しの時間—支援員との会話などを通して、リラックスして過ごせる環境をつくる。 所属学級の時間—これまで話しやすそうだった児童と同じ班にして、友達と話すチャンスを増やす。 保健室—本人が自分の気持ちや状態をことばにできるよう、時間を取って対応する。 利用時間を決めて、クールダウンさせ気持ちを落ち着かせるようにする。</p> <hr/> <p>日本語・教科学習(取り出し・入り込み等) 取り出しの時間 —先行学習で、教科の語彙と漢字の学習支援を行い、所属学級で安心して授業に参加できるようにする。 —ルビ付きの教科書で音読させ、おおまかな内容を理解させる。 所属学級の時間 —その日の学習の重要な部分を、やさしい日本語でゆっくり話すようにする。</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 道徳、外国語の時間で、色々な国の文化を学ぶ単元を取り入れ、母文化の紹介をしてもらう。</p>
評価	
作成者	<p>学級担任： _____</p> <p>日本語支援員： _____</p>

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】 個別の教育支援計画 〔■■■■小学校〕

氏名				性別	男	国籍	アメリカ
フリガナ				生年月日			
学校での表記				母語使用言語	英語		
住所				連絡先			
	続柄	氏名	国籍	本人との言語	日本語使用状況・備考		
家族構成	父		アメリカ	英語			
	母		アメリカ	英語			
	妹		アメリカ	英語			
	弟		アメリカ	英語			
	弟		アメリカ	英語			
保護者への通知	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要						
保護者面談説明会等	<input type="checkbox"/> 日本語で可能 <input checked="" type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input type="checkbox"/> 通訳が必要						
来日時期	2012年		滞日予定	日本在住予定			
将来の進路希望	中学以降は日本の学校には通わず、家庭学習を行う（英語）。海外の大学への進学を希望している。						

年齢	学年	居住国・市町村	就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況	担任	支援員	支援時間	備考
0-1							
1-2							
2-3							
3-4							
4-5							
5-6							
6-7	小1			T先生			
7-8	小2			〃			
8-9	小3			Y先生			
9-10	小4			D先生	E・C・Y		
10-11	小5			T先生	E・C		
11-12							
12-13							
13-14							
14-15							
15-16							
16-17							

生活の様子	得意なこと 好きなこと	—スポーツ・パソコン・理科・歴史・計算すること —物事の仕組みについて知ること
	苦手なこと	—漢字（興味はある） —音に敏感
本人・保護者の 願 望	本 人	将来は日本ではなく、アメリカに帰国することを希望
	保 護 者	学校生活を楽しむこと。
長 期 目 標 (期間：3年)	日本語で行われる授業内容を理解できるようにする。母語や母文化を大切にしながら、日本人の友人を多く作り、校内の国際交流で積極的な発信ができるようにする。	
言語・文化的 配 慮	<p>学校生活上の配慮（1）</p> <p>1－1 日本語が十分でないことを周囲が理解して、健康や安全を守れるようにする。特に災害時など。</p> <p>1－2 日本語が十分でない為、言葉が出てこないことを学校全体で共通理解を図り、コミュニケーション上の配慮をする。学校生活を楽しむこと。</p> <p>2－1 学級活動や行事を通して、文化の違いを互いに尊重しながら友人関係を持つことができる。</p>	
	<p>日本語及び教科学習上の配慮（2）</p> <p>1－2 2年程度は、日本語支援員がついて、日本語の基礎・基本を身につける。困難度が高い科目の取り出し指導。例) 国語 別室で指導。</p> <p>2－1 学習の流れがわかるワークシートの活用。ルビ有り教科書の使用。</p> <p>2－4 その授業内の重要事項をやさしい日本語でゆっくり説明する。 例) 国語</p>	
	<p>母語・母文化尊重に向けた配慮（3）</p> <p>2 社会科や総合的な学習の時間等、授業で世界の国や文化を取り上げるときや、行事の中などで、母文化について発信してもらう機会を積極的につくる。</p> <p>3－1 必要に応じて、母語の使用を多くする。</p>	
支 援 体 制 関 係 機 関 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弘前大学教育学部多文化リソースルームから、支援員を派遣してもらう。また、保護者面談等で通訳が必要な時も、通訳の派遣を依頼する。</li> <li>・ 校内で、担任、教務主任、管理職、支援員、スーパーバイザーを構成員とするケース会議を定期的に関き、個別の支援計画を作成し、協働して支援にあたる。必要に応じて、養護教諭や教育委員会に状況を報告する。</li> </ul>	
作 成 者	学級担任：	日本語支援員：

平成 年 月 日 保護者氏名 ㊦

※ A3の様式の裏面は、p.14-15と同じであるため省略。

作成日	
評価日	

## 【多文化版】個別の指導計画

[ 小学校 ]

学年・組	ふりがな 本人氏名
学校生活の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>● うまくいっているところ               <ul style="list-style-type: none"> <li>— 支援員が入ったことで発話量も増え、聞きなれた言葉を組み合わせ、自分自身のことや身近な出来事について、長い文章で話すことができる。また、教科書の内容に関しても要点を捉え、自分の言葉で表現することができる。</li> <li>— 小学校3年生程度の学習漢字が混じった長文を読んで、大意を理解することができる。</li> <li>— 教科書の内容を理解し、日常よく使う語彙や表現を使って、短い文章を書く事ができる。</li> <li>— 教科学習について2、3文の連文を聴いて、大意を理解することができる。</li> </ul> </li> <li>● つまずいているところ               <ul style="list-style-type: none"> <li>— 教科用語に関しては、理解ができないものも多くある。</li> </ul> </li> </ul>
短期目標	<p>学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— 日本の学校生活において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする機会を与えられるようにする。</li> <li>— 教科等において、課題把握・情報収集・観察等の様々な活動に日本語で参加できるようにする。</li> </ul> <hr/> <p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等）</p> <p>教科の言葉を事前に調べ、所属学級の授業でもやっていることのエッセンスをとらえられるようにする。</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生</p> <p>異なる言語・文化を持つ自分について、肯定的な気持ちを持てるようにする。</p>
手立て	<p>学校生活</p> <p>取り出しの時間— 支援員との会話などを通して、リラックスして過ごせる環境をつくる。</p> <p>所属学級の時間— 学級で前に立つ仕事をすることで、日本語で話す機会を増やす。</p> <hr/> <p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等）</p> <p>取り出しの時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— ルビ付きの教科書で音読させ、おおまかな内容を理解させる。</li> <li>— 支援を得て、物語文を読み、登場人物や場面について理解する。</li> <li>— 支援を得て、説明文を読み、文章の構成について理解する。</li> <li>— 教科学習の課題に対して、日常語彙を使って意見文を書けるようにする。</li> <li>— 学習内容について、複文を使いながら、順序立てて話せるようにする。</li> </ul> <p>所属学級の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— その日の学習の重要な部分を、やさしい日本語でゆっくり話すようにする。</li> <li>— グループワークの際に、語彙や内容の説明を行い、グループワークに参加しやすいように支援する。</li> </ul> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生</p> <p>道徳、外国語の時間で、色々な国の文化を学ぶ単元を取り入れ、母文化の紹介をしてもらう。</p>
評価	
作成者	<p>学級担任： _____</p> <p>日本語支援員： _____</p>

作成日	■■■■
評価日	■■■■

## 【多文化版】 個別の教育支援計画 〔 ■■■■小学校 〕

氏 名				性 別	男	国籍	アメリカ
フリガナ				生年月日			
学校での表記				母 語 使用言語	英語		
住 所				連 絡 先			
	続 柄	氏 名	国 籍	本人との言語	日本語使用状況・備考		
家 族 構 成	父		アメリカ	英語			
	母		アメリカ	英語			
	兄		アメリカ	英語			
	弟		アメリカ	英語			
	弟		アメリカ	英語			
保護者への通知	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要						
保護者面談 説明会等	<input type="checkbox"/> 日本語で可能 <input checked="" type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input type="checkbox"/> 通訳が必要						
来日時期			滞日予定	日本在住予定			
将来の進路希望	未定						

年齢	学年	居住国・市町村	就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況	担任	支援員	支援時間	備 考
0-1							
1-2							
2-3							
3-4		日本・青森					
4-5		日本・青森					
5-6		日本・青森					
6-7	小1	日本・青森		D先生	E・C		
7-8							
8-9							
9-10							
10-11							
11-12							
12-13							
13-14							
14-15							
15-16							
16-17							



生活の様子	得意なこと 好きなこと	レゴブロック遊び・戦いごっこ
	苦手なこと	揶揄されること。(からかわれること)
本人・保護者の 願 望	本 人	
	保 護 者	友人を多く作って、学校生活を楽しむこと。
長 期 目 標 (期間：3年)	日本語で行われる授業内容を理解できるようにする。 母語や母文化を大切にしながら、日本人の友人を多く作り、校内の国際交流で積極的な発信ができるようにする。	
言語・文化的 配 慮	学校生活上の配慮（１） １－１ 日本語が十分でないことを周囲が理解して、健康や安全を守れるようにする。特に災害時など。 ２－１ 学級活動や行事を通して、文化の違いを互いに尊重しながら友人関係を持つことができる。	
	日本語及び教科学習上の配慮（２） １－２ １年程度は、日本語支援員がついて、日本語の基礎・基本を身につける。入り込み指導を基本とする。 例) 国語・算数 必要に応じて入り込み指導。 ２－４ その授業内の重要事項をやさしい日本語でゆっくり説明する。 例) 国語・算数	
	母語・母文化尊重に向けた配慮（３） ２ 社会科や総合的な学習の時間等、授業で世界の国や文化を取り上げるときや、行事の中などで、母文化について発信してもらう機会を積極的につくる。 ３－１ 必要に応じて、母語の使用を多くする。	
支 援 体 制 関 係 機 関 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 弘前大学教育学部多文化リソースルームから、支援員を派遣してもらう。また、保護者面談等で通訳が必要な時も、通訳の派遣を依頼する。</li> <li>・ 校内で、担任、教務主任、管理職、支援員、スーパーバイザーを構成員とするケース会議を定期的に行き、個別の支援計画を作成し、協働して支援にあたる。必要に応じて、養護教諭や教育委員会に状況を報告する。</li> </ul>	
作 成 者	学級担任： D 先生	日本語支援員： E,

平成 年 月 日 保護者氏名 ㊟

※ A3の様式の裏面は、p.14-15と同じであるため省略。

作成日	
評価日	

## 【多文化版】個別の指導計画

[ 小学校 ]

学年・組	ふりがな 本人氏名
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ</p> <p>—毎日の生活に関する事を、日常語彙で表現することができ、自分の思いを文で伝えることができる。 —学校での日課に関する指示を聴いて、適切に従うことができる。 —友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が見られる。</p> <p>つまづいているところ</p> <p>—平仮名や片仮名で書いたり、読んだりすることに難しさを感じる。</p>
短期目標	<p>学校生活 日本の学校生活や社会生活に関する理解を深める。</p> <hr/> <p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等） 日本語で学校生活に参加するために必要な文字や文など基礎的な日本語の力を育てる。</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 異なる言語・文化を持つ自分について、肯定的な気持ちを持てるようにする。</p>
手立て	<p>学校生活 所属学級の時間—話しやすそうな児童と同じ班にして、友達と話すチャンスを増やす。 本人の気持ちを読み取れるようにする。</p> <hr/> <p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等） 所属学級の時間 —日本語の音や表現を楽しみ、語彙を増やす。 —いくつかの平仮名や少ない音節の平仮名の語を書けるようにする。</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 道徳、特別学級の時間で、色々な国の文化を学ぶ単元を取り入れ、母文化の紹介をしてもらう。</p>
評価	
作成者	<p>学級担任： _____</p> <p>日本語支援員： _____</p>

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】 個別の教育支援計画 〔 ■■■ 小学校 〕

氏 名				性 別	男	国籍	中国
フリガナ				生年月日			
学校での表記				母 語 使用言語	中国語 ・ 日本語		
住 所				連 絡 先			
家 族 構 成	続 柄	氏 名	国 籍	本人との言語	日本語使用状況・備考		
	父		中国	中国・日本	簡単な日常会話は可能		
	母		中国	中国・日本	簡単な日常会話は可能		
保護者への通知	<input type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input checked="" type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要						
保護者面談 説明会等	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語で可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input type="checkbox"/> 通訳が必要						
来 日 時 期	小学校入学の4か月前		滞 日 予 定	長く日本にいる予定			
将来の進路希望	日本の大学へ進学希望						

年齢	学年	居住国・市町村	就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況	担任	日本語支援員	支援時間	備 考
0-1		中国					
1-2		〃					
2-3		〃					
3-4		〃					
4-5		〃					
5-6		〃					
6-7	小1	日本青森		T先生	A・B・F	週20	B(4-5月)
7-8							
8-9							
9-10							
10-11							
11-12							
12-13							
13-14							
14-15							
15-16							
16-17							

生活の様子	得意なこと 好きなこと	国語の教科書を音読することが得意で、家でもしっかりと練習をしている。算数では計算が早い。文章題の問題は理解できないことがある。花の世話をすることが大好きで、家庭でも育てている。友達と仲良くなろうとして、積極的に話しかけたり、落ちている友達の文房具を拾ってあげたり、心優しい性格。
	苦手なこと	体育で走ることやなわとびが苦手。また、絵を描くことや色を塗ることがあまり上手くできない。
本人・保護者の願い	本人	朝顔などの花が大好きで、将来は花屋さんになりたいと話している。
	保護者	日本で大学教育まで受けさせたいと考えている。
長期目標 (期間：年)	①日本語で行われる授業において教師の話を理解し、指示に従うことができる。 ②学校生活や学習場面で必要となる単語や定型表現を使って、自分の考えを話せるようになる。 ③ひらがなカタカタ、小学校1年生で学習する漢字を使った読み書きができ、母語にない日本語の助詞を正しく使うことができる。 ④母語や母文化を大切に、校内で取り込まれる国際交流において積極的な発信ができる。	
言語・文化的配慮	学校生活上の配慮（1） ①日本語が十分でないことを周囲が理解して、発話を強要せず、やりとりの中で表現したい内容を引き出し、不足している語彙や表現を補充していく。 ②母語が使えない状況においても、健康や安全を守るよう配慮する。特に、災害時や病気・けがの時等に必要な情報を得ることができるようにしておく。 ③学級活動や行事を通して、日本語の摂取量が多くなるよう座席や仲間づくりに配慮し、文化の違いをお互いに尊重しながら友人関係を持つことができる。	
	日本語及び教科学習上の配慮（2） ①クラスでは、平易な日本語、短い発問を工夫する。また、意図的な指名を工夫するなどして、成就感を味わわせる。学習意欲を保つため、算数など得意な教科での活躍の場を設ける。 ②日本語支援員は、周囲で話されている日本語について関心を持ち、簡単な日本語でクラス活動に参加ができるよう入り込み支援を行う。 ③日本語の基礎・基本を身に付けるために、教師の指示のもと日本語支援員による取り出し授業を行う。教科学習の内容にも関心が持てるよう、取り出し授業では先行型学習を心がけ、リライト教材を活用しながら、学習言語に慣れさせていく。 ④漢字の勉強に対する意欲が高いので、「読む」「書く」の両方をバランスよく習得できるように支援する。「読む」「書く」力は、母語指導も重要となるため、日常慣れ親しんだことについて日記を書くなど、家庭とも連携しながら行う。	
	母語・母文化尊重に向けた配慮（3） ①社会科や総合的な学習の時間等、授業で世界の国や文化を取り上げるときや、行事の中などで母文化について発信してもらおう機会を積極的につくる。 ②図書室等に中国の絵本や文化を紹介するスペースを作り、多文化共生の学校づくりに努める。	
支援体制 関係機関との連携	①弘前大学教育学部多文化リソースルームから、日本語、生活支援、母語支援員をそれぞれ派遣。また、保護者面談等で通訳が必要な時も、通訳の派遣を依頼する。 ②校内で、担任・教務主任・管理職・支援員・スーパーバイザーを構成員とするケース会議を定期的に関き、個別の支援計画を作成し、協働して支援にあたる。	
作成者	学級担任： T 先生	日本語支援： A

令和 年 月 日 保護者氏名 ㊞

※ A3の様式の裏面は、p.14-15と同じであるため省略。

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】個別の指導計画

■■■■小学校

学年・組	ふりがな 本人氏名	
学校生活の様子		<p>&lt;うまくいっているところ&gt;</p> <p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶がしっかりとできる。友達と積極的に話をする。隣のクラスの児童とも話している。</li> <li>・本が好きで、図書室から借りてきた日本語の本を積極的に読んでいる。</li> <li>・ひらがなを読むこと、書くことができる。</li> </ul> <p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活でよく使われる語彙や表現を理解したり、簡単な質問に答えたりすることができる。</li> <li>・自宅で音読をしっかりとやっているため、日本語をスムーズに読む事ができる。</li> <li>・算数が得意で、計算が早い。</li> </ul> <p>&lt;つまづいているところ&gt;</p> <p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時間目の授業は特に集中力がなく、机の上に臥せったり机やノートに落書きをしたりする。</li> <li>・忍耐力がなく、ほかの児童の発表などをじっと聞くことができない。</li> <li>・運動が苦手で、持久走や縄跳びを続けてできない。また、絵を描くことを嫌がる。</li> </ul> <p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友達の話が十分に理解できていないことが多く、コミュニケーションが一方通行の場合がある。</li> <li>・授業中、手遊びに夢中になることがよくある。</li> <li>・早く提出物を出したいため、字が粗末になったり、問題文をよく読まなかったりする。</li> </ul>
短期目標 (期間:1学期)		<p>学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身のことや身近な出来事、自分の気持ちを伝えられるようになる。</li> <li>・ある程度まとまった話を聞き取り、概要を理解することができる。</li> <li>・わからない言葉をそのままにせず、自ら質問して確認することができる。</li> </ul>
		<p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カタカナや特殊音節を含む語彙、1年生の漢字が混じった文を読むことができる。</li> <li>・音読のコーラスを教師の合図で正確に行うことができる。</li> <li>・「早く」「丁寧に」、この二点をバランスよく取り入れて学習に取り組む。</li> <li>・ひらがなやカタカナ、漢字を使い分けて、短い文を書くことができる。</li> <li>・自分自身のことについて、短文を使って話したり、発表したりできるようになる。</li> <li>・苦手な体育や図工にも、あきらめず努力することができる。</li> </ul>
		<p>母語・母文化尊重と多文化共生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なる言語・文化を持つ自分について、肯定的な気持ちを持てるようにする。</li> <li>・漢字を頑張りたいという本人の目標に向かって、達成感や成就感を味わうことができる。</li> </ul>
手立て		<p>学校生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵などを用いて、身近な出来事や気持ちを表す語彙や表現を理解し、会話の中で使えるようにする。</li> <li>・教師の指示等が分からなかったとき、「よくわかりません。」「どういう意味ですか。」と聞き返したり、周りの友達に聞いたりできるようにする。</li> <li>・集中力や忍耐力がなくなって姿勢が乱れてきたら、「がんばろう」と声がけし、修正を促す。注意喚起をし続け、ルールを習慣づける。</li> </ul>

	<p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その日の学習の重要な部分を、やさしい日本語でゆっくり話すようにする。</li> <li>・語彙や表現を増やしなが、未習語彙が出てきたときには推測できるようにサポートする。</li> <li>・早く提出して先生にほめられたい気持ちや、早く並びたい気持ちを尊重して、スムーズにノートを書くためのサポートを行う。まずは名前から丁寧に書くよう促し、丁寧に字を書けたときには褒める。</li> <li>・書く習慣がつくよう、ある程度まとまった文章をなぞり書きや書写する。</li> <li>・自分自身の出来事を話しやすい環境を作り、語彙や表現を増やす。</li> <li>・スタミナをつけるためできるだけ体を動かし、運動能力や持久力が向上するよう声がけする。色塗りなども丁寧にできるよう声がけをしたり、家庭でも絵を描く習慣をつけたりする。</li> </ul> <p>母語・母文化尊重と多文化共生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス活動の中で中国の文化について学ぶ機会を取り入れ、本人に紹介をしてもらう。具体的には挨拶や飲食に関する母語や生活習慣の違い等を紹介する機会を作る。</li> <li>・一年生で習う漢字の中にも故郷を感じられる漢字があれば「中国の中」「上海の上だね」のように中国と関連づけながら学び、中休みに友達と漢字で遊びをする等、漢字に親しむ。</li> </ul>
<p>評 価</p>	
<p>作 成 者</p>	<p>学級担任： T 先生                      日本語支援員： A・F</p>

作成日	
評価日	

## 【多文化版】 個別の教育支援計画 ■ 中学校

氏 名				性 別	男	国籍	タイ
フリガナ				生年月日			
学校での表記				母 語 使用言語	タイ語 日本語		
住 所				連 絡 先			
	続 柄	氏 名	国 籍	本人との言語	日本語使用状況・備考		
家 族 構 成	父		日本	日本			
	母		タイ	タイ	ある程度		
保護者への通知	<input type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input checked="" type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要						
保護者面談 説明会等	<input type="checkbox"/> 日本語で可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 通訳が必要						
来 日 時 期	中学校入学の約一年前		滞 日 予 定	定住予定			
将来の進路希望	県内の高校進学						

年齢	学 年	居住国・ 市町村	就学前の状況、在籍学校、 不就学などの状況	担任	支援員	支援 時間	備考
0-1							
1-2							
2-3							
3-4	幼1	タイ					
4-5	幼2	タイ					
5-6	幼3	タイ					
6-7	小1	タイ					
7-8	小2	タイ					
8-9	小3	タイ					
9-10	小4	タイ					
10-11	小5	タイ					
11-12	小6	タイ					
12-13	なし	青森市					
13-14	中1	青森市		N先生	G・J・T	9時間/週	
14-15	中2	青森市		Y先生	G・H・I・J		
15-16							
16-17							

生活の様子	得意なこと 好きなこと	Youtube でゲーム観戦 本を読む事
	苦手なこと	授業で使用したプリントのまとめ整理 他の授業内容が理解出来ず少し落ち込むが、意欲はあると見受けられる
本人・保護者の 願 望	本 人	青森県内の高校進学
	保 護 者	高校卒業 (父)
長 期 目 標 (期間:3年)	日本語で行われる授業内容を理解できるようになり、公立高校に進学する。 母語や母文化を大切にしながら、学級や部活の友人を多く作り、校内での国際交流で発信ができるようにする。	
言語・文化的 配 慮	学校生活上の配慮 (1) 1-1 日本語が十分でないことを周囲が理解して、健康や安全を守れるようにする。特に災害時など。 2-1 学級活動や行事を通して、コミュニケーションを図り有効な友人関係を築くことができる。	
	日本語及び教科学習上の配慮 (2) 1-2 2年程度は日本語支援員がついて、日本語の基礎・基本を身に着ける。 2-4 高校進学に向けて、所属学級での教科学習においても各教科担当が、重要なところを強調してゆっくり話す、やさしい日本語での説明を説明する、翻訳ツールを活用するなどして、内容理解ができるよう配慮する。	
	母語・母文化尊重に向けた配慮 (3) 1 自尊心やアイデンティティ、保護者との関係への配慮 2 行事の中などで、(学校祭等)母文化について発信してもらう機会をつくる。 3 高校進学に向けて、日本の教育制度等について、保護者も含めて情報を伝える。	
支 援 体 制 関 係 機 関 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> <li>弘前大学教育学部多文化リソースルームから、日本語・母語支援員を派遣してもらう。また、保護者面談等で通訳が必要な時も、通訳の派遣を依頼する。</li> <li>校内で、担任、教務主任、管理職、支援員、スーパーバイザーを構成員とするケース会議を定期的に関き、個別の支援計画を作成し、協働して支援にあたる。必要に応じて、教育委員会に状況を報告する。</li> </ul>	
作 成 者	学年主任： M 先生	日本語支援員：G 母語支援員：J

平成 年 月 日 保護者氏名

㊦

※ A3の様式の裏面は、p.14-15と同じであるため省略。



作成日	
評価日	

## 【多文化版】個別の指導計画

■中学校

学年・組	ふりがな 本人氏名
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ 疑問や理解出来ない部分は積極的に聞いてくれる 日本語支援に対しては、発話も漢字も積極的に学習し、習った漢字は自分で思い出して書こうとする努力がみられる。 授業では、ノートが書ききれない部分は友達に借りて補っている。</p> <p>つまづいているところ 小2～中1の間の漢字は理解言語が少ない、また生活言語と学習言語の理解力に欠ける 意欲的で皆についていこうと頑張るがついていけない 授業内容の理解度が低く、両親に聞いても両親も十分説明が出来ないため理解できない事が本人の意欲を落とす原因だと感じる</p>
短期目標 (期間:4ヵ月)	<p>学校生活 友達との交流を増やし、自分の気持ちを伝えられるようになる</p> <hr/> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 会話で気になる助詞の使い方を、教材(中学校の日本語)を使い矯正 2年生の授業から所属学級で少しずつ聞き取りやノートが取れるように、当分はリライト教材を使い日本語力をつける</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 保護者に、日本での高校進学に向けて必要な情報を提供する</p>
手立て	<p>学校生活 会話で周りと思疎通ができず、自分の日本語に自信が無いことで、周りとの交流が少ないと感じる為本人の母文化についての紹介の機会をつくる。</p> <hr/> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 本人が望む教科について、日本語学習と統合的な内容を取り入れ、教科学習への接続を図る。 漢字の学習を好むので、教科では今中学校で必要な日本語の語彙、会話では小学校レベルの漢字を増やし、宿題でもそうした語彙を漢字で書いて意味を調べてくるようにしてみる。</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 通訳を入れた保護者面談を設定し、進路に関する情報をきめ細かく伝える。</p>
評価	<p>授業や学校生活の中では積極的に書くことや会話が増えた。以前に比べて字もきれいになった。日本語の語彙力には課題が残る為、長期休暇などで集中して生活に必要な語彙のビルドアップと教科の用語についての解説などを進めていく必要がある。母語支援が入ってから、教科の内容理解の補助を行っているが、家庭での学習時間の確保がほとんどできないため学習内容の定着を図ることが難しかった。支援を進めていくうちに、勉強のし方やメモの取り方がわからないことがわかってきた。</p> <p>本人と父親の聞き取り調査から、県内の高校進学希望であることが分かったが、将来の方向性をきちんと考えていく必要がある。</p>
作成者	学年主任：N先生 日本語支援員：G・U・V 母語支援員：J

作成日	
評価日	

## 【多文化版】個別の指導計画

■中学校

学年・組	ふりがな 本人氏名
学校生活の様子	<p><u>うまくいっているところ</u> 疑問点は、積極的に質問をしてくれる。 学んだ文法を使って伝えたいことを伝えてくれる。 授業では以前に比べ文字をきれいに書くようになった。</p> <p><u>つまづいているところ</u> 教科に出てくる専門用語でわからないことが多いため教科の理解に欠ける。 文法をうまく使うことが出来ても助詞を間違えることがある。 自宅での復習時間が少ないため授業内容の定着が難しい。</p>
短期目標 (期間:前期)	<p>学校生活 コミュニケーション能力を向上させ、現在よりもスムーズに気持ちを伝えられるようになる。</p> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 気になる助詞の間違いを教材の問題を使いながら文法と同時に直していく 教科につながる用語も教材を使い覚えていく。(読解や短作文を使って教科につながる日本語の支援に移行していく)</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 高校進学に向けた取り組みを学校内外で提供し活用する。 ストレスなく、落ち込まないように学校の生活に楽しく勉強でき、高校の進学に向けて、必要な情報を具体的に提供する。</p>
手立て	<p>学校生活 先生や友達との会話は以前よりも増えているため、難しい会話もできるように支援内での会話練習の回数を増やし、より学校生活の内容に近いモノを取り入れていく。</p> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 日本語支援に関しては、文法の練習から読解や短作文で読み書きを鍛えていき、教科につながる日本語に移行していく。 各教科に関しては、日本語と同時に支援しながら週末交流勉強会などを利用し予習、復習で定着を図る。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 週末交流勉強会を利用し、様々な学生と交流を図り勉強面だけでなく進学の具体的なイメージを持ってもらう。 本人にクラスや部活や自宅での学習などの状況などを聞き取りして、その情報を支援員と学校と家族の間に伝え、調整する。</p>
評価	<p><u>日本語、教科の目標について</u> 会話での日本語に関しては以前に比べ自分の伝えたいことを伝えられるようになったと感じています。 国語に関しては、記号で答える問題はうまく答えることが出来ていますが、文章問題に関してはまだ練習が必要だと感じます。数学に関しては、解き方も理解していて教科で使う日本語も覚えていることが多いため他の教科に比べると学校の授業通り進行できていると感じます。</p> <p><u>母語・母文化尊重と多文化共生の目標について</u> 先生や友達との会話は、スムーズにできているので、学校の生活では楽しく勉強できていると感じています。前学期と比較すれば、前より学習面では伸びており、頑張っている様子に見えます。しかし、学校生活での時間を守ることや、宿題の提出などの自分の役割と責任については課題が残ります。今後、母語支援が減っていくことを考えると、自律学習について周囲の協力が不可欠です。</p>
作成者	<p>学年主任：Y先生      日本語支援員：G 母語支援員：J</p>



## 【多文化版】個別の教育支援計画

[ 中学校 ]

氏名				性別	女	国籍	中国
フリガナ				生年月日			
学校での表記				母語 使用言語	中国語		
住所				連絡先			
	続柄	氏名	国籍	本人との言語	日本語使用状況・備考		
家族構成	母		中国	中国語	家庭内では日本語はほとんど使用していない。		
	父		中国	中国語			
	弟		中国	中国語			
保護者への通知	<input type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input checked="" type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要						
保護者面談 説明会等	<input type="checkbox"/> 日本語で可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 通訳が必要						
来日時期	編入の約1年半前		滞日予定	日本で就職を希望			

年齢	学年	居住国・市町村	就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況	担任	支援員	支援時間	備考	
0-1								
1-2								
2-3								
3-4								
4-5								
5-6								
6-7	幼	中国						
7-8	小1							
8-9	小2							
9-10	小3							
10-11	小4							
11-12	小5							
12-13	小6							
13-14	中1							
14-15	中2							
15-16					来日			
16-17	中1	青森市	[ ] 中学校	E 先生	K・E	週4-7時間	進学のため 中1に編入	

生活の様子	得意なこと 好きなこと	数学、理科、英語の教科 音楽を聴くこと
	苦手なこと	道徳、美術、技術、体育など中国の学校文化にはない科目 運動会等のイベント クラスメイトとの雑談（文化的、年齢的な問題もあり話が続かない）
本人・保護者の学校生活や進路に関する希望	本人	学校へ通って勉強をしたり、日本人の友達を作ったりしたい 将来は看護師になりたい（メイクにも興味がある）
	保護者	日本でも勉強を頑張ってもらいたい 将来は看護師を目指してほしい
長期目標 (期間：3年)	①クラス活動や部活動等を通して、文化的および年齢的な違いを乗り越え、仲間づくりを行う。 ②将来になりたい自分を明確にし、自分の進路について深く考え、中学生としての学習習慣を身につける。 ③母語、母文化に誇りを持ち、アイデンティティをしっかりと形成しつつ、多様性や多文化共生に目を向ける土台づくりをする。	
言語・文化的配慮	学校生活上の配慮（1） ①翻訳機や電子辞書、タブレットなどを活用して、教員やクラスメイトとのコミュニケーションを取りやすくする。 ②学齢を超過していることに配慮し、学級づくりおよびキャリア教育の在り方を検討する。 ③文化的な違いや生活習慣の違いなどに配慮し、面談等で困っていることや不安に思っていることなどをこまめに聞き取っていく。 ④将来に向けて普段から様々なことに関心を持ち、視野を広げることの大切さを伝えつつ、自分の進路を自分で考えていけるようサポートする。 ⑤ケース会議で情報交換を行い、定期的に個別の指導計画等の見直しを行っていく。	
	日本語及び教科学習上の配慮（2） ①4月からは、日本語支援員がついて国語と社会の授業を取り出し、日本語のサバイバル日本語および基礎日本語を身につける。日本語能力試験のN4レベルまで日本語力を伸ばす。 ②7月からは、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能の日本語力を伸ばす。放課後支援や夏休み支援も行い、国語と社会の教科につながる語彙や基礎知識を中心に学習を進めていく。 ③9月からは、国語と社会の授業の取り出しは行わず、可能な限り、クラスメイトと一緒に授業を受ける。基本的には、放課後に支援を行い、国語を中心に各教科の学習内容を先取りして学ぶ。読解力、口頭表現力、文章表現力等の技能別日本語を身につける。 ④1月にDLAを実施し、日本語力を測定。今後の支援体制を検討する。 ⑤2年次以降も、高校受験を目指した教科支援を継続的に行っていく。	
	母語・母文化尊重に向けた配慮（3） ①中国人としてのアイデンティティの確立を支援、授業時間や文化祭等のイベントで、母語、母文化について紹介できる機会を作っていく。 ②各教科において、母国の教育制度や生活習慣、価値観の違い、歴史の捉え方の違いなどに配慮する。 ③日本語でのやり取りだけでは負担が大きいと思われる場合には、母語支援も取り入れていく。 ④学校全体で異文化を尊重する態度、異なる文化を持った人と共に生きるという考え方を養う。	
支援体制 関係機関との連携	①弘前大学教育学部多文化リソースルームから、支援員を派遣してもらおう。また、保護者面談等で通訳が必要な時も、通訳の派遣を依頼する。 ②担任、学年主任、教務主任、管理職、支援員、スーパーバイザーを構成員とするケース会議を定期的に関き、個別の支援計画を作成し、協働して支援にあたる。必要に応じて、教育委員会に状況を報告する。 ③多文化共生の学校づくりに向けて、地域資源も積極的に活用する。	
作成者	学級担任：E先生	日本語支援員：K・E

令和3年3月 日 保護者氏名

㊦

作成日	
評価日	

## 【多文化版】個別の指導計画

【 中学校】

学年・組	ふりがな 本人氏名
学校生活の様子	<p>&lt;うまくいっているところ&gt;</p> <p>①4月からサバイバル日本語および基礎日本語の学習に熱心に取り組んでいて、日本語にも慣れてきている。国語と社会の教科書にも興味を持ち、休み時間を利用して自分で読む練習をしている。</p> <p>②得意な教科は、理解・数学・英語で積極的に取り組んでいる。その他の授業も、まだ完全に理解しているわけではないが、だいたい理解できている。</p> <p>③部活には、クラスメイトも一緒に所属していて、充実している。</p> <p>&lt;つまづいているところ&gt;</p> <p>①人見知りのところもあり、クラスメイトとあまり話ができず、孤立することが多い。また、話をしても、日本語が理解できないことや年齢差のせいで話題が合わないこともある。</p> <p>②道徳の授業がほとんど理解できない。美術、技術、体育等の中国にはない科目は苦手である。</p> <p>③腰を痛めていることもあり、体育の授業は見学することが多い。</p>
短期目標 (期間:1年)	<p>&lt;学校生活&gt;</p> <p>①クラス活動や部活動等に積極的に参加することで、友達作りに努める。</p> <p>②得意な科目は、実力が発揮できるように工夫し、伸ばしていく。苦手な科目は、無理をさせないようにしながら、自発的に参加できる。</p> <p>&lt;日本語・教科学習(取り出し・入り込み等)&gt;</p> <p>①4～7月：国語と社会の時間を取り出し、サバイバル日本語および基礎日本語を身につける。</p> <p>②8月～12月：技能別日本語および教科学習につながる日本語(国社中心)を身につける。</p> <p>③1月～3月：補助があれば授業のほとんどを理解でき、すべての教科で自分の学力が発揮できる。</p> <p>&lt;母語・母文化尊重と多文化共生&gt;</p> <p>①グローバルな視野で物事を考え、母語・母文化について誇りを持つことができる。</p> <p>②学校生活を通して日本語・日本文化理解を深めつつ、母語、母文化に関する情報を他の生徒に積極的に発信できる。</p>
手立て	<p>&lt;学校生活&gt;</p> <p>①こまめに声かけや面談を行い、困っていることや不安に思っていることなどを聞き取る。</p> <p>②ケース会議で情報交換を行い、定期的に個別の指導計画の見直しを行っていく。</p> <p>③学校生活を通して自らの視野を広げ、自分の進路を自分で考えていけるようサポートする。</p> <p>&lt;日本語・教科学習(取り出し・入り込み等)&gt;</p> <p>①取り出しでは、基礎日本語を中心に「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能、コミュニケーション力を高める練習を重ねる。徐々に教科学習に繋げ、ワークブックやタブレットを活用して学習する。</p> <p>②入り込みでは、主に各教科の語彙をサポートし、グループ活動や作業を伴う場合には一緒に行う。</p> <p>③本人の希望を聞きながら長期休暇や放課後支援も行き、国語と社会を中心とした教科学習に取り組む。</p> <p>&lt;母語・母文化尊重と多文化共生&gt;</p> <p>①授業時間や文化祭等のイベントで、母語、母文化について紹介できる機会を作っていく。</p> <p>②各教科において、母国の教育制度や生活習慣、価値観の違い、歴史の捉え方の違いなどに配慮する。</p> <p>③日本語でのやり取りだけでは負担が大きいと思われる場合には、母語支援も取り入れる。</p> <p>④学校全体で異文化を尊重する態度、異なる文化を持った人と共に生きるという考え方を養う。</p>
評価	
作成者	学級担任：E先生 日本語支援員：K・E



生活の様子	得意なこと 好きなこと	母国の文化が好き（ダンス・歌・食べ物） 折り紙や絵を書くことが好き。見よう見まねでやるのが得意。 運動が好き。特にバドミントンは意欲的に取り組む。
	苦手なこと	読み書き 他の生徒と積極的に関わること 体調管理
本人・保護者の学校生活や進路に関する希望	本人	いずれは母国へ帰り、結婚したい。それまでは、日本で働き、貯金したい。 歌手、ダンサー、バドミントン選手等、母国でやりたいことがたくさんある。
	保護者	日本で就職してほしい
長期目標 (期間：3年)	聴解力をあげて語彙を増やしながら、日本語で行われる授業内容を理解し、レポートやテストをクリアする。 母語や母文化を大切にし、自分の国のよさや文化を積極的に発信できるようにする。	
言語・文化的配慮	学校生活上の配慮（1） 1-2. 他の生徒とコミュニケーションを円滑に図るため、日常会話でよく使うフレーズを使う機会を意識し、必要に応じてポケトークを活用する。	
	日本語及び教科学習上の配慮（2） 1-1. 漢字の読み書き・語彙の少なさが課題であることを理解し、とりわけ文化の違いにより馴染みのない教科（国語や社会、家庭科など）ではやさしい日本語で理解を促すようにする。 2-1. 漢字がほとんど読めないため、平仮名、分かち書きを施したワークシートや資料を提示する。また、視覚的に内容を捉えられる写真や図、絵などを活用する。 2-4. 抽象度の高い語句を簡易な言葉に置き換え、やさしい日本語でゆっくり説明する。特に教科書の漢字が多く入った文章から内容を理解することは困難であるため、授業の重要事項の部分をわかりやすい言葉で伝えるようにする。	
	母語・母文化尊重に向けた配慮（3） 1 単語などの意味を理解したときに、ネパール語で同じ意味を指す言葉を発する時がある。日本語の使用が強要されないように、母語の発言からも理解を促す。	
支援体制 関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者面談や母語での聞き取りなどで通訳が必要な場合、弘前大学教育学部多文化リソースルームに通訳の派遣を依頼する。</li> <li>ケース会議を設定し、定期的に個別支援計画を見直し、協働して支援にあたる。</li> <li>多文化共生の学校づくりに向けて、国際交流協会などの地域資源も積極的に活用する。</li> </ul>	
作成者	学級担任： K先生	日本語支援員： L・W

令和 年 月 日 保護者氏名 ㊞

※ A3の様式の裏面は、p. 14-15 と同じであるため省略。



作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】個別の指導計画

■■■■■■ 高等学校

学年・組	ふりがな 本人氏名
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ 少しずつやさしい日本語の聞きとりが出来るようになり、会話が増えてきた。聞き取ることができるようになったことで、学校での笑顔が増えた。</p> <p>つまづいているところ 日常生活の語彙がまだ不十分で、言いたい言葉が出てこないといった場面が多い。時間管理、体調管理、私物管理（よく忘れ物をする）漢字が読めないため、教科書から内容理解をすることに困難がある。</p>
短期目標 (期間：後期)	<p>学校生活 日本語でやりとりすることに自信をもって、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等） 日常生活の語彙を増やす。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 保護者に、卒業と生活適応に向けて必要な情報を提供し、協力を仰ぐ。</p>
手立て	<p>学校生活 本人に対して感じた成長を言語化して伝えたり、頑張りを賞賛・承認する声かけをしたりして自己肯定感を高められるような関わりを教員が意識する。 多少の時間がかかる場合でも、本人の言葉で語る機会をつくる。</p> <p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等） 母国での日常体験や学習した教科知識をもとに、日本語の幅を広げる。 写真や図など視覚的に情報を得られるような理解の手段を用意する。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 通訳を入れた保護者面談や、母語翻訳した資料を用意し、情報をきめ細かく伝える。</p>
評価	<p>少しずつ上達しているが、支援以外の場面での日本語使用頻度が少なく、あらゆる面で日本文化、日本社会との関わりを持つ気持ちが必要。本人の性格的などところもあるが、将来に向けたビジョンを作り、そのために今は何をすればいいかということを考える必要がある。支援の回数についても、学校が毎日あるわけではないため、様々な形で家族以外との触れ合い、交流する機会を増やしていかなければならない。</p>
作成者	<p>学級担任： K 先生</p> <p>日本語支援員：L・W</p>

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】個別の指導計画

■■■■■■ 高等学校

学年・組	ふりがな 本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ 少しずつやさしい日本語の聞きとりが出来るようになり、会話が増えてきた。 聞き取ることができるようになったことで、学校での笑顔が増えた。</p> <p>つまずいているところ 日常生活の語彙がまだ不十分で、言いたい言葉が出てこないといった場面が多い。 時間管理、体調管理、私物管理（よく忘れ物をする） 漢字が読めないため、教科書から内容理解をすることに困難がある。</p>	
短期目標 (期間：前期)	<p>学校生活 日本語でやりとりすることに自信をもって、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p> <p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等） 日常生活の語彙を増やす。 多用される基礎的な漢字を読めるように取り組む。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 保護者に、卒業と生活適応に向けて必要な情報を提供し、協力を仰ぐ。</p>	
手立て	<p>学校生活 本人に対して感じた成長を言語化して伝えたり、頑張りを賞賛・承認する声かけをしたりして自己肯定感を高められるような関わりを教員が意識する。 多少の時間がかかる場合でも、本人の言葉で語る機会をつくる。</p> <p>日本語・教科学習（取り出し・入り込み等） 母国での日常体験や学習した教科知識をもとに、日本語の幅を広げる。 写真や図など視覚的に情報を得られるような理解の手段を用意する。 身の回りの出来事を積極的に話し、それを短い文で書けるように支援する。</p> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 通訳を入れた保護者面談や、母語翻訳した資料を用意し、情報をきめ細かく伝える。</p>	
評価		
作成者	学級担任： K 先生	日本語支援員：L・N

作成日	
評価日	

## 【多文化版】 個別の教育支援計画 [ ] 高等学校

氏 名				性 別	女	国籍	中国
フリガナ				生年月日			
学校での表記				母 語 使用言語	中国語 (学校では日本語)		
住 所				連 絡 先			
	続 柄	氏 名	国 籍	本人との言語	日本語使用状況・備考		
家族構成	養 父		日本	日本語			
	母		中国	中国語			
保護者への通知	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要						
保護者面談 説明会等	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語で可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input type="checkbox"/> 通訳が必要						
来日時期	高校入学の約3か月前		滞日予定				
将来の進路希望	大学進学						
年齢	学年	居住国・市町村	就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況	担任	支援員	支援時間	備 考
0-5							
5-6							
6-7	小1	中国					
7-8	小2	中国					
8-9	小3	中国					
9-10	小4	中国					
10-11	小5	中国					
11-12	小6	中国					
12-13	中1	中国					
13-14	中2	中国					
14-15	中3	中国					
15-16		日本・千葉県・青森県					千葉で日本語学校、青森県で塾
16-17	高1	日本・青森県		F先生	E・X・O	3H	対面とオンライン
17-18	高2	日本・青森県					
18-19	高3	日本・青森県					

生活の様子	得意なこと 好きなこと	ギターを弾くこと、歌を歌うこと
	苦手なこと	運動すること 日本語
本人・保護者 進路希望等	本人	大学進学
	保護者	大学進学
長期目標 (期間：年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語で行われる授業内容が理解できるようになる。</li> <li>大学進学に向け、各教科の授業内容を理解するとともに、小論文などで自分の意見を書き表すことができるようになる。</li> <li>在学中に日本語能力試験N2に合格する。</li> </ul>	
言語・文化的 配慮	学校生活上の配慮（1） <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活においては不便はないとのことでしたので、特記事項なし。</li> <li>クラスでも部活でも仲のよい友人がおり、楽しそうに過ごしている。周りとのコミュニケーションもでき、支援してもらっている。</li> </ul>	
	日本語及び教科学習上の配慮（2） <ul style="list-style-type: none"> <li>国語の授業や現代社会の授業においてルビ付き教材及びテストを作成する。</li> <li>個別のテストの作成と事前指導を実施する(1年次は国語、現代社会、社会と情報等でテスト問題を工夫し、日本語をやさしいものにしたり分量を調整したりして、個人内評価で対応。古典、現代文、現代社会も個別支援)。</li> <li>放課後の日本語支援を通じて、教科の内容理解の手助けとなるよう、漢字の読み書きや語彙、文法を中心に指導する。</li> <li>対面支援時にて、教科学習の前提となるような日本に関わる知識やイメージを入れたり、週末課題の長文読解や、大学進学に向けた小論文作成を中心に指導する。</li> </ul>	
	母語・母文化尊重に向けた配慮（3） <ul style="list-style-type: none"> <li>古典や社会の学習内で文化の相互理解を図る。</li> <li>日本の大学への進学に向けたキャリア交流会を実施する。</li> <li>教員間の理解を深めるための研修を実施する。</li> <li>同じバンドの友人に中国語講座を開くなど、自分からも取り組んでいる。</li> </ul>	
支援体制 関係機関 との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>弘前大学多文化リソースルームから、支援員を派遣してもらおう。</li> <li>ケース会議を実施する。</li> </ul>	
作成者	学級担任： F先生	日本語支援員： E・O

平成 年 月 日 保護者氏名

㊞

※ A3の様式の裏面は、p.14-15と同じであるため省略。



作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】個別の指導計画

■■■■ 高等学校

学年・組	ふりがな 本人氏名	
学校生活の様子	うまくいっているところ ・クラス替えで友人も増え、楽しそうにしている。軽音の友人や新しいクラスメートが違和感なく接して授業でもサポートしている。写真部のミーティングでも、話す・聞く力の向上を感じる。 ・わからないことは自分から積極的に聞き、疑問解決できている。語彙・表現力がついてきた。 ・自宅では平日1時間、休日3-4時間、日本語の学習をするなど、自分からよく取り組んでいる。 ・周囲の友人に、中国語や中国事情などを積極的に教えている。それによって、中国へのイメージが変わったという生徒もいる。 つまづいているところ ・ミニ作文などは、冬より書くスピードが上がってきてはいるものの、3月のDLAでは、読む・書くの技能にはまだ課題が見られた。本を読むのが好きではないことが、影響している可能性がある。 ・今後、世界史や地理の授業が本格的になると困難が出てくる可能性がある。	
短期目標 (期間:1学期)	学校生活 ・日常の学校生活における日本語理解をより深めるようにする。 ・自分から積極的に本を読むような習慣をつけ、文の組み立てや、読み取った内容をまとめて書く力を身に着ける。 日本語・教科学習(取り出し・入り込み・放課後補習等) ・日本語で行われる授業内容が理解できるよう、教科につながる語彙や表現を習得する。 ・7月の日本語能力試験でN3合格を目指す。 ・長文読解等に出てくる指示語や書き出しを理解し、内容に関する質問に適切に答えることができるようになる。 母語・母文化尊重と多文化共生 ・ホームルームなどの時間を活用し、同級生に中国の文化を伝え、多文化交流を図ることができる。	
手立て	学校生活 ・引き続き担任を中心に見守り、関係する教科の先生方に授業内での支援や評価の工夫をお願いする。 日本語・教科学習(取り出し・入り込み・放課後補習等) ・放課後補習 (1) 対面 : 週1回、1時間半(長文読解、小論文作成、授業での不明点の確認等) (2) オンライン: 週2回、各1時間半(文法、語彙、読解等) *オンラインは、日本語能力試験対応のため、定期考査の前の週にも、1時間の支援を行う。 *オンラインでの添削・指導が難しい文章作成等については、次回対面時に引き継ぐ等の工夫をする。 *対面時にて、説明不足により理解しきれなかった文法や語彙については、次回オンライン時に引き継ぎ、理解を促す。本人が好きな分野で無理なく読めるレベルの本と出合えるよう、本を紹介し、夏休み中に自分から読めるように促していく(コナンのライトノベル、読解力ドリルなど)。 母語・母文化尊重と多文化共生 ・2学期のホームルーム等で、中国事情や文化を発表できるように、準備していく。	
評価	・イングリッシュクラブであり、クラスメートでもある友人を介して、イングリッシュクラブの先生も含めた交換日記が始まり、書くスピード・内容ともに成長が見られる。学校祭では、多文化理解に関する展示をする中で、中国について紹介するポスターを作成したり、民族衣装をきて活動するなど、クラスや学校の生徒たちに中国について発表したりした。課題として、世界史や地理の学習の中でカタカナ表記に関するものや、内容面での理解にあげられるのでそれらに関して支援していきたい。	
作成者	学級担任: F先生	日本語支援員: E・O

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■■■■■■■■■■

## 【多文化版】個別の指導計画

■■■■ 高等学校

学年・組	ふりがな 本人氏名	
学校生活の様子	うまくいっているところ ・作文指導をしていただいていることや、交換日記、担任との作文の練習を通じて、書くスピードや助詞の使い方が適切になってきた。イングリッシュクラブの教員または生徒との交換日記も楽しそうに取り組んでいる。	
短期目標 (期間：)	つまづいているところ ・世界史で西洋史、地理でカタカナ表記のものについて、理解が遅れている。現在、教科担当者と面談しながら教科理解について補習をしたり、本人が学んできたものが生きるように、考査や考査範囲について配慮したりしてもらっている。現代文については、簡易な問題と日本語支援で使用しているテキストより問題を出したり、古典では漢字テストをいれるなど、理解が難しい部分に関しては配慮しながら、出題範囲・内容を吟味している。	
手立て	学校生活 ・日記や作文を書く中で、文章を書くことになれるとともに、文章の構成や書き方、助詞の使い方などを適切に行えるようにしていく。 ・会話がよりスムーズにできたり、自信をもって話せるよう、語彙力や話す力を伸ばす。	
	日本語・教科学習（取り出し・入り込み・放課後補習等） ・各教科の授業内容がほぼ理解できるだけでなく、試験でも自分の実力を発揮することができる。 ・日本語能力試験N2の合格を目指し、日本語の「読む」「書く」「聞く」力を伸ばしていく。12月受験。 ・日常生活や日本語能力試験で使われるカタカナ、オノマトペの語彙の理解と活用を進める。	
	母語・母文化尊重と多文化共生 ・イングリッシュクラブの友人などとの交流で、お互いの文化を尊重し楽しむ。 ・クラスや軽音の友人に中国語を教えて交流するのを見守る。	
手立て	学校生活 ・楽しみながら文章を書く中で、適切に校正しながら文章表現について身につけさせていく。 ・会話の中での助詞の使い方や語彙力育成のための指導をしたり、より多くの人とコミュニケーションを図る機会を設けたりする。場に応じた言葉遣いができるように支援する。	
	日本語・教科学習（取り出し・入り込み・放課後補習等） (オンライン)・ <u>支援回数を増やすことについても検討する</u> 。急に増やすより徐々に増やす方がよいかもかもしれない。 ・段階的に語彙や抜けている文法等の学習を重ねることで基礎的な日本語力を定着させ、教科学習にも活かす。 ・ <u>多読で読むことに慣れ、作文で書く力をつけられるよう支援し、フィードバックで理解を深める</u> 。 ・12月試験については、語彙が不足している部分などに自分でどのくらい時間をかけられるかによるので、 <u>中国語訳のある教材を活用し、自学してもら</u> う。支援時は文法・読解などにあてる。 (対面)・長文読解や作文の書く力へと繋げるために <u>多読に慣れてもらい、読んだものの感想や簡単な内容説明などのアウトプットを行う</u> 。(オンラインの日本語多読の無料の読み物) ・ <u>授業での不明点は図表など使用し理解を深めると同時に、意味の分からない語彙を無くしていく</u> ことで今後の大学入試や日本語能力試験の対策とする。 (学校)・古典は追加課題も頑張っているが、日本語の方に時間をかけられるように調整していく。	
	母語・母文化尊重と多文化共生 ・上に同じ。	
評価		
作成者	学級担任： F 先生	日本語支援員： E・O





年齢	学年	居住国・市町村	就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況	担任	支援員	支援時間	備考
0-1							
1-2							
2-3							
3-4							
4-5							
5-6							
6-7							
7-8	1年						
8-9	2年						
9-10	3年						
10-11	4年						
11-12	5年						
12-13	6年						
13-14							
14-15	2年						取り出し指導
15-16	3年						取り出し指導
16-17							

生活の様子	得意なこと 好きなこと	料理 スポーツ(テニス)
	苦手なこと	料理以外の家事(片付け・食器洗い)
本人・保護者の願い	本人	の大学へ入学し、教師になりたい
	保護者	本人の希望を尊重
長期目標 (期間：3年)	個別に教科のレポートやテストの支援をすることで単位を取得し、高校卒業を目指す。 基本的な読み・書きの力をつけ、教科学習の理解につなげる。 語彙や文型の学習を進めることで、自分の考えを伝え相手の話を理解する力をつける。 日本文化や社会を理解する力を身に付ける。	
言語・文化的配慮	学校生活上の配慮(1) 翻訳機を使って、コミュニケーション上の誤解を少なくする 学校での礼拝場所の確保や体育等での服装についての配慮を要する。	
	日本語及び教科学習上の配慮(2) リライト教材等で教科学習の大まかな内容の理解を進めるとともに、基本的語彙や漢字の学習と並行して作文に取り組むことによって、まとまった話ができるようにする。 教科レポートの作成を個別に支援する。 授業のUD化や視覚に訴える教材を活用することにより理解力を深める。 空き時間等を利用し、教科指導を個別に支援する。	
	母語・母文化尊重に向けた配慮(3) 宗教に関係する行事等が最優先されることが多い事を理解する。	
支援体制 関係機関との連携	関係職員やスーパーバイザー、支援員等でケース会議を設定し、定期的に個別の支援計画を見直し、協働して支援にあたる。 県教委からの指導を仰ぎ、必要な支援に向けた体制づくりを模索する予定である。	
作成者	担当：	日本語支援員：

平成 年 月 日 保護者氏名 ㊟

※ A3の様式の裏面は、p.14-15と同じであるため省略。

作成日	■■■■■■■■■■
評価日	■ ■ ■

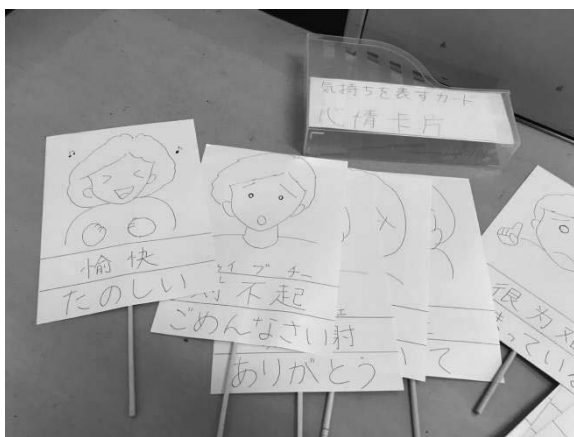
## 【多文化版】 個別の指導計画 〔 ■■■■■ 高等学校 〕

学年・組		ふりがな 本人氏名	
学校生活の様子	<p>うまくいっているところ 英語に関しては、自分で理解して取り組める。 連絡事項については、簡単な日本語で伝えられる</p> <p>つまづいているところ 授業全般で分からないところが多くレポートやテストに向けての学習は分からないところが多い。 同級生の◇◇さんは姉が上級生にいてもあってアドバイスを受けることが出来るのに比べて、 〇〇さんは自分一人でやらなければいけないことが多く、不安に思っている様子だ。 日本人生徒とのコミュニケーションはほとんど無い。</p>		
短期目標 (期間：)	<p>学校生活 日本語を使って周りとのコミュニケーションを図る。 学校の仕組みや卒業条件等を理解させる。(卒業に3年以上要する場合もあることを理解させる。)</p> <hr/> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 教科学習に必要な漢字を中心に、語彙を増やす。 英語・数学用語の補強をし、本を読むことで語彙を増やしていく。</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 保護者に、日本の高校についての必要な情報を提供する。 宗教的な事柄についての理解と、学校ができる配慮を行う。</p>		
手立て	<p>学校生活 簡単な日本語は話すこと・聞くことが出来るので、周りの生徒や教師に、分からないことを質問できるように支援をしていく。</p> <hr/> <p>日本語・教科学習 (取り出し・入り込み等) 本人が理解しやすい教科の教科書を読むことによって語彙を増やせるような学習をしていく。 小2程度の漢字をしっかり覚えているので、更に学習を進めて力をつけられるように支援する。 日記等の作文を書くことで、文章単位で書いたり話したりする力をつける。 個別に教科のレポート作成の支援をし、単位取得を目指す。 スクーリングで、日本語での設問を行い日本語の習熟を図る。</p> <hr/> <p>母語・母文化尊重と多文化共生 通訳を入れた保護者面談を設定し、進路に関する情報をきめ細かく伝える。</p>		
評価			
作成者	教頭：	日本語支援員：	

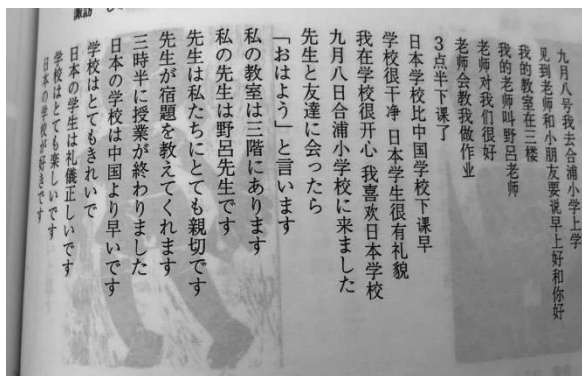
### I-3-1 多文化共生の学校づくりへの取組（青森市立小学校編）

小学校における日本語支援では、文化の違いや言葉の壁によるコミュニケーション不足から日本語がわからない外国人児童にトラブルが生じないように、多文化共生のためのさまざまな取り組みを実施してきた。また、外国人児童の母語および母文化の保持を重視するとともに、すべての児童が異文化に触れる機会を作り、多文化共生の学校づくりを行ってきた。

まず、小学校では、感情やあいさつを表す札を子どもたちと一緒に作成し、だれでも利用できるように教室に設置した。最初は、児童たちの間で「いや」「やめて」という言葉が通じず相手を怒らせてしまったり、「ごめんね」という言葉が足りずにけんかになったりするトラブルが生じることが多かったが、この札を使うことで楽しみながらトラブルを減らすことができた。



また、外国人児童が自分のルーツに誇りを持てるように、中国語で書いた漢詩を廊下に掲示したり、保護者の協力のもと外国人児童が中国語で詩を作り、それに日本語訳をつけて文集に掲載したりした。これにより、外国人児童に中国語の発音を自然に尋ねるなど、担任や周りの児童が徐々に中国語に興味を持つようになり、特に意識をせずに異文化を理解しようとする動きが出てきた。



さらに、授業の中でも積極的に文化の違い等を取り入れたグループ活動を行い、参観日には外国人児童のいるグループが中国の給食と日本の給食の違いを表にまとめたものを保護者の前で発表した。また、いじめについてよくわからない外国人児童に対して、日本語支援員がいじめ防止のポスターを、イラストとやさしい日本語を使って作成し、すべての児童が理解しやすい形で校内に掲示した。外国人児童が日本語力を身につけるとともに、子どもたち同士が話し合いながら一人ひとりの違いを認め、お互いの文化を大切にする動きが見られるようになった。



小学校では、図書室に「多文化図書コーナー」を設置し、外国人児童のルーツである中国に関する絵本を多く展示し、すべての児童が校内で異文化の本に触れることができるようにした。

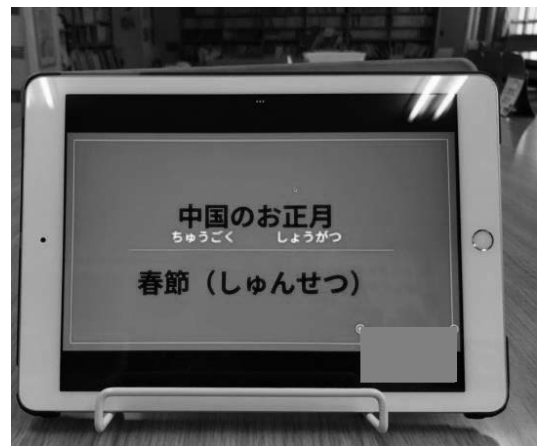
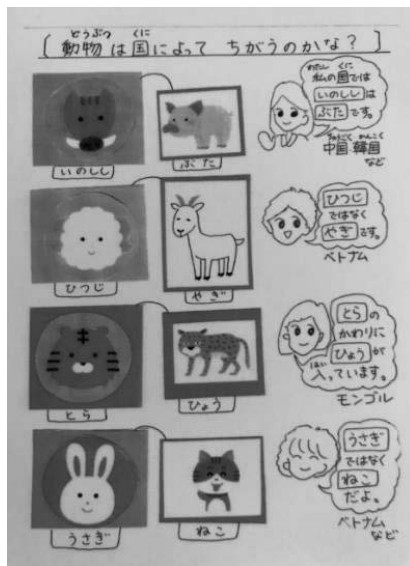


また、図書室の黒板を使用して、日本語支援員がいろいろな国の干支について紹介し、中国の切り絵を使ってしおりを作成し、読書の時に教職員や児童に使ってもらった。さらに、朝の会を使って、オンラインで母語支援員が中国のお正月について紹介した。



いろいろな国の十二支

日本語	中国語	韓国語	英語	
ねずみ	鼠 ス	쥐 츠イ	MOUSE	マウス
うし	牛 ニウ	소 ソン	COW	カウ
うさぎ	兔 フー	토끼 토끼	TIGER	タイガー
たつ	虎 フー	용 ヨン	RABBIT	ラビット
へび	兔 トク	뱀 เปム	DRAGON	ドラゴン
うま	龍 ロン	말 マル	SNAKE	スネイク
ひつじ	蛇 シェ	양 ヤン	HORSE	ホース
さる	馬 マー	원숭이 원シ	SHEEP	シープ
とり	羊 ヤン	닭 타	MONKEY	モンキー
いぬ	猴 ホッ	개 케	CHICKEN	チキン
いのしし	鸡 ジー	돼지 투지	DOG	ドッグ
	狗 ゴウ		WILD BOAR	ワイルドボア
	猪 ズ			



以上のような取り組みを通して、子どもたちや先生方から「中国のことが知れてよかった」「面白かった」「勉強になった」という声が聞かれた。多文化共生の視点から図書室を利用して多くの児童の異文化に触れる機会を作ることができただけでなく、外国人児童自身も大変誇らしげな様子であったことが印象的であった。

石塚 ゆかり (青森大学)

### I-3-2 多文化共生の学校づくりへの取組（県立高等学校編）

令和2年度、日本に来てから数か月の中国出身生徒 R さんが、県立の全日制高校に入学した。多文化リソースルームは、令和2年7月より支援に入った。

支援にあたっては、担任教諭、（可能な時には）部活動顧問、支援員、多文化スーパーバイザーが、前年度に立てた個別の教育支援計画を基本に据えながら、3回のケース会議を開催し（令和3年度）、年度の前半と後半で個別の指導計画を作成・評価して支援を進めてきた。ケース会議においては、指導計画の様式を踏まえることで、現在の生徒の様子、短期的な目標を共有し、学校生活支援、日本語・教科支援、多文化共生のそれぞれの支援内容とその手立てを相談した上で、学校と支援員、それぞれの役割を確認している<sup>1</sup>。

ここでは、教室や学校行事での多文化共生や母語・母文化支援を意識した取組について紹介する。この部分を主として担ったのは、学校の先生方である。多文化リソースルームとしては、中国出身の大学院生との母語も含むオンライン交流会や、中国人留学生をガイドとする弘前大学キャンパス見学などのキャリア支援企画を実施した。

#### (1) 学級や部活動における日常的な多文化共生の姿

Rさんは、入学当初から、学級において多くの日本人生徒と交流を持った。学級でも、軽音楽部や写真部などの部活動でも親しい友人ができ、Rさんは、そうした友人たちに自ら中国語を教える私的な講座を持つなど、母語・母文化を共有しようとする姿勢を示し、関係を築いていった。担任教諭や部活動顧問は、Rさんのそうした姿を温かく見守り、学校における多文化共生を進めるものとして歓迎した。また、Rさんが放課後のオンライン支援を受けている情報室で活動していたことから、イングリッシュ・クラブの生徒との交流も始まった。イングリッシュ・クラブの生徒たちは異文化に関心を持っており、交換日誌などを通じて互いの文化等について情報交換するなどしていた。

学級での学びにおいては、担任をはじめ複数の教科担当が、「やさしい日本語」による補助的な説明を心がけたり、試験においても配慮したりといった支援的な姿勢を見せ、学級の友人たちがわからないところをサポートしてくれたりすることもあった。

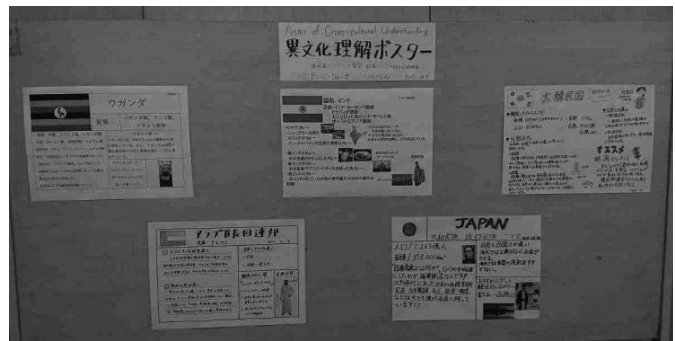
---

<sup>1</sup> Rさんへの多文化リソースルームの通常の支援は、「授業はすべて友人たちと共に自分の学級で受けたい」という本人の希望を踏まえ、令和3年度はオンライン支援 1.5時間×週2回、対面支援 2.5時間×週1回の放課後支援

こうした日常的な学級や部活動の上に、2年次には、学校祭やホームルーム活動で、Rさんが母語や母文化を発表する機会がつけられた。

### (2) 文化祭における多文化交流


7月15日～16日開催の学校祭で、多文化理解に向けた取組を実施することになり、生徒たちは、6月頃から構想を練り始めた。皆で手分けして様々な国の文化を紹介するポスターを作り、民族衣装を着て紹介することとなり、Rさんは、中国を担当して、母文化を発信した。ポスターの内容は、他の国と比べても充実したものとなっており、Rさんが力を入れて準備したことが伝わってくる内容となっている。



### (3) ホームルーム活動におけるRさんの発表



さらに、秋に入って、ホームルーム活動の中で時間をとって、Rさんが母国の文化を紹介する時間がつけられた。10月5日、Rさんは、日本語の発表スライドをつくって、写真つきで、中国の食文化についてクラスメートに紹介した。下は、その際のスライドからの抜粋である。

・中国の朝食はたくさんあって、小籠包 お粥 饅頭 肉まん ラーメンなどがある。  
中国の朝食は、約70%の人がお店で食べる。




具材の入っていない肉まん

・中国のお粥は三種類あります。  
・普通のお粥  
・甘いお粥(台湾のは八宝粥 あまい豆)  
・塩味のお粥(肉が入っている 野菜が入っている)


・小籠包名前の由来  
「竹の蒸し機で蒸す」。ということからきている




・次は皆さんも知っている北京duck  
アヒルをきれいに洗ってから、アヒルのお腹に調味料を入れて、果物の香りがする木で焼きます。

中国の火鍋は、私が大好きな食べ物の一つです。  
中国の火鍋には二種類あります。

中国の重慶火鍋です。  
中国の重慶火鍋は正統の火鍋です  
鍋中で九つに分かれています。  
全部、辛いスープです。



普通の火鍋です  
普通の火鍋は鍋の中で二つに分かれていて、一つは辛いスープ、一つは辛くないスープです。  
私は中国の東北地域ハルビンに住んでいました。  
とても辛い火鍋をたべれません。この普通の火鍋をたべます。



中国には他にも美味しい料理があるので、たべてみてください。  
中国人も親切で 友達を作る事が好きです。

Welcome to China  
ありがとうございました。

#### (4) 母語・母文化に配慮したキャリア支援

多文化リソースルームとして意識したのが、キャリア支援の分野である。散在地域では、同じルーツの子どもや先輩が周りにおらず、キャリアを考える際のロールモデルがない状況に置かれる。また、学校にも外国につながる子どものキャリア支援の経験を持っていない。

そこで、先生方とのケース会議での相談も踏まえて、令和2年度の冬には、神奈川在住で中学時代に日本に来て日本の学校に通い、現在大学院生となっている中国の先輩とのオンライン交流会を行った。また、令和2年度の春には、弘前大学のキャンパスで、中国人留学生のガイドのついたキャンパスツアーを実施した。同じルーツの先輩たちとの出会いから、Rさんは自らのキャリアについて具体的なイメージをもてるようになったと思われる。Rさんは現在、大学進学を目指して日々、学習に取り組んでいる。

吉田 美穂（弘前大学）



## I-4 研究拠点校における支援の効果検証

本項では、研究拠点校における支援の効果検証について述べる。

研究拠点校における支援の効果検証は、令和3年12月から令和4年2月にかけて、教員及び児童生徒を対象にインタビュー調査を実施した。効果検証のためのインタビュー調査にあたっては、OECDの報告書『子どものウェルビーイングと政策にとって何が重要かを測定する（Measuring What Matters for Child Well-being and Policies）』（OECD, 2021）に示された子どものウェルビーイング測定の枠組みを参照し、調査指標及び質問内容を設計した<sup>1</sup>。

OECDは、GDPを超えた社会の進歩を測定するための数十年にわたる国際的な取り組みをもとに、2011年にウェルビーイングを測定するための枠組みを打ち立てた。OECD（2021）は、その枠組みをさらに発展させ、子どもに特化したアプローチを提供している。

右図は子どものウェルビーイングの概念を構造的に示したものである。レベルAの子どものウェルビーイングのアウトカムでは、不可欠なアウトカム、身体的健康のアウトカム、社会的、感情的、文化的なアウトカム、認知的発達と教育のアウトカムの4つがカバーされている。レベルBは、子どもの活動、関係、レベルCは、子どもの環境、レベルDは、家族や住宅等の公共政策がカバーされている。

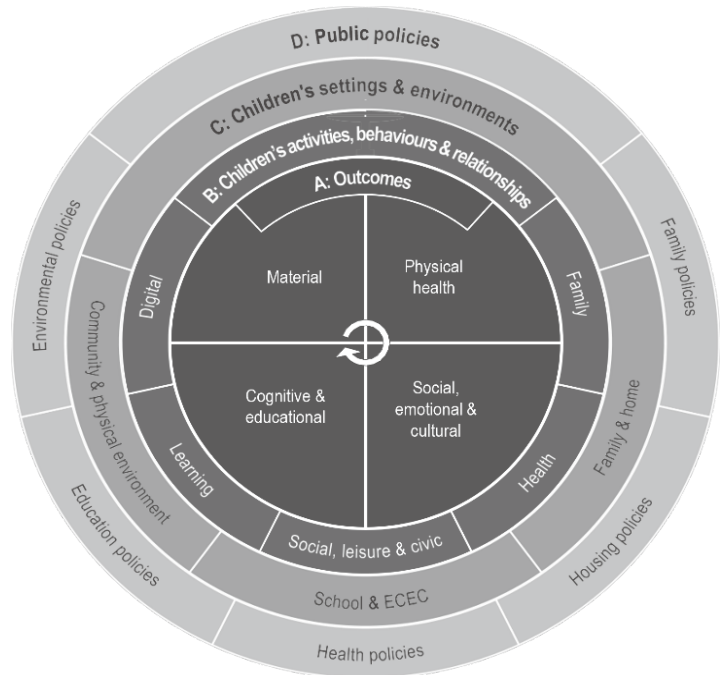


図 子どものウェルビーイングの概念図

レベル A. 子どものウェルビーイングのアウトカム	レベル C. 子どもの状況と環境
A1 不可欠なアウトカム	C1 家族と家庭環境
A2 身体的健康のアウトカム	C2 学校と ECEC 環境
A3 社会的、感情的、文化的なアウトカム	C3 コミュニティと物理的環境
A4 認知的発達と教育のアウトカム	レベル D. 公共政策
レベル B. 子どもの活動、行動および関係	D1 家族政策
B1 家族の活動と関係	D2 住宅政策
B2 健康行動	D3 健康政策
B3 社会的活動、余暇活動、市民活動および人間関係	D4 教育政策
B4 学習活動、態度、行動および人間関係	D5 環境政策
B5 デジタル活動と行動	

<sup>1</sup> OECD (2021), Measuring What Matters for Child Well-being and Policies, OECD Publishing, Paris, <https://doi.org/10.1787/e82fded1-en>.

この枠組みを参考に、本調査では、下表のとおり質問項目を設計した。

児童生徒対象の質問項目

テーマ	質問項目（上位質問のみ表示。下位質問は割愛）
学校生活	あなたは、安心して学校生活を過ごすことができますか？
	あなたは、学校生活に満足していますか？
	あなたは、先生、クラスメートと良好な関係をもっていますか？
アイデンティティ	あなたは、自分らしく生活を過ごすことができますか？
将来の展望	あなたは、将来に対する見通しを持っていますか？
	あなたは、進学に対して意欲的ですか？
学習スキル	あなたは、学習することに意欲的ですか？
ソフトスキル	あなたは、様々な困難も克服できるタイプですか？
学習の成果	あなたは、テストで良い点数をとれていますか？
学校の支援	学校は、あなたの学校生活に対して適切な支援をしてくれていますか？
	学校は、あなたの文化的背景に対して適切な配慮をしてくれていますか？あなたの文化的背景は尊重されていますか？
外部の支援	支援員によるサポートは、あなたにとって効果はありましたか？

教員対象の質問項目

テーマ	質問項目（上位質問のみ表示。下位質問は割愛）
生徒の様子	本人は、安心して学校生活を過ごしている様子ですか？
	本人と先生との関係は良好ですか？
	本人と他のクラスメートとの関係は良好ですか？
	本人は、勉強に意欲的ですか？
	本人は、テストで良い点数をとれていますか？
	本人は、自分の文化的背景の違いや年齢の違いなどについて、気にしている様子はありましたか？
支援の体制	我々の支援の体制は適切でしたか？
支援の内容・方法	我々の支援の内容・方法は適切でしたか？

調査は、以下の日程で、8つの学校の児童生徒・教員に対し、各々2名の調査者により実施した。

日程	学校名	調査対象	調査者
令和3年12月23日	R中学校	1年生徒、担任教諭	桐村・笹森
令和4年2月8日	S小学校	担任教諭	田中・桐村
令和4年2月14日	T高校	1年生徒、教頭	田中・桐村
令和4年2月14日	U中学校	2年生徒、担任教諭・学年主任	桐村・土岐
令和4年2月15日	W小学校	1年児童、担任教諭・教頭	田中・桐村
令和4年2月21日	S小学校	4年児童	田中・土岐
令和4年2月21日	X高校	2年生徒、担任教諭	田中・桐村
令和4年2月22日	Y高校	担任教諭・教頭	田中・桐村
令和4年2月22日	Z小学校	3・5年児童、担任教諭	田中・桐村

桐村 豪文（弘前大学）

生徒用質問	回答
<p><input type="checkbox"/> 学校で何をしているときが一番楽しい？</p>	<p>【生徒】 部活。</p>
<p><input type="checkbox"/> 母国の学校との違いで、驚いたことや戸惑ったことはある？</p>	<p>【生徒】 母国の学校は技術と美術と音楽が大体ないです。学校に入って初めての授業がちょっと緊張してた。</p>
<p><input type="checkbox"/> 最初からそんなに日本語上手なんですか。</p>	<p>【生徒】 最初、いや、あまり上手じゃない。全然話せませんでした。 【担任】 頭いいです。とっても頭のいい子です。数学、私、数学科なんですけど、学年で唯一100点です。いつも。だから相当。あまりだから心配すること、学習面はそんなないかな。</p>
<p><input type="checkbox"/> 部活の友達は仲良しですか。</p>	<p>【生徒】 仲一番いいのは1人だけ。</p>
<p><input type="checkbox"/> その子とは何でもいろいろ話せます？</p>	<p>【生徒】 何か母国と日本の違うところとか、ちよっと毎日朝ご飯何食べるとか話しています。気に掛けてくれていて、よく、日常会話はよくします。何か母国が、友達から母国に行きたいなと言われた。</p>
<p><input type="checkbox"/> 勉強のことや生活のことも含めて、色々と気軽に相談できる先生はいる？</p>	<p>【生徒】 分からないことがあったら何か自分で調べてる。 【担任】 あんまり先生に聞かない感じ。あんまないかも。それよりかは自分で何とかしたいっていう感じのほうが。何か、例えば「日本語上手だね」とかっていうのも「いやいや、いやいや」っていうタイプ。あんま言われたくない。むしろそういうのを言われたくない。「頑張ってるね」とかね。あんま言われたくないよね。できない、頑張ってるねとかって、できないからその子は頑張ってるって褒められるから、できないことを認めているように何かちよっと、プライドがちよっと許さないみたいなのは、彼女はあると思いますね。</p>
<p><input type="checkbox"/> 将来こうなりたいなというものはある？</p> <p><input type="checkbox"/> 他にも何かやりたいな思って思うことと違ってあるんですか。</p> <p><input type="checkbox"/> いつから？</p> <p><input type="checkbox"/> ここに来てから？</p> <p><input type="checkbox"/> 今は教師と看護師だったらどっちのほうがいい？</p>	<p>【生徒】 看護師です。 【生徒】 教師。先生。 【生徒】 5カ月前。 【生徒】 はい。 【生徒】 看護師。</p>
<p><input type="checkbox"/> 将来、大学、専門学校に進学したいと考えている？</p>	<p>【生徒】 はい。</p>

<input type="checkbox"/> どういうことをやらないといけないかわかっている？調べたりしている？	<p>【生徒】 うん。日本語を上手にならなければいけない。具体的には、調べたりはしていないそうです。</p>
<input type="checkbox"/> 勉強するのは好きか？	<p>【生徒】 勉強よりテストは好き。渡された問題とか。点数で返ってくるのが好き。</p>
<input type="checkbox"/> おうちに帰ってもちゃんと勉強するタイプなんですか。	<p>【生徒】 今おうちに帰ったらお店の仕事や、弟の世話や、したら勉強してます。</p>
<input type="checkbox"/> こっつ頑張るタイプ？	<p>そうち寄りかなと。</p>
<input type="checkbox"/> 得意科目は何？ 何点くらいとれる？	<p>【生徒】 数学と英語。期末テスト100点。</p>
<input type="checkbox"/> 苦手科目は何？	<p>【生徒】 国語と社会。</p>
<input type="checkbox"/> 日本語は大学の支援でいろいろ教えてもらって、上達したって言うことでしょうか。	<p>【担任】 2学期になってからやり始めたんです、国語と社会は。それまではその時間に裏で母語支援してたので。でも平均点ぐらいです。取れます、平均点。</p>
<input type="checkbox"/> それはこの半年の間に見始めたのですか。	<p>【生徒】 自分がスマホで何か YouTube から日本語の教えのビデオから、自分で見る。</p>
<input type="checkbox"/> 先生からやってもらったり、言ってもらったりして嬉しかったことは何かある？	<p>【生徒】 はい。</p>
<input type="checkbox"/> クラスメートとは仲良くできている？	<p>【担任】 あとは国社の時間に空き教室で大学の先生と1対1で日本語教育。</p>
<input type="checkbox"/> クラスメートから「 <span style="background-color: #cccccc;">          </span> さん、頭がいいね」って言われたこと。	<p>【生徒】 クラスメートから「<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さん、頭がいいね」って言われたこと。</p>
<input type="checkbox"/> クラスメートとは仲良くできている？	<p>【生徒】 あまり話しない。</p>
<input type="checkbox"/> 先生からやってもらったり、言ってもらったりして嬉しかったことは何かある？	<p>【担任】 そうですね。話はするんだけど、やっぱり彼女が大人なので、ずっと一緒にいると疲れちゃうんですね。ほかはききやびしてるから。たぶんそうだね。話はするんだけど、仲が悪いわけじゃないんだけど、1人でのいることが基本多かったですね、クラスで。全然違う。もうほんとに落ち着き具合も、ので。男子とかね、もう見るとすごいよね、たぶん。衝撃でしょう。</p>
<input type="checkbox"/> 支援員はあなたにどんな支援をしてくれた？	<p>【担任】 放課後がメインだったかたかたかもしれません。ちょっとだけ学校でもやってたかな。</p>
<input type="checkbox"/> 支援員から教えてもらったことで、授業の内容が分かってきた？	<p>【生徒】 うん。</p>
<input type="checkbox"/> 最初の頃は授業の中にも、あんまり日本語がちょっと難しくとかありましたか？	<p>【生徒】 最初、最初。日本語。そんな難しい、難しいです。</p> <p>【担任】 最初はね、難しかったね。でもほんと、最初って感じですけどね。中間テスト、その1学期の中間、一斉テストと6月の末にやっただけですけど、日本語で問題を書いてるじゃないですか。でも100点取りましたから。やっぱりそれぐらいの時にはもう大体。入って3カ月ぐらいではもうある程度言葉を。早口で言っても聞き取れるぐらいになってきたのが夏ぐらいだったかなって感じですね。</p>
<input type="checkbox"/> こうした支援があったらよかったというものはあった？	<p>【生徒】 ないです。</p>

教員用質問	回答
<p><input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人が安心して学校生活を過ごすことができるよう、本人に対して何か支援はされましたか？</p>	<p>【担任】特に結果的にはなかったです。例えば、の分かりやすいようにテスト問題を工夫するとかそういう話も出たんですけど、の場合そんなことしなくても大丈夫でした。結構特別な例なのかと思ってやっています。それで支援もしてくださいませすし。タイムラグみたいなのは、こういう支援してほしいんだけという、何ていうんだ、やりとりが難しいときは、とてもあります。例えばお母さんが日本語をあまりというか、結構全くできないので、本来であれば何かあった時に保護者と連絡取りたいんですけど、取れないから、さんと取る。でも、さんが休むときは、さんは取れないから、通訳の方、さんっているんですけど、通訳の方に私 LINE で連絡して、こういう状況とか、そういうやりとりのタイムラグみたいなのは結構困りました。ただ、自體は賢いので、勉強面とかこっちは困るような、煩わしいこととかは一切なかったです。</p>
<p><input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人がうまくクラスの一員になれるように意識的に支援することはありませんか？</p>	<p>【担任】特にやらなかったですね。あと、の場合あんま必要ないというか、それを欲していない感じがあったので、あんまり。なのでそんなに。「ねえねえ」みたいな「とこ行こうよ」みたいなのはあんまりやんなかったです。</p>
<p><input type="checkbox"/> 他のクラスメートに文化的背景の違い等を理解してもらうために、何か取り組んだことはありますか？</p>	<p>【担任】やんなかったです。そういうのは、やったほうが良かった？ 何か嫌かなと思って。そんなん、嫌だよ。私が何かの立場になって。何か構える。そういう感じで。私にだってここどう思うかなとかかっていうふうにやってきた9カ月間でした、ほんとに。はもう心は大人なので。中1の子の心を理解するよりも、の心を想像するほうがたやすいというか。なので、ちょっと考えながら。だからそういうのはやんなかったですね。私高校の先生じゃないから。高校の教員だったらそういうのをやっても良かったかなとかは、考えたりは。母語に関係する単元を「ちょっと、さん、母語の読み方で読んでみて」みたいな。教科担当の先生とかに言われた？ 授業の時間に。</p> <p>【生徒】 読んだことがあります。</p>
<p><input type="checkbox"/> 保護者との連絡が一番難しかった？</p>	<p>【担任】 そうですね、はい。</p>
<p><input type="checkbox"/> 支援員を配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？</p>	<p>【担任】 助かりました。支援は絶対あったほうがいいと思います。その国語と社会の時間に抜いて、学校でやるっていうあれ、実に支援員の先生にやっていただいたやつ。あれすごく良かったと思います。日本語が分かれば授業が分かるから。すごく助かりましたね。</p>
<p><input type="checkbox"/> 支援の仕方は、これで良かったですか？</p>	<p>【担任】 支援員の先生が国語と社会の時間に、と日本語の勉強をしたらどう？ それじゃなくて1時間目から6時間目までずっと付いてたほうが良かった？</p> <p>【生徒】 いや、いやいや、いや。国語と社会の時だけやっただけのほうがいいと思います。</p> <p>【担任】 そうかも。もしかしたら1日いると、友達が寄ってこないかもしれないってちょ</p>

	<p>っと思しました。外国の方じゃなかったんですけど、以前、肢体不自由の子を持っていた時に、その時は東京で働いていたんですけど、その時にその子に1日中支援が入るんですけど、その子は、でも筆談できるんですけど。しゃべれないんですけど。でも、いる時は友達誰も奇なくなっていて。いない時、大人がいない時に行く、みたいなことがあって。でもほとんど1日寄り添ってたから。ちょっとこれは良くない面だになってその時に思ったので。ちょっとパターンは違うかもしれないんですけど。もしかしたらそうかもしんない。いい面もあるとは思いますが、</p>
<p><input type="checkbox"/> ケース会議を実施してきましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 時間が長かった？</p> <p><input type="checkbox"/> いつもどれぐらい時間かかってたんですか。</p> <p><input type="checkbox"/> ケース会議の頻度は？</p>	<p><b>【担任】</b> 情報交換はすごく良かったなと思っています。ただ、支援員やSVである程度、話をまとめて会議に臨むとちょっと時間短縮できたかなって言うことは思ってたかなって言う感じですね。でもあれ絶対必要だと思います。ああいう打ち合わせ。あとは例えば転校の手続きとか。こちらだとできないこと。学校としての転校手続きはできるけど、何ていうんだ、何だ、国の支援、国の事業としてやってみること、県の事業としてやってみることじゃないですか。だからそういう転校の手続きとかは、そういうのってやっぱりスーパーバイザーの方が入っていないとできないこととか、そういうのも全部助けてもらって。そういうのはすごくありがたかったですね。だからケース会議は必要だと。</p> <p><b>【担任】</b> そうです。それはちょっと思いました。</p> <p><b>【担任】</b> 2時間ぐらいかな。例えばなんですけど、私と校長先生で打ち合わせして1つの意見にまとめてばつと出すのと、その場になったときに「校長先生はどう思いますか。こうですよね」って、このやりとりは他の先生に聞かせなくてもいいことじゃないですか。だからここを短縮すればいいのになって、先生たちの話。そうすると会議自体がそんなに苦痛じゃないから何回もできるじゃないですか。あんまり重い会議だと、1学期に1回でいいよってなるから。もうこういうのって、日々変化していくもんだと思うから、支援って。だから細かい打ち合わせって必要になってくると思うんですね。短いスパンでの打ち合わせ。つてなるとやっぱ30分とか1時間とかの会議を1カ月に1回とかやってやったら良かったのかなって思います。</p> <p><b>【担任】</b> 全然なかったです。今までで2回ですね。1学期に1回。1学期に2回かもしれません。2学期1回もやってないかもしれないですね、もしかしたら。急ぎよ、転校も急ぎよだったから。</p>
<p><input type="checkbox"/> 支援の体制について、もっとこうした方が学校としてやりやすいといったことがあれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 保護者との連絡で通訳を介さなければいけないことが結構あったことぐらいでしたね。そこで外部の支援があったのは良かったこととかいうことでもなくですか。</p>	<p><b>【生徒】</b> 特に他はない。</p> <p><b>【担任】</b> そうですね。結局は私がLINEで聞けたからかなって思いますが、もしあれであれば、例えば無断で欠席してしまったりがあったことですか。お母さんに連絡しても連絡が</p>

	<p>つかない。も が具合悪いかから、携帯見なくて連絡できないというときがあったときに、例えば先生(SV)に電話してそこからいけるみたいな、そういうラインがあればいいかなって。本来、ほんとに保護者の責任の下の子どもだから、本来であれば保護者に「どうしたんですか」とか、あとは何かお願ひするときの「こういうのをしてください」とかって言うけど、それが一切できなかつたっていうのは厳しかった。</p>
<p>□ 個別の教育支援計画・指導計画の作成について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p><b>【担任】</b> 主任と校長が作ったので、ちょっと私はあんまりありませんけど。あんまり意味ないかなってちょっと思う。見たんですけれど。支援計画書いてもそのとおりにいくわけでもないし、あんまり。何だろかな、みんなと同じ支援してるから。例えば母語支援してる先生が個別支援を書くのはいいと思うんですね。この授業はこういうことをやつたとか。実際毎回書いてくださって。ただ、こっち側の担任としてとか、学校の教員がなると、みんなと同じ勉強をさせるからあまり個別の支援をしてないんですよ。だから個別支援計画するのは、あつてないようなものだと思って思いました。作る煩わしさのほう为正直。</p> <p>だからなかもしれないですけど、あんまり。</p>
<p>□ 日報の作成と共有について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p><b>【担任】</b> 校長にたぶんいってると思うんですけど。実際私が見たのは支援員の先生が毎回手書きで毎回書いてくださって。今日やったプリントと、今日こういうことを勉強しましたっていうメッセージみたいなのはすごく良かったです。何やったか分かるので。</p>

質問	回答
<input type="checkbox"/> 学校で何をしているときが一番楽しい？	図工と総合です。
<input type="checkbox"/> 図工の成績はどう？	良いです。→自分で作った作品を見せる。
<input type="checkbox"/> 母国の学校との違いで、驚いたことや戸惑ったことはある？	ない。
<input type="checkbox"/> 学校は好き？ どういうところが好き？	休み時間。長いのがいい。
<input type="checkbox"/> 学校に行きたくないなと思うときはあった？ どういうときにそう思った？	たまにある。土日に学校行く時が嫌だ。運動会の日とか。
<input type="checkbox"/> どんなことを友達と話す？	今日遊ぶ？とか
<input type="checkbox"/> 勉強のことや生活のことも含めて、色々と気軽に相談できる先生はいる？	はい。
<input type="checkbox"/> 学校で、本当はこうしたいのにということ、我慢していることは何かあるか？	先生に怒られないようにしたい。
<input type="checkbox"/> どんなことで先生に怒られているのか？	授業中に変な言葉言ったり、踊ったりして、先生に「コラー何やってんのー」って。ほぼ毎日怒られてる。
<input type="checkbox"/> 友達に母国での生活についても話したりする？どんなことを教えるの？	たまに。総合の時に教える。母国の食べ物日本とちよっと違う。
<input type="checkbox"/> 将来こうなりたくないなというものはある？ そのために何をどうすればいいか考えている？	建築士を目指している。 ちよっとだけ。水道とかどうするか。どうやってつなぐのか。
<input type="checkbox"/> 将来の進路、進学についてはどのように考えている？	いいえ。
<input type="checkbox"/> 勉強するのは好きか？	はい。
<input type="checkbox"/> 勉強はこれからも頑張りたい？	はい。
<input type="checkbox"/> 一人で計画を立てて勉強できるタイプ？	できていません。
<input type="checkbox"/> 自分の言いたいことをちゃんと伝える？	はい。たまに言えない時がある。質問が恥ずかしくて言えない時がある。
<input type="checkbox"/> 苦手科目は何？	国語と理科です。
<input type="checkbox"/> 国語はどうして苦手ですか？	読めない文字がいっぱいあるから。
<input type="checkbox"/> 理科はどうして苦手ですか？	わからない言葉があるとき。
<input type="checkbox"/> わからないときはどうするのですか？	先生に教えてもらう。
<input type="checkbox"/> 先生や支援員、お父さんお母さんから勉強や進路について何か言ってくれているか？	簡単な問題なのに適当にやっちゃって間違っちゃって、お父さんとお母さんに怒られる。
<input type="checkbox"/> 先生からやってもらったり、言ってもらったりして嬉しかったことは何かある？	一人勉強を渡すとき。ちよっと渡してくれて頼まれたとき。
<input type="checkbox"/> 今後、また母国の子が学校に入ってきたら、もっとこうしてあげるとその子は助かるな、と思うことはある？	自分のいるうちなら通訳のお手伝いができる。卒業した後なら、今はまだ思いつかない。



<input type="checkbox"/>	あなたの文化的背景について理解しようとしてくれる友達はある？	います。 食べ物。建物とか。
<input type="checkbox"/>	学校は、あなたの文化的背景を理解しようとしたり、他のクラスメートの理解を促そうとしたりした？	先生→桜が日本人にはグッとくる話をしたら、母国では桃の花がそうだと話してくれた。母国について調べた新聞を作成中。
<input type="checkbox"/>	支援員はあなたにどんな支援をしてくれた？	日本語の。作文読んだり、わかんない字を教えたり。
<input type="checkbox"/>	支援は役に立ちますか？良いですか？	はい。良いんだけど、やっぱりみんなと一緒にやりたい。
<input type="checkbox"/>	支援員のサポートで、嬉しかったこと、ありがたかったことは何かある？	教える前にちよっと遊ぶとかがうれしかったです。
その他		
<input type="checkbox"/>	もっと母国のことを友達に教えたいと思う？	はい。 食べ物。
<input type="checkbox"/>	週に何回支援をやっているか？	普段は月・火・水・木の4日だけ、今はコロナだから火曜日しか支援してない。
<input type="checkbox"/>	テストのことについて、先生や支援員は何か言ってくれますか？	点数が低いとき、もってちゃんとやりなさいと言った。
<input type="checkbox"/>	日本にいつ来た？	9月 だっけ？
<input type="checkbox"/>	日本に来てから何が変わった？	体力がついた。
<input type="checkbox"/>	考え方が変わった？	そこはまだわかりません。

質問	回答
<p><input type="checkbox"/> 様子はいかがですか？</p> <p><input type="checkbox"/> 勉強以外は、みんなと仲良くなるツール？</p> <p><input type="checkbox"/> 総合の内容は最初から決まっていた？</p> <p><input type="checkbox"/> 成功でしたね</p> <p><input type="checkbox"/> 他の生徒とも仲良し？</p> <p><input type="checkbox"/> そういうことは、3、4年生の子どもによくあること？</p> <p><input type="checkbox"/> それは男の子的なこと？</p> <p><input type="checkbox"/> 文化的な違いではない？</p> <p><input type="checkbox"/> ことばで言っても伝わらないから体で表すということではない？</p> <p><input type="checkbox"/> 去年伺ったときに、先生のことを信頼してじゃれている感じがあったが、ダメなことはし</p>	<p>冬は、対象者はスキーが大好きで、八甲田山も滑れる。</p> <p>スキーが大好き。版画、図工類が大好き。創作、絵を描くことは大好きでやっている。勉強面は、支援員A先生と一緒に、「うつまくん」という勉強を始めたところ。学年相応の3学期の文章だともまだ難しい。学力テストがあったが、諦めがちな感じがある。算数は、授業中は発表することもあるが、テストは苦手。</p> <p>それ以外は、総合の授業で、外国のことを伝えるという活動があり、各自で調べたが、母国のことが話題になったときに、みんなで「さんは？ということ、紹介出来て対象者も紹介出来て嬉しかったと。支援員A先生が、母国の色んな辞典や絵本、立体の地図などを持ってきてくれて、みんなで感動していた。</p> <p>最初から決まっていた。「〇〇のことも活躍させてあげて欲しいと先生(SV)から言われていた。我々にとっても、異文化の交流みたいなものがあればいいなと思っていて、支援員A先生と相談して決めた。</p> <p>まだまだ途中ですが、〇〇も、「今日総合やるの？」と楽しみにしていた。</p> <p>仲良しというか、仲良しになりたくて、程度をわからず、羽目を外しすぎる面がある。私に指導されている。ごんぎつねのごんみいたいな。相手が痛いようなスキンシップをしてしまうので、私は「ごんぎつねのごん」だと命名した。</p> <p>あると思います。が〇〇さんのパワー、羽目の外し方が、嬉しいんだろうが、私とであれば対等にじゃれ合うことができるが。私も本気になって叱るときもある。</p> <p>そうですね。</p> <p>ちょっと、文化とか慣習、しきたりという面もあるのかなという感じもある。</p> <p>とにかく仲良くなりたい、楽しい、というのが。昭和の遊びの仕方だと問題ないだろうが、今の子どもたちだとちょっと心配。バスケットクラブに入っている。バスケット大好きだそう。一生懸命というか、そっちでも多少ふざけているようだが、発散しているみたい。</p> <p>いうこと聞かないという感じではなく、多少、おふざけしてしまうときもあるが、叱ったりするときは、ちょっと皮肉入れるときもあるが、そういうのもわかるみたい。日本語のストレートじゃない表現、逆の表現も、〇〇は理解しつつある。全体として私の言いたいことを分かっているのはわかる。</p> <p>それは良好であるというふうに私も思う。去年、学校に適応できなかつたりとかそういう事</p>

<p>っかり叱って、体で受け止めたり、良好な感じに聞こえる。</p>	<p>例を聞いたが、<span style="background-color: #cccccc;">          </span>は適応してくれているな、周りの子もちゃんと受け止めてくれているなど感じる。</p>
<p><input type="checkbox"/> 算数の授業で先生の板書がすごくわかりやすかった。でもそれは<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さんのためにそうやっているわけではないと仰っていた。特に<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さんを意識してわかりやすいようにということはある？</p>	<p>かつては、助詞について、支援員が作ってくれて、黒板に貼ってみたりして、<span style="background-color: #cccccc;">          </span>パーズオンでやっていたが、今はそれがなくなつてこれている。<span style="background-color: #cccccc;">          </span>に特別というのはないが、<span style="background-color: #cccccc;">          </span>と仲良しの友達たちが、授業への参加で、めあてを読むときに、いつでも手を挙げて、「元気に参加しています」と他の子がよく言うんですが、<span style="background-color: #cccccc;">          </span>はそれを見て、ここで言えば、僕も参加できると思ったのか、仲良しの子が頑張っているのでも自分も頑張ろうと思つたのか、いい意味でまねをしている。まねをしながらやっている感じが受け止められる。そうですね。<span style="background-color: #cccccc;">          </span>が拍手もらっていますね。勉強のときに、図工とかですごいとみんなではめたりしたり。総合の時に、母国のお話とか。去年は文集は、母国語で散文を書いて、日本語を付けてくれた。春は春暁の詩を読んでもくれた。<span style="background-color: #cccccc;">          </span>は母国語を言うことをよしとしないというか、みんなの前では日本語を話したいみたい。</p>
<p><input type="checkbox"/> そういうときに先生は<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さんをほめたりする？</p>	<p>すごーいとなった。まだ支援員 B 先生がいたときに支援員 B 先生も調べてくれた。<span style="background-color: #cccccc;">          </span>という呼び方を好んでいる。感じ方としては、「<span style="background-color: #cccccc;">          </span>」は小ばかにされたときの表情、日本人があだ名で呼ばれた時のような表情に見える。</p>
<p><input type="checkbox"/> 詩を読んだ時の周りの反応は？</p>	<p>「<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さん」の意味を込めて、みんなで「<span style="background-color: #cccccc;">          </span>」と呼んでいる。敬称扱い。それは「さん」が付いていなくても、本人は気にしていない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 最近母国語で話すことは好きじゃない？</p>	<p>全然ない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 先生が「<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さん」で行こうね、と統一させた？</p>	<p>だと思ふ。<span style="background-color: #cccccc;">          </span>に限らず、困っていると、次の授業が始まっているからといって落ち込んでいる子を置いてけぼりにしないで、慰めたりしてあげられる子供たち。</p>
<p><input type="checkbox"/> クラスの決まりをやらないうことで、排除されるようなことはない？</p>	<p>ですね。<span style="background-color: #cccccc;">          </span>が困っているときがあるだろうから、教えたりという場面はたくさんあったと思う。特に最初の頃は。</p>
<p><input type="checkbox"/> 先生が別にしないで、みんなの受け止め方が大丈夫だった？</p>	<p>そこまではまだない。私や教頭先生は恐いらしい。そのわりには、ちやかして寄ってくる。</p>
<p><input type="checkbox"/> 本人から先生に弱音はいたりはある？ 弱みを見せたりはする？</p>	<p>心配とかというよりも、翻訳機を使いながらとか、英語の指導の方に来てもらって、英語で何とかコミュニケーションといっても全然うまくいかなかった。(通訳) という母国の方に来てもらって、1 か月、2 カ月たつてだんだんわかかっていくようになった。そこは、困つたな、伝わらないという場面をすべて (通訳) さんがやってくれたことで、いつの間にか<span style="background-color: #cccccc;">          </span>とコミュニケーションをとれるようになった。</p>
<p><input type="checkbox"/> 学校として、先生と、本人がうまくクラスの一員になれるように意識的に支援することとはありましたか？ 最初の頃、心配はなかった？</p>	<p>はい。連絡も (通訳) さんが入ってくれて、2 カ月に 1 回、3 カ月に 1 回くらい、個人面談もできた。そこに (通訳) さんも入ってくれて。事務的なことから、多少<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さんの直してほしいところも含めて、いいところも含めて、お母さんに伝えることができました。</p>
<p><input type="checkbox"/> それは、保護者との連絡も？</p>	<p>はい。連絡も (通訳) さんが入ってくれて、2 カ月に 1 回、3 カ月に 1 回くらい、個人面談もできた。そこに (通訳) さんも入ってくれて。事務的なことから、多少<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さんの直してほしいところも含めて、いいところも含めて、お母さんに伝えることができました。</p>

<p>□ 保護者の方と話して、文化の違いを感じたことはあった？</p>	<p>あまりない。いまは、お母さんもショートメールの方が翻訳できるので、ショートメールでやってほしいと言うので、ショートメールで連絡している。短い文章になるが、かえって外国人らしいような言葉が出たり、さばさばした文章になる。お母さんは本当は心配なんだけど私に相談できないというところがないかな、というところがちよつと心配。高校進学の講座に■■■■さんは行っていない。その辺の大事な文書とかをフォローしてあげないといけないのかなと思っている。</p>
<p>□ 以前伺ったときに、「取り出しやだ」といったことを言っていたが、最近、勉強の方は？</p> <p>□ 勉強の伸びは感じられている？</p>	<p>体系的なもの、まだ連結していないと思うから、難しいと思う。国語が基礎にあって、国語が少しづつ理解が深まるというのはあると思う。が、算数や理科、社会の一部では、学問としてというよりも楽しいということに付いていけていると思う。</p> <p>感じられます。普段の授業で、はじめは社会と国語が一番難しいだろうから、その時間に取り出しをするのがベストだろうとしていたが、社会は、案内、写真や資料があって楽しい場面がある。■■■■は、最初来たとき、母国の海軍とかが大好きで船の絵を描いたりしていた。警察官や責任のある公務員になりたいという夢を言っていた。そういうふうなことが社会に出てきたときは、取り出しではなく社会の授業に出る。国語でもグループで集まって、演技とか会話をするシーンがあるが、そういうときは僕はこっちに残りたいという感じで、学習の形態や日本語を使いなからやっていくような授業に関してはついていけている。日本語を何も言えていなかった9月から、たった1年ちよつとですごい伸びたように思う。</p>
<p>□ 支援について、大きく言って、どうでしたか？</p> <p>□ これで完成形ではないので、何か今回の支援で漏れがあって、誰に相談すればいいんだろう、みたいなことはあった？</p> <p>□ 日報は共有している？</p> <p>□ 日報を見ても、支援員Bさんが悩んでいる様子はわからなかった？</p> <p>□ 支援員Bさんの時から共有していれば、もしかしたら？</p>	<p>大きく言って、非常に心強かったです。全体的に見て、月に1回のケース会議が、4時前から始まって5時20分とか、いつもそれくらい盛り上がる。先生(SV)もすっかりやりやうで。支援員の方々が一生懸命だった。恵まれた。2人の方がついてくれた。支援員Bさんは一生懸命にやってくれた方だった。良きパートナーだったと思う。支援員のA先生も、一生懸命で、父性という感じでやってくれた。サポート体制は嬉しく、心強いものだった。支援員B先生と最後までやりたかったというのがある。支援員B先生が、自分の指導で抱え込んでしまったのではないかと思う。その辺はわからないが、それを我々もチームとして、一緒に解決していきかけた。私だけでなく、校長教頭の指導のもと、私たちの仲間で■■■■を一緒にやっていたかった。もしも支援員B先生一人でやっていたら、ちよつとまよったかなと思う。共有している。その頃は見せてもらっていなかった。支援員のA先生のは見せてもらっているが、B先生のは見えない。そうですね。先生(SV)も、私たちとの連携が反省。おそらく、支援員B先生は先生(SV)にはいっばい喋っていたのかな、わからなそうです。</p>

<p><input type="checkbox"/> 私も、日本語は教えられないが、学校の中で教えたことがないので、先生にどんなふうに頼ったりしたらいいか、相談したらいいかかわからないが、先生として、日本語支援の方に対してどんなことを聞いたりしたいということはありますか？ 連携を深めるために。</p> <p><input type="checkbox"/> ケース会議の場には支援員は入っている？</p> <p><input type="checkbox"/> もっと支援員に求めることはある？SVにもとめることはある？</p> <p><input type="checkbox"/> 先生としては同じ立場という認識なんですよ？</p>	<p>私もわからないが、立場としては同じスタンス、同じ位置に立ってやってやっていたつもりです。どっちかということではなく、それぞれの役割があって、<input type="checkbox"/> に関わっていくということだと思つたので、「支援員B先生これやってくれますか？」という上からの関係ではない。一緒にやっていくつもりだったから。<input type="checkbox"/> は、いやだとなつたときに、指導が伝わらないとなつたときに、「一緒に叱るべ」という感じにやっていくとか、その辺の会話が反省としてある。</p> <p>入っている。入っているが、そこで<input type="checkbox"/> さんに非があつてどうということではないし、自分が指導力がどうでということを出せる感じではない。難しい。自分でも、学級崩壊していた時に、ケース会議があつたときに、完全に「よろしく願います」となればばいいんだらうが、彼女にもプライドがあるだらうし。このケースに限らず課題としてある。子どもというよりも、私たちのチーム力が大事になる。</p> <p>支援員にはないと思う。私は、一生懸命にやってくれているし。叱るということが、支援員の方々が権限としてあるのかどうかを、ケース会議でもどこでもいいので、はっきりさせないとだめなのかな。<input type="checkbox"/> は叱ることで学ぶので。叱ってもいいんだよと、誰かが支援員の方に教える。支援員の方は叱つたらダメなんですか？支援員の範囲ってあるんですかね？</p> <p>そう。叱らなきゃいけないと思つたら、日本語指導している中で、立場をはっきりさせるために叱らなきゃいけないと思う。家庭教師じゃないので。</p> <p>SVに対しては何もないです。総合センターでお会いして、いつの間にか〇〇小学校が県の何かしらに指定されているとビックリした。</p> <p>お母さんが大学進学を目指しているということであれば、今回の学力テストでもわかるように、<input type="checkbox"/> さんにはこれから高い壁が控えている。高校入試や大学入試。せっかく意欲はあつても、そこで現実の壁を<input type="checkbox"/> も感じ始めているので、そこを誰がどう教えていくんだらうかなということはあると思う。</p>
<p><input type="checkbox"/> ケース会議の長さについてはどうですか？話をまとめてきてから来てほしいということとはある？</p> <p><input type="checkbox"/> 事前に読んでおくものは読んでおいて、話さなきゃいけないことだけ話すといった形？</p> <p><input type="checkbox"/> 月1の頻度は？</p> <p><input type="checkbox"/> 時間は、1回どれくらいがいい？</p> <p><input type="checkbox"/> 事前に資料を読んでおくのも難しい？</p>	<p>長いと思う。物は言いようですね。学校の放課後の時間帯であれば、学校のリズムとしては2つくらいは会議、研修をやる時間なので、1個というのは効率としてもつたいない。中は濃いが、もう少し、早く、コンパクトにできないかなと思う。</p> <p>それも辛い。できれば、確かに、それぞれの担当の方に聞くんだけど、その辺がじっくり過ぎる、もう少し聞き取りを浅くしてもいいんじゃないかと。</p> <p>ちよつどいいと思う。</p> <p>だいたい1時間半かかつていたので、せめて60分くらいに収めるといいのかな。理想は45分。45分は厳しいと思う。</p> <p>メモとかであればできる可能性はあるが、<input type="checkbox"/> のことについて広げると、書きにくい。</p>

	<p>事前の資料というのは、学校側からですね？それは嬉しいと思います。</p> <p>□ 指導計画の書きにくさはない？</p>
<p>□ 日報は読むの大変ではない？</p> <p>□ 共有は大変ということだが、どうすればいい？</p> <p>□ 書き残すのも大事だが、直接のやり取りも大事？</p>	<p>大変。だが、共有した方がいい。</p> <p>今週の計画というところで見せてもらうが、と支援の方が実際何をやっているかが結びつかないことがある。時々図書館に行って見た方が分かりやすい。本校は、終わってから教頭と教務が職員室でちょっとだけの評価をしている。そういうのもいい。が今日やったことを音読したりとか。緊張感を持たせてやっている。国語の教科書を音読したりとか。緊張している。怖い二人だと思って。</p> <p>支援員Bさんの時は、日報はないが、課題とか悩みとか、明日まですることについてコミュニケーションを口頭であった。どっちもどっち。どっちも時間ないので。去年は時間数が多かったもので、給食の時もいてくれた。いまは週2時間ずつ。その辺でも、情報交換の場面の造り方が必要になってくる。</p> <p>そうですね。</p>
<p>□ 保護者との連携支援について、もっとこうしたらいんじゃないかということはある？</p> <p>□ 紙に書いて連絡するのは大事ですね。</p> <p>□ そのときに、母国語版みたいなフォーマットは？</p> <p>□ 今の課題は？</p>	<p>一つ目は、さんの必要なものとか、様子とかを、保護者の方は紙に書くとか、書き言葉、読める言葉の方がいいんだろうなと感じた。電話だとわからない、伝わらないというのがある。さんの家は日本語が上手な方がいる。二つ目は、さんが慣れないでいるときに、お父さん、お母さんが学校に来てくれた。三者面談なんかでも、「さん、友だち欲しくてふざけています」と言ったときに、かしまって受け止めてくれた。</p> <p>その場で母国の方は叱らないのか、わかりましたくらいは反応はない。</p> <p>今、○○○は分散登校。はバスケ部のコロナの関係で、先週まで様子見た。月曜は何もないから登校していいのに来なかった。まだ休みだと思って。連絡行なってなくて、私の方から「学校に出てくるんですよ」と連絡した。今週から分散登校になったが、紙に書いて連絡しなきゃいけない。</p> <p>本場に大事な時は、(通訳)さんに相談して、(通訳)さんから電話をかけてもらうパターン。それが一番早くて確実。いまだと、日本語で良いから、ショートメールで送ってくれると助かるとお母さんは言っていた。</p> <p>学校で促えているのは、進路。お母さん、お父さんの方にも、そこは見据えて学習に向かっていなきゃいけないと話している。お父さん、お母さんもそう願っている。ケース会議の中で出たときに、みんなで気が付いた。幸い、経済的には大丈夫と思われるが、さん、</p>

	<p>母国の大学でいいや、戻るんだというわけではなく、お父さん、お母さんは日本の大学に進ませたいと言っていたので、日本人と同じように高校受験とか、話し言葉ではなくて書き言葉、文章を理解していかなきやいけない。</p> <p>視写するのは、国語の学習で、○学年で大切な学習だと思う。2学期の後半から始めた。前回のケース会議のときに、これをやると決めた。</p> <p>わからないです。一番最初に、明日から ■■■さんが来ますというときに一番「どうしよう」と悩み、どうにもならなかった。○○教育委員会からもサポートに来てくれたが、その方も「どうしよ」という状態。何もできない2日、3日だった。その「どうしよ」を見ていた子どもたちが何とかしてあげようと。■■■の接し方が確立したように思う。「どうしよ」が短い期間で終わってくれたのが助かった。割と早い時間に（通訳）や支援員Bさんが入ってくれたのがありがたかった。アドバイスというより、それぞれの機関が連携が取れたのでそういうふうにスピーディーに動いてもらえたかなと思う。</p> <p>そうですね。</p> <p>最初、■■■に授業を教えななきやいけないと思っていた。二人とも。■■■に、我々がやっている授業をわかしてもらおうという感じでやろうとしていた。焦ってしまっていた。そうですね。最初はこんな感じでもいいんですよ、というのがあるといい。1年生が小学校に入ったときと同じような課題ですね。最初の1週間はこうすればいいのかなとか、20日間でこれとか、1か月でこれとかがあれば、少しこれをやっていけばいいんだというのがあるかもしれない。</p>
<p><input type="checkbox"/> うつしまるくん</p> <p><input type="checkbox"/> 私たちにアドバイスはありますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 行政と大学との連携？</p> <p><input type="checkbox"/> 「どうしよ」とは？</p> <p><input type="checkbox"/> これくらい時間でこれくらいできるといった表があるが、先生方にも見ってもらった方がいい？</p>	

質問	回答
<input type="checkbox"/> 学校で何をしているときが一番楽しい？	体育が好き。
<input type="checkbox"/> 高校の体育で何する？	バドミントン。
<input type="checkbox"/> ○○さんの国では、バドミントンやる？	はい。
<input type="checkbox"/> 母国の学校との違いで、驚いたことや戸惑ったことはある？	答えるのが難しい。
<input type="checkbox"/> 良いびびりがあった？	全部いい。
<input type="checkbox"/> 悪いびびりがあった？	ない
<input type="checkbox"/> 日本の学校は好き？ どういうところが好き？	好きです。
<input type="checkbox"/> どのところが？ 1つ教えて。	わからない。
<input type="checkbox"/> 学校に行きたくないなと思うときはあった？ どういうときにそう思った？	あった。起きるとき。
<input type="checkbox"/> ○○さんの国の学校も朝早い？	早い
<input type="checkbox"/> どんなことでも話せる友達はいる？	
<input type="checkbox"/> 勉強のことや生活のことも含めて、色々と気軽に相談できる先生はいる？	先生に相談する。
<input type="checkbox"/> 高校の先生？	はい
<input type="checkbox"/> 中学校の時も相談した？	はい
<input type="checkbox"/> 学校で、本当はこうしたいのにといいことで、我慢していることは何かあるか？	やりたい
<input type="checkbox"/> どんなこと？	先生になりたい
<input type="checkbox"/> 今は学校でリラックスできてる？	はい。美術が好き。料理が好き。もっと授業があればいい。
<input type="checkbox"/> 母国での生活についても話したりする友達はいる？	話す友達いる。
<input type="checkbox"/> 日本の友達？	はい
<input type="checkbox"/> どんなこと話す？	いろいろ。
<input type="checkbox"/> 例えば？	勉強の話とか。
<input type="checkbox"/> 母国には友達もいる？ みんな元気？	はい
<input type="checkbox"/> 将来こうなりたくないというものはある？ そのために何をどうすればいいか考えている？	先生になりたい。
<input type="checkbox"/> 何の先生？	小学校の先生
<input type="checkbox"/> なぜ？	小学校が好き。



<input type="checkbox"/>	将来の進路、進学についてはどのように考えている？	大学に行くことを考えている。
<input type="checkbox"/>	いろいろなプランはありますか？	ない
<input type="checkbox"/>	いい先生になるために、今から頑張ろうと思うことある？	学校の勉強。特に、国語。母語。今勉強している。本を読んでいる。
<input type="checkbox"/>	将来はどんな計画？	自分の国に帰って大学に入る。入るのは難しい。
<input type="checkbox"/>	どんな勉強するの？	まだわからない
<input type="checkbox"/>	心配？大丈夫？	大丈夫
<input type="checkbox"/>	勉強するのは好きか？	勉強は好き。
<input type="checkbox"/>	特に何？	数学。
<input type="checkbox"/>	嫌いなものは？	家庭科。
<input type="checkbox"/>	勉強はこれからも頑張りたい？ いい勉強の仕方はある？	英語の勉強。毎日勉強する。
<input type="checkbox"/>	一人で計画を立てて勉強できるタイプ？	お父さんに言われなくても勉強できる。長期休業のときも勉強できる。計画立てられる。
<input type="checkbox"/>	失敗しても諦めずに続けることができるタイプ？	また頑張ろうと思える。
<input type="checkbox"/>	友達とかお兄さんとか困ったことはシェアする？	一人で考える。
<input type="checkbox"/>	自分の言いたいことをちゃんと伝える？	はっきり言う。
<input type="checkbox"/>	いつ学校の先生になりたいと決めた？	中学校のとき。
<input type="checkbox"/>	なぜ？ 中学の先生？	
<input type="checkbox"/>	困ったり悩んだりしているとき、他の人に助けを求めることができる？	困るるとは言わない。
<input type="checkbox"/>	得意科目は何？ 苦手科目は何？ 何点くらいとれる？	先生にどうやって相談する？ ちょっとわからないって言って相談する。いまは恥ずかしい。高校は毎日じゃないから。今は週に2回。水曜と日曜。中学校の時は毎日。
<input type="checkbox"/>	先生や支援員からは成績について何か言ってくれているか？	数学好き。中学の時は50点くらい。今は44点。中学のときより難しくなった。
<input type="checkbox"/>	支援員の人は優しい？ 厳しい？	テスト難しいのは、家庭科。4点。
<input type="checkbox"/>	先生は？	言ってくれた。「よかったね。」
<input type="checkbox"/>	誰がどうやって連絡？ 手紙？	支援員の人は、厳しい。
<input type="checkbox"/>	学校とお母さんとの連絡のやり取りはうまくいっていた？ 意思の疎通で何か問題はなかった？	「がんばれ。よかったね。」と言ってくれる。
<input type="checkbox"/>	先生からやってもらったり、言ってもらったりして嬉しかったことは何かある？	スマホ。
<input type="checkbox"/>	先生優しい？	お父さんは日本語が丈夫。
<input type="checkbox"/>	今後、また外国の子が学校に入ってきたら、もっとうしあげるとその子は助かるな、と思うことはある？ 例えば？	ある。
		はい。
		ある。
		「うれしいね」と言ってくれること。



<input type="checkbox"/> 戸惑う事はある？	<p>ない。今はことばが分かるのでない。中学校入るときは心配だった。</p>
<input type="checkbox"/> 国で先生になりたいと思う気持ちに対してお父さんはサポートしている？	<p>自分が頑張ってもらいたい。家では話している。</p>
<input type="checkbox"/> 今後の予定は？	<p>高校卒業したら、<span style="background-color: #cccccc;">          </span>は帰る予定。</p>
<input type="checkbox"/> お父さんから見て <span style="background-color: #cccccc;">○○</span> さんは頑張ってる？	<p>頑張ってる。</p>

質問	回答
<p>□ 学校として、先生として、本人が安心して学校生活を過ごすことができるよう、本人に対して何か支援はされましたか？</p>	<p>とりたててやってみることはない。 日本が安全・安心であることが理解されている。学校にも、普段は電車を通っている。 〇〇の子が学校に来れるのは日本だからという親の理解がある。 単位制通信制の学校なので、選択している科目のスクーリングに出ればいい。 近くのコンビニに行くってWi-Fiにつなげて、時間をつぶしたりしている。 宗教上の問題があるので、毎日の礼拝のための場所は提供している。 体育の授業は、服装（ジャージ）に配慮した。ヒジャブ。</p>
<p>□ 学校として外国につながる生徒は初めての受け入れですか？</p>	<p>3年前が初めて。 〇〇さんのお父さんが中古車販売をしていて、その共同経営者のAさんのお子さん（Bさん？）が初めての受け入れだった。今、高校3年生。ただ、その子は母国に帰ってしまった。 卒業証書は送る予定。 その子の妹Cさんが1年生で入ってきて〇〇さんと同級生。姉妹とも日本語がペラペラ。 Cさんが〇〇さんの支えになっている。Cさんもお姉さんと一緒に母国に帰った。その目的は結婚。許嫁がいた。お姉さんも母国に帰って結婚。 〇〇は引込み思案。中学校2年生から日本の学校に通うようになった。〇〇中学校でもかなりてこずったと聞いている。最初来た時ほとんど日本語話せなかった。支援が入って、徐々に簡単な会話はできるようになった。</p>
<p>□ 3年前の初めて受け入れた経験が役立っている？</p>	<p>Aさんのお子さん（BさんやCさん）は最初から日本語が上手だったので、当時は支援という考えはあまりなかった。〇〇さんのような日本語の支援は初めての経験だった。</p>
<p>□ 本人から先生に何か支援を求めてきたり、わからないことを尋ねてきたりすることはありましたか？</p>	<p>私に質問してきたことはない。引込み思案。私が男ということもあるのだろうか。声をかけないとなかなか歩み寄りようなことはない。</p>
<p>□ 学校、先生の側から積極的に本人に関わろう、関わる必要があるという意識はありましたか？</p>	<p>結構声はかけていた方だと思う。支援の日程は支援員と〇〇等の意向を踏まえて行った。支援日の前日等に、本人及び父親に確認の連絡をしていた。 本人は、最初の頃はやらされ感があった。勉強が好きなき子はなかった。学校の先生になりたいとは言っていた。授業の中でも日本語は理解できていないのではないかと。支援をしてあげようということでもスタートした。</p>

<p><input type="checkbox"/> スクーリングのときに他の生徒と一緒にいる。クラスでワイワイということはない？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人がうまくクラスの<del>一員</del>に<del>なれる</del>ように意識的に支援することを<del>あり</del>ましたか？</p>	<p>いろんな生徒がいるので干渉しあうことはない。ひとりぼつんといふことが多い。一つの個性と捉えて、そういう子たちがどこから来たとか興味まではいかない。ちようどいいのかもしれない。この子たちが日本語を上達させるためには、干渉しあうことが必要だが、それができない。日本語がペラペラだった姉妹は、中学校までにそれができていた。○○はそれができない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 勉強以外に意欲的に取り組んでいることはありましたか？</p>	<p>料理が好きだとは言っているが、学校で何をやっているかというところ、やっていない。中学校でも部活はやっていない。学校にスクーリングで来て、すぐ帰るといふタイプ。</p>
<p><input type="checkbox"/> 科目による、得意不得意の違いはありますか？</p>	<p>一般的に低い。漢字に苦手意識がある。日本語がペラペラの姉妹も漢字は苦手だった。何か取り立てて苦手というものはない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 支援が入って以降、授業での理解の様子等、変化はありましたか？</p>	<p>数学など、解けない問題を別々の時間を使って勉強している。テストの前に支援をしている。彼女はだいぶ助かったのではないかと思う。</p>
<p><input type="checkbox"/> 勉強面について、特に学校として支援を行ったりすることはありましたか？</p>	<p>私は本校に赴任して2年目。外国人への配慮まで追いついていないのが現状。理解できていないのが本校の実態。</p>
<p><input type="checkbox"/> この点について、学校として、先生として、本人に対して何か支援はされましたか？</p>	<p>筑波の研修にも参加したが、テストに配慮したりする、ふりがなふるとか、工夫している学校があることを研修で知ったが、本校ではまだまだ教員の理解にながっていないのが現状。早急に進めていかねければならない。支援していかねばならないという共通認識ができていないかというまぐ支援にながらない。</p> <p>月に2、3回の支援なので、本格的な支援まで行けたかどうか。教員側の支援体制を充実させる必要がある。</p>
<p><input type="checkbox"/> 他のクラスメートに文化的背景の違い等を理解してもらうために、何か取り組み組んだことはありますか？</p>	
<p><input type="checkbox"/> 本人や保護者の文化的背景の違いによって、学校として、先生として苦労したことは何かありますか？</p>	<p>配慮について苦労したことはない。</p> <p>礼拝も、場所だけ提供しただけ。授業を邪魔したことはない。</p> <p>○○中学校でも、場所を提供してやっていたという。○○中学校からこっちにきても同様にした。Aさん家のお姉さんがいたのも大きかった。</p> <p>通信制高校のシステムを十分理解でいないまま不本意で辞めていく子がいたので、私は受け入れが決まってから○○中学校を訪問した。○○中学校と悩みの共有をした。有意義だった。こうした子たちの実態をちゃんと理解しないといけない。寄り添うことが大事。卒業するだけがこの子たちの目的ではない。</p>

	<p>実態については、居住国がもともと把握していた母国じゃなくて別の国だったとかいうことが、調べないとわからない。Cさんも同じくももとの母国で国籍変えて別の国になった。</p> <p>〇〇は国籍がこちらで把握していた母国のままのため、居住国に帰れないでいる。〇〇は12月に帰ると言っていたが、居住国でビザがとれないので帰れない。</p> <p>私としては高校を卒業させてあげたい。ただ、彼らにはそういう強い思いが感じられない。女性には教育が必要ないという考えがある。12月に帰るつもりだったときも、居住国に帰るとテストを受けられないので進級できないよと言うと「それでいい」という返事。何のために帰るかという、祖父母に会いに行くという目的だけ。</p> <p>お父さんは14、15年日本にいてるので、女子教育に理解がある。</p> <p>Cも、1月4日に急に「明日母国に帰ります」と言い出した。お父さんが先に帰ってしまったので、通信制大学に通っているお兄さんに来てもらい、退学願いを出してもらった。日本人の感覚ではない。なので、年間を通した計画は立てづらい。</p> <p>2年生に何とか上がれるが、来年度もいるかどうかかわからない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 保護者との連絡のやり取りなどは、うまくいっていませんか？</p>	<p>お父さんとのやり取りは問題ない。電話連絡をしている。</p> <p>担任には、1回電話をかけただけでは理解しているかわからないので、前の日や直前に繰り返しかけてくれるようお願いしている。今日も来るか来ないか不安だった。</p> <p>支援の日もドタキャンがあった。無連絡も最初あった。しかし、徐々に日本の文化について理解を促し、断りの連絡があるようになった。成長できた。</p> <p>お父さんとの関係も良好である。</p>
<p><input type="checkbox"/> 本人への教育指導や保護者とのやり取りで学校として困ったことがあった場合は、どこに支援を求めていましたか？</p>	
<p><input type="checkbox"/> 支援員を配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？</p>	<p>私たちも支援の日は、スクーリングのない日を設定した。スクーリングの日に支援となると時間が過密になる。別日に出てくるのは、中学校がある地域から出てくるので大変だった。教科指導をしてもらっている。</p> <p>メリットしかない。支援員に本音で学校の状況を伝えしながら、共通理解を図っている。本音で話をしてきたつもり。支援員といい関係ができてきている。共有しながらできていたので、よかった。</p> <p>本人の日本語は上達してきた。勉強しようという姿勢が見えてきた。</p> <p>お父さんの仕事のために連れてこられて学校に通わされている。ある意味で被害者。支援員のスキルや、ボケトークなどを使って支援を行っている。</p> <p>Cがいてくれたのが大きい。</p> <p>成長できてくると、またこういうことができるのではないかとという見方ができてくるだろう。</p>

	感謝しない。 ○○中学校に訪問した時、支援員も同行してもらった。
□ スーパーバイザーを配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？	吉田先生がSV。様々な部分でこの事業を成立するための支えになった。去年は定時制に中国人がいた。そこから支援がスタートしたが、途中で帰国し、とん挫した。通信制に○○が来るといふことで、この事業を使ったらいいのではないかと、吉田先生を紹介いただいた。非常に存在が大きかった。
□ ケース会議を実施してきましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？	よかったと思う。授業の雰囲気はわからないが、同じ1年生の別クラスの先生がケース会議の場で授業の様子などを伝えていた。指導している先生の話は説得力がある。課題が見えてきて、手立てが見えてきた。頻度は1回だけだった。もう1回くらいあってもよかった。時間は1、2時間くらいよかった。
□ 支援の体制について、もっとこうした方が学校としてやりやすいといったことがあれば教えてください。	筑波の研修では、地域や自治体が日本語の指導をするための塾を作ったり、午前は塾に行つて、午後は学校に行くといった事例を学んだ。青森ではそういうことはできない。そういう形ができればいいと思う。本校の校長も言っているが、大学との連携がもつとできれば、この地域でも活発にできればいい。現時点では、支援員の国際交流くらいしか連携ができない。地域でそうした機関が存在感をもってわかりやすいようになれば、連携がしやすくなる。中学校のある地域から来るときも、何も詳しい情報はなかった。ネットワークが必要である。校長が外国人支援について県教委に相談した。その後、ポテトーク2台の供与があり、支援に活用した。
□ 支援員によるサポートの申し送りについて、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかと、意見があれば教えてください。	最初のイメージでは、日本語指導がメインになると思っていて、レポート課題やスクーリング、テスト、といったシステムがあって、悠長に日本語指導だけをしてもらえない。支援員は、レポート課題の指導とか大変そうだった。教科指導一辺倒になっていた。教科指導と日本語指導、二通りの指導ができればいい。2時間～2時間半を支援の時間に設定するが、彼女らも電車の時間もある。
□ スーパーバイザーによる専門的助言について、学校としてどのような受け止めでしょうか？	吉田先生に来てもらって研修もやろうと思っていて、が、コロナでできなかった。効果検証もどうなるかわからないと相談させてもらっていた。2月以降、登校日がないので1月で支援は打切った。本人は支援はいらないと言っている。吉田先生はあった方がいいんじゃないかと助言をいただいている。2年に上がってからまた検討する。

<p>□ 個別の教育支援計画・指導計画の作成について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p>支援員と連携しながら作った。支援員からたたき台を作ってもらった。このような計画は、外国につながる子どもについては初めて作った。大きな問題はない。こうしたものがあることで次につなげることができ。いつまでいるかわからないし、担任も変わる。こういうものがなければ、実態を調べようもしない。不足する項目はなかったと思う。</p> <p>ただ、事業の立ち上げを教頭の私が行った。担任が本来すればいいのだから。</p>
<p>□ 日報の作成と共有について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p>日報は見たことない。やっているとというのは聞いたことはあるが。</p>
<p>□ 見せてもらった方がよかったですか？</p> <p>□ 保護者との連携支援について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p>見せてもらうものとは思っていません。共有した方がよいだろうと思う。</p> <p>お父さんとは良好な関係ができつつある。日本の理解がある。</p> <p>お母さんはまったく出てこないのが気になる。母国の文化圏は男社会なのでお父さんの言うことは絶対。</p> <p>お父さんの中古車会社では日本人も使っている。〇〇中学校のすぐ近くに会社がある。</p>



質問	回答
<input type="checkbox"/> 学校で何をしているときが一番楽しい？	体育館でみんなと一緒に遊ぶ
<input type="checkbox"/> 母国の学校との違いで、驚いたことや戸惑ったことはある？	授業が始まる時、早く準備をして、自習の時間でもちゃんと座っていて、母国より厳しい
<input type="checkbox"/> 学校は好き？ どういうところが好き？	最初はそうでもなかったが、今は好き
<input type="checkbox"/> 学校に行きたくないなと思うときはあった？ どういうときにそう思った？	今はあまり行きたくないということはない
<input type="checkbox"/> どんなことでも話せる友達はある？	いる。テストのことや、友達のこと
<input type="checkbox"/> 勉強のことや生活のことも含めて、色々と気軽に相談できる先生はいる？	「その漢字は何ですか？」「フリガナは？」など、気軽に相談できる。
<input type="checkbox"/> 学校で、本当はこうしたいのにということや、我慢していることは何かあるか？	授業のとき、答えたいが、日本語での伝え方が分からず、遠慮してしまうもおしゃべりしたい。発言もしたい。
<input type="checkbox"/> 母国での生活についても話したりする友達はある？	母国のことを聞いてくれる友達はある。母国の旅行の場所、レストランのこと、歴史のこと、タクシーのことなど
<input type="checkbox"/> 将来こうなりたくないものものはある？ そのために何をどうすればいいか考えている？	高校進学の際はあまり考えていない
<input type="checkbox"/> 将来の進路、進学についてはどのように考えている？	日本の高校に進学したい。大学までは考えていない。
<input type="checkbox"/> 勉強するのは好きか？	そんなに好きではない
<input type="checkbox"/> 勉強はこれからも頑張りたい？	頑張らなきゃいけないとは思っている
<input type="checkbox"/> 一人で計画を立てて勉強できるタイプ？	お父さんと一緒に勉強することもある
<input type="checkbox"/> 失敗しても諦めずに続けることができるタイプ？	そうです
<input type="checkbox"/> 自分の言いたいことをちゃんと言える？	そうです
<input type="checkbox"/> 困ったり悩んだりしているとき、他の人に助けを求められることができる？	母に頼る、友達や先生にはあまり・・・
<input type="checkbox"/> 得意科目は何？ 苦手科目は何？ 何点くらいとれる？	理科は得意、数学はあまり好きではない、実験による発見や歴史の話が好き、社会は苦手、歴史も。社会は20点、理科は30～40点、
<input type="checkbox"/> 先生や支援員からは成績について何か言ってくれているか？	漢字の読み方や正しい書き方を教えてくれる、テストの点数を見て、温かくアドバイスをくれる
<input type="checkbox"/> 学校とお母さんとの連絡のやり取りはうまくいっているか？ 意思の疎通で何か問題はなかったか？	電話でやり取りしている。難しいことは伝わりづらい。簡単なことは伝わる。大きな問題は無い
<input type="checkbox"/> 先生からやってもらったり、言ってもらったりして嬉しかったことは何かある？	フリガナを教えてくれる、読み方も教えてくれる、意味がわからない時にも教えてくれる

<input type="checkbox"/> 今後、また外国の子が学校に入ってきたら、もっとこうしてあげるとその子は助かるな、と思うことはある？	準備が必要なものを教えてくれたこと、「明日は弁当持ってくる」など手を挙げると先生が来てくれるけど、その途中で行ってしまふ。そのあと忘れて、来ないもつと気にかけてほしい。 分らないことがあったら先生に聞く、先生に聞けなかったら友達に聞く ない
<input type="checkbox"/> 他のクラスメートに、あなたの文化的背景について理解してもらいたいと思ったことはある？	ない
<input type="checkbox"/> あなたの文化的背景について理解しようとしてくれる友達はいるか？	母国のことを聞いてくれる友達はいる。
<input type="checkbox"/> 学校は、あなたの文化的背景を理解しようとしたり、他のクラスメートの理解を促そうとしたりした？	授業で母国のこと、行事のことなどを英語の時間に取り上げてくれた。 社会の授業でもとりあげてくれた。みんなの前で説明した。
<input type="checkbox"/> 支援員はあなたにどんな支援をしてくれた？	日本語について。日本語のトレーニング。教科の勉強も。日本語を母語に変えてくれた
<input type="checkbox"/> 支援員のサポートで、嬉しかったこと、ありがたかったことは何かある？	困ったとき。家が忙しかった時、家のこともしながら試験もするのが大変だった。家業の手伝い、部活も大変で、母の支援もがなかなか得られなかったとき、支援員に時間の管理の仕方など教えてもらって嬉しかった。
<input type="checkbox"/> その他の支援者での日本語の勉強は楽しい？ どんな支援をしてくれた？ ためになった？	楽しくない、

多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究 聞き取り調査 質問項目 (教員)

U 中学校

日時 2022年2月14日15時30分～16時30分

質問	回答
<input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人が安心して学校生活を過ごすことができるよう、本人に対して何か支援はされましたか？	困りそうなおことについて、声掛けするなど。
<input type="checkbox"/> 本人から先生に何か支援を求めてきたり、わからないことを尋ねてきたりすることはありましたか？	困ったことはよく聞いてくる。君の質問も、読み方がどうか質問の中心、内容のことまではいかない
<input type="checkbox"/> 学校、先生の側から積極的に本人に関わろう、関わる必要があるという意識はありましたか？	机間支援を含めて必要に応じてかかわっている
<input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人がうまくクラスの一員になれるように意識的に支援することはありましたか？	担任として個別に支援することはあった。
<input type="checkbox"/> 勉強以外に意欲的に取り組んでいることはありましたか？	部活、家業の手伝い
<input type="checkbox"/> 科目による、得意不得意の違いはありますか？	数学はどちらかというと得意な方
<input type="checkbox"/> 支援が入って以降、授業での理解の様子等、変化はありましたか？	支援により効果があったというよりは、母語支援員がこの支援をしてくださっているから、頑張れている。もし支援がなかったら、学校独自では困難。
<input type="checkbox"/> 勉強面について、特に学校として支援を行ったりすることはありましたか？	ルビを振る。しかしルビを振っても読めるようにはなるが、意味を捉えているかどうかはまた別。 君のために3割ぐらの分量に問題を抽出してテストをやらせているが、それでも3割くらいしかできない
<input type="checkbox"/> この点について、学校として、先生として、本人に対して何か支援はされましたか？	少なくとも今年度はない。
<input type="checkbox"/> 他のクラスメートに文化的背景の違い等を理解してもらったために、何か取り組みただことはありますか？	少ない
<input type="checkbox"/> 本人や保護者の文化的背景の違いによって、学校として、先生として苦労したことは何かありますか？	ない
<input type="checkbox"/> 保護者との連絡のやり取りなどは、うまくいっていませんか？	基本的に父と連絡をする分には問題ない。母には三者面談に来てもらったくらい。母は日本語が難しいのでその時も母語支援員さんに入ってもらった。
<input type="checkbox"/> 本人への教育指導や保護者とのやり取りで学校として困ったことがあった場合は、どこに支援を求めていますか？	困ったことがあると、スーパーバイザーに相談する。
<input type="checkbox"/> 支援員を配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてあり	申し訳ないが、支援員さんに頼りきりになっている。

ましたか？	もし無かったら、と考えると・・・。学校としては助かっている。 支援員は情報を共有しようという姿勢
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？	日程調整を含め、コーディネーター的な役割をしてくださるので、とても助かる。
<input type="checkbox"/> ケース会議を実施してきましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？	年2回くらい。頻度もそのくらいでよい。変化も大きいわけではない。 1回の会議は2時間くらい。
<input type="checkbox"/> 支援の体制について、もったことうした方が学校としてやりやすいといったことがあれば教えてください。	読んでも意味が分からないとか、日常の日本語を使いこなせるということが必要だと思う。 それができると学習にも生かされる。今の日本語支援も教科理解のサポートになっているのではないか。 学級の授業を受けてもらうため、支援の時間設定は放課後に行うこと、母語支援など、今の支援の形はとてよい。
<input type="checkbox"/> 支援員によるサポートの申しについて、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。	教科の補充をしていただいていることには頭が下がる思い。支援が終わった後も教科担任と積極的に打合せしている。
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーによる専門的助言について、学校としてどのような受け止めでしょうか？	ケース会議の際の見通しをもったアドバイスはその通りだと感じた。
<input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画・指導計画の作成について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。	作りにくいか、足りない項目などは特はない。
<input type="checkbox"/> 日報の作成と共有について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。	日報の存在は知らなかった。それに各情報を私たちにいろいろ聞いて得ていたのではないか。 日報がどういいうものかわからないので、何とも言えないが、じっくり見る時間はないかもしれない。口頭でのやり取りでも機能している。
<input type="checkbox"/> 保護者との連携支援について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。	これからの進路を考えると母の理解も必要。三者面談等で
その他	
<input type="checkbox"/>	「求めなさい」「書きなさい」などテストの問題の指示の意味がよくわかっていない。 「光合成」「蒸散」など、教科の用語がわかりづらい。
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	進路について、県立高校の入試問題について、県教委が何か配慮をしてくれるかというとしてくれない。すると、これからはルビを減らしたり、問題数を減らすことをなくしたりしなければならぬのではないか。
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	言葉を獲得するのも時間がかかる

□

細かい部分のコミュニケーションが難しい。教室でみんなとワイワイという感じには見えな  
い。

家業の手伝いが大変。

三年生になったとき、進路指導、受験指導はどうしていったらよいか。

質問	回答
<input type="checkbox"/> 学校で何をしているときが一番楽しい？	楽しい。こま遊びが一番楽しい。友達と遊んで。いつでも。友達はたくさんいる。
<input type="checkbox"/> 母国の学校との違いで、驚いたことや戸惑ったことはある？ びっくりしたことある？	ある。プリントとかテストとか。プリント多い。
<input type="checkbox"/> 毎日やれている？	やれている。
<input type="checkbox"/> 勉強のことや生活のことも含めて、色々と気軽に相談できる先生はいる？	困ったことがあったら支援員A先生に相談する。
<input type="checkbox"/> 母国での生活についても話したりする友達はある？	文章の問題がわからないうちは考えようになっている。先生には聞かない。
<input type="checkbox"/> どのようなこととおしゃべりしてる？	日本語で友達とおしゃべりできる。
<input type="checkbox"/> 母国のこと教えてあげる？	わかんない
<input type="checkbox"/> 例えば？	わかんない。忘れた。
<input type="checkbox"/> 友達は母国のこと聞いたりする？	忘れた。
<input type="checkbox"/> 勉強するのは好きか？	母国のことを聞かれることはない。
<input type="checkbox"/> 何が面白い？	算数が好き。
<input type="checkbox"/> 文章難しい？	計算が好き。
<input type="checkbox"/> 難しいときどうするの？	難しい。
<input type="checkbox"/> 得意科目は何？ 何点くらいとれる？	わかんない。
<input type="checkbox"/> 苦手科目は何？	100点じゃないかも。
<input type="checkbox"/> 支援員の先生は誰？	全部好き。
<input type="checkbox"/> 支援員の先生と毎日勉強している？	A先生
<input type="checkbox"/> 支援員の先生と一緒に勉強して楽しい？	毎日している。
<input type="checkbox"/> 支援員の先生は優しい？	楽しい
<input type="checkbox"/> 日本語上手になった？	ちょっと怖い
<input type="checkbox"/> どんな勉強している？	うん
<input type="checkbox"/> 日本語の勉強はどうやってうまくいった？	道徳の時間、一人で勉強している。勉強好き。
<input type="checkbox"/> 支援員からは何か言ってくれているか？ どんなことを？	わかんない。
<input type="checkbox"/> 先生からは何か言ってくれているか？	ある。忘れた
<input type="checkbox"/> 日本の学校のいいところある？	わかんない

<input type="checkbox"/> 支援員A先生と本読む？ <input type="checkbox"/> 楽しい？ <input type="checkbox"/> 踊ったりする？ <input type="checkbox"/> 歌は？ <input type="checkbox"/> 本を読むのがいい？	読む。 楽しい しない 歌わない うん
---	---------------------------------

多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究 聞き取り調査 質問項目 (教員)

W小学校

日時 2022年2月15日15時00分～16時30分

質問	回答
<p><input type="checkbox"/> 安心して通っている感じ？</p>	<p>お母さんが一生懸命。W小学校に慣れて頑張らせたというのが伝わる。協力的で助かる。</p>
<p><input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人が安心して学校生活を過ごすことができよう、本人に対して何か支援はされましたか？</p>	<p>支援員A先生をはじめ周辺の協力があるので安心している。素直で元気なお子さん。担任の先生のサポートしながらやっているの、支えがあるので、本人の良さがのびのびとできている。</p>
<p><input type="checkbox"/> 受け入れは初めて？</p>	<p>初めて。</p>
<p><input type="checkbox"/> 学校として、支援は採用するほかに、学校として受け入れて工夫した点はある？</p>	<p>2月に [ ] さんが来ることがわかり、バタバタした。何をどうして体制を整えればよいかわからなかった。4月は困っていた。大学の学生を派遣頂いて、何とかできた。独力で工夫はない。サポートしてもらった。</p>
<p><input type="checkbox"/> 他のクラスメートに文化的背景の違い等を理解してもらうために、何か取り組みなどはありますか？</p>	<p>2月に〇〇支援員A先生や先生(SV)を中心に、母国の異文化を理解するのに、計画していたが、コロナで延期になっている。 教職員の意識づけとして、夏休みに研修会を開いてもらった。テーマはUD。参考になることがあり、若い先生も勉強になったという意見が多かった。</p>
<p><input type="checkbox"/> 困ったことはありませんか？</p>	<p>困ったことはない。思ったほど。低学年なので、保護者とも連絡が本来難しいが、お母さんの努力によってうまくいった。 [ ] さんが周りの友達とのコミュニケーションに積極的なので、教師が困ったことはない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 本人に困った感じは見られなかった？</p>	<p>教頭の方からは、そういう困り感にはわからなかった。ただ、支援員の先生からの話では、1学期の七夕の願い事に、母国に帰りたいというのがあるのがあって胸が苦しくなった。</p>
<p><input type="checkbox"/> 最初から元気だった？</p>	<p>わりとひょうひょうと。初めて来たときもニコニコ、たくさん話してくれた。</p>
<p><input type="checkbox"/> 保護者との連絡のやり取りなどは、うまくいっていませんか？</p>	<p>お母さんはぐんぐん日本語が上手になっていった。努力したのだと思う。 詳しい話になると電話では伝わらないが、大体のところは伝わる。 保護者との連絡は問題なくいっている。最近ではコロナで分散登校をしていて複雑なはずだが、それをお母さんに連絡しなくてもお母さんがいろいろと誰かに聞いて理解しているのだと思</p>



	う。
<input type="checkbox"/> 本人への教育指導や保護者とのやり取りで学校として困ったことがあった場合は、どこに支援を求めていますか？	ずっと先生 (SV) が中心になって、困ったことがあったら先生 (SV) を通してサポートを受けてきた。先生 (SV) が相談の窓口になってくださった。
<input type="checkbox"/> 支援員を配置させて頂きましたが、どのようなメリット (デメリット) が学校としてありましたか？	メリットしかなかった。本当にありがたいのが 100%です。ちゃんと学校のいろんな活動に合わせてくれて、無理なくやってくれたのがありがたかった。取り出しの日本語の勉強も、教材を使ってくれて、工夫してやってくれた。
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置させて頂きましたが、どのようなメリット (デメリット) が学校としてありましたか？	SVは大事なことだと思います。毎日支援員 A 先生や支援員 B さんと会うので、その都度話はするが、取り組みとかも、先生 (SV) がいろんな体制づくりをしてくれたので、助かった。
<input type="checkbox"/> ケース会議を実施してきましたが、どのようなメリット (デメリット) が学校としてありましたか？	毎日教員は忙しくしているので、支援員 A 先生や支援員 B さんと話できないときもあった。ケース会議をやることで、皆で共通理解を図ることができている。みんなで方向性を決められたので、有効だった。時間をとるのがなかなか厳しかったのが正直あった。リモート使ってやってくれたのでよかった。
<input type="checkbox"/> 改善点は？	時間を短くというのは難しい。コンパクトにしてくれたが、持続可能なのは、学校は時間を短く、コンパクトにやる必要がある。
<input type="checkbox"/> 支援の体制について、もっとうした方が学校としてやりやすいといったことがあれば教えてください。	初めてのことであったので、色々教えてもらってできた。改善点までは思い浮かばないが、反省として、この事業の全体像がいまいちわかっていなかった。ケース会議ではない会議 (協議会?) で誰がどんな形で出ていけばいいのかわからないところがあった。
<input type="checkbox"/> 今後もし外国につながる子が来たら？	今回学べたことがあった。ただ支援すればいいわけではない。タイミングが大事。先々のことを考えた支援を考えないといけない。
<input type="checkbox"/> 支援員によるサポートの申し送りについて、学校としてどのような受け止めでしょうか？	青森には外国につながる児童がいっぱいいるわけじゃないが、学校に教職員が多文化共生の意識が広がるのが大事。この事業は続けてほしい。
<input type="checkbox"/> 支援員によるサポートの申し送りについて、学校としてどのような受け止めでしょうか？	低学年なので、やれるところからやっていこうという方針だった。道徳の時間を使って取り出しで支援を行った。とっかかりとしてそれでよかったと思う。多文化共生という考えを学校で広める上で〇〇先生 (SV) からアドバイスもらったのはありがたかった。
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーによる専門的助言について、学校としてどのような受け止めでしょうか？	教育という部分では共通するところがあって、子どもにもこうなってほしいというのはあるが、本人のニーズ、保護者のニーズとすり合わせてやる必要がある。そこは、先生 (SV) はうまくみんなの納得を求めていこうとしてくれた。コーディネーター役もやってくれた。決して押し付けるのではなく、うちの学校に寄り添ってくれた。
<input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画・指導計画の作成について、学校としてどのような受け止めでしょうか？	学校は綱渡りであり、書類は大事だが、できるだけシンプルにしてい

<p>か？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> これだけが必要、これはいらない、といったものはある？</p>	<p>くと非常に学校としても見やすく、作りやすく、使いやすいと思う。</p> <p>今すぐ何とかということはないが、特別支援でも作っているが、ゴールははっきりさせているが、これを作って終わってしまうと意味がない。書き足したり、随時使っていただけるものがおすすめです。</p>
<p><input type="checkbox"/> 日報の作成と共有について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 共有した方がいい？</p> <p><input type="checkbox"/> 共有の仕方はメールの方がよいか、直接お渡しする方がよいか？</p>	<p>教頭は見えない。</p> <p>そうですね。長くていいので、1週間まとめてでもいいので。教頭が忙しそうにしているので、遠慮なさっていたのかも。</p> <p>直接の方がよい。ぱっと見れてよい。</p>
<p><input type="checkbox"/> 保護者との連携支援について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> お母さんの教育方針が明確だった？</p>	<p>ケース会議に保護者も来てもらった。</p> <p>改善点というよりは、色々と学ばせてもらった。以前は、その子の支援のほすなのに、周りの先生たちが勝手に会議して決めていた。これからは当事者、保護者を入れてのケース会議が必要になってくる。今回入れてケース会議を設定してもらって、勉強になった。</p> <p>本人のニーズ、保護者のニーズを直接聞けるのは大事なこと。</p> <p>日本で勉強をさせたい。日本の文化も理解してくれている。</p> <p>一方的な注文もなく、協力的。スキーマも応援してくれた。</p>

質問	回答
<p><input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人が安心して学校生活を過ごすことができるよう、本人に対して何か支援はされましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 言葉を交わさなくても？</p> <p><input type="checkbox"/> 2月に入っていたときは、ほとんど日本語はできなかった？</p> <p><input type="checkbox"/> 周りの子どもたちは受け入れていた？</p> <p><input type="checkbox"/> 周りの子どもからのからかいのようなものはなかった？</p> <p><input type="checkbox"/> 本人から先生に何か支援を求めてきたり、わからないことを尋ねてきたりすることはありましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 学校、先生の側から積極的に本人に関わろう、関わる必要があるという意識はありましたか？</p>	<p>低学年なので、他の子どもと同じくまっさらの状態。とにかく楽しさを大事にした。春の時点で言語に難はあったが、子どもたちが言葉交わさなくても仲良くできるように声をかけたり、周りの子どもにも声掛けをした。</p> <p>ただ、コロナで4月にお休みになったり、友達と密にならないようにということもあり、小さい子に特有のくっついての交流がなかったのはあった。</p> <p>ただ、<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さんはニコニコしている子。片言で喋ることは最初からあったが、大丈夫だろうと思っていた。</p> <p>ジェスチャーとかOKサインとか使ってコミュニケーションを行った。先生がやるので周りの子どももそれを真似てやっていた。</p> <p>私は4月に初めて出会った。その時は、校長室で大人がいてかまっていた状態だったが、本人はニコニコして、片言で話していた。</p> <p>みんな色んな幼稚園から来ているので互いに知らない関係からスタート。みんな同じ条件で学級づくりに入る事ができた。</p> <p>なかった。<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さんが廊下に出て走ったり、大きな声を出したりしていたときは、「<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さんが走っている！」と先生に報告しに来るようなことはあったが。教師の目からは、<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さんの<span style="background-color: #cccccc;">          </span>人は取り出すことはなかった。みんな同じだなという感じ。</p> <p>ほぼなかった。午前中ずっと支援が入っていた。すべて面倒見てもらった。</p> <p>私(担任)は、すべての子どもを見ながら<span style="background-color: #cccccc;">          </span>さんを見ていた。その都度私のもとに言いにくことはなかった。</p> <p>整理整頓が苦手。使ったものを片付けるのが身についていない。ただ日本人の子にもそういう子はいるので、その中の一人。</p>

<p><input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人がうまくクラスの一員になれるように意識的に支援することはありましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 支援員の入り込みは邪魔ではなかった？</p> <p><input type="checkbox"/> 勉強以外に意欲的に取り組んでいることはありましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 科目による、得意不得意の違いはありますか？</p>	<p>溶け込めてないということを感じられなかった。もしかするとあったのかもしれないが、なんとなくうまくニコニコしてやってくれていた。登校渋りにつながることはなかった。すごく優しいお子さんなので、困っている子にも声をかけたりしている。周りの子もコウシンさんのことは大好きだと思う。</p> <p>支援員 A 先生が工夫してくれたり、鍵盤ハーモニカの練習の時に手袋を用意してくれたり。私が他の子に気を取られている間に支援をしてくれた。</p> <p>邪魔にはならない。すごく助かった。他の子で手が回らないときも、周りの子たちに声をかけてくれたり、すごく助かった。支援員 A 先生も一員になっていた。</p> <p>宿題もちゃんとやってくる。成績もいい方。100 点も多い。文章題ちゃんと読み取れれば、100 点とれる。国語も勉強したことであれば 100 点とれる。</p> <p>先生の目からみても算数は得意科目。計算は他の子とライバル心をもってやっている。</p> <p>苦手科目は、最初の頃、音楽に合わせて体を動かすとかはやらなかつた。表現、踊ることは恥ずかしいのかもしれない。今もあまり大きい動きでやるというのはない。運動面でも、本校では毎日マラソンをすることになっていて、校庭を 2 周するが、走るのが最初嫌いだった。ちょっととたら歩いてきた。2 学期はだんだん走れるようになった。縄跳びも一生懸命練習して少しずつできていく。</p> <p>仲の良い友達も 2、3 人いる。放課後児童館にも、2 学期の途中から行き始めた。友達の影響も大きい。悪いことをすることも含めて。</p>
<p><input type="checkbox"/> 支援が入って以降、授業での理解の様子等、変化はありましたか？</p>	<p>入り込み、取り出しを行っている。</p> <p>当初、道徳の時間を一緒にやっていた。ただ、道徳の時間は先生の話から始まる。■さんは長い文章がわからない。“気持ち”も難しかったらしい。なので、道徳の時間に取り出しを行い、道徳の内容の勉強してもらった。あいさつの勉強するとき、違う教材を用意して、同じ勉強をしていく。■さんに合わせて、道徳的なところをやってもらった。</p> <p>道徳の時間では先生の説明が多く、また子どもからも意見を聞いたりする。そういうのが■さんは理解できていなかったときだったので、道徳で国語の言葉の勉強も併せて取り出しをしてもらってプラスになったのだと思う。</p> <p>“気持ち”をなかなかわからなかったらしい。感想を聞くというのがわからなかったらしい。何をどう言えればいいのか。そういうところも含めての取り出しをしてもらった。</p>
<p><input type="checkbox"/> 他のクラスメートに文化的背景の違い等を理解してもらうために、何か取り組みなどはありますか？</p>	<p>そういう余裕もなく、言葉もわからない。学校の仕組みもわからない。そこからスタート。ただ、数字だったら、聞いたりするが、当時は恥ずかしい感じがあった。ニコニコしながら答えないこともあった。「母国にもこういうこととするのかな？」と聞くと、伝わっていないのか、</p>

	<p>恥ずかしくして言えないのか。</p> <p>「■■■■さんは、母国ではどうだった？」と聞く機会は何回かあった。コロナで計画していた異文化理解は、■■■■の内容を用意していた。全校にはそうした取り組みを広めることはできなかった。国語の時間で図書室に行く時があったので、支援員A先生の説明と■■■■について■■■■さんに説明してもらった。■■■■さんは、最近母国のことも話せるようになった。</p> <p>周りの子も母国語について興味をもった。「■■■■さんすごい。」といったリアクション。文化的に困ったことはなかった。</p>
<input type="checkbox"/> 本人や保護者の文化的背景の違いによって、学校として、先生として苦労したことは何かありますか？	<p>全く日本語がわからないことはなく、理解して下さる事ができていた。</p> <p>例えば、1年生の最初の頃は保護者が途中で迎えに来て、■■■■さんのお母さん、お父さんは最初から門まで迎えに来ていた。そこでお会いして話をした。伝えたいことを言葉で伝えていた。理解してくれている様子だった。連絡帳での連絡も、電話による問い合わせもなかった。連絡帳に、支援員A先生がわかりやすいようにメモを挟んでくれた。やり取りは何もわからないことはなかった。困ることもなかった。</p>
<input type="checkbox"/> 保護者との連絡のやり取りなどは、うまくいっていませんか？	
<input type="checkbox"/> 本人への教育指導や保護者とのやり取りで学校として困ったことがあった場合は、どこに支援を求めましたか？	
<input type="checkbox"/> 支援員を配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？	<p>デメリットはない。ただ、私の方で迷惑をかけた。日々いろんな行事があり、事前に支援員A先生さんに伝えなければならぬ。「今週はこれがある」というのを伝えるのが遅くなった。今、スキーをやっている。支援員A先生にも準備をさせていただいて、外と一緒に出てもらっている。もっと前に伝えておくべきことなのに、直前にお伝えした。学年便りを渡せばよかったと反省している。</p> <p>支援員Aさんとは毎日のように顔を合わせていた。支援員Bさんが週に2回、水・金・支援員A先生が月・火・木の交代制だった。今はしばらく支援員A先生が一人で担当している。</p>
<input type="checkbox"/> 連絡のやり方は、直接の方がいい？	<p>学年日よりどこまでやり取りをしてきたので、それを伝えただけの方が、支援もしやすいだろう。ただ今、紙媒体ではなく、保護者にはメールを使って配信している。徐々にお試いで。支援員もそのメッセージングリストに入るか、紙媒体でわたすか。</p>
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？	<p>直接やり取りをすることははない。私（担任）から教頭、そこから先生（SV）に話に行く。話を聞いていると、なるほどと勉強になった。</p>
<input type="checkbox"/> ケース会議を実施させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？	<p>皆さんが忙しいなかでこの日程を決めるのは難しい。それ以外はメリットだと思う。色んな</p>

<p>ましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> やり方についてはどうですか？</p> <p><input type="checkbox"/> 話し合いは必要？ 紙の記録を伝えるだけとか？</p> <p><input type="checkbox"/> 支援の体制について、もっとこうしうした方が学校としてやりやすいといったことがあれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 支援員によるサポートの本身について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうしうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> スーパーバイザーによる専門的助言について、学校としてどのような受け止めでしょうか？</p> <p><input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画・指導計画の作成について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうしうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 先生としては、どのあたりをよく見ますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 日報の作成と共有について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうしうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> 共有した方がいい？</p>	<p>人が参加するのがよかった。</p> <p>さんの様子は、支援員 A 先生の方が見えている。なので、そういうことを聞くことができる。こういうときはこうしようという方向性を教えてもらったので良いと思った。</p> <p>今の状況では、回数も、オンラインの方法も一番合っているのかもしれない。回数は 1 学期に 1 回。間にもう 1 回入れてもいいのかもしれない。そうすることで方向性が具体的なことが見えてくるかもしれない。皆さんの日程を合わせるのは難しいのだろうが。</p> <p>話を聞いて気づくことはあるので、話し合いは有効。手間を省くのであれば会議が有効。記録として残るのも大事だが。</p> <p>こういう経験がなかったもので、これしか分からない。私にとって、助かったなと思っている。</p> <p>注文はない。初めての経験なので。私が勉強した。私は十分です。</p> <p>先生 (SV) とはやりとりはなかった。</p> <p>渡されたときに、見て、くらのもの。ちゃんとこれを深く読んで活用というところまでやっていない。こういうのがあると方向性がわかるので、助かると思う。あった方がいいと思う。</p> <p>どういうところを指摘すかとか、お母さんのニーズといったところをよく見る。そのため私たちはどうしたらいいのかなというところを考える。親御さんの考え。今の さんの実態をよく見たい。</p> <p>共有していない。直接やりとりしていた。</p> <p>支援員 A 先生とは毎日やり取りしているの、その都度メモしたりしている。毎日が共有している。なので日報の共有についてそれほど必要感はない。取り出し授業のときも、何をやったかは伝えても良かった。最初の頃は資料も渡してくれた。</p>
---	--

質問	回答
<input type="checkbox"/> 学校で何をしているときが一番楽しい? 何しているとき?	友達と話しているとき。
<input type="checkbox"/> 母国の学校との違いで、驚いたことや戸惑ったことはある?	時々学校で活動やる時、どうやってやるか困った。いつも友達に聞くを教えてくれた。だんだんわかるようになった。
<input type="checkbox"/> 活動が母国ではやるのがなかった?	はい
<input type="checkbox"/> どんなこと?	トラディションナルがどう参加するかわからなかった。
<input type="checkbox"/> 学校は好き? どういうところが好き?	学校は好きです。楽しいです。
<input type="checkbox"/> どんなところが?	クラスメイトがみんな優しい。外国人だから、いじめはなかった。いつもわからないところ教えてくれる。
<input type="checkbox"/> 最初は心配してた?	最初は、お父さんが心配していた。いじめるかもしれない。なかった。
<input type="checkbox"/> 学校に行きたくないなと思うときはあった? どういうときにそう思った?	ないです。
<input type="checkbox"/> 元気に行ってる?	はい。
<input type="checkbox"/> どんなことでも話せる友達はある? 悩みにとかでも?	はい。
<input type="checkbox"/> どんなこと?	テストがよくないとか。
<input type="checkbox"/> 学校で、本当はこうしたいのというところで、我慢していることは何かあるか?	ないです。
<input type="checkbox"/> 母国での生活についても話したりする友達はある?	最近母国でのイベント。最近母国で有名な動物の話をした。
<input type="checkbox"/> 興味持って聞いた?	はい
<input type="checkbox"/> 仲がいい友達以外でも、興味持ってくれる?	はい
<input type="checkbox"/> さんに聞いてくれる?	はい
<input type="checkbox"/> さんが話してくれるから? 先生が促す?	休みのときに友達が聞いてくる。自分が話す。
<input type="checkbox"/> 将来こうなりたいたいというものはある? そのために何をどうすればいいか考えている?	将来は、日本語や母国語の先生になりたい。もしできれば、支援員 A せんせいみたいな日本語支援の先生になりたい。
<input type="checkbox"/> 今頑張ってることはある?	日本語を頑張っている。
<input type="checkbox"/> 将来の進路、進学についてはどのように考えている?	〇〇大学。
<input type="checkbox"/> どうして?	①近いから。②自分が好きな学問があるから。〇〇学部。
<input type="checkbox"/> 勉強するのは好きか?	普通。

<input type="checkbox"/> 好きな科目は？ <input type="checkbox"/> 苦手なのは？ <input type="checkbox"/> テストは何点？ <input type="checkbox"/> 一人で計画を立てて勉強できるタイプ？ <input type="checkbox"/> 勉強は大変？ <input type="checkbox"/> 一人で悩むタイプ？相談できるタイプ？ <input type="checkbox"/> 失敗してもあきらめずにどんどんやっていけるタイプ？ <input type="checkbox"/> 性格は明るい？ <input type="checkbox"/> 日本に来て、困って泣きたくて、ということはない？ <input type="checkbox"/> 今までで一番いやだったのは？	<p>数学 英語が弱い。 数学は、60点くらい。</p> <p>ちょっと後ろのタイプ(がんばれーと言われて頑張るタイプ)。 大変。他の人に教えるから、他の人より知識を持っている方がいいから勉強が大事。</p> <p>相談できる。結構話す。</p> <p>はい はい あまりない 交通のこと。乗り方が難しかった。電車、バスが少ない。</p> <p>今回は60点くらい。</p>
<input type="checkbox"/> 得意科目は何？ 苦手科目は何？ 何点くらいとれる？ 英語は？ <input type="checkbox"/> 先生や支援員からは成績について何か言ってくれているか？ <input type="checkbox"/> 嬉しいことはある？ <input type="checkbox"/> どんなこと？	<p>はい。「今回は頑張りましたね。」 はい。 がんばったことが言われるとうれしい。</p>
<input type="checkbox"/> 学校とお母さんとの連絡のやり取りはうまくいっていた？ 意思の疎通で何か問題はなかつた？ <input type="checkbox"/> 言葉が難しいから？ <input type="checkbox"/> そういうときは？	<p>お母さんは大丈夫。ときどき、書類が見てくれるかどうか困るときがある。</p> <p>はい お父さんをお願いしていた。</p>
<input type="checkbox"/> 今後、また母国の子が学校に入ってきたら、もっとうしてあげるとその子は助かるな、と思うことはある？ <input type="checkbox"/> いまは支援の先生いるけど、それは役立ってる？ <input type="checkbox"/> 一番うれしい支援は何？ <input type="checkbox"/> 今どんな支援をしてきている？ <input type="checkbox"/> 能力試験の勉強は さんがやりたくて？ <input type="checkbox"/> 日本語の勉強の計画は、 さんも考えている？ <input type="checkbox"/> 授業は理解できている？ <input type="checkbox"/> わからないことは誰に聞く？ <input type="checkbox"/> 積極的に質問するタイプ？ <input type="checkbox"/> どんなことを支援していきたい？ <input type="checkbox"/> どうやって早く慣れようと思った？ <input type="checkbox"/> 怖くなかった？	<p>どうやって日本語を勉強するかのをやり方を教えてあげる。</p> <p>はい。 毎回の授業もうれしい。授業で話して勉強して、よかった。 明日から日本語能力検定1級の勉強を始める。単語や練習帳、文法も勉強している。</p> <p>はい 半分。先生100%じゃない。 90%くらい。 授業の先生に聞く。 いいえ 日本に早く生まれましょう。自分の経験で教えてあげたい。助けてあげることができればいい。 たくさん友達を作った。 ここに入る前に、塾で日本語を勉強していた。塾で知り合った友達と同じ高校に入った。</p>



<input type="checkbox"/> 日本語の勉強で困ったことはなかった？ <input type="checkbox"/> 学校は、あなたの文化的背景を理解しようとしたり、他のクラスメートの理解を促そうとしたりした？ <input type="checkbox"/> どんな気持ちだった？	はい 学校祭のときに国際理解のような取り組みがあった。  うれしい気持ち。みんなが私の国について知ろうとしてくれて嬉しかった。
---	--

日時 2022年2月21日 17時30分～18時30分

質問	回答
<p><input type="checkbox"/> まだ2年なのに日本語が上手でびっくり。</p> <p><input type="checkbox"/> 支援は？</p> <p><input type="checkbox"/> どれくらいの頻度？</p> <p><input type="checkbox"/> 先生の目から見て、高校入学時と今で日本語の伸びは？</p> <p><input type="checkbox"/> なぜ急激に？努力以外に？</p> <p><input type="checkbox"/> 先生が、周りの学生に、優しくしてあげなさいみたいなことはある？</p> <p><input type="checkbox"/> 最初に、クラスの一因になれよと言葉を言っただけで、それ以降は先生が空気を動かすことはなかった？</p>	<p>私も。すごく努力家。こっちが助けられている。とてつもない奇跡的ながんばりに助かる。支援は放課後。</p> <p>対面が週1、オンライン週2回。</p> <p>日常会話も難しかったので、今は旧友とも普通に会話している。やばいとかの会話もしている。ものすごく成長したかなと思う。</p> <p>支援の成果もあるだろうが、一番大きいのは、本人の臆することなくはなしかけにいけることと、周りの友達、クラスメイトの支え。わからないこと、わからなそうだなということはお助けしてくれている。サークル2つ。掛付け持っている。どっちも一生懸命頑張っている。</p> <p>ないです。本当に最初だけ、一人、日本人じゃない生徒が入ってくことで、入学時でみんなを支えていきましようと言っただけ。それ以降は特に話していない。2年前まで○科があったので、その影響もあって、外国人慣れしている。</p> <p>はい。</p>
<p><input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人が安心して学校生活を過ごすことができるよう、本人に対して何か支援はされましたか？ 学校としても、本人が脅威を感じずに、安心して過ごせるように、支援したことはある？</p>	<p>取り立てて何かをしたことはないかもしれない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 本人から先生に何か支援を求めてきたり、わからないことを尋ねてきたりすることはありましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> その都度聞いてくるのは良い態度ですね。</p> <p><input type="checkbox"/> 独りぼっちは最初からなかった？</p> <p><input type="checkbox"/> サークルも高校生活は謳歌している？</p> <p><input type="checkbox"/> 周りの生徒へのいい影響ありましたか？</p>	<p>例えばホームルームや日常の会話でもそうだが、わからなかった日本語はその都度聞いてくる。</p> <p>そうですね。</p> <p>そうですね。高校受験する前の半年くらい、学習塾に通っていた。その時に仲良くなった子がいると同じクラスにいます。その子が最初中心になって支援してくれた。一人で何かしているということはなかった。</p> <p>楽しそうにしている。プレッシャーで苦しんでいるときはあったが、部。本人が緊張をほぐすためにもすごく練習していた。</p> <p>最初から本人がいることが当たり前だったので、特に。今、英検の受験で頑張っているが、いま何人が集まって勉強している。いい影響はあったかな。</p>

<input type="checkbox"/> 科目による、得意不得意の違いはありますか？	<p>すごく大きいことはないが、英検は何回か落ちている。英語に対する苦手意識はあるだろう。コミュニケーション英語は支障ないが、文法などは苦手意識がある。</p> <p>国語、古典、社会科目の方が苦手だと思う。</p>
<input type="checkbox"/> 勉強面について、特に学校として支援を行ったりすることはありましたか？  <input type="checkbox"/> それについて、先生から有効性は感じてる？  <input type="checkbox"/> 周りの教科の先生にも、呼びかけてやっていただいている？ <input type="checkbox"/> その実現はどの学校でできることではないが、できたのはなぜ？  <input type="checkbox"/> 役立ちましたか？	<p>いくつかある。一つは、考查前、本人が望めば、個別の対応している。テスト問題も、本人に合わせて、本人と面談して、この辺出すよ、文言の工夫や、なるべくやさしい日本語にしてもらうように工夫している。直前の指導、テスト自体の工夫をしている。</p> <p>本人にとって学習用語が難しいので、それをわかりやすくしてもらおうことで、理解度は上がっているかな。本人が解けたという自己肯定感にもつながっている。</p> <p>各教科担当の先生にお願いしてやってもらっている。</p> <p>すごく正直な話、X 高校の先生が若い先生が多い。1 校目、2 校目に来る先生が多い。一人の生徒にやるのが面倒だという先生がいない。支援してくれる先生が多い。先生 (SV) にも講演会してもらって、その中で、先生たちも支援の大変さをわかっているのので、役立ちました。</p>
<input type="checkbox"/> 他のクラスメートに文化的背景の違い等を理解してもらうために、何か取り組んだことはありますか？	<p>あったのかな。正直本人からそういういった要望はあまり聞いたことがない。何か乗り越えなさいやいけない何かあったとは感じなかった。</p> <p>日常生活を送っている様子を見て、何かあったら言っただけというところで見守ってきた。</p>
<input type="checkbox"/> 先生として、外国の子は難しいな、という苦労はなかった？	<p>なかった。日常的に常駐の A LT もいるので、外国の人への抵抗感はあまりない。みんなすごくフレンドリー。</p>
<input type="checkbox"/> 本人への教育指導や保護者とのやり取りで学校として困ったことがあった場合は、どこに支援を求めていますか？	<p>わりとすぐに支援のお話をいただいた。要綱が回ってきてすぐに申し込みをした。先生 (SV) や先生 (支援員) にお伺いした。それ以外に特別なことはない。</p>
<input type="checkbox"/> 支援員を配置させて頂きましたが、どのようなメリット (デメリット) が学校としてありましたか？	<p>特に現代文は、助詞の理解も深まった。正しく文章を理解できるようになった。</p> <p>1 年 7 月から支援してもらって、テスト工夫するようになって、作文の問題で、<span style="background-color: #cccccc; color: #cccccc;">          </span>に貸しているが、作文の助詞の使い方が、支援を受けてから上手になってきた。</p> <p>あとは語彙力が豊かになってきた。</p> <p>先生 (支援員)。オンラインでやっていただいたので、書くことの支援してもらおうのが、対面が週 1 回だとなかなか伸びていかない。支援員ではなく方法のデメリット。メリットは、放課後の時間になるが、本人も学校と親とのコミュニケーション以外がない中で、外部の方とのコミュニケーションが取れた。一番は日本語をしっかりと教えてもらえらる。大学の学生さんに昨年度は支援してもらえた。年齢の近い関係の人に支援してもらおうことで話しやすさはあったと思う。</p>

<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？	<p>特に初期のころは、すぐに聞ける。僕たちも外国人を受け入れた経験がない先生の方が多かったのですが、質問することができて見通しが立てやすかった。学校内の話し合いもしやすかった。</p>
<input type="checkbox"/> ケース会議を実施してきましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？	<p>支援員さんが思っている日本語のレベルと、教員が思っているレベルがちよっと違う。そういうところを共有できる。短期的な日本語の目標を共有できる。教員もできることをやりましょうということ、教科以外の日本語の指導、作文とか。英語の先生と文通している。気兼ねなく文章書くところに支援していこうという考えになった。メリットの方が大きかった。日常会話ができているから、日本語もできるでしょうという教員は思ってしまうので、実はそこまですてきなよ、という感覚が、ちよっと支援員との間でずれがある。各学期ごとに、最初、終わりに1回。学期の終わりにやることの方が多い。年3回くらい。1回は、40分～1時間。</p>
<input type="checkbox"/> 支援の体制について、もっとこうした方が学校としてやりやすいといったことがあれば教えてください。	<p>今、密という状況で、オンラインはしょうがない。いま、オンラインだけど、手元も見えるような書画カメラもこれから使わせてもらおうので、こうしてほしいというのは今のところ、その都度状況に合わせて支援してもらえている。</p>
<input type="checkbox"/> 支援員によるサポートの申しについて、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。	<p>今、<span style="background-color: #cccccc;">          </span>が大学進学を進路目標として持っていて、日本の高校に通う外国人、生徒たちの受験制度がなかなか調べた限りだと充実していない。〇〇大学でN1をもっていることが条件の1つになっているので、それに向けての支援をしてもらっている。そこはすごく助かっている。日本語能力検定の支援と、プラスアルファでオノマトペ、書き言葉とか支援をしてもらっている。内容に対しては、あまり困っていることではない。</p>
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーによる専門的助言について、学校としてどのような受け止めでしょうか？	<p>私たちとしては分からないことだらけなので、色々な情報を提供してくれて、そのことで理解は深まったので、よかった。特に講演会は<span style="background-color: #cccccc;">          </span>が兼しい本当は難しい環境の中で学校生活を送っているのだということ、教科担当者じゃない先生からもそういう話があったので、理解が深まった。</p>
<input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画・指導計画の作成について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかとこのように意見があれば教えてください。	<p>学校として作る部分は、正直何をどう書いていいのか迷うところがあった。今でも迷うのがたくさんある。でも教科支援や日本語支援の様子、目標にしているところがわかる。学校としての日本語支援の目標が正直書きづらさはあった。</p>
<input type="checkbox"/> 日報の作成と共有について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかとこのように意見があれば教えてください。	<p>お願いして共有させてもらっている。</p>
<input type="checkbox"/> よかった？	<p>よかったです。最初、いつも付きっ切りでいるわけではないので、今日どんな支援したんだとか、今こう言うのが課題だということ、週2回の支援だと足りない部分もあるので、こっちも支援できるかということ、専門知識もないので、本人にインタビュー、面談して、どう</p>

<p>□ 保護者との連携支援について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかとこの意見があれば教えてください。 うまくいっていますか？</p> <p>□ 保護者も支援の輪の中に入れてというやり方は？</p>	<p>いうところで躓いているかをはなすきかけになった。教員に話すこと、支援員に話すことの話も違うので、共有できてよかったです。</p> <p>そうですね。最初はお母さんは学校に来たがならなかったが、昨今の時期に大学に日本語のテストを受けに行ったときに、お母さんと話をし、そこからは笑顔で学校に来てくれるようになった。お父さんも学校の活動に理解してくれている。保護者面談も含めて特に問題はない。</p> <p>いま保護者とはうまくいっているもので、もっとうしろというの。お母さんの方も、日本に来て2年くらいで職場も変わって、お母さんも日本語が上手になってきているので、困っていることはない。</p>
<p>その他</p>	
<p>□ 完成形じゃないので、使い勝手悪いなということはある？</p> <p>□ 同じ電子教科書を使えればよかった？</p>	<p>テキストのメールのやり取りが煩雑。そこがスムーズにいくとなおよい。</p> <p>テキストPDF化して送ってもらっていた。</p> <p>普通のテキストでも共有できれば</p> <p>NIからテキスト共有しているが、そこからは少し楽になった。</p> <p>普段の支援で使うPPTの資料も送られてくるので、その辺も簡単になれば、もうちょっと手間が省ける。</p>

質問	回答
<input type="checkbox"/> ■さんは学校の様子はどうですか？	<p>今現在は、支援員が来てくれていてるので、安心してスクーリングには参加できている。一人でスクーリングに参加しているときは、内容もわからない状況で、45分いないといけないので、不安もあっただろうが、去年の途中から支援員の方が、空き時間を使いながら何時間かついでくれるようになったので、比較的スムーズに参加できるようになった。</p>
<input type="checkbox"/> それ以前は不安の様子だった？	<p>まったく言葉もわからないので、たどたどしかならないうので、本人も不安はあったかと思う。多少、話してもらえらる人がいることで、ちょっと安心感が出たかなと思う。</p>
<input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人が安心して学校生活を過ごすことができよう、本人に対して何か支援はされましたか？	<p>基本、スクーリングに関しては特別、弘前大学の支援が入るまで、授業に関しては支援はなかった。とりあえず、1か月はすべてのスクーリングに出て、その中で単位を修得可能かなと思う科目に絞ってスクーリングに出てもらっていた。最初は全部だったので大変だったと思う。絞っても、内容までは分からないので不安はあったと思うが、途中から大学の支援が入ったので、かなり不安も減ったと思う。</p>
<input type="checkbox"/> 科目を絞った支援はした？	<p>英語と数学は得意だったようなので、その科目を中心に進めて。プラスアルファで、私が「社会と情報」を受け持っているのですが、その科目とかのレポート指導はした。難しい教科は、例えば家庭科は、難しいという話はする。数学をするときは、電卓を利用して計算させるので、数学は難しいという話は聞かない。のいいところは、言われたことに関しては、コツコツやるので、何とかなっていると思う。4、5年かかるとなったときに、今は1、2年間なので何とかなっていると思うが、気持ちが続けられるかが、心配。卒業までやっていきたい。</p>
<input type="checkbox"/> 本人から先生に何か支援を求めてきたり、わからないことを尋ねてきたりすることはありましたか？	<p>特に自分からということはありません。</p>
<input type="checkbox"/> ■を取り巻く級友はいる？	<p>学校にはいない。基本、うちに来ている生徒は、あまり人との交流を得意としていない子が多いので、一緒にいても、お互い話さない。本人も話しかけない。普段、お昼ごはんも、本人は食べない。食べない習慣ができているらしい。誰かと仲がいいとか、話すとかいうことはない。毎日来ているわけではないので、1週間に1回だと難しい。</p>
<input type="checkbox"/> ぼつんといるのがつらそう？	<p>そういうことはない。基本的に話しかけることはない。一人でいても、そういうことに慣れているか、そういう人柄なのか。中学校時代は、結構話をする人は何人かいたらしい。</p>
<input type="checkbox"/> 勉強は一生懸命取り組んでいる？	<p>それなりに頑張っていると思う。レポートも、結構枚数あるが、教員によって。それでも</p>



	<p>でも、遅れないようにしてくださいというお願いをした。それでも、やっぱりギリギリ。テストでもハラハラしている。それでも少しずつ、時間は守るようになったよう。大学の支援にも遅れていったこともあったらしい。時間を守ることはきつくやらないと。大学の方でも考えながら支援をしてきているような話は聞いている。</p>
<p>□ 保護者との連絡のやり取りなどは、うまくいっていませんか？</p>	<p>気を使わない。文書も、ふりがなぶったりとかしないので、日本の家庭に送ると同じように送っている。お父さんはスマホの翻訳アプリを使ってやっている。この前、文書を見せた時に、母国語に翻訳したのを見て理解していた。そこまで気を使わなくてもいいのかなど思っている。本当に難しい言葉は、どう知り合ったかわからないが、日本人で書類の説明とか手続きをやってくれる人がいるので、その人がこれまではやってくれていた。</p>
<p>□ 本人への教育指導や保護者とのやり取りで学校として困ったことがあった場合は、どこに支援を求めていますか？</p>	<p>別に、特別困ったことはなくて、むしろこちらが迷惑をかけた。保護者に支援のスケジュールを学校を通してやることを忘れていたりした。お世話になって、迷惑をかけている。特に、困ったことはなく、本当に支援がなければ、私はどうしていただろうという印象。</p>
<p>□ 支援員を配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？</p>	<p>スクリーニングの時には空き時間に日本語の支援を日曜日は進めている。空き時間も、その週によってまちまち。1時間しかない、2時間、3時間ある週もある。選択している科目が少ないので、まちまちになる。日曜日は両方やってもらっているで大変かなという思いを持っている。日曜日の支援員は、お若いし、お姉ちゃんという感覚で接していて、安心して本人も頼っているかなという印象。月曜日は日本語の支援をしてもらっている。途中から支援の担当の人が代わった。代わった後の支援員は、結構、会話すとか話すとかか、そういうところをメインに指導してもらっていて、実際に支援が終わった最後の時間に、先生方に向かって、発表させたりしているもので、普通の会話だけじゃなくて、そういう人前で話すことに慣れさせるとかに重きを置いてやってもらっている。自身も、人前で話すことにも慣れてきている。最終的には、来年3年目なので、校内の生活体験発表会で、本人に2、3分でも話せればいいかなと思っていて、今頑張ってもらっている。</p>
<p>□ ちょうど さんが苦手そうなところをやってくれている？</p>	<p>はい。どうしても人前で話すとか、苦手なので、一番最初、ホームルームをやって、一人ひとり自己紹介やらせたが、本人には「 から来ました。」です」、とだけ話してと言ったら、泣き出した。そのあと、来てくれてよかったが。それだけ、話すとか、自分の言葉で話すことができなかつたのが、紙に書いているものの、人前で話せるようになったのはかなり進歩していると思う。</p>
<p>□ スーパーバイザーを配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？</p> <p>□ あまりやり取りはない？</p>	<p>R 先生。SVは、私たちと支援員だけじゃなく、SVと支援員の関係もあるので、私たちとは頻繁に話すことはない。年に何回か集まって話す時に取り仕切る、全体を見て、コーデイネートするのはないといけないと思う。別に、不安とかそういうものはない。教頭とメールで何回かやりとり。私はそういうのは得意ではない。お任せしています。</p>



<p><input type="checkbox"/> ケース会議を実施してきましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 頻度や長さは？</p>	<p>デメリットはない。やらないといけないことだと思う。こういうコロナのからみで、直接会ってというのが頻繁にできなくなっているが、定期的にやるべきだと思う。やってみてはいい。頻度は、もっとあってもいいのかもしれないが、かといって期間が短いとそう変化もないので、その辺のバランスが難しい。</p>
<p><input type="checkbox"/> 支援の体制について、もっとこうした方が学校としてやりやすいといったことがあれば教えてください。</p>	<p>私個人としては、特に感じていない。本当に、こういう風に学校で支援もあるし、大学で支援もあるし、これだけやってもらっているのは、ありがたいと思う。は、もうちょっと頑張るところ頑張れば、いいかなと思っている。</p>
<p><input type="checkbox"/> 支援員によるサポートの申し送りについて、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかとこのように意見があれば教えてください。</p>	<p>支援員の方が、話すことの支援を工夫してくれているので、非常にいいかなと思っっている。学校以外の部分で、日本語を使う場面があまりないので、そういう回数を多くしてくれているのがある。少ないと、ほほ家では母国語なので、身につかないと思う。</p>
<p><input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画・指導計画の作成について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかとこのように意見があれば教えてください。</p>	<p>よくわからない。こういう目的、目標があって、そのために内容、指導をやってという計画。それについても、どのくらいかかるものなのかわからないし、難しいかもしれない。わからない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 日報の作成と共有について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかとこのように意見があれば教えてください。もし可能なら、共有した方がよいですか？</p>	<p>毎回毎回は見なくてもいい。ちょっと見ればいいかなという感じ。内容については、こちらは全然わからないので、素人なので、こうすればいいというのはない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 保護者との連携支援について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかとこのように意見があれば教えてください。</p> <p><input type="checkbox"/> お母さんの姿が見れないのは不安？</p> <p><input type="checkbox"/> 学校にはあまり？</p>	<p>保護者は、いつやるか、何時からやっているか、どこでやっているかは、一応 本人通してやってみよう。おそろく大学に行く時も、親が朝送って、帰りは電車やバスを使っていると思う。本当は保護者も日本語を使うとかいう協力してほしいんだけど、お父さんはお店をやっている関係で、ちょっとは日本語を使える。お母さんは全く。結果的には、すべて母国語になってしまう。保護者も一緒に勉強するとか、本人が帰ったら、一緒に日本語を復習するとか、やってももらえれば、本人も習った日本語を教えることで覚えれば、もうちょっと効果があるようになるかもしれない。</p> <p>お店に行けば、接客している。</p> <p>ほほはお母さんが出る場面はない。お父さんとは多少日本語で会話できる。</p>

多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究 聞き取り調査 質問項目 (教員②)

Y 高等学校

日時 2022年2月22日13時30分～14時00分

質問	回答
<input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人が安心して学校生活を過ごすことができるよう、本人に対して何か支援はされましたか？	<p>A 先生が言った通り。B さん(支援員)がついてくれていてるので、安心して授業を受けられている。</p>
<input type="checkbox"/> 先生方との関係も良好？	<p>先生方は [ ] が外国人であることも理解している。恥ずかしがりやの性格も理解している。優しく接している。</p>
<input type="checkbox"/> 先生方に指導した？	<p>そういうことはない。春に来たばかり。去年までにそういうことは浸透していたと思う。ちゃんとやってくれている。</p>
<input type="checkbox"/> 科目による、得意不得意の違いはありますか？	<p>卒業するのは大変。前の教頭先生は女性の方。男性に対して抵抗感があって、なじむのに時間はかかった。文部科学省のHPを見て、「たのしいがっこう」、母国語の教材を見て、使って、2回くらい本人とコミュニケーションをとったところ、私のことを認知してくれて、挨拶してくれるようになった。母国語も、地方語の訛りがあるらしく、これ違うという反応も。母国語も、あのテキストを使っても通じないこともあった。A 先生、英語の先生にもこれを配ってやってみた。</p>
<input type="checkbox"/> 他のクラスメートに文化的背景の違い等を理解してもらうために、何か取り組んだことはありますか？	<p>文化祭の時に、A が主となって、母国のことについて壁新聞を作って、A 先生がやっていました。</p>
<input type="checkbox"/> 生徒の受け止めは？	<p>通信制の学校なので、生徒同士があまり交流しないので、あまり反応はよくわからない。本人がそういう活動をする方が大切。</p>
<input type="checkbox"/> 本人や保護者の文化的背景の違いによって、学校として、先生として苦労したことは何かありますか？	<p>今のところ、問題ない。A 先生にお任せしている。通訳してくれる人が一人いるらしいので。</p>
<input type="checkbox"/> 本人への教育指導や保護者とのやり取りで学校として困ったことがあった場合は、どこに支援を求めていましたか？	<p>学校柄、文書の内容がちゃんと伝わるか心配になることはある。どこに求めるか、難しい。今年はそのようなことはなかった。</p>
<input type="checkbox"/> 誰かに支援を求めるといったことはない？	<p>メリットしかないと思う。本当に助かっている。来年3年目で事業がストップするというところで、新しい事業が始まるということ、支援体制が続くことを切に願っている。</p>
<input type="checkbox"/> 支援員を配置させて頂きましたが、どのようなメリット(デメリット)が学校としてありましたか？	<p>安心感がある。大学院生の若い女性の方なので、少し落ち着いた、色んなことを見てくれるCさんがいてくれることで安心できる。事務的な手続きもスムーズにしている。</p>
<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置させて頂きましたが、どのようなメリット(デメリット)が学校としてありましたか？	<p>A 先生と全く同じ。回数もちょうどいい。やる内容も、お互いにやることを伝えられてよ</p>

<p>ましたか？</p>	<p>い。</p>
<p>□ 支援の体制について、もっとこうした方が学校としてやりやすいといったことがあれば教えてください。</p>	<p>現状に満足している状態なので、A 先生が何か思っていることがあれば。</p>
<p>□ 支援員によるサポートの中身について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p>中身の詳細はわからない。報告書、日報は見たことがない。日報をたまに、まとまったら、こういうことやったんだよということはあるかもしれない。</p>
<p>□ スーパーバイザーによる専門的助言について、学校としてどのような受け止めでしょうか？</p>	<p>そんなに難しい話はないから、わかりやすく伝えてもらっていると思う。</p>
<p>□ 個別の教育支援計画・指導計画の作成について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p>その詳細も見ることがない。一人一人違う。何かこちらから申し上げることはない。去年まで〇〇高校20何年もいて、素人なのでわからない。</p>
<p>□ 日報の作成と共有について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p>どうということやっているのかをわかるのはいいかもしれない。</p>
<p>□ 保護者との連携支援について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がよいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p>年に2回くらい、学校の外で行事をやると。ボウリング、映画鑑賞。半日くらいの日程。終わった後に、みんなで母国料理のレストランに行った。母国レストラン、経営している様子について、2回くらい会って確認することができた。状況がわかった。教育への熱量は日本とはちよっと違うかな。お母さんは日本語ができない。一筋縄ではいかない。コミュニケーションをとるのは難しい。</p>
<p>□ 保護者の教育への考えによって支援は変わってくる？</p>	<p>どれくらい保護者が本気で高校を卒業してもらいたいと考えているか、卒業後どうしたいか考えているかわからない。見えてこないところがある。</p>
<p>□ 実はもっと知れた方がいい？</p>	<p>わかれば、進路相談もできる。</p>
<p>□</p>	<p>A 先生：昨年、お父さん、本人交えて、母国語の通訳の人を交えて聞いたときは、お父さんは、高校終わったら、進学するなら進学させてもいいみたいな話していた。本人は、あまり高校卒業した後進学する意識はあまりないような話をしていた。高校でこんな大変なので。将来的に、日本で暮らすであろうと思うが、母国に帰りたいという気持ちも当初は話していた。まだぐらぐら揺れると思う。最近は、家業を手伝うとか、そういう話しているが、日本にいる感じ。いる場合は、家業を手伝う。入学したころは、日本語も覚えて、日本語を話せるようになれば、ホテルとかで働きたいという夢は話していた。日本語だけでは現実、無理なので。英語とかも。また、難しい面も出てくるだろうから、だんだん現実路線に落ち着いてきた。この前話した内容では、家業を手伝うという話だった。</p>
<p>□ その他</p>	<p>本人が卒業するために、今年変えたことがある。学校設定科目を導入。「英語入門」、「数学</p>

入門。中学で習得する内容。本人の卒業単位にする。	
--------------------------	--

質問	回答
<input type="checkbox"/> 学校で何をしているときが一番楽しい？	学校は好き。 どんなところ？ 図工と体育、算数。図工と体育。
<input type="checkbox"/> 母国の学校との違いで、驚いたことや戸惑ったことはある？	すぐ違う。 A ある。母国の学校に食べ物を決められる。選べる。イチゴ牛乳、ジュースとか。ピザかサラダ。日本の学校は食べたいもの決められない。残念だなと思った。 B それは問題ない。決めるの難しい。後ろに人がいるから、早くしないとダメだから。
<input type="checkbox"/> 学校に行きたくないなと思うときはあった？ どういうときにそう思った？	A 前ありました。 A お母さんの友達が来る日に、友達見たいといったとき。学校じゃなくて違うことしたかった。
<input type="checkbox"/> 今？ <input type="checkbox"/> ■ちゃんは？ <input type="checkbox"/> 学校毎日楽しい？	A ない。 B あまりない。 B はい
<input type="checkbox"/> どんなことでも話せる友達はある？ <input type="checkbox"/> クラスの友達と日本語でおしゃべりする？ どんなこと？	A 友達たくさんいる。 A 新しいゲームとか。家はどことか。 B 話す。 A できる。
<input type="checkbox"/> 色んなこと話してできる？ <input type="checkbox"/> 勉強のことや生活のことも含めて、色々と気軽に相談できる先生はいる？	A 一回話したことある。あまり話さない。 B わかんない。
<input type="checkbox"/> よく相談する？ <input type="checkbox"/> 先生が聞いてくれる？	A 喋ってる。 B 算数の先生は喋ってくれる。
<input type="checkbox"/> 学校で、本当はこうしたいのということで、我慢していることは何かあるか？ <input type="checkbox"/> どれくらい嫌だった？ <input type="checkbox"/> どうして嫌じゃなくなった？ <input type="checkbox"/> ■ちゃんは？ <input type="checkbox"/> 母国の男子は？	A いっぱいある。掃除。母国に掃除ない。終わりに我慢しなきゃいけない。今は大丈夫。 A 1か月くらい。 A 理科室の掃除してた。寒かったし、暗かったし、あまり楽しくなかった。 B 走り回っていること。男子が。 走ってない。廊下は走っちゃいけない。転ぶから。日本語の男子は走ってる。

<input type="checkbox"/> それ以外には？	A 母国の学校は休み時間が長い。2つある。運動場にブランコとかある。ジャングリズムとか。Z小学校には遊ぶものがない。時間が短いからいやだ。
<input type="checkbox"/> 母国での生活についても話したりする友達はある？	A 話す。
<input type="checkbox"/> みんなどんなリアクション？	A 「へー。」母国の子どもたちは休み時間にタブレットとか使っている。けどそういったことは友達に言わない。
<input type="checkbox"/> 前は話をした？	A 母国の友達は、日本の現状を聞いて羨ましがっていた。日本の友達にはあまりそのことについて話さない。
<input type="checkbox"/> 将来こうなりたいものがある？ そのために何をどうすればいいか考えている？何を頑張ってる？	A 建築家。算数と図工を習う。
<input type="checkbox"/> 勉強するのは好きか？	B 動物の科学者。動物のこと勉強してる。
<input type="checkbox"/> 一人で計画を立てて勉強できるタイプ？	B まあまあ
<input type="checkbox"/> テストの点数悪いのは？	A はい。算数と図工。図工も勉強。
<input type="checkbox"/> 得意なのは？	A 勉強できる。やったことある。まあまあ得意。
<input type="checkbox"/> 先生や支援員からは成績について何か言ってくれているか？	B すぐ帰ったらやる。先生が宿題出すの忘れるから、宿題出してっていう。
<input type="checkbox"/> 悪い点数のときは？	A 国語。
<input type="checkbox"/> 日本語の先生は？	B 国語78点。
<input type="checkbox"/> 先生からやってもらったり、言ってもらったりして嬉しかったことは何かある？	A 最後の97点。
<input type="checkbox"/> 今後、またアメリカの子が学校に入ってきたら、もっとこうしてあげるとその子は助かるな、と思うことはある？	B 算数100点とれたことある。
<input type="checkbox"/> 日本語のクラスで勉強している。大変なのは？	A 先生は優しい先生だからすごいね、って言ってくれる。
<input type="checkbox"/> 学校は、あなたの文化的背景を理解しようとしたり、他のクラスメートの理解を促そうとしたりした？	B 何も言わない。
<input type="checkbox"/> 支援員はあなたにどんな支援をしてくれた？ してもらいたいこと言える？	B 言わない。
	A すごいねって。
	B 点数見せません。
	B 別に。
	A 6歳だったときに、日本に来た。3年。1, 2, 3年生。
	B わかんないことを教えるとか。
	A 同じ。
	A 普通のクラス。あまりない。
	A 先生は言ってくれる。○年生の先生と○年生の先生は、面白って言うてる。
	A 言おうよ。先生がものくれるとかおいてくれるとか、手伝っていい？っていう。
	A 母国の学校でこれやったよっていう。

<input type="checkbox"/> 日本語の先生はどんな支援を？  <input type="checkbox"/> 日本語のクラスは楽しくなかった？ <input type="checkbox"/> どうして？	A 理科、社会、算数、物もったりするときのヘルプ。 B 日本語のクラスはあまりない。 A 日本語のクラスはもともとあった方がいい。 B もういい。 B 楽しくなかった。 B みんなと勉強したかったから。 A 日本語のクラスがあつてよかった。いっぱい新しい言葉習ったから。
--	---

質問	回答
<p><input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人が安心して学校生活を過ごすことができるよう、本人に対して何か支援はされましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> B ちゃんは日常会話は問題ない？</p> <p><input type="checkbox"/> 日本語ができない不安と、友達ができるかという不安と二重？</p>	<p>はい。</p> <p>そうですね。不自由感じることはなくなりました。</p> <p>本人の特性の方が大きいと思う。あまり動じない。物おじせずに、前に進んでやっていくという性格。入ってきた当初からそういう感じ。子どもたちの中にはやくなじんではない。</p> <p>A ○年生に編入してきて、○年生の勉強がハードルが高い。安心してこれたかという点、最初の頃はそうでもなかったと思う。自分で友達作りも苦手だと言っていた。コミュニケーションをとるのに時間がかかった。大変だった。先生方(支援員)にお手伝いいただいて、心のケアを頂いて、安心しているようになった。</p> <p>はい。文化の違い、自由さの違いに慣れるのに時間がかかったように思う。</p>
<p><input type="checkbox"/> 本人から先生に何か支援を求めてきたり、わからないことを尋ねてきたりすることはありましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> わからないことがあれば聞くという姿勢はある？</p>	<p>B 場面場面でリアルタイムに、どういう場面でも、知りたいことがあれば、直接聞く。手を挙げて、場を読んで、じゃなくて、頭によぎったことは、すぐ解決したいと思って。逆に私のこととみてという感情はあるのは他の子もあるが、少しBさんは浮いて見える。あまりウエルカムとはしない。「後にして」と突っぱねることもある。</p> <p>A わからなければすぐ歩いてくるという感じだったが、○年生だと周りが気になるので、何かあったら手を挙げるというルールを決めて、私が近くに聞いて、解決する。あまりにも難しすぎると、もうこんな感じになって、下で読書していることもあった。</p>
<p><input type="checkbox"/> 学校として、先生として、本人がうまくクラスの一員になれるように意識的に支援することはありましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが自然に助けてあげようという環境？</p>	<p>B 最初は誤行錯誤あったが、実際は、こつちが手をかけるよりも、子どもたちの中ですぐす方が、なじみやすかった。配慮しないで、遠くで見守る方がいいように思うようになった。</p> <p>A 基本的に黙ってみてると、周りの子どもたちが日本語で説明したりしてくれたので、子ども同士で解決してくれると感じた。</p> <p>だんだん本人を理解し始めてそうするようになった。</p> <p>A 最近、3学期になって学校にいる時間も長くなって、色んな話をする機会が増えたので、最近は明るく元気にやっている。それについては、取り出して日本語で支援してくれるのが、勉強で取り残されたくない安心があるのだと思う。</p> <p>A から来たから、 の文化は違う。色んな考え方も違うから、そういうふう</p>



	<p>んかでききたひとだから、色々なあれあれって思われることはあるというのは折々に言っている。それは変なことではないと言っている。本人にとっては簡単な外国語活動も、大変流ちょうな発音で話してくれる。母国の小学校のじゃんけんもやってくれる。教えてあげられるような機会があればキヤッチして広めるようなことはした。喜んでやっていた。</p> <p>B 異文化は感じなかった。 [ ] 日本の文化が家庭の中でもあるので、異文化ということで何か特に思い出すことはない。たぶん、容姿が日本人の顔だったら、本当にわからないと思う。経緯を知らなければ、子どもたちの様子を見れば、Bさんのこれまでの生い立ちに気づかないくらい、なじみ切っている。</p> <p>外国語活動あるので、その中で、発音とかを覚えてBさんに言ってもらったり。Bさん、こういう言い方もあるよということを教えに来てくれる。それを紹介したりする。 [ ] なの</p> <p>で、Bさんも教えてくれるのを、なるほどなどということを聞くよりは、自己中心性が強いので、周りに影響を与えるよりも、みんなの前でそれを言う、Bさん自身も達成感につながるようにしている。周りの子たちに、異文化交流の機会として何かやるようなことはない。それくらいじゃない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 本人や保護者の文化的背景の違いによって、学校として、先生として苦労したことは何かありますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 認めるという方針にしたのはなぜ？</p> <p><input type="checkbox"/> 最初は、脱ぐように指導した？</p> <p><input type="checkbox"/> 他の先生から反対はなかった？</p>	<p>B 苦労と言われるとない。どのレベルの苦労かによるが、例えば算数の勉強ができない子は、Bさん以外にもいるので、その子たちには特別の手立てがいろいろあること。国語がわからないというのもゆっくりにやったり、その辺まででいいよということもいろいろあるので、周りの子たちと比べて配慮に苦労したということはない。</p> <p>A 指導に関して。Aさんは、帽子を脱がない。ずっとかぶったまま。それに関して、日本人は部屋の中で帽子を脱ぐと指導。異文化というよりも本人をうけいれる人なひとひとがいろいろ色んな子がいるんだよというのを学級で話してもらったりした。帽子をかぶることを共有した。もはや今はそれについては、帽子をかぶっているよねということも言わなくなった。本人のキャラクターとして受け入れられた。それが、外国から来た子ということなのか、本人の特性なのかかわからないが。本人が安心して学校に来れるようにした。</p> <p>本人が、脱がないので。</p> <p>お家の方とも相談して、それはまあいいかということになった。</p> <p>なかった。平たく言えば脱いだ方がいいんだけど、Z小学校ではいいけど、日本では脱ぐんだよということも言っている。</p>
<p><input type="checkbox"/> 本人への教育指導や保護者とのやり取りで学校として困ったことがあった場合は、どこに支援を求めていますか？</p>	<p>B 基本的に、活発で自分で進んでやる性格なので、学級の中で、私の方で理解して併せて指導していれば、学校全体の体制には特にない。Bさんが学校に来たくないとかいうことが</p>

<p><input type="checkbox"/> SVが窓口になった？</p> <p><input type="checkbox"/> 支援員を配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？ 日本語支援はあまり必要なかった？</p>	<p>あったこともなかった。むしろ、みんなと勉強が遅れる場面もあるが、必死に食らいつこうとしていた。周りの子のノートを見ながらでも。向上心が強い子なので。それを励ましてあげる。特別な体制といったものは必要とはしなかった。全校に呼びかけることはなかった。学級でもなかった。</p> <p>A 外国から来たということだけじゃなく本人の特性があったので。一対一で指導するのが効果的と様子を見て感じていたが、外国から編入していた時に、どういうカリキュラムでどんな勉強してきたのかわからなかった。何ができて、何ができないのかわからなかった。先生（SV）に何度も相談して助けてもらった。体制と言えるかわからないが、外国から来たお子さんのどのあたりができて、できないのか、がわからなかったのが困った。そうですね。メモもたくさんいただいた。とても役に立ちました。</p>
<p><input type="checkbox"/> 漢字の読み取りとかは同学年の子と同じくらい？</p>	<p>B 日本語支援員がどんな支援の捉えがはつきりわかっていなかった。どちらかというところ、私たちが話したことを英語に訳してくれるというイメージがあった。なので、そばにいて、英語で同時通訳で分からないことを単語で置き換えて二人に教えてくれるイメージだった。実際はそういう形ではなかった。日本語支援員という定義が、どういうものなのだろうというはてなマークが今でもある。必ずしも、支援員という言葉が支援員じゃなきゃダメなのか。今の現状を見ると、一般的な支援員と変わらない？かなというイメージがある。大学側で来る先生方に、子どもたちの特性を伝えたいやうでやってくれているとは思いますが、日本語支援員の定義が、その辺が現場の教員からすると、どういうことをするのが日本語支援員なのかというの？だった。メリット、デメリットというよりかは、一緒に過ごしながら、こういうこととする人なんだということを理解してきた。Bさんは支援を求めず、来ないでということもあった。支援の先生がどうかかわればいいでしようと悩んでいた。支援員のあり方というのが、現場と大学側とで認識にずれがあるのかと正直思っていた。ダメとかいうことではなく、イメージが異なる場面もあった。</p>
<p><input type="checkbox"/> 漢字の読み取りとかは同学年の子と同じくらい？</p>	<p>うっすら鉛筆で書いたやつをなぞってみたい、書き写すといった形でやってもいいよということでもレベルを下げて、Bさんはそれが抵抗になって嫌だというのがあった。こっちが良かれと思ってレベルを下げて底上げしようとすると、モチベーションを失わせることになる。その辺のことは、お父さんとも相談して、こういう感じで定着しているところもあるが、特別、別に課題を与えてやることにはBさんの性格上、やりたがらないのを保護者にお伝えしたところ、保護者はおおらかかな。できないことも、それも一つ学校の、今の時点では元気に学校に行ってくれればいいという話をしてくれた。こっちはぎざぎざこっちから教える立場で与えるよりは、まずなじみながらみんなと一緒にやるということも言ったら、保護者はそ</p>

	<p>れでいいということだった。その話をして、半年になるが、何となくでもできるようになってきた。心もとないところはまだあるが、1年でこれだけ出来たら大したもの。</p> <p>A 同学年の同じ教科書を使っていないと、少し難しい。本人に支援の先生が来てないとき、テストをするときに、問題自体が理解できない。問いの意味自体が分からない。学習用語が理解できないストレスは最初かなりあったと思う。テストは付きっきりで、翻訳機を使ったりしながら、指導していた。問題を理解させて取り組ませていた。聞きたいこと、英語でポンッとやってくれる体制だと思っていた。その辺の意識のずれがあった。デメリットではないが。スタートした時は、何か色んなずれがあった戸惑ったことはあった。</p> <p>デメリットはない。</p>
<p><input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置させて頂きましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？</p>	<p>デメリットはない。</p>
<p><input type="checkbox"/> ケース会議を実施してきましたが、どのようなメリット（デメリット）が学校としてありましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 長くなかった？</p>	<p>A 定期的に確認できることはありがたい。支援の先生方がどんなことを考えているか、普段聞けないので良い機会。長くなかった。</p>
<p><input type="checkbox"/> 支援の体制について、もっとこうした方が学校としてやりやすいといったことがあれば教えてください。</p>	<p>さっき言ったが、支援員、SVとか、具体的に何をやるのか、我々が必要としていることとか、子どもたちの特性とか、総合的に見て、こうやっていきましようということが、当初にあった方がいいと思う。始まってしまっって、姿を見ていたので。時間過ぎてからケース会議をやるのも大事だが、日本語支援員は何をやって、この辺りまでは齟齬にないといった、私たちはこういうことをやってほしいということを確認するのがあった方がいいかもしれない。</p>
<p><input type="checkbox"/> 支援員によるサポートの申し送りについて、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がいいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p>A 特性があるので、カリキュラム、母国のカリキュラムで何ができているのか把握できていれば、色々建設的に時間を過ごすことができたのかなと思う。試しつつやっている中で、テストを参考にしながら、〇、〇年生の理科が落ちているのがあるので、そこだけ取り出し。最近時間は長いときは、国語や算数とかもできるところをやっている。</p>
<p><input type="checkbox"/> スーパーバイザーによる専門的助言について、学校としてどのような受け止めでしょうか？</p>	<p>A いらしたときには話をしていた。とっても先生（SV）に、母国の学校のことについて言ってもらって、納得した。いらっしやるときが限定的なので、もってお話しできれば思った。</p>
<p><input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画・指導計画の作成について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がいいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p>先の展望も母国に帰るといいうのも考えられるので、そういうのもわかれば。</p>
<p><input type="checkbox"/> 日報の作成と共有について、学校としてどのような受け止めでしょうか？ またもう少しこうした方がいいのではないかという意見があれば教えてください。</p>	<p>私たちも余裕がなくて。学校のものは見ているが。しないよりはいい方だと思う。</p>

<input type="checkbox"/> 連絡のやり取りは問題なかった？ <input type="checkbox"/> ケース会議にも保護者に参加する形は？	問題なかった。 必要なことだと思う。
---	-----------------------

## I - 5 関係者による成果と課題の記述

### I - 5 - 1 教育委員会としての成果と課題

#### (1) 青森県教育委員会

青森県教育庁学校教育課  
指導主事 淋代 秀樹

管轄する3校に日本語支援員と多文化共生スーパーバイザーが派遣されている。オンラインを活用した日本語指導が行われるなど、生徒の実態に応じた日本語支援が行われ、在籍校において安心して学校生活を送ることができる一助となっている。在籍校の教員との連携も図られ、教職員支援機構が実施する「日本語指導者養成研修」を受講した教員もおり、その研修成果の波及が期待される。

一方、外国人生徒への対応及び指導が一部の教員によってのみ行われている学校もあるなど、学校全体で取り組む体制づくりが今後必要である。

県教育委員会では、日本語指導が必要な外国人児童生徒に対して指導を行っている教員等を対象として、「日本語指導が必要な児童生徒担当教員等連絡協議会」を開催し、日本語指導の在り方等についての講義及び協議を行うことで指導力の向上を図るとともに、県内において日本語指導に当たる教員等の連携強化を図った。

文部科学省が実施する「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」から、本県で生活する日本語指導が必要な外国人児童生徒数は増加傾向にあり、このような児童生徒が将来にわたって本県に居住し、共生社会の一員として、またグローバル人材として、今後の青森県を形成する存在であることを前提に、適切な指導・支援の下で将来への現実的な展望がもてるよう、令和4年度から「AOMORI 多文化共生推進事業」を実施する予定である。

今後も、県立学校に日本語指導が必要な外国人生徒の入学が考えられることから、外国人生徒の受入れから卒業後の進路まで一貫した指導・支援体制の構築を図るとともに、当該校に在籍する日本語指導が必要な外国人生徒が安心して学ぶことができるよう、県内関係機関と連携して日本語支援プログラムを実施し、きめ細かな切れ目のない指導体制の充実を図ることが大切である。

## (2) 青森市教育委員会

青森市教育委員会事務局指導課  
主任指導主事 工藤 哲也

令和3年度において、青森市には、管轄する小・中合わせて5校に日本語支援員と多文化スーパーバイザーが派遣されており、日本語指導を必要とする児童生徒に支援していただいている。その他、教育委員会では、日本語指導が必要な児童生徒が在籍している学校に、コミュニケーション支援として、翻訳アプリ等ICTを学校へ貸与したり、言語を得意とする教員を配置するなど様々工夫を凝らしてきた。その結果、日本語支援員と多文化スーパーバイザーが派遣されている小・中学校からの聞き取りから明らかになった成果については、

- 読み書きが苦手だった子どもが、支援員による子どもの実態に応じた丁寧な支援のおかげで、「勉強が楽しい」「授業が分かる」といった声があり、教員からも学習に向かう姿勢が意欲的になったという報告が上がっていること
- ルビなしの教科書を読むことや計算能力の高まりが見られていること
- 月1回程度のケースカンファレンスを実施することで、児童生徒の実態や指導の方向性について、保護者を交えて話合することができることから、児童生徒及びその保護者に安心感を与えていること

などがあげられる。

課題としては、

- 市単独で、日本語指導が必要な児童生徒への支援を考えた時に、英語のみならず、様々な母国語を話す児童生徒が増加していることから、必要な指導・支援を行うことのできる日本語指導担当教師等の人材を確保すること及び適切に配置すること
- 多くの生徒が、日本の高校への進学を希望していることから、受験に向けた学習面等の支援をすること
- 上記2つを可能とする予算を確保すること

などがあげられる。

今後は、「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」の弘前大学教育学部多文化リソースルームの取組が充実していたことから、市単独で同様の支援ができるよう指導体制を整えることが喫緊の課題である。

### (3) 弘前市教育委員会

弘前市教育委員会 教育センター  
指導主事 村元 治

弘前市教育委員会では、本事業と連携し、教職員及び日本語指導支援員を対象とした「外国につながる子どもの教育に関する研修会」を実施している。今年度は、研修会を2回実施し、延べ14人が参加した。青森大学総合経営学部准教授の石塚先生からは「外国につながる子どもが抱える不安」について、弘前大学教職大学院の吉田准教授からは「多文化共生の教室をつくる」について、御講義いただいた。

本市では、独自に日本語指導支援事業を実施し、これまで日本語指導の在り方を中心に研修を重ねてきた。本事業と連携することで、日本語指導に加え、外国につながる子どもの受入について、更には、多文化共生の集団づくりへと視野を広げた研修を行うことができた。

また、今年度開催した「高校進学ガイダンス2021」には、中学校の生徒及び保護者に加え、小学校の保護者も参加した。本市では、これまでも日本語指導を受けた生徒が高校へ進学したことはあったが、在留期間によって受験の対応が厳しいケースも見られた。

今回のガイダンスにより、児童生徒及び保護者にとって、教育制度について理解するとともに、高校進学に向けた見通しをもつ機会となったことは、大きな成果である。

最後に、弘前大学多文化リソースルームの活用についてである。昨年10月、中国から市立小学校に転入生があった。学校は受入に際し、校内における日本語指導担当教諭を設置して対応するとともに、地域の学びの場として、弘前大学多文化リソースルームの活用を提案した。その結果、対象児童は、放課後を日本語及び多文化理解の学びの時間として有意義に過ごすことができている。また、本市派遣の日本語指導支援員は、弘前大学多文化リソースルームから、初期日本語指導のための教材を借りながら支援に当たっている。

#### (4) 平川市教育委員会

平川市教育委員会指導課  
指導主事 坂本 寛実

本市では、管轄する1校に日本語指導支援員（兼多文化スーパーバイザー）と学校生活支援員が派遣されている。

本市には今まで日本語指導が必要な児童生徒の在籍がなかったため、日本語指導のノウハウが全くない状態であった。そんな中、新年度より2名の児童がアメリカから急に転入することになったため、4月にリソースルームに相談し、すぐにDLAの実施とそれに基づいた指導計画の立案・見積もりをしていただき、5月には支援を始めることができた。各支援員が2名の児童の実態に合わせた適切な支援をしてくださり、児童らの日本語のスキル向上に加えて、登校意欲向上につながった部分も大きく、大変感謝している。

また、学校（管理職・学級担任）、保護者、各支援員（3名）、教育委員会を交えたケース会議を定期的に行って支援の方向性を検討したり、必要に応じて、リソースルームと教育委員会でZoom会議を開いたり、支援員から提出された報告書を基に教育委員会から学校に指導したりと連携を密にして日本語指導を進めることができ、本市の日本語指導について形作ることができた。

一方、課題としては、

- (1) 日本語に関わらず、児童が勉強へ気持ちが向かない日が多く、支援員が予定していた日本語指導が行えなかった。
- (2) 児童の遅刻や欠席があり、支援員が予定していた日本語指導が行えなかった。
- (3) 学習言語が身に付くまでにはまだまだ時間を要するという支援員の見立てと、学級担任の生活言語が1学期間でだいぶ身に付いたので、抜き出しの日本語指導は必要ないのでと考えているという認識に差が見られた。
- (4) 学校が時間割を動かさないとのことで、国語の時間に抜き出しの日本語指導を行うことがうまくできなかった。
- (5) 大学院生による教室に入り込みの支援の場合、日本語指導が必要な児童への支援だけでなく、他の児童も含めた学習支援を学級担任が求めてしまっていた。

の5点が挙げられるが、2学期途中から課題解決が図られていき、この2名の児童については、来年度以降は、リソースルームの支援員に頼らずとも学校が自立して指導できる体制が整ったと思われる。



(5) 五所川原市教育委員会

五所川原市教育委員会学校教育課

指導主事 黒滝 智司

管轄する■■■小学校に日本語支援員とスーパーバイザーが派遣されている五所川原市教育委員会より、その成果と課題についてご報告いたします。

まず、成果についてですが、スーパーバイザーの助言のもと、初めに学校生活に適應するための支援、次に日本語支援という2段階で支援を計画し、実施できたことが、当該児童にとって、効果的な支援になったのではないかと考えます。当該児童はとても恥ずかしがり屋で、当初学校生活を送れるのか不安がありましたが、スーパーバイザーの助言により、母語支援員を活用して学校生活に適應させる支援を実施したことで、当初危惧していたことが払拭され、予想よりも短期間で学校生活に適應することができたようです。

2つ目の成果としては、専門知識を有した日本語支援員が派遣されることによって当該児童に対し、効果的な日本語支援及び指導がされていることです。当該児童の現時点での日本語の習得状況を把握し、何を、どのように、どのようなレベルで指導すればよいか、またどのような側面から支援すればよいかなど、スーパーバイザー及び日本語支援員が専門的見地から判断し、効果的な指導・支援がされています。

次に課題についてですが、まずは、外国人児童生徒が転入することによる支援員の人件費等の予算確保です。今回は1名のみでの転入で、さらに1月から3月までの短期間ということもあり、柔軟に対応していただきました。五所川原市教育委員会としては、いつ外国人児童生徒が転入し、日本語支援員を必要とするかわからない状態で、予算を確保することはとても難しいことですが、今回と同じようなことを想定して、事前に財政課等の担当課とも話し合い、連携をとっておく必要があると思っています。

2つ目の課題としては、当初、日本語支援員の派遣はどこに、どのようにお願いすればいいのかの情報が全くなく、多文化リソースルームにたどり着くまでに、数日を要したことです。今回は冬季休業中ということもあり、時間的に余裕がありましたが、長期休業中以外の場合には、より早急に対応する必要があります。事前に当ルームの存在を知っていれば、日本語支援員をよりスムーズに導入できたのではないかと思います。そのために、例えば年1回、各市町教育委員会に多文化リソースルームの情報をメール等で送付するなど、情報を提供していただくと、いざという時に即座に対応できるのではないかと思います。

今回、平川市教育委員会から情報提供や助言をいただくとともに、行政上の課題等を共有することにより、日本語支援員をスムーズに導入することができました。横のつながりについても、非常に重要であると感じました。これからも他自治体とも連携しながら、多文化共生に向けた日本語指導の充実に努めていきたいと考えています。

(6) おいらせ町教育委員会

おいらせ町教育委員会学務課指導室  
室長 中村 光博

管轄する1校に多文化スーパーバイザーが派遣された。

今年度は、アフガニスタン国籍児童2名への日本語指導担当教員1名が加配され、国語、社会、算数の個別指導を行ったが、当該児童の母語がパシュトゥー語であったため、日本語指導担当教員の負担が大きかった。

本事業の支援によって、週2回、1回4時間のスーパーバイザー派遣が行われ、スーパーバイザーと連携することにより、より個に応じた寄り添った支援が行われた。

今年度の成果としては、日本語指導教員に加え、学級担任等にもスーパーバイズしていただくことで、児童理解の一助となるとともに、教員の指導力向上につながったことが1つ目である。行事参加等に係る事前指導や、当該児童に指導したことを家庭に説明する場面の伝え方や配慮等について苦慮していたが、文化の違い等配慮すべき事項の助言や通訳の手配など、家庭との連携場面では大変心強い支援をいただくことができた。

次に、拠点校会議等では、各校や各教育委員会の取組に関する情報交換が大変有意義であった。当町では、拠点校の他にも米国や台湾、パキスタンに国籍をもつ児童生徒が在籍しており、他市町村の取組は参考になった。

さらに、拠点校とは別の学校における台湾国籍児童のビザ延長手続きに関して、当該児童の複雑な家庭環境に起因する困難な状況に際し、多文化リソースルームの取り計らいにより担当部局からの有益な情報を得て、保護者に適切に助言することができた。

課題としては、日本語指導が必要な児童生徒の教育支援には、地域による大きな格差が存在していると言われるが、このことは当町にも当てはまった。管下の学校には、前述のアフガニスタンと台湾の他にパキスタン国籍児童が在籍していたが、学校外に担当教員や支援員を確保することが難しく、校内の教員で取り出し授業等で支援を行った。それでも児童生徒の理解は進むものの、母語が英語以外の場合は担当教員の負担は大きいものがある。

また、本事業の支援をいただくことで教員の資質向上を図り、いずれは支援なしでも日本語指導を充実できるようにしていきたいと考えるが、母語が多岐にわたるとともに、少数言語への対応や教職員の異動、予算の確保等市町村の対応では限界がある。

このような現状の中、センター機能を発揮し、また、適切かつ迅速に支援の手を差し伸べてくださった多文化リソースルームの存在は大変ありがたかった。

今後も日本語指導が必要な児童生徒にきめ細やかな支援をしていくために、本事業の継続は必要と考える。今年度、本事業の当町への支援に感謝し、成果と課題の報告とさせていただきます。

## I-5-2 研究拠点校としての成果と課題

### (1) 青森市立■■■小学校

青森市立■■■小学校  
教頭 ■■■ ■■■

#### 児童の主体的な学びを目指した支援

##### 1 日本語支援の現状

本校の日本語支援対象の児童は4年生男子1名である。この児童に対し、週3日2～3時間の支援員による指導を行ってきた。

これまでの支援員の指導の下、日本語を使った口頭でのコミュニケーションがスムーズにできるようになってきた。反面、文字を読んだり、そこから自分なりの考えをもち表現したりすることを苦手としていた。口頭でのコミュニケーションに不自由を感じなくなったことから、児童本人の、日本語習得の必要感が低下しているのではと考え、本人、保護者と面談を行った。

面談では、本人保護者とも日本の高等学校や大学に進学したいとの意思を確認した。さらに、日本と中国をつなぐ職種に進みたいとの希望も知ることができた。そこで、そのためには口頭だけではなく、文字を使ったコミュニケーションの力や、自分なりの考えをもち日本語で表現する力が必要になってくることを確認し、今後の方針とした。

現在は、国語科を中心としながらも、そこで学んだ知識や技能を活用し、考え・表現する力を育てるため、他教科の指導も取り入れている。

##### 2 児童の言語指導における課題

本児童の課題は、学ぶ事への目的意識の低下と捉えている。そのため、毎日の学習をやりっ放しにするのではなく、学んだ成果を他者に伝達する場を意図的に設定している。本校では、支援員だけに任せるのではなく、1日の支援が終わった後に、職員室にいる教務主任や教頭に学習の成果を表現させる場を設けている。これにより、短期的ではあるが学習への主体的な意欲を喚起している。

また、総合的な学習や外国語活動において、中国の文化を紹介する場を設けることで、自国への愛国心やより分かりやすく相手に伝える意識を高めるようにしている。

今年度は、支援員と学校が日常的に本児の情報交換を行い、協力して手立てを講じる体制づくりを行った。今後、より多様な支援について取組を深めていきたい。

## (2) 青森市立 小学校

青森市立 小学校  
教頭

### 1. 日本語支援員による支援の実際とその成果

本校では、日本語支援を必要としている児童は、3名在籍（1・3・5学年）している。この3名に対して、週3～4日（授業時数5～6時間）日本語及び母語支援を行っている。これまで、それぞれの児童の発達段階や言語能力の実態を把握し、個々の能力に応じた支援を継続してきた。特に、具体的な支援内容の例としては、

- ・ 校内の月例テスト（漢字・計算）へ向けて、個々の能力に応じた自作テストを作成したり、漢字の家庭学習課題を出したりした。
- ・ 日本語の発話について、個別指導を行った。
- ・ 長期休業中に日本語の復習を行い、休業明けの学習にスムーズに取り組めるようにした。
- ・ 家庭学習で、カタカナや繰り下がりのある引き算等の予習や復習をした。

等が挙げられる。その結果、次のような成果が得られた。

- 日本語指導の取り出し回数が減少してきた。漢字学習に意欲的に取り組めるようになった。
- 表情が明るくなり、「勉強が楽しい」と前向きな姿勢が見られるようになった。
- 昨年よりも、自らの意思表示を積極的にできるようになった。
- 計算能力が高まったり、ルビ無し教科書も少しずつ読めるようになったりしてきた。
- 板書をノートに書き写す作業に一生懸命に取り組んでいる。
- 「できる喜び」を体感することにより学習意欲が向上したり、生活場面や遊びを通して友達との関わり合いが増えたり、よりよい人間関係づくりの構築に結びついた。

また、4月に入学したばかりの1学年児童は、入学前に言語指導が行われなかったにも関わらず、教科書を音読したり、日本語学習への抵抗感もなく、他の児童と同じように前向きに学習に取り組んだりする姿が見られた。

### 2. 児童への言語指導における残された課題について

本校における日本語支援が必要な児童への教育支援を継続している中で、日常的に感じている課題としては、

- ・ 児童への日本語支援は、国語科の教科学習と同様のものとしては扱えない分野であり、教科学習の中で、個々の児童に対応した日本語支援を行うことは教科担任にとって、負担は大きい。支援員との連携による体制整備が重要である。
- ・ きめ細かな日本語・母語指導には、個々の児童の変容や学習成果について、学担と支援員が情報共有するなど、連携することが重要である。しかし、日常の指導においては、その時間設定が難しい。

が挙げられる。今後は、日本語支援員と学担との連携の在り方について、具体的な方策をもとに、さらに指導の充実に努めていきたい。

### (3) 青森市立 中学校

青森市立 中学校  
教諭

#### 1 支援の概要

2年生の生徒のために、多文化スーパーバイザー、母語支援員、日本語支援員の派遣を受けて、本校職員と連携しながら日本語支援や母語支援を行ってきた。また、定期的に本校において、学年職員と多文化スーパーバイザー、母語支援員、日本語支援員とともにケース会議を行ってきた。

#### 2 支援の成果

##### ・日本語支援について

1週間に2日、1日当たり2時間の支援を受けてきた。日本語支援のおかげで漢字を書くことに少しずつ慣れてきており、黒板の板書をノートに書き写す事ができるようになってきている。また、日本語支援の中でも教科の内容についても少しずつ支援してくださっており、生徒も会話で自分の伝えたいことが伝えられるようになってきているので、授業が終わった後に、よく理解できなかったことを教師に質問するようになってきている。

##### ・母語支援について

夏休みまでは1週間に2日、1日当たり2時間、夏休み終了後からは1週間に1日、2時間の支援を受けてきた。社会や理科など、日本語でなかなか理解が難しい教科特有の用語や学習内容について、母語で説明してくださるので、本人の学習内容の理解に役立っている。特に、教科担当の教師と今後の授業の進度等について連携を密にしながら、生徒がつまづき やすいところ、少しずつ理解が進んでいるところなどを情報交換しながら支援を行ってくださるので、本校職員としてもとても助かっている。

##### ・ケース会議について

半期に1度程度、本校で行っている。支援員からは日本語支援、母語支援の状況について説明があり、主に学級担任から学校内での生活の状況について説明するなど、本校職員と支援員との情報共有の場として役に立っている。また、11月に行われたケース会議では、ご両親にも参加していただき、家庭での過ごし方や中学校卒業後の進路についての考えも直接お話を聞くことができ、とても有意義な会議になった。

#### 3 支援の課題

##### ・日本語・母語支援について

夏休みまでは、1週間に4日、1日あたり2時間ずつ学校の時間割内に支援の時間を設定してきた。しかし、毎週同じ時間に支援の時間を設定しているため、同じ教科の授業から抜けること

になり、授業から遅れていくことになる。そこで、夏休み後から放課後の時間に支援を行うようにしたが、支援が終わる夕方6時頃は冬期間だと完全に日が暮れており、保護者に迎えに来てもらうなどの対応をとってもらっているが、保護者の負担もなかなか大変だと感じている。

・ケース会議について

前述のようにとても有意義な会議なのだが、学年職員と支援員の方との会議日程の調整が難しい。

・その他学校として感じている課題

定期テストでは、日本語支援や母国語支援のおかげで、少しずつ語句の意味などは理解できるようになってきているとはいえ、問題文の意味を考えたり、問題文中の漢字を読み取ったりすることは難しいと考え、テスト問題文中にふりがなを振る、他の生徒とは別のテスト問題を準備するなどの対応をとってきたが、模擬テストについてはこのような対応をとることはできず、また、県立高校の入試では、日本語支援が必要な生徒に対しても特別な配慮はないということだったので、今後、定期テストについてもどのように実施していけばよいのか検討中である。また、進路指導についても、まず私たちがどのように支援していけばよいのか、生徒、保護者の意向をよく聞きながら検討していかなければならないと感じている。

(4) 青森市立 中学校

青森市立 中学校  
校長

本校では、1学年に在籍する中国籍の生徒のために、多文化スーパーバイザーの計画と助言のもと、日本語支援員、母語支援員、生活支援員の派遣を受け、連携しながら支援に取り組みました。当該生徒が2学期いっぱいまで転出したため、短い期間ではありましたが、その成果と課題について紹介します。

### 1 成果

当該生徒の入学にあたり、入学式から1週間程度のオリエンテーション期間中は、学級での活動やテストなど、日常の授業とは異なる場面が多く、与える情報量も多いことから、母語支援員（通訳）に教室に入ってもらい、直接支援していただきました。その間、学級担任とのやりとりや学級の生徒とのやりとりに慣れることができ、その後は、母語支援員の支援は減らすことができました。日本語支援については、国語、社会の時間に取り出し支援をしていただきました。本人の意欲が高く、端から見ても日本語能力の向上がわかるほどでした。おかげで、日本語支援については、1学期で完了することができました。夏季休業中は、大学生の生活支援員が、2学期以降、国語や社会の授業内容が理解できるよう、基礎基本から支援していただいたおかげで、2学期からは国語、社会の授業にもスムーズに入ることができました。また、スーパーバイザーについては、各種支援員の派遣にかかるスケジュール調整やケース会議の設定にも尽力していただき、校内での共通理解を円滑に行うことができました。

### 2 課題

課題としては3点挙げられます。1点目は、情報の少なさです。スーパーバイザーや支援員からは、学校で行うべき支援についての情報が提供されますが、本県での事例も少なく、なかなか本校の実態に合致した事例を探ることができず、学年、学級担任が苦勞することが多かったようです。2点目は、共通理解の頻度です。定期的にケース会議を実施していただきましたが、頻度を増やすことで、その都度タイムリーな支援について共通理解を深めることができるのではないかと感じました。3点目は、本校での支援を「多文化共生」まで深めることができなかったことです。当該生徒の特性にもよりますが、毎日の授業だけでなく、行事を通して、学校が意識的に「多文化共生」について働きかける必要性を感じました。

(5) 青森県立 [ ] 高等学校

青森県立 [ ] 高等学校  
教頭 [ ] [ ]

1. 支援の実際

高校 2 年生のために日本語支援員と多文化スーパーバイザーの派遣を受けて、連携して日本語支援に当たっている。月曜日は対面指導で、火曜日・木曜日は Zoom を活用し、オンラインによって日本語支援を受けている。普段の学校生活は、日本人と同じように授業を受けており、本人や保護者の要望もあり、取り出し指導は行っていない。授業や学校生活の中で、本人が理解できなかった内容や語句の意味について質問しにくるので、その都度適宜対応している状態である。また、オンラインでの支援後に理解が追いついていない部分についてフォローしている。

2. 支援の成果

成果としては、本人が目標としていた日本語能力検定 N2 合格が挙げられる。合格したことで本人の意欲も高まり、自信をもって取り組むようになった様子が見えてくる。話すことや聞くことに関しては、語彙力の向上で日本語運用能力に自信がもてたこともあり、クラスの中でもより広い人間関係の中で、より積極的にコミュニケーションを図っている様子も目にするようになった。読み書きについては、依然として課題は多く残るが、書くことのできる文章量の増加、適切な助詞の使い方が少しずつ身についてきている。

3. 支援の課題

担任と教科担当者との連携を密にし、教科担当者と本人とで面談しながら、普段の授業や考査を作ったり、評価を工夫したりしている。しかし、高等学校では、教科・科目が、より多様かつ専門的な内容となることや、それに伴い学習用語の難度が高くなること、また、近年の大学入試改革で国語や社会科目に限らず理数教科でも読解力が求められ、普段の授業や考査の中でも読解力が必要となることから、日本語能力の未熟さによる影響が少なからず出てきている点で課題があるといえる。また、オンラインでの指導での課題として書くことの支援が課題であった。2022 年に入ってから書画カメラを利用させていただき書くことの指導も少しずつしていただいている。書画カメラの導入で少しずつでも改善が図られることが望ましいと考えている。

高校生への指導として課題になってくるのは、進路指導についてである。日本の高校に通う外国人生徒向けの入試制度をもっている学校が多くはない。その中で、書く力がまだ身につけていないことや、小論文向けの書く力、面接向けの話す力の育成にまで追いついていないことが挙げられる。進路指導において私たちがノウハウを持っていないことも課題であるといえる。これまで外国人児童生徒が学校に在学していなかったこともあり、今回の事業で、日本語指導のための指導の方向性を考えられたことは、学校としていい機会となった。一方で、外国人生徒への対応について負担になることも大きい。

今後も日本語支援員と多文化スーパーバイザー と情報を共有しながら、学校としても指導のノウハウを蓄積し、支援・指導の充実に努めていきたい。



(6) 青森県立 [ ] 高等学校

青森県立 [ ] 高等学校  
教頭 [ ] [ ]

1年生の外国人生徒のために日本語支援員と多文化スーパーバイザーの派遣を受けて、連携して以下のように取り組んだ。

今年度、本校に2名の外国人生徒が入学してきた。支援が必要な生徒はアフガニスタン国籍の生徒である。アフガニスタン生徒が日本の学校に通い始めたのは、中学2年生からであったため、日本語が上達できていないうえに、自学自習が基本である通信制のシステムについていけるか心配があった。

弘前大学の吉田准教授のご厚意により、6月から月に3～4回程度、明日山様に生徒の支援を行っていただくことになった。初めは日本語指導がメインだったが、提出期限のあるレポート作成に困難を抱えていたため、学習に必要な漢字を中心に語彙を増やす指導をしていただき、レポート作成に役立てた。

生徒は内向的な性格であり自分から質問するタイプでない。その為、支援日程や持ち物の確認等、積極的に声掛けする必要があった。また、支援には保護者（父親）との連携が不可欠と考え、学校に来ていただいて面談したり、きめ細かな電話連絡等を行って理解に繋げた。それから、父親は学校に対してとても協力的となり、学校の送迎についても時間が合えば引き受けてくれるようになった。生徒についても、支援当初は時間に遅刻したり、無連絡で欠席したこともあった。しかし支援を続けていくうちに、そのような行為は無くなり、欠席する際は事前に電話連絡できるようになった。また、学習に対する姿勢にも変化が見られ、レポート作成やスクーリングの出席も積極的になった。さらに、遠足等の特別活動にも参加し、少しであるが日本人生徒との交流も図れるようになった。令和3年12月に予定していた帰国が叶わず、1月の後期試験を受験することができた。（帰国すれば、試験を受験できなくなり進級ができなかった。）1年次における全単位の修得はできなかったが、2年次への進級を決めることができた。日本語も、入学当初よりはかなり上達し、支援の成果が大きく表れた。しかし、2年次では履修単位が増え内容も難しくなるため、スクーリングでの支援や外国人生徒に配慮した資料等の作成が課題であり、全教職員で共通理解を図っていくことが課題である。また、高校卒業という資格について、どれだけ真剣に捉えているか疑問になる場面があるため、生徒や父親との面談を計画し、今後の学校生活や帰国に関する事等についてしっかり意見交換し、指導に役立てていくことが課題である。

(7) 青森県立 [ ] 高等学校

青森県立 [ ] 高等学校  
教頭 [ ] [ ]

2年生の生徒のために日本語支援員と多文化スーパーバイザーの派遣を受けて、連携して次のように取り組んだ。

①日曜日

スクーリングでは履修科目を昨年同様15単位前後に絞り単位修得を優先させた。

午前中、生徒と一緒に支援員に授業に参加して補佐をしていただき、また空き時間は別室で日本語支援をしていただいた。

②月曜日

昨年から継続して、午前2時間本校において支援員による日本語の勉強をした。

後半は会話すること、人前で話すことにも挑戦している。

授業担当者によるレポート指導や授業の補充を1時間程度行っている。

**成果**

年度当初は初めての授業が多く、授業にもスムーズに参加できないこともあったが、支援員の補助があったおかげで授業に参加できるようになった。支援員との関係が良好でスクーリングの他に遠足、ボウリング教室、学校祭等の学校行事でも支援していただき、行動面での幅も広がった。

また、来年度、校内生徒生活体験発表大会に参加させたいと思っていたところ、人前で発表することの体験もさせていただいて効果が上がっていると思う。

**課題**

学習面

高校生としての学力はかなり劣っているが、黙々と取り組む姿勢は持ち合わせているので履修した科目は修得できている。ただ、今後は国語を始め修得が厳しいと思われる科目も履修していかなければいけないので学習面での課題は多い。

来年度から、新入生用の学校設定科目である「数学入門」、「英語入門」を開設するので、卒業に必要な74単位修得に向けて、特別に履修させる予定である。卒業まで5～6年かかるので精神的に持続できるかどうか心配している。

生活面

国民性もあるのか時間にルーズなところがあり、何度か遅刻や忘れ物をして授業が欠席扱いになることがあった。

家庭での会話がネパール語で日本語を使う場面が極めて少ないことから、日・月以外に

も、弘前大学でいろいろな体験をしながら日本語の使い方や社会生活を体験させていただいている。しかし、1人で出来るようになるまでにはもう少し時間がかかるのではないかと思う。

また、積極的に話しかけてくれる生徒がほとんどいない中で、支援がなくなっても続けることが出来るかを心配しており、支援が継続される事を期待している。

## II. 高校進学ガイダンス

令和3年度、弘前大学教育学部多文化リソースルームは、令和3年度、青森県で初めて、母語通訳を入れた「外国につながる子どもと保護者のための高校進学ガイダンス」を実施した。ここでは実施した企画の概要及び成果と課題を述べるとともに、青森県教育委員会、弘前大学教育学部多文化リソースルーム、NPO 法人みちのく国際日本語教育センターの三者で、「青森県の高校進学ガイダンスとその背景」と題してME-net フォーラム（令和4年2月27日開催）で発表した際のスライドを資料として集録する。

### (1) 企画の概要

他県での高校進学ガイダンスの開催についての情報を、青森県の研究拠点校の児童生徒に関わる支援員や市町村教育委員会指導主事の「子どもや保護者が日本での高校進学について十分理解していないようだ」という声を踏まえて、令和3年度に青森県では初めて母語通訳付きの高校進学ガイダンスを実施した。コロナ下であるため、全面的にオンラインの開催となったが、日本語を母語としない中学生、その保護者、中学を卒業して来日し高校進学を目指している子ども、小学生のいる外国人保護者など、12名が参加し、4言語の通訳が入って実施された。

内容は、多文化リソースルームのスタッフによる日本の高校全般についての説明、青森県教育委員会による県立高校入試の説明、外国につながる先輩の高校生の体験談と、質疑が主な内容であった。やさしい日本語での全体説明と、言語別のブレイクアウトルームに分かれての通訳と質疑を繰り返す形態であった。資料の多言語化はできず、通訳に大きく頼る形での実施となった。ブレイクアウトルームで出された質問については全体場で答え、再びブレイクアウトルームに戻った際に説明された。「外国人用の入試ってあるんですか?」、「調査書って何ですか?」、「特別な配慮って何かあるんですか?」などの質問が出された。

事後には、スタッフを対象にアンケートを実施した。

表II-1 令和3年度 青森県 外国につながる子どもと保護者のための高校進学ガイダンス概要

趣 旨	日本語を母語としない小中学生や外国人保護者を対象として、日本の高校についての説明、高校の入試制度を中心として情報を提供し、相談に対応する。
主 催 等	主催：弘前大学教育学部多文化リソースルーム 共催：青森県教育委員会 後援：青森県国際交流協会 青森市教育委員会 弘前市教育委員会 八戸市教育委員会
日 時	令和4年1月22日（土）13：00～16：00
開催方法	オンライン（Zoom 会議室） やさしい日本語での全体説明 → ブレイクアウトルームでの母語通訳と質疑 → やさしい日本語での全体説明 → ブレイクアウトルームでの母語通訳と質疑 を繰り返す形態
対 象	日本語を母語としない小中学生、保護者

内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の教育制度と高校進学の意味（多文化リソースルーム）</li> <li>日本の高校の種類（多文化リソースルーム） 公立／私立 全日制／定時制／通信制 普通科／専門学科／総合学科</li> <li>県立高校入試（青森県教育委員会）</li> <li>外国につながる高校生の体験談（外国につながる先輩） 中国出身の県立高校生、フィリピン出身の私立高校生</li> <li>質疑</li> </ul>
通訳言語	中国語 タイ語 タガログ語 ネパール語 英語（ただし当日欠席のため実施せず）
資 料	多言語資料なし。多文化リソースルーム作成スライド、青森県立高校の入学者選抜要項の抜粋・ルビふり版を事前配布。
参 加 者	中学生 6人 保護者 6人（生徒のみ、あるいは、保護者のみの参加が多かった） 高校生 3人 通訳 4人 スタッフ 14人 参観者 7人

## (2) 成果と課題

次の点が、成果として挙げられる。

- 母語通訳を入れたことで、日本語を母語としない子ども及び保護者に、基本的な情報を伝え、質疑応答することができたこと。
- 青森県在住の外国出身の保護者や子どもたちが、母国と違う教育制度・入試に不安を覚え、情報不足の状況に置かれていることが可視化されたこと。
- 青森県教育庁全体で課題意識を共有し、市町村教育委員会からの問い合わせに柔軟に対応することができるようになったこと。
- ガイダンスの開催を通じて、関係者の連携ができたこと。

一方、課題としては、次の事項がある。

- 初めての企画であり、コロナが深刻な影響を及ぼす中、年度の終わりの時期の開催となったこと。秋に開催する方向で検討する必要がある。
- 入試に関する資料の多言語化。日本語資料のみでは、通訳への負担が大きく、説明にも時間を要する現状がある。
- 提供すべき情報の精査。限られた中で伝えるべき情報を絞り、質疑応答の時間を多くとれるような運営が望ましい。
- 今回、関係者の連携はできたが、より効果的な開催に向けてさらに連携の深化が必要である。

今回のガイダンスを契機として、外国につながる子どものキャリア支援のために、高校入試や入学後の支援についても、さらに対話を積み重ねていきたいと考えている。

次ページから、当日の資料や、アンケート結果等も含まれている ME-net フォーラムでの共同発表のスライドを、資料として掲載する。

吉田 美穂（弘前大学）

2022年2月27日 ME-net フォーラム

## 青森県の 高校進学ガイダンスと その背景

青森県教育庁学校教育課 指導主事 淋代 秀樹  
弘前大学教育学部多文化リソースルーム 吉田 美穂  
NPO法人みちのく国際日本語教育センター 明日山幸子

1

## 初めての高校進学ガイダンス

- ・令和3年1月22日(土)13時~16時
- ・主催:弘前大学教育学部多文化リソースルーム  
共催:青森県教育委員会  
後援:青森県国際交流協会、青森市教育委員会  
弘前市教育委員会、八戸市教育委員会
- ・対象:日本語を母語としない小中学生、保護者
- ・場所:オンライン(Zoom会議室)
- ・言語:中国語 タイ語 タガログ語  
ネパール語 (英語)
- ・参加者:中学生 6人 保護者 6人  
高校生 3人 通訳4人 スタッフ14人  
参観者 7人

2



### 内容

- ・日本の教育制度と高校進学の意味
- ・日本の高校の種類  
公立/私立  
全日制/定時制/通信制  
普通科・専門学科・総合学科
- ・県立高校入試(県教委)
- ・外国につながる高校生の体験談(中国、フィリピン)
- ・質疑

3

## 運営方法

- 全体で、やさしい日本語による説明  
↓  
言語別のブレイクアウトルームで通訳と質疑  
↓  
全体で、質問への応答、次の説明  
↓  
言語別ブレイクアウトルームで通訳と質疑
- ★資料は多言語化できず。日本語のみ、ルビつき

4

## 日本の教育制度



5

## 高校進学と卒業について

- ・日本では、100人の中学生がいて、そのうち99人が高校に進学します。
- ・日本で安定した仕事に就くには、高校を卒業することがとても大切です。
- ・高校を卒業すると、その上の大学などに進学する資格が得られます。

6

## 日本の高校の種類

**公立 (こうりつ)**  
 けんりつこうこう あおもりけん こうこう  
 県立高校：青森県が作った高校 (およそ 60校)

**私立 (しりつ)**  
 しりつこうこう みんかん こうこう  
 私立高校：民間が作った高校 (およそ 17校)

※令和3年4月1日現在

資料：青森県教育委員会 教育政策課 高等学校一課 (2021年11月10日 現在)  
<https://www.pref.aomori.jp/ja/sohshi/kyoiku/kyoiku/senkou/senkou.html>

7

## 入学試験 (入試) について

**公立 (こうりつ)**  
 いっぱん にゅうがくしけんばつ  
 ・一般入学者選抜

**私立 (しりつ)**  
 すいせん にゅうがくしけんばつ  
 ・推薦入学者選抜  
 いっぱん にゅうがくしけんばつ  
 ・一般入学者選抜

**専願 (せんがん)**：その高校だけ受検する。合格したら必ず入学する。  
**併願 (へいがん)**：公立高校が第一志望の場合、一般に私立と公立を受験する。

8

## 全日制・定時制・通信制

課程かてい	全日制ぜんにちせい	定時制ていじせい	通信制つうしんせい
通学日つうがくび	まいにち じゅぎょう 毎日 授業	まいにち じゅぎょう 毎日 授業	しゅう にち 1 回 じゅぎょう 週に1日程度 授業
授業時間じゅぎょうじかん	げつ ぜんぽう じつ (月～金曜日 ただし 土曜日も授業がある ことがある。)	げつ ぜんぽう じつ (月～金曜日 ただし 土曜日も授業がある ことがある。)	ほか 日 じゅぎょう 他の日は、自宅で勉強 する。 レポートを作成する。
卒業までの年数ねんすう	3 年	3 年以上	3 年以上

9

## 定時制・通信制の特徴

**<定時制>**

- 午後部や夜間部は、1クラスの人数が少なく、家庭的(homey)な雰囲気。
- 制服がない学校もある。

**<通信制>**

- 学校に行くのは週に1・2回程度。
- 日本語で書かれた教材を読んで、レポートを書く。
- 試験を受けて、合格すれば単位がとれる。

10

## いろいろな高校の種類

**一日に学ぶ時間数の違い**

全日制  
1日6時間前後

定時制  
1日4時間+α

通信制  
週1回程度のスクーリングと自宅学習

**学科による学ぶ内容の違い**

普通科  
机に座っての授業が多い

専門学科  
専門分野の実習が多い

総合学科  
選択科目が多い

×

11

## 学年制と単位制

<b>学年制 (がくねんせい)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年によって勉強の内容が決まっている</li> <li>学年で必要な単位数をとると次の学年へ進級 (単位がとれないと同じ学年に留年)</li> </ul>
<b>単位制 (たんいせい)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年の区別がない</li> <li>学年がないので、最後の学年まで留年はない</li> <li>卒業までに必要な単位数をとると卒業できる</li> </ul>

1時間の授業⇒1単位という

12





## 関係者の事後アンケート

高校進学について、改めてきちんと知ることで、自分も支援者として今後アドバイスができるようになると感じた。

進学ガイダンスの後は、前より日本の高校の入りかたがわかりました。

高校進学（入学試験）については、県によって試験科目数も違ったり、日程も違ったりします。長年本県に在住している方はある程度の情報をこれまでの学校生活で入手する機会もあるかもしれませんが、まだ来て日の浅い方たちにとっては、とても参考になると思います。体験者の話を聞くことができたことも良かったと思います。

日本人でも高校受験のシステムは大変複雑で理解が難しい。書類だけ渡されてもわからないことが多い。また、直接県教委の担当者に質問できたことも意義深いと思う。質問が様々出て、その内容から、進学や受験に関する情報を入手できていないことがよくわかったから。

中国語で参加くれた学生さんが4月に中3になります。今回のガイダンスがとても参考になりますと言われました。

私は、中学校1年生の日本語支援員をしています。高校受験を目標にして中学生生活を過ごしてほしいと思っています。ステップアップ出来ることを願っています。

高校進学について情報不足で困っている外国人の子たちにとって情報収集の良い機会であったと思ったから。

19

## 関係者の事後アンケート

まず、高校進学を希望する外国につながる子どもが青森県内にも多く存在し、彼らとその保護者がさまざまな不安や疑問を抱えているという事実を知ることができたからです。それらの不安や疑問を少しでも解消し、多くの人がサポートしてくれるということを感じられる場になったと思います。また、日本語支援に携わる者として、支援の目標や方向性を考えるために必要な情報を多く得ることができました。

母語で詳しく説明を聞くことができてよかったと思う。

これまで聞きたくも聞けない状況が続いていたと思うので、今回の開催はとてもよかったと思います。参加人数は少なくても、継続して開催してほしいと思いました。

初めてのオンライン企画と聞いておりました。その中で、フィリピンにルーツを持っている子供たちの3家族が参加されました。参加されたお母さんたちが言いました。「日本の進学を不安に感じております。“どこに/なにを/どのように”聞いたらいいかわかりません。」参加させて頂き感じました。ガイダンスは言葉のとおり“導く”。参加される子どもたちと家族の疑問に答えを与え、選択するための整理の手伝いをさせていただく働きと私は思っています。

日本語・日本の教育制度のことが分からない外国に繋がっている子供たちと保護者に対して、入試の準備するためには必要な情報や、書類などを共有できること。

ガイダンスの参加者の様子や質疑応答を聞いて、日本と諸外国との制度の違いが多々あり、それを知ると知らないとは全くその後対応が変わって来ると感じたからである。

20

## ガイダンス実施前の状況

### 進路についての情報はどこから？

- ・各中学校で行われる進路ガイダンス。
  - ➔日本人対象の説明会では、「日本人なら当然知っている基本的情報」については、改めて説明されない。
- ・三者面談等の機会に、個別に相談。
- ・それぞれのコミュニティで、経験者から。

外国人相談窓口・出前進路相談会 八戸国際交流協会主催(令1)  
-退職した教員が個別に相談に対応した。  
参加者の感想:時間をかけて相談することができ、自分の知らなかったことがたくさんあるという事が分かった。

21

## 今回のガイダンスの成果と課題

### 成果

- ・通訳を介して、基本的な情報を伝え、母語で質疑応答することができたこと。
- ・青森県在住の外国出身の保護者や子どもたちが、母国と違う教育制度・入試に不安を覚え、情報不足の状況に置かれていることが可視化されたこと。
  - 「外国人用の入試ってあるんですか？」
  - 「調査書って何ですか？」
  - 「特別な配慮って何かあるんですか？」
- ・関係者の連携が深まったこと。

### 課題

- ・実施時期の検討
- ・提供すべき情報の精査
- ・入試に関する資料の多言語化
- ・関係者の連携の深化

22

## 高校進学ガイダンス実現の背景

- ・R1 青森県教育委員会が、「日本語指導が必要な外国人児童生徒担当教員等連絡協議会」を開始
- ・R1 弘前大学・青森大学・青森中央学院大学の研究者が、「外国につながる子どもの教育支援研究会」を開始
- ・R2 弘前大学が文部科学省「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」受託し、多文化リソースルームを設置

23

## 弘前大学多文化リソースルーム

- ・調査
- ・研究拠点校へ支援人材派遣
- ・相談対応
- ・多文化リソースルームでの対面支援
- ・多文化キッズ交流会
- ・高校進学ガイダンス
- ・支援人材の育成—スキル・アップ講座の実施
- ・大学とくに教員志望者の日本語教育に関する知識・スキルの向上(日本語教育科目、教職大学院生の活用)

24

## 調査

- ・青森県内の外国につながる子どもの把握
- ・ひとりひとりの状況
  - 母語、来日時期、家庭内言語、国籍、保護者の国籍や日本語、書き能力、教科学習能力、支援員配置の有無、進学希望等
- ・学校として望む支援
- ・県内の教育委員会の取組の把握
- ・取組状況 予算 等



25

## 研究拠点校支援

- ・県内の小・中・高校へ、日本語支援員・母語支援員・多文化スーパーバイザーを派遣
- ・ケース会議を通して、学校と協働し、独自様式の「個別的教育支援計画・指導計画」を作成し、支援にあたる。
- ・一部の高校では、オンライン支援。

➡ 高校進学ガイダンスへ

26

## 教育委員会から見た 連携と高校進学ガイダンス

### 【連携】

- ・県教育庁全体で「外国につながる児童生徒支援」に対する課題意識を共有することができた。
- ・市町村教育委員会からの問合せに柔軟に対応することができるようになった。

27

## 教育委員会から見た 連携と高校進学ガイダンス

### 【高校進学ガイダンス】

- ・「外国につながる生徒」とその保護者が求める進路情報について、県教育庁として理解を深める機会となった。
- ・中学校における進路指導の在り方について今後の参考となった。

28

## 青森県教育委員会の取組



「AOMORI多文化共生推進事業」



『多文化共生まちづくり促進事業』の活用

### 【取組】

- 「日本語指導スタートアップパッケージ」による日本語支援の実施
- 中学生・高校生の進学・キャリア支援の充実のための取組
- 外国人保護者と学校の連携のための取組

29

29

## 散在地域での高校進学

- ・県内各地に、外国につながる子どもが散在。
- ・公共交通機関が弱く、冬季の通学範囲は限られる。
- ・特別枠や特別措置をどう考えるか…  
青森県は今のところ、特別枠はなく、特別措置については「個別に相談」  
入試 — 入ってからの支援
- ・ガイダンスを一緒にやったことを出発点に、対話を続けていきたい。

Equality ではなく Equity の発想に立つて…

30

### Ⅲ. 支援人材の養成に向けて

本事業においては、学校における日本語支援人材の養成について、様々な角度から取り組んでいる。本章では3つに整理して報告する。それぞれ研修の対象が異なるため、ここで確認しておきたい。

#### (1) 青森県日本語指導サポータースキルアップ研修

子どもの日本語支援に携わりたい人を広く対象とした研修講座である。

青森県では、青森県国際交流協会が、令和2年度から令和4年度の各年度に日本語サポーター養成講座を開催し、人材養成に努めてきた。しかし、この講座は、子どもの日本語教育に特化したものではないため、本事業で子どもの日本語教育に特化したスキルアップ研修講座を開催し、サポーター養成講座修了生・受講生だけでなく、広く、県内の支援者、教職大学院生、日本語教育を学ぶ学生、現職教員等が受講できるようにしたものである。

#### (2) 研究拠点校校内研修及び弘前市教育委員会研修

主として現職教員を対象とした研修である。

研究拠点校における校内研修と、連携する弘前市教育委員会主催の教員及び支援員対象の研修会がある。二つのタイプの研修プログラムを実施してきており、その両方を掲載した。

#### (3) 弘前大学における支援人材の育成—日本語教育科目と支援人材としての教職大学院生—

弘前大学内において学生や教職大学院生を対象とした取組である。

ひとつは、学部生や教職大学院生が幅広く履修することができるよう教養教育科目に設けた日本語教育科目の実践、もうひとつは、教職大学院生が学校生活支援員及び多文化リソースルーム支援員として活動することによる実践的な人材育成の取組である。

次ページから、それぞれ掲載する。

吉田 美穂 (弘前大学)

### III-1 青森県日本語指導サポータースキルアップ研修

多文化リソースルーム主催「青森県日本語指導サポータースキルアップ研修」を令和3年12月4日（土）と12月11日（土）の2日間で実施した。青森大学と（公財）青森県国際交流協会との共催で、弘前大学会場、青森大学会場、オンライン受講を設定し、対面とオンラインのハイブリッド形式で行った。（公財）青森県国際交流協会に登録している日本語指導サポーターおよび青森県内小中学校の関係者等を対象とした。テーマは「教科学習につなげるための日本語支援」とし、教科学習を理解するために必要な日本語をどのように教えていくかについて実践的に学んだ。詳細は以下の通りである。

#### （1）2021年12月4日（土）

〈午前の部〉9:00～12:10「教科につなげる中学生への支援を考える」

講師 樋口 万喜子（横浜国立大学国際教育センター非常勤講師）

頼田 敦子（横浜市教育委員会日本語講師）

〈午後の部〉13:00～16:10「リライト教材について」

講師 田所 希衣子（仙台市外国人の子ども・サポートの会代表）

#### （2）2021年12月11日（土）

〈午前の部〉9:00～12:10「教科につなげる小学生への支援を考える」

講師 樋口 万喜子（横浜国立大学国際教育センター非常勤講師）

加藤 真帆子（藤沢市教育委員会日本語指導員）

〈午後の部〉13:00～14:30「教科学習につなげるために」

講師 明日山 幸子（みちのく国際日本語教育センター副理事長）

石塚 ゆかり（青森大学日本語教育センター長）

12月4日午前は、中学生を支援する際に重要事項を簡潔かつ視覚的に伝える方法について具体的に学び、各教科でどんな工夫ができるかについてグループで考えた。午後は、リライト教材の作り方を学び、グループごとに「大造じいさんとガン」をリライトして発表した。12月11日午前は、小学生への支援の中で、書くことが苦手な子どもへの支援方法を学び、グループごとに2年生と4年生の国語の教科書から先行学習の方法について考えた。また、事前に支援員から集めた質問に対して、先生方から回答をいただいた。午後は、実際の日本語支援のはじめから終わりまでを確認し、グループで日本語教材をどのように教科学習につなげていくか話し合った。両日ともに午後は青森会場のみ対面で実施した。

参加者は、12月4日（弘前大学会場13名、青森大学会場19名、オンライン受講14名）が46名、12月11日（弘前大学会場14名、青森大学会場17名、オンライン受講13名）が44名で、延べ90名の参加となった。グループ発表の際に参加者全員で情報共有する方法として、Googleスライドを使用した。各グループにパソコン操作が得意な人を配置し、研修の中で行われたグループワークの情報を入力した。コロナの影響もあり、ハイブリッド形式で長時間にわたる研修となったが、熱心な参加者が多く、経験者も未経験者も一緒になって効果的な教え方について話し合う機会となり、有意義な時間とな

った。

研修後にアンケートを行った結果、「非常に現場に役立つ内容で、とても有意義だった」「講師の先生方の話は、課題解決のヒントになり、これから生かしていきたいと思った」「子どもたちとの関わり方やライトの仕方が具体的にわかり、とても勉強になった」「参加方法を選べたのは参加しやすかった」などの感想があった。一方で、「グループワークで Google スライドへの入力の方法に気持ちが流れてしまった」「演習は時間が短くあわただしく、未完に終わることが多かった」「日本語教育に関わる様々な方々が参加していたので、情報交換の時間等があればと感じた」などの意見があったので、今後の課題としていきたい。また、今後の研修で取り上げてほしいテーマを聞いたところ、「子ども達の保護者へのサポート・学校との連携」「小学校での支援における iPad などの活用方法、また注意すべき点」「支援・指導計画の立て方」「高校受験、地域とつなげるための工夫、行政とボランティアの隔たり」という意見があり、今後スキルアップ研修を企画する際に参考にしていきたい。

石塚 ゆかり（青森大学）

### III-2 研究拠点校校内研修及び弘前市教育委員会研修

#### III-2-1 研究拠点校校内研修「多文化共生に向けたユニバーサルデザインを踏まえた環境づくりと授業の在り方」

外国につながる児童生徒の支援を行っている学校のうち、令和3年1月15日に青森市立A小学校において、さらに、令和3年8月20日に青森市立B小学校において、全教職員を対象とした校内研修会を実施した。多文化共生の教室のための「ユニバーサルデザインを踏まえた環境づくりと授業の在り方」をテーマとしたが、これは「外国につながる児童生徒に対する支援」のみについての内容ではなく、外国につながる児童生徒を含め、すべての児童生徒を対象とするものとした。学級を構成している児童生徒の状態像はそもそも多様であり、「多様な子供たちを誰一人取り残すことのない個別最適な学びの実現や、その学びを支えるための質の高い教育活動を実施可能とする環境の整備の必要性」※を踏まえ、インクルーシブ教育システム構築の観点から、すべての児童生徒が安心して学べる全員参加の授業及び環境づくりについて講義・演習を実施した。以下はその内容の抜粋である。

#### 1 授業のUD（ユニバーサルデザイン）化のねらい

授業UDとは「特別な支援が必要な子を含めて、通常の学級におけるすべての子が楽しく学び合い『わかる・できる』ことを目指す授業デザインであり、指導の理念である。」とされている。

ともすると、これまでの通常の学級の授業は、定型発達の子供に指導することを前提として行われてきてはいなかっただろうか。また、「どのように教えるか」に重きが置かれていなかっただろうか。インクルーシブ時代の学習指導は「子供の学びを支える」という視点が必要である。

#### 授業UD化のねらい

「通常学級の授業を、本当に全員が分かる授業にするために、特別支援教育の考え方も生かして、授業づくりを見直すことがねらいである。」

日本授業UD学会 理事長 桂聖氏

#### 2 学習性無力感を生み出さない

一斉指導において、「この集団の真ん中ぐらいの学習レベル」に合わせて実施している授業が散見される。これでは、授業に参加できるのは理解が早い子供のみで、理解がゆっくりめな子供は参加できない。授業者は「授業内で個別指導を」と考え、最初から参加できないことを前提として授業が進んでいく。このような授業で「できない」「分からない」「やっぺらう」という経験が積み重なっていくと、自分の力で前に進もうとしなくなる「学習性無力感」の状態になってしまう。

「できない・わからない」が続くと・・・  
もともとのつまずきに加えて、二次的に登場する

できない経験を繰り返すと・・・	→	がんばろうとしなくなる
分からない経験を繰り返すと・・・	→	理解しようとしなくなる
やっぺらう経験を繰り返すと・・・	→	自分でやろうとしなくなる

こういう状況を、心理学領域では「**学習性無力感**」と言います。

教師の知恵.net サラデーナイトオンライン研修シリーズ「特別支援教育と学級経営」  
やさしく学べる 子どもの学びと育ちを支えるアイデアとスキル 川上康剛氏スライドより

※『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）中教審第228号 中央教育審議会 令和3年1月26日

### 3 授業UDの視点

ユニバーサルデザインの授業づくりの視点として、「焦点化」「視覚化」「共有化」の3つが挙げられる。「焦点化」はシンプルにすることである。「あれもこれも教えなければ」と盛りだくさんにすると、子供は「この時間に何ができればいいのか」が分かりづらくなり、迷ってしまう。「視覚化」は、視覚的に提示する、つまり「見える化」ということであるが、これはICTの活用だけではなく、動作化をはじめとした、アナログの良さを生かした視覚化もある。論理を「見える化」することも視覚化である。「共有化」は、ある子供の考えを提示したり、ペアやグループになって意見交流したりしながら、授業に必要なことを共有していくことである。これを行うことで、授業内容や指示の意味が十分に分からなかった子供が、「そういうことか」と理解し、安心して授業を継続していくことにもつながる。「同じスタートラインに立たせる」「理解をそろえる」と考えてもよい。

#### 授業のユニバーサルデザイン 3つの視点

- ・授業の焦点化(シンプル)  
→「この時間はこれを指導する」  
→発問を吟味し、絞る
- ・授業の視覚化(ビジュアル)  
→ICT機器、具体物の活用、動作化
- ・授業の共有化(シェア)  
→ペアやグループを作り、確認し合う  
→児童のモデル発言を教材化する

### 4 ユニバーサルデザインの授業づくりの留意点

子供が十分に理解できなかった授業後の反省として、視覚化を例に挙げると「視覚化したのに…」と、視覚化することそのものが目的になってしまっていることがある。視覚化しても子供に分かりにくいのでは意味がない。何のために視覚化するのか、どのように視覚化すると分かりやすいのかという視点が必要である。「焦点化」「視覚化」「共有化」は、あくまでも授業を分かりやすくするための「手段」であり、「目的」ではない。また、理解がゆっくりめな子のために指導内容の質的なレベルを下げることは授業UDの本質ではない。レベルを下げるのではなく、全員参加のためにどのようなアプローチが必要かを考え、実践するのである。

#### 授業UDの基本的な考え

- ・ユニバーサルデザイン化は目的ではなく手段であること
- ・教科の本質を見失わないこと
- ・指導内容の質的なレベルは下げないこと
- ・必要に応じた個別の配慮を行うこと
- ・特別支援教育の考え方や手法を生かすこと

### 5 多様な表現方法を選択できるようにする

授業において、全員同じワークシートを使う、話すのが苦手な子供に「他の子も発表しているのだから発表しなければならない」など、「平等」を子供に強いていることはないだろうか。しかし、インクルーシブ教育システムの構築においては、個々の状況の差を考えず一律に同じ扱いをする「平等」に対し、個々の状況の差を踏まえた上で、全員が参加できる結果が得られるようにする「公正」が求められる。表現の仕方も、子供によって

#### 表現方法は多様

声を出して発表することに困難がある場合や、人前で話すことへの不安を抱いている場合には、紙やホワイトボードに書いたものを提示したり、ICT機器を活用して発表したりするなど、多様な表現方法が選択できるように工夫し、自分の考えを表すことに対する自信がもてるような配慮をする。

(新小・中学校学習指導要領解説国語編より)

いろいろにあってよいのである。大事なことは、子供が自分の考えを表すことに自信がもてるよう、教師が配慮することである。

土岐 賢悟（弘前大学）



### Ⅲ-2-2 研究拠点校校内研修及び弘前市教育委員会研修「多文化共生の教室をつくる」

前項では、「多文化共生に向けたユニバーサルデザインを踏まえた環境づくりと授業の在り方」の研修プログラムを紹介したが、この項では、現職教員を対象とするもうひとつの研修プログラム「多文化共生の教室をつくる」を紹介する。

一部の研究拠点校の校内研修及び弘前市教育委員会主催研修で実施しているプログラムである。散在地域での実施であるため、ほとんど受け入れ経験のない教員を想定して内容を構成している。学校現場は忙しく長時間の研修の設定は難しいため、実施時間は、質疑応答も含め1時間15分から1時間30分程度である。

#### (1) 導入

プログラムは、「日本語以外を母語とした子どもがある日突然転校してきたら、教員として何を意識して実践に取り組みますか？」という問いから始まる。そして、本研修プログラムの二つの視点を示す。ひとつは、「学習言語の獲得と学力保障」、もうひとつは「多文化共生の教室づくり」である。

そして、研修プログラムの大きな前提として、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指すSDGsを確認し、「子供一人一人の多様性と向き合いながら一つのチーム（目標を共有し活動を共に行う集団）としての学びに高めていく」ことを強調する中教審答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」（令和3年1月）から、特に各論5「増加する外国人児童生徒等への教育の在り方について」を取り上げて、これから学ぶ研修内容は、これからの時代の教員に求められているものであることを確認する。

#### (2) 外国につながる子ども—日本の状況・青森県の状況

在住外国人の増加を示す統計とその背景、日本語指導が必要な児童生徒の急激な増加を示すデータ（文部科学省日本語指導が必要な児童生徒の受け入れ状況調査）を押さえた上で、学習指導要領総則の「特別な配慮を必要とする児童（生徒）への指導」や日本語教育推進法の子どもに関わる部分を確認し、法的にも日本語教育が学校現場に強く求められていることを理解する。

その上で、青森県の状況を、弘前大学多文化リソースルームの「外国につながる子どもの教育支援に関するアンケート調査」（令和2年度実施）から紹介する。散在地域においては実態そのものが知られておらず、教員の当事者意識が薄くなりがちな現状があるため、県内のどの地域にどのくらいの外国につながる児童生徒がいるのかを知り、多文化共生に向けた日本語指導が自分たちの住む県にとっても重要な課題だと確認することによって、「自分ごと」として考えてもらえるようにすることが、重要である。

次に、来日する子どもの多様性について解説していく（両親とも外国籍の場合も国際結婚家族の場合もあること、本人も外国籍の場合も日本国籍の場合もあること、来日時期などのライフコース、国による教育制度や学習状況の違い、前提となる文化の違い、家庭内言語、キャリアを考える上で重要な在留資格など）。

「モデルプログラム」でいえば、(2)の内容は「捉える力」にあたり、「子どもの実態の把握」「社会的背景の理解」についてコンパクトにまとめて伝えている。

#### (3) 学習言語の獲得と学力保障

「モデルプログラム」では「日本語・教科の力の育成」に関わる内容であるが、時間が限られる中で重

点的に説明するのが、生活言語と学習言語の違いと、学習言語の獲得と学力保障の重要性である。

年少の子どもは、日常会話の上達は早い。第二言語習得における生活言語と学習言語の違いが十分理解されていないと、「日本語を話せるようになったから、もう大丈夫」という誤解が生じ、担任や教科担当による支援や配慮が受けられない懸念がある。支援員の行う日本語指導だけでなく、教科の学びを担当する教員もまた、日本語教育の当事者なのだという認識のもと、学力保障に向けた取組を促す。

この部分では、前述の学習言語に注目した青森県の調査から、文部科学省の受け入れ状況調査の倍程度の子どもたちが学年相当の学習に参加できていないことも、併せて確認する。

成人の日本語教育と異なり、子どもは、母語が確立していない中で、第二言語である日本語を学び、その第二言語で教科も学んでいるということへの十分な理解と、その上に立って、日本語学習と教科学習を結び付けていくことの重要性を伝えていく。

時間に余裕のある場合は、ここで、小学校6年に転入した日本語0の中国人児童に対して、学校全体で役割分担しながらチームとして徹底して学力保障に取り組んだ青森県内の事例を紹介する。

また、その児童にとって学校適応の壁になったのは、言語だけではなく、母国と日本の学校文化の違いであったことを伝え、次の多文化共生の学級づくり・学校づくりへ話題を展開する。

#### (4) 多文化共生の学級づくり

第2の視点として示した「多文化共生の学校づくり」については、はじめに外国につながる子どもにとってだけでなく、日本人の児童生徒にとっても意義があることを説明する。その上で、多文化共生の取組事例を紹介する。

はじめに紹介するのは、令和2年度の本事業の研究拠点校に、日本語0（ゼロ）の状態、小学校低学

## 第二言語教育にあたって必須の知識 —生活言語と学習言語—

### • 生活言語（社会生活言語）

場面への依存度が高く、認知的要求が少ない生活場面での会話を中心とした言語能力。習得に1～2年。

### • 学習言語（学習思考言語）

場面や文脈への依存が少なく認知的な要求レベルが高い言語能力。教科学習に必要。習得に5～7年。日本語習得では、母語が漢字圏か否かの影響もある。

抽象的な思考を可能にする学習言語を母語で身に付けているかどうかは、学习上重要なポイントとなる。どちらの言語でも身に付けられないと、ダブルリミテッドやセミリンガルと言われる状況になってしまう可能性がある。

## 学校現場によくある誤解

日常生活はできるのに、勉強ができないのは、本人の  
努力が足りないから。もともと学力が低いから。

幼稚園や小学校低学年～中学年などの来日や、日本生まれでも家庭では母語という環境の子どもは、生活言語は獲得していることが多いが、学習言語としての日本語を身に付けるには、支援が必要。

## 教師と支援員が相談しながら、子どもに合った 学びの環境とカリキュラムをつくる(2)

教科の指導の上で、生活言語と学習言語の違いを意識した配慮が必要。

- やさしい日本語での指示や説明
- 複雑でない文の構造・既習の語彙の使用
- 本人の学びにあった評価の在り方の工夫
- 文化的な背景の違い—国語・社会・家庭科など

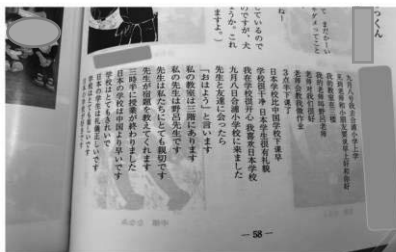
- 日本語で書かれているために問題文がわからなければ、教科の力を測ったことにならない。
- その子どもの日本語能力等に合わせて、「やさしい日本語」による問題の作成や漢字のルビふりなどの工夫が求められる。
- インクルーシブ教育における「合理的な配慮」と同じ発想が必要。

年に転入した S さんという男子児童をめぐる事例である。S さんの学級では、国語の授業の中で詩を扱った際に、担任の先生から、中国の詩についての話があり、有名な「春眠暁を覚えず」を中国で勉強したことがあるか、S さんへの問いかけがあった。S さんは習ったと言い、中国語で暗唱してみせた。子どもたちにとっては、日本につながる中国文化を知る貴重な機会となった。また、文集に載せる詩について、日本語では十分表現できないため、S さんは中国語で詩を書くことを認められ、日本語の翻訳も併せて掲載された。教室では、子どもたち同士のコミュニケーションを助けるために、支援員が作成した気持ちを表すカードが使われた。カードは、S さんもクラスメートも二つの言語を確認して使えるように日本語と中国語の両方が記載されている。こうした環境の中で、S さんはクラスメートと相互に影響を与え合い、自己肯定感をもちながら学んでいった。

## グローバル人材として 子どもたちを支え育てるために…

- 外国につながる子どもは教室に多様性をもたらす存在  
 ー 足元からの国際化、多文化共生の教育へ
- 母語・母文化の尊重  
 ー 本人の自己肯定感、周囲のグローバル感覚の涵養
- キャリア支援の重要性  
 ー 国によって異なる学校の制度や文化。  
 本人の強みを生かしたキャリア・ガイダンスやサポート

### 青森市立小学校の取組



この他、(3)で紹介した小学校 6 年生児童が台湾の姉妹校との国際交流事業で活躍した事例や、高校の文化祭で外国につながる生徒と日本人生徒が多文化展示発表を一緒に作り上げた取組、それを見た外国人保護者が学校に対して高い信頼感を持つようになったことなどを紹介することもある。

こうした前向きな取組だけでなく、研修内では「いじめ」についても触れる。文部科学省「いじめの防止等のための基本的な方針」の別添（平成 29 年 3 月 14 日最終改訂）において、「海外から帰国した児童生徒や外国人の児童生徒、国際結婚の保護者を持つなどの外国につながる児童生徒は、言語や文化の差から、学校での学びにおいて困難を抱える場合も多いことに留意し、それらの差からいじめが行われることがないよう、教職員、児童生徒、保護者等の外国人児童生徒等に対する理解を促進するとともに、学校全体で注意深く見守り、必要な支援を行う」と記されていることを伝え、時間があれば実際に外国につながる子どもへのいじめ事例を紹介する。

さらに、母語・母文化尊重は、子どもだけでなく異なる文化を持つ保護者

### 「ダイジョウブ」は大丈夫じゃない!



- 必要に応じた通訳支援
- 学校からの通知のルビふり、やさしい日本語、翻訳
- 日本の学校制度や学校文化を知らせる
- 奨学金等の書類など手続き関係のサポート
- 進路に関わる情報をわかりやすく提供する
- 保護者の日本語学習の保障

• (公財) 神奈川国際交流財団 2014 『外国につながる生徒の高校進学サポートブック』  
 • <http://www.kifip.org/shuppan/guidebook> より

言外の アンス

との連携においても重要であり、それが子どものキャリア支援においては特に大切になってくることを説明する。青森県には、結婚により外国から移住してきた女性が少なくない。母親の文化的なルーツを尊重する姿勢を学校が持つことは、多文化家族に育つ子どもの自己肯定感を育み、家庭内での、学校での学びやキャリアをめぐる対話を円滑にするとともに、多文化共生の学校づくりにつながることも付け加える。

(4) の内容は、「モデルプログラム」では、「異文化間能力の涵養」や「学校づくり」、「多文化共生社会の実現」に関わるものだといえるだろう。

#### (5) 個別の教育支援計画・個別の指導計画

最後に説明するのが、青森版の「個別の教育支援計画・個別の指導計画」の様式である。この様式には、「学校生活上の配慮」、「日本語及び教科学習上の配慮」、「母語・母文化尊重に向けた配慮」の三つの項目が設けられている。本研修プログラムの二つの視点のうち、「学習言語の習得と学力保障」の内容は、「日本語及び教科学習上の配慮」に、「多文化共生の学級づくり」の内容は、「学校生活上の配慮」・「母語・母文化尊重に向けた配慮」に反映されていることを説明する。

そして、学校に入る支援員や多文化スーパーバイザーと担任等の教員がケース会議で話し合っ、この二つの計画を立てていくことで、それぞれの役割分担と連携を確認しながら、子どもの成長と学びを保障し、多文化共生の学級・学校づくりのための体制をつくっていくことができることを伝える。

この内容は、「モデルプログラム」の「学校づくり」に関わる内容となっているといえるだろう。

最後に、相談先としての多文化リソースルーム、文部科学省の動画サイトなどの情報を伝えて、終了する。

吉田 美穂（弘前大学）

### Ⅲ-3 弘前大学における支援人材の育成

#### －日本語教育科目の開講と支援人材としての教職大学院生

この項では、弘前大学内における学生や教職大学院生を対象とした日本語教育に関する取組を報告する。今年度は二つの取組を行った。ひとつは、学部生や教職大学院生が幅広く履修することができるよう教養教育科目に設けた日本語教育科目開講の取組、もうひとつは、教職大学院生が学校生活支援員及び多文化リソースルーム支援員として活動することによる実践的な人材育成の取組である。

この二つの取組を通して、大学が日本語指導に携わる教員や地域の支援人材の養成に向けて果たすことができる役割について、検討していきたい。

#### 1. 弘前大学における日本語教育科目の開講

外国につながる子どもの日本語指導・支援人材については、日本語指導サポーター養成講座などで育成してきたところではあるが、散在地域における課題として挙げられるのは支援人材の確保である。教員志望の学生や日本語教育に興味のある学生に年少者への日本語教育についての知識をつけることが今後の散在地域における今後の支援人材育成につながると考える。その第一歩として、令和2年度より、弘前大学教養教育科目グローバル科目「日本－日本語教育を知る－」を新規開講した。日本語教育概論的な授業内容ではある

が、課題解決型のアプローチで、日本語を教えるためには「何」を「どのように」すれば良いのかを、学びながら考える構成とした。全15回の講義内容は次ページの表1のとおりである。

令和2年度は前期のみ2年生以上対象の授業として開講したが、令和3年度は、前期が2年生以上対象、後期は全学年対象科目として開講した。令和3年度の受講者数は前期17名（内1名は社会人科目等履修者、2名は聴講生）後期47名（内4

表1 令和3年度 弘前大学教養教育科目 グローバル科目・日本－日本語教育を知る－

	授業内容
第1回	イントロダクション・日本語教育・国語教育・英語教育の違い
第2回	どのような学習者がいるのか
第3回	何を教えるのか（ニーズ、レディネス、シラバス）
第4回	日本語能力のレベルを考える
第5回	日本語の教科書
第6回	媒介語の使用
第7回	文法の分析と導入
第8回	教材・教具について
第9回	日本語の授業とは① 成人（導入・練習）
第10回	日本語の授業とは② 子ども（アクティビティ）
第11回	外国語教授法について
第12回	学習者の心理・個別性・環境
第13回	ゲストスピーカー① 青森県内の日本語教育・支援の現状について
第14回	ゲストスピーカー② マイノリティと外国につながる子どもの母語支援の現状と重要性
第15回	まとめ、ディスカッション

名は聴講生)となった。その中で教員志望の学生(教育学部以外)は、前期が4名、後期9名となった。その他にも履修動機として多く見られたのが、日本語教師になりたいと考えている学生、過去に留学生や外国人に日本語を教える機会があった学生が多かった。

授業の内容について、各回の授業テーマにおいて、成人の日本語教育と子どもの日本語教育を比較しながら展開した。一般的な日本語教師養成講座などで取り上げられる成人に対しての日本語教育について紹介した後、子どもの日本語教育に焦点を当てその違いについて触れ、「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム」<sup>1</sup>を取り入れた授業を構成した。外国人児童生徒等教育を担う

教員の資質・能力の4つの要素には「捉える力」「育む力」「つなぐ力」「変える／変わる力」という4要素から成り立っている(表2)。本授業では主に「捉える力」と「育む力」という基礎教育の部分を取り上げ、外国につながる子どもを取り巻く状況や置かれている環境などについて把握し、具体的にどのように日本語指導、支援を行っていくのかを考えた。学期末にはゲストスピーカーを招き、「つなぐ力」のチームとして様々な関係者が連携して子どもを見守り支援することや学生たち自身にマイノリティを体験してもらい「変わる／変える力」の多文化共生について考える機会を与えた。

表2 外国人児童生徒等教育を担う教員の資質・能力  
—4つの要素と課題領域—

資質・能力の4要素	課題領域
捉える力	子どもの実態の把握
	社会的背景の理解
育む力	日本語・教科の力の育成
	異文化間能力の涵養
つなぐ力	学校づくり
	地域づくり
変える／変わる力	多文化共生社会の実現
	教師としての成長

出典：文部科学省委託事業特別委員会(2020) pp.3

「捉える力」の要素については、講義型と活動型を組み合わせた形態で、外国につながる子どものアイデンティティや母語・母文化の背景、そして子どもの心理や環境について取り上げた。外国につながる子どもを取り巻く文化変容から境界化、親との母語でのコミュニケーションが取れなくなる状況などを例に挙げて紹介し、自分がその子どもの身近にいる場合、どのようにするかを考えた。外国につながる子どもたちが抱えているものの中には、自分たちが当たり前だと考えていることが、本人やその家族にとっては当たり前でないことが思っている以上に多くある。例えば、学校関係では学校の給食や掃除などの習慣や当番、学校行事、学校の教科やその内容である。そして家庭や家族については、学校よりも優先される家庭の事情、生活のスタイルやリズムなどにも同様のことが言えるだろう。外国につながる子どもの多くは、親に連れられてくることや呼び寄せられてくるが多く、成人のようにビジネスや留学など目的をもって自らの意思で日本に来るといった状況とは違うことが多い。そのような背景を汲み取り、柔軟に対応できるような知識を深めた。

「育む力」では、活動型の形態を主として、外国につながる子どもの日本語教育とは、成人の日本語教育とどのように違っているのか、比較しながら考えていった。子どもの場合、来日後のサバイバル日本語ではどのような日本語を教えるのか、様々な子ども向けの日本語の教科書を見て分析し、年齢、背景、将来の夢、日本語のレベルが全く違う数名の児童生徒を仮定し、グループごとに別々の児童または生徒の情報から、それぞれのニーズや目標をどのように設定すればいいかを考えて、発表した。教科につながる日本語についても、教科につながる日本語とはどのようなものか、算数の文章題をやさしい日

<sup>1</sup> 公益財団法人日本語教育学会(2020)『外国人児童生徒を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』

本語に直したり、国語の教材の一部をリライトしたり、実際に自分たちで体験することで学校生活と並行して日本語を勉強していく子どもの気持ちや必要な支援が必要な時に受けられる環境が不可欠だということを考えた。また、多文化共生の教室や雰囲気づくりについても、学校行事や授業の中でどのように取り組むことができるか、実際に外国につながる子どもが自分のクラスに転入してきたらどのような工夫ができるか、アイデアをグループで話し合った。履修生は散在地域出身の学生が大半だが、中には小中学生の時にクラスに外国につながる子どもがいたという経験を持つ学生や、集住地域出身の学生が少数だがいたため、実体験の話も聞くことができた。学生同士で意見や思いが分かれることも多く、リアクションペーパーには、自分とは違う意見や考えを聞くことによって、新たな視点や発見があったとの意見が多く見られた。

「つなぐ力」「変える／変わる力」では、フィールド型の形態で、本事業でも母語支援員として支援に携わって下さっている、タイ出身の Chantarakantanond Sasiwara さんに協力いただき、全てタイ語でタイの小学校 6 年生の算数の授業を行ってもらい、全く分からない言語下で進んでいく教科学習を体験し、実際にマイノリティを感じてもらった。学生たちには、算数の授業を全て外国語で受けてもらうということのみを伝え、Sasiwara さんが日本語を話せることや、タイ語で授業をするといった情報は伏せ、すべてタイ語の問題を配布し、Sasiwara さんには最初の挨拶から、解答者を指名したり、質問したりということまで全てタイ語で進めていただいた。その後、日本語で実際の支援の様子や現状そして母語支援の重要性について、事前に学生から集めていた質問をベースにして回答していただいた。マイノリティを実際に体験している間、受講生たちはスマートフォンやパソコン等様々なツールを使って、何の言語なのか、答えを聞かれたときの数字の言い方は何といえいいのか、調べたり考えたりすることが容易だが、小中学生で同じ状況に置かれて周りに聞ける人もいない場合、同じことができたか考えてほしいと課題を与え、最後の授業でのグループディスカッションにつなげた。どのグループもマイノリティをテーマの一つとして考え、そこから生まれる不安や孤独感をどのように支援できるのかを考えた。全 15 回の授業の中で、第 14 回目に実施したこのマイノリティ体験は、リアクションペーパーから、多くの学生の中で印象に残った授業の一つだったことが伺える。実際に、第 13 回目まで、外国につながる子どもの心理や環境が想像できてはいたものの、このマイノリティの疑似体験によって、そのイメージがより具現化され、自分が何かできないかと考えた学生も多かった。

ここに報告した「日本ー日本語教育を知るー」は教養教育科目という性質からまず日本語教育について考えてみることを取り上げているが、令和 3 年度後期の第 15 回授業で学生へのアンケート（回答件数 39 件、有効回答率 100%）を実施したところ、「多文化リソースルームでの活動に興味がありますか（複数回答可）」（図 1）において、子どもの日本語支援に興味を持った学生も多く、多文化リソースルームでの活動に参加してくれると回答してくれた学生は、今後のリソースルームが企画運営していく様々なイベントや支援において、貴重な人材といえる。外国につながる子どもは、家と学校の往復のみという子どもが多い。そのため、人との接触もかなり限定的であることがほとんどだ。大学生と交流することは、子どもたちにとっては教師や支援員とは違う大人との出会いであり、とても新鮮な出来事になるだろう。また、これまでの授業で外国につながる子どもについて、知識を深めてきた学生にとっては、また新たな体験と発見ができるいい機会となるだろう。また、アンケートのもう一つの項目である、「弘前大学に日本語教師養成課程（またはプログラム）があれば、受講してみたいと思いますか」（図 2）という問いに対し、半数以上が「はい」と回答している。教員志望の学生もそうでない学生

も、日本語を教えることについて、興味があるまたは興味を持ったという結果だと言える。実際、受講者の中には、日本語教師になりたいと考えている学生がおり、大学で日本語教師養成課程を修了できるのであれば積極的に受講したいという声は確実に上がっている。

日本語教育は対象となる学習者によって目標も教授法も全く違い、それぞれに専門性が求められる。文化審議会国語分科会（2020）「日本語教師の資格の在り方について（報告）」によると、日本語教師養成講座等を修了後の初任研修の内容では活動分野が6つに細分化されており、「生活者としての外国人」「留学生」「児童生徒等」「就労者」「難民等」「海外」となっている。<sup>2</sup>それぞれの活動分野では更なる専門性が問われることとなる。この6つの分野の中でも児童生徒等の子どもへの日本語指導は、他の分野と共通する点が少なく養成講座でも取り上げられることは少ないため、子どもへの日本語教育の知識を持った人材育成が急がれる。

今後も教養教育科目という点を活かして、「日本—日本語教育を知る—」の授業で全学部の学生に日本語教育と子どもの日本語支援について、広く知ってもらう機会として継続していく。また今後の課題は、学校教育の日本語に特化した更なる深い授業の構築につなげていきたい。

## 2. 支援人材としての教職大学院生の育成

外国につながる子どもの日本語支援には、様々な連携が必要となり、支援員、学校、行政がチームとなり外国につながる子どもと保護者を支えていく必要がある。支援に携わるうえで日本語教育の知識は土台として必要なことはもちろんだが、同様に、学校という組織に入り、現場の先生方とコミュニケーションを取りながら、足並みを揃えて支援をしていかなければならない。

令和3年度から、新たな試みとして、教職大学院生を学校生活支援員として派遣した。教職大学院生は、教員免許（第1種）を取得しており、さらに教員としてのさまざまな力量形成に努めているため、

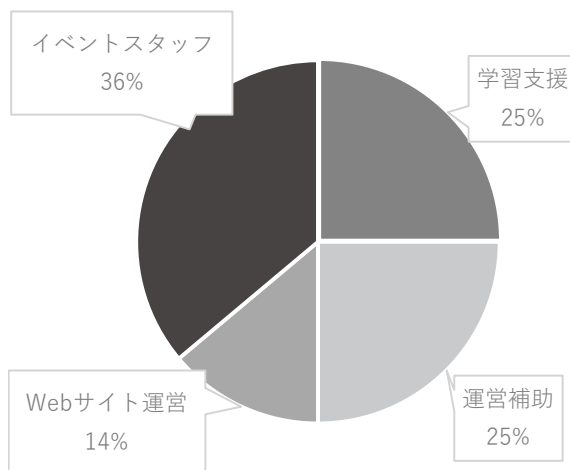


図1 多文化リソースルームでの活動に興味がありますか。（複数回答可）

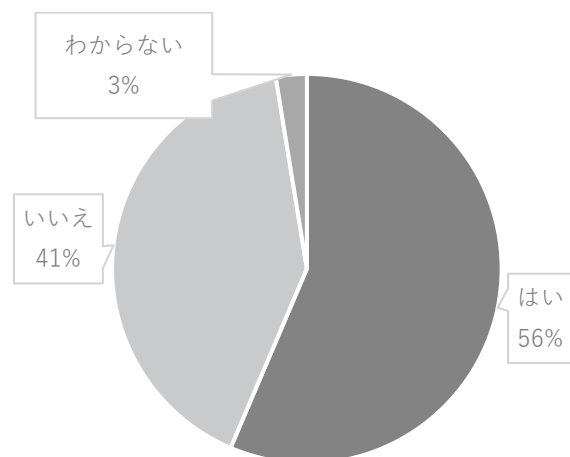


図2 弘前大学に日本語教師養成課程（またはプログラム）があれば受講してみたいと思いますか。

<sup>2</sup> 文化審議会国語分科会(2020) 「日本語教師の資格の在り方について（報告）」

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/92083701\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/92083701_01.pdf)（2022年2月3日最終閲覧）



学校への入り方を心得ている。また、教職大学院の必修科目「教育における社会的包摂」において、「モデルプログラム」の外国人児童生徒等教育を担う教員の資質・能力の4つの要素（表2）では、「捉える力」を中心に「育む力」の「異文化間能力の涵養」や「つなぐ力」の「学校づくり」について学び、「変える／変わる力」の「多文化共生社会の実現」に向けて公正性を養うよう指導を受けている。加えて、支援員として派遣される者は、支援と並行して「日本ー日本語教育を知るー」を聴講し、「育む力」の「日本語・教科の力の養成」についても身に付けている。

教職大学院生を支援員として配置したのは、準拠点校の平川市立小学校での支援、多文化リソースルームでの弘前市内の小学生の放課後支援と青森県立高校に通う高校生の支援とした。小学校の支援では支援開始時には教職大学院2年の2名を派遣し、11月より教職大学院1年の3名の追加派遣を開始した。教職大学院生の場合、学校に入っていくことについては慣れているが、日本語教育の知識は十分ではなく、日本語の支援については未経験であるため、まずは取り出しでの日本語教育や指導方法について、日本語支援員の支援を観察し、実際の支援の中で取り出しの支援のアプローチの仕方について習得した。入り込みの支援についても、支援児童やクラスの雰囲気を見ながら、友達同士での助け合いを見守りながら授業についていけているか確認し、支援に入るタイミングを計っていった。また、教職大学院生による支援開始後も、多文化スーパーバイザーが参観したり、ケース会議や日報を通して助言したりする形で、学校生活支援員としての活動をサポートするようにした。

教職大学院生は学校での実習の経験が豊富なため、先生方とのコミュニケーションや支援児童の在籍する学級の児童と打ち解けるのに時間はかからず、教育現場での実習の成果であることがうかがえるが、個別で支援しなければならない日本語支援では、他の児童との接し方とのバランスや、支援児童が他の児童から特別な目で見られないようにといった配慮などを考えながら慎重に支援をしていた。少しずつ子どもの特徴が見え、お互いに受け入れることができるようになってくると、リラックスした雰囲気の中で、子どものペースや意見を尊重し学習を進められるようになった。平川市立小学校の児童の場合は、主として教科につながる日本語が多かったため、教職大学院生にとっては、実習での体験をもとにしながら外国につながる子どもへの日本語及び教科につながる日本語について考える機会になっただろう。また、ケース会議や日々の申し送りの中で支援に関わってくださっていた先生方の話を伺って、教員の立場からの外国につながる子どもや日本語支援についての想いや悩みなども知り、近い将来教員の道を歩み始める大学院生たちにとっては、貴重な経験となったと思われる。

リソースルームでの支援では、新たな試みとして、11月より教職大学院1年の3名を多文化リソースルーム支援員に任命し、多文化リソースルームで実施する支援に関わる支援員として活動した。高校生は日本語初級レベル、小学生は日本語0からのスタートということで、主な支援は日本語支援となった。高校生の支援は、高校でも実施されているが、通信制であるため日本語に触れる機会が限られる。今年度は日本語に触れる機会を増やすためと、生徒本人の居住地が学校よりも多文化リソースルームの方が近いため、多文化リソースルームでの支援を始めた。教室内での支援はもちろんだが、大学構内の散歩に出かけたり、図書館に行ったりして、生活に関わる語彙や日本語の習得や接客に使用される言葉を勉強し、実際に保護者が運営しているお店で支援員の指導の下、ホールで対応する練習などをしていった。教職大学院生は、日本語支援員と一緒に支援には関わっていたため、接客シミュレーションでお客様の役や、日本の文化や暦にあった行事と一緒に体験しながら語彙を増やす手助けをした。慣れてくると、支援員と時間配分を決め、時間内で支援の主担当を任されるようになっていった。小学生の支援につい

ては、日本語0ということもあり、10・11月は日本語支援員が担当した。11月の支援は、見学してもらい、12月から支援に入ってもらった。児童は、最初は母語を話すことの方が多かったが、発音の練習の際、あいうえお表を使って練習をしていると、先生の頭文字を指しながら大きな声で先生の名前を言ってくれ、教職大学院生の名前もすぐに憶えて大きな声で呼んでくれていた。放課後の支援ということもあり、すでに学校で日本語のシャワーを1日中浴びてから支援にきていたため、動画やアクティビティも好きなため、一緒に鑑賞したり、すごろくをしたり、楽しく学べるような工夫を心がけていた。

どちらのケースも、支援に入り始めた当初、教職大学院生はほとんど全員が支援時間を無駄にしないように「学習させなければ」と思っていたようである。しかし、外国につながる子どもにとっての「学習」は、より幅広くとらえる必要がある。日本語を聞くことや話しをすること、母国の遊びを紹介してもらい、その遊びを日本語を交えて実施することも学習の一つである。また、学校生活においても、日本の教育では授業中にノートを取ることが多いが、外国につながる子どもにとっては書くことに時間がかかるため、書くことの意味を見出せない場合もある。また、母文化と日本の文化の違いに戸惑っている子どもにとっては、日々の学校生活の中で支援の時間が唯一リラックスできる居場所だということもある。子どものストレスや不安が溜まっていないか様子を見ながら、支援時間に話を聞くことも少なくない。また、子どもの集中力が持続する時間は短く、特に小学生低学年との会話の中からヒントを探し出し、日本語支援につなげていく必要もある。特に小学校の支援においては、発達段階も考慮し、児童が無理なく楽しみながら日本語を習得できるよう工夫が求められる。特に、今回の多文化リソースルームでの支援は放課後に行われており、児童にとっての負荷も考慮する必要があるケースであった。こうした児童の支援を経験したことは、教職大学院生にとって、年少者の日本語指導の実際を知る貴重な機会となったとともに、教育について深く考える契機ともなったといえるだろう。

外国につながる子どもは突然学校にやってくる。そのため、日本語支援が必要な子どもが学校にやってきたときにどれだけ迅速にサポート体制を構築し、子どもと保護者の支援を開始できるかということが大切である。外国につながる子どもが転入してきたという連絡が多文化リソースルームに入って、支援員を送るまでには少なくとも数週間はかかる。学校が位置する地域または近隣に居住していて、平日の午前中に交通の便に困ることのない日本語支援員の候補を数日で探すのは、散在地域かつ限られた支援人財で日本語支援を運用している現状では至難の業である。その点、教員免許を所持し、学校組織についての知識を持ち合わせている教職大学院生に、学校教育の日本語のエッセンスを指導し、支援員として活動してもらうことで、速やかな対応が実現しやすくなる。さらに、彼らが将来教員になった暁には、日本語支援の経験を活かし、学校に日本語教育の知識を持った教員がいることになる。支援員が派遣されるまでの間、彼らが中心となって転入してきた日本語指導が必要な子どもの対応やクラスの雰囲気づくりを考え、外国につながる子どもの受け入れ態勢を整えることもできるだろう。また、潜在的に埋もれている可能性のある日本語指導が必要な子どもについても、早期発見と適切な支援のための連携が取れるようになることを期待したい。

笹森 圭子（弘前大学多文化リソースルーム）

## IV 多文化リソースルーム活用・資料整備状況

### IV-1 多文化リソースルーム活用実績について

外国につながる子どもの日本語支援及び居場所支援の場としての整備を進めてきた多文化リソースルームだが、今年度は支援の場としての活用が順調に増えている。第一に特定の児童生徒への支援の場としての活用を、第二に居場所支援の活動を報告する。

#### (1) 支援の場としての活用

まず、今年度定期的に多文化リソースルームで行った 2 件の支援について報告する。また、今年度新型コロナウイルスの影響により実施できなかったキッズキャンプの代替イベントとして実施した、夏休みキッズ交流会について報告する。

まず 1 つ目は、昨年度より本事業で支援に入っている県内の高校に通う生徒の支援である。スクーリング及び週に一度の学校での支援以外では、週に 2・3 日、1 日 2～3 時間程度の支援を多文化リソースルームで行った。支援生徒の自宅から多文化リソースルームの方が近いということと、本人のキャリアについての意識付けも含め、大学構内の様子を見たり、同世代の生活を感じたりすることができるためである。2 つ目は、日本語 0 で来日した児童の支援である。当該児童は弘前市内の小学校へ転入してきた。弘前市は外国につながる子どもへの支援は非常に手厚く、学校に支援員等の配置がされている。そのため、多文化リソースルームでは弘前市教育委員会を通して放課後の支援について依頼があった。児童の負担も考え保護者と相談しながら週に 2 日、1 日 1 時間の支援を行った。これらの定期的な支援には日本語支援員はもちろんだが、III-3 で述べた支援人材としての教職大学院生の参入により、支援員にも支援対象児童・生徒にも新しい視点や経験がもたらされた。

#### (2) 居場所支援の活動—多文化キッズ交流会





次に、8 月 2 日～7 日の 5 日間実施した多文化キッズ交流会である。外国につながる子ども及び保護者の横のつながりの強化を主な目的とし、また、普段関わることのない大学生と話したり、新しい環境を見つけたりする機会の提供も兼ねている。多文化キッズ交流会では、III-3 で述べた、「日本—日本語教育を知る—」前期授業でボランティアスタッフを募り、希望者に協力を依頼した。イベントの周知は交通の便を考えて、今年度は弘前市内の全小中学校及び本事業で支援に入っている児童生徒へ周知した。参加者は少数にとどまったが、保護者の参加もあり、抱えている悩みや教育についての相談を受けることもあり、参加した児童生徒もいつも接している支援員とは違う人との関わりに、はじめは少し戸惑いながらも、しばらくして慣れてくると楽しそうに会話をしていた。

今後の課題は、多文化リソースルームをさらに広く知ってもらうために、定期的なイベントを考えていきたい。保護者と子どもと一緒に日本語を勉強できるような親子日本語教室や、ICT を活用して、ハイブリッドで県内の外国につながる子ども同士が交流できる機会の充実などが挙げられる。人材育成と並行し外国につながる子どもの新しい体験を増やす機会を作りたい。

# 多文化キッズ交流会 in 弘前大学

Multi-culture Kid's exchange in Hirosaki University

あたらしともだちみ だいがくせい べんきょう あそ  
新しい友達を見つけよう！大学生と勉強しよう！遊ぼう！  
Let's make new friends! Let's study and play with University students!

-  **大学に遊びに行ってみよう！**
  -  **友達と一緒にでもいいです！宿題を持ってきてでもいいです！**
  -  **何時に来てもいいです。いつ帰ってもいいです。**
  -  **保護者の方の参加も大歓迎です！**
- お申込みは、こちらのQRコードから！▶▶▶



だいがくせい にい ねえ あ たの  
大学生のお兄さん、お姉さんがみんなと会えるのを楽しみにしています。  
たの はな あそ べんきょう  
楽しくお話したり、遊んだり、勉強したりしましょう♪

こ あんぜん だいがく そうげい ねが  
**\*子どもの安全のため大学までは送迎をお願いします。**

しんがた かんせん よぼう  
**新型コロナウイルス感染予防のため、マスクをしてきてね！**

にちじ ねん がつ か げつ か ど  
日時：2021年8月2日（月）～7日（土） 9:00～12:00（出入り自由）

Date: August 2<sup>nd</sup> (Mon) - August 7<sup>th</sup> (Sat) 9AM to 12noon

\*You may enter and leave freely within the time.

ばしよ ひろさきだいがくきょういくがくぶ たぶんか  
場所：弘前大学教育学部多文化リソースルーム

Place: Hirosaki University Multicultural Resource Room

ひろさきしぶんきょうちやう ひろさきだいがくきょういくがくぶ きょういくじっせんそうごう かい  
(弘前市文京町1 弘前大学教育学部 教育実践総合センター1階)

## 【問い合わせ先 Contact】

弘前大学教育学部 多文化リソースルーム

Hirosaki University, Faculty of Education, Multicultural Resource Room

〒036-8560 青森県弘前市文京町1

TEL/FAX 0172-39-3454 Mail to: tabunka3454@hirosaki-u.ac.jp

Website: <https://home.hirosaki-u.ac.jp/tabunka/>

## IV-2 資料貸出件数及び資料整備状況

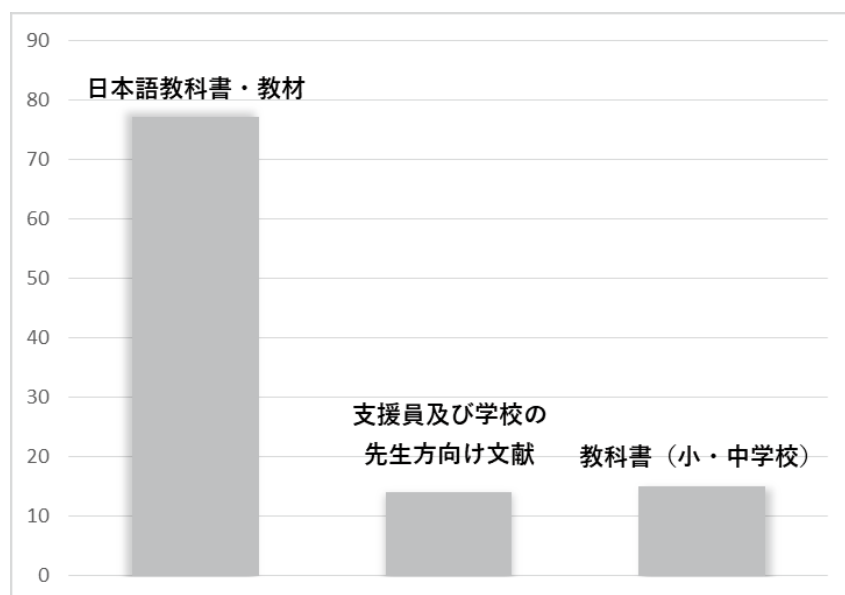
今年度は年度途中からの支援の相談などもあり、日本語0児童への0パッケージの書籍や教材の貸出も多く、総じて貸出数や閲覧も順調に増えている。ただ、多文化リソースルームに来て、書籍を手に取りじっくり閲覧できるのは近隣に住んでいる支援員がほとんどのため、遠方に住んでいる支援員への資料の閲覧や貸出については未だ課題が残る。書籍の購入については支援員からの要望や学校側からの助言も寄せられ、少しずつ充実している。しかし、まだまだ十分な蔵書量とは言えず、貸出頻度の分析や支援員へのアンケートなどの回数を増やし、支援員のニーズに対応していきたい。ここに令和3年度「貸出件数集計」表IV-2-1と令和3年度に購入した書籍を一覧にした「多文化リソースルーム書籍目録」を資料として集録する。

多文化リソースルーム（弘前市の小学生）支援の様子

学習教材室



表IV-2-1 令和3年度 貸出件数集計



表IV-2-1からわかるように、最も多く貸し出されているのは、日本語教科書・教材の категорияで、中でも特にフラッシュカードとして利用できる、イラスト（表）とひらがな（裏）の書かれたカード類の貸出が多かった。次いで、中学生の参考書シリーズが多く貸し出されている。中学生の教科につながる日本語は、小学生のものに比べ言葉の難易度や複雑な内容も増えてくるため、貸出件数増えたと考えられる。

笹森 圭子（弘前大学）

通し番号	タイトル	著者	出版社
多Ⅲ67	教出 ひろがることば しょうがくこくご 一上		教育出版
多Ⅲ68	教出 ひろがることば 小学国語 二上		教育出版
多Ⅲ69	教出 ひろがる言葉 小学国語 三上		教育出版
多Ⅲ70	教出 ひろがる言葉 小学国語 四上		教育出版
多Ⅲ71	教出 ひろがる言葉 小学国語 五上		教育出版
多Ⅲ72	教出 ひろがる言葉 小学国語 六上		教育出版
多Ⅲ73	教出 しょうがく しょしゃ 一ねん		教育出版
多Ⅲ74	教出 小学 しょしゃ 二年		教育出版
多Ⅲ75	教出 小学 書写 三年		教育出版
多Ⅲ76	教出 小学 書写 四年		教育出版
多Ⅲ77	教出 小学 書写 五年		教育出版
多Ⅲ78	教出 小学 書写 六年		教育出版
多Ⅲ79	東書 新しい社会 3		東京書籍
多Ⅲ80	東書 新しい社会 4		東京書籍
多Ⅲ81	東書 新しい社会 5上		東京書籍
多Ⅲ82	東書 新しい社会 6 政治・経済編		東京書籍
多Ⅲ83	東書 新しい社会 6 歴史編		東京書籍
多Ⅲ84	帝国 楽しく学ぶ 小学校の地図帳 3・4・5・6年		帝国書院
多Ⅲ85	学図 みんなとまなぶ しょうがっこう さんすう 1ねん上		学校図書
多Ⅲ86	学図 みんなと学ぶ 小学校 算数 2年上		学校図書
多Ⅲ87	学図 みんなと学ぶ 小学校 算数 3年上		学校図書
多Ⅲ88	学図 みんなと学ぶ 小学校 算数 4年上		学校図書
多Ⅲ89	学図 みんなと学ぶ 小学校 算数 5年上		学校図書
多Ⅲ90	学図 みんなと学ぶ 小学校 算数 6年		学校図書
多Ⅲ91	学図 みんなと学ぶ 小学校 算数 6年 中学校へのかけ橋		学校図書
多Ⅲ92	学図 みんなと学ぶ 小学校 理科 3年		学校図書
多Ⅲ93	学図 みんなと学ぶ 小学校 理科 4年		学校図書

多 III 94	学図 みんなと学ぶ 小学校 理科 5年		学校図書
多 III 95	学図 みんなと学ぶ 小学校 理科 6年		学校図書
多 III 96	学図 みんなとまなぶ しょうがっこう う せいかつ 上		学校図書
多 III 97	教芸 小学生のおんがく 1		教育芸術社
多 III 98	教芸 小学生の音楽 2		教育芸術社
多 III 99	教芸 小学生の音楽 3		教育芸術社
多 III 100	教芸 小学生の音楽 4		教育芸術社
多 III 101	教芸 小学生の音楽 5		教育芸術社
多 III 102	教芸 小学生の音楽 6		教育芸術社
多 III 103	日文 ずがこうさく 1・2上 たの しいな おもしろいな		日本文教出版
多 III 104	日文 図画工作 3・4上 ためした よ 見つけたよ		日本文教出版
多 III 105	日文 図画工作 5・6上 見つけて 広げて		日本文教出版
多 III 106	開隆堂 わたしたちの家庭科 5・6		開隆堂
多 III 107	東書 新しいほけん 3・4		東京書籍
多 III 108	東書 新しい保健 5・6		東京書籍
多 III 109	東書 NEW HORIZON Elementary English Course 5		東京書籍
多 III 110	東書 NEW HORIZON Elementary English Course Picture Dictionary		東京書籍
多 III 111	東書 NEW HORIZON Elementary English Course 6		東京書籍
多 III 112	日文 しょうがくどうとく いきるち から 1		日本文教出版
多 III 113	日文 しょうがくどうとく いきるち から 1 どうとくノート		日本文教出版
多 III 114	日文 小学どうとく 生きる力 2		日本文教出版
多 III 115	日文 小学どうとく 生きる力 2 どうとくノート		日本文教出版
多 III 116	日文 小学どうとく 生きる力 3		日本文教出版
多 III 117	日文 小学どうとく 生きる力 3 どうとくノート		日本文教出版
多 III 118	日文 小学道徳 生きる力 4		日本文教出版
多 III 119	日文 小学道徳 生きる力 4 道徳 ノート		日本文教出版
多 III 120	日文 小学道徳 生きる力 5		日本文教出版
多 III 121	日文 小学道徳 生きる力 5 道徳 ノート		日本文教出版
多 III 122	日文 小学道徳 生きる力 6		日本文教出版

多 III 123	日文 小学道德 生きる力 6 道德 ノート		日本文教出版
多 III 124	教出 伝え合う言葉 中学国語 1		教育出版
多 III 125	教出 伝え合う言葉 中学国語 2		教育出版
多 III 126	教出 伝え合う言葉 中学国語 3		教育出版
多 III 127	東書 新しい社会 地理		東京書籍
多 III 128	東書 新しい社会 歴史		東京書籍
多 III 129	東書 新しい社会 公民		東京書籍
多 III 130	帝国 中学校社会科地図		帝国書院
多 III 131	東書 新しい数学 1		東京書籍
多 III 132	東書 新しい数学 2		東京書籍
多 III 133	東書 新しい数学 3		東京書籍
多 III 134	学図 中学校科学 1		学校図書
多 III 135	学図 中学校科学 2		学校図書
多 III 136	学図 中学校科学 3		学校図書
多 III 137	啓林館 BLUE SKY English Course 1		啓林館
多 III 138	啓林館 BLUE SKY English Course 2		啓林館
多 III 139	啓林館 BLUE SKY English Course 3		啓林館
多 III 140	日文 中学道德 あすを生きる 1		日本文教出版
多 III 141	日文 中学道德 あすを生きる 1 道德ノート		日本文教出版
多 III 142	日文 中学道德 あすを生きる 2		日本文教出版
多 III 143	日文 中学道德 あすを生きる 2 道德ノート		日本文教出版
多 III 144	日文 中学道德 あすを生きる 3		日本文教出版
多 III 145	日文 中学道德 あすを生きる 3 道德ノート		日本文教出版
多 III 146	教出 ひろがることば しょうがくこ くご 一下		教育出版
多 III 147	教出 ひろがることば 小学国語 二 下		教育出版
多 III 148	教出 ひろがる言葉 小学国語 三下		教育出版
多 III 149	教出 ひろがる言葉 小学国語 四下		教育出版
多 III 150	教出 ひろがる言葉 小学国語 五下		教育出版
多 III 151	教出 ひろがる言葉 小学国語 六下		教育出版
多 III 152	東書 新しい社会 5下		東京書籍
多 III 153	学図 みんなとまなぶ しょうがっ こう さんすう 1ねん下		学校図書
多 III 154	学図 みんなと学ぶ 小学校 算数 2年下		学校図書
多 III 155	学図 みんなと学ぶ 小学校 算数 3年下		学校図書
多 III 156	学図 みんなと学ぶ 小学校 算数 4年下		学校図書



多 III 157	学図 みんなと学ぶ 小学校 算数 5 年下		学校図書
多 III 158	学図 みんなとまなぶ しょうがっこう う せいかつ 下		学校図書
多 III 159	日文 ずがこうさく 1・2 下 たの しいな おもしろいな		日本文教出版
多 III 160	日文 図画工作 3・4 下 ためした よ 見つけたよ		日本文教出版
多 III 161	日文 図画工作 5・6 下 見つめて 広げて		日本文教出版
多 II 67 ①～②	学校通訳学習テキスト	坪谷美欧子	松柏社
多 II 68	高等学校における外国につながる生徒 支援ハンドブック		兵庫県外教
多 I 154 ①～②	新版 みえこさんのにほんご	鹿嶋恵/石川博子	公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 155 ①～②	新版 続みえこさんの日本語	鹿嶋恵/石川博子	公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 156 ①～②	新版 みえこさんのにほんご れん しゅうちょう1	石川博子/林朝子/ 藤本美知代	公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 157 ①～②	新版 みえこさんのにほんご れん しゅうちょう2	鹿嶋恵/石川博子	公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 158 ①～②	新版 みえこさんのにほんご れん しゅうちょう2 解答集	(財) 三重県国際交 流財団国際教育課	公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 159 ①～②	新版 続みえこさんの日本語 解答集	鹿嶋恵/石川博子	公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 II 69 ①～②	新版 みえこさんのにほんご 指導の アクセス	鹿嶋恵/石川博子/ 船見和秀	公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 II 70 ①～②	新版 続みえこさんの日本語 指導の アクセス	鹿嶋恵/石川博子	公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 160	新版 みえこさんのにほんご CD		公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 161	新版 続みえこさんの日本語 CD		公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 162 ①～②	新版 みえこさんのにほんご れん しゅうちょう1 CD		公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 163 ①～②	みえこさんのにほんご 名詞の絵カー ド100		公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 164 ①～②	動詞の絵カード100		公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 165 ①～②	形容詞の絵カード50		公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 166	日本昔話 こっば天狗 (スペイン語 版)	小倉肇	公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)
多 I 167	日本昔話 カエルの目はどこについて いる (スペイン語版)	小倉肇	公益財団法人三重県国 際交流財団 (MIEF)

多 I 168	日本昔話 ほら久 (スペイン語版)	小倉肇	公益財団法人三重県国際交流財団 (MIEF)
多 I 169	日本昔話 こっば天狗 (英語版)	小倉肇	公益財団法人三重県国際交流財団 (MIEF)
多 I 170	日本昔話 カエルの目はどこについている (英語版)	小倉肇	公益財団法人三重県国際交流財団 (MIEF)
多 I 171	日本昔話 ほら久 (英語版)	小倉肇	公益財団法人三重県国際交流財団 (MIEF)
多 I 172	紙芝居「だんだらぼっち」		公益財団法人三重県国際交流財団 (MIEF)
多 II 71	日本語指導の基礎 DVD		公益財団法人三重県国際交流財団 (MIEF)
多 I 173	日本語能力試験N3カタカナ語スピードマスター	清水知子	Jリサーチ出版
多 II 72 ①～②	Q&Aでわかる外国につながる子どもの就学支援	小島祥美	明石書店
多 I 200	ゆっくりていねいに学びたい子のための作文ワーク初級1	原田善造	喜楽研
多 I 201	ゆっくりていねいに学びたい子のための作文ワーク初級2	原田善造	喜楽研
多 I 202	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 1-1	原田善造	喜楽研
多 I 203	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 1-2	原田善造	喜楽研
多 I 204	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 2-1	原田善造	喜楽研
多 I 205	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 2-2	原田善造	喜楽研
多 I 206	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 3-1	原田善造	喜楽研
多 I 207	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 3-2	原田善造	喜楽研
多 I 208	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 4-1	原田善造	喜楽研
多 I 209	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 4-2	原田善造	喜楽研
多 I 210	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 5-1	原田善造	喜楽研
多 I 211	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 5-2	原田善造	喜楽研
多 I 212	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 6-1	原田善造	喜楽研
多 I 213	ゆっくりていねいに学びたい子のための読解ワーク 6-2	原田善造	喜楽研
多 I 214	どの子もわかる算数プリント 1-1	原田善造	喜楽研
多 I 215	どの子もわかる算数プリント 1-2	原田善造	喜楽研

多 I 216	どの子もわかる算数プリント 2-1	原田善造	喜楽研
多 I 217	どの子もわかる算数プリント 2-2	原田善造	喜楽研
多 I 218	どの子もわかる算数プリント 3-1	原田善造	喜楽研
多 I 219	どの子もわかる算数プリント 3-2	原田善造	喜楽研
多 I 220	どの子もわかる算数プリント 4-1	原田善造	喜楽研
多 I 221	どの子もわかる算数プリント 4-2	原田善造	喜楽研
多 I 222	どの子もわかる算数プリント 5-1	原田善造	喜楽研
多 I 223	どの子もわかる算数プリント 5-2	原田善造	喜楽研
多 I 224	どの子もわかる算数プリント 6-1	原田善造	喜楽研
多 I 225	どの子もわかる算数プリント 6-2	原田善造	喜楽研
多 I 199 ①~③	小学漢字1026字の正しい書きかた・使い方	小学館国語辞典編集部	小学館
多 I 174	100枚プリント 第1集 あんごうをとこう		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 175	100枚プリント 第2集 おはなしを読解ワーク：初級編		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 176	100枚プリント 第3集 ひらがな読解ワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 177	100枚プリント 第4集 おはなし読解ワーク：中級編		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 178	100枚プリント 第5集 会話練習ワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 179	100枚プリント 第6集 さくぶんれんしゅうワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 180	100枚プリント 第7集 おはなし読解ワーク：上級編		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 181	100枚プリント 第8集 ことばのクロスワード		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 182	100枚プリント 第9集 連語練習ワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 183	100枚プリント 第10集 活用練習ワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 184	100枚プリント 第11集 つばさくんのにつき		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 185	100枚プリント 第12集 語彙選択ワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 186	100枚プリント 第13集 自分のことを考えよう		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 187	100枚プリント 第14集 続おはなし読解ワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 188	100枚プリント 第15集 おしゃべり練習ワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 189	100枚プリント 第16集 がでにを練習ワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル

多 I 190	100枚プリント 第17集 算数文章題準備ワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 191	100枚プリント 第18集 俳句をよもう		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 192	100枚プリント 第19集 ことばのネットワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 193	100枚プリント 第20集 続・おはなし読解ワーク：中級		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 194	100枚プリント 第21集 疑問文練習ワーク I 《いつ・どこ・だれ・なに編》		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 195	100枚プリント 第22集 生活ストーリー読解ワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 196	100枚プリント 第23集 助詞・動詞穴埋めワーク		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 197	100枚プリント 第24集 おしゃべりを作ろう		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 I 198	100枚プリント 第25集 文章を直そう		言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
多 III 162	学校図書 しょうがっこう こくご一ねん上		学校図書
多 III 163	学校図書 小学校 こくご 二年上		学校図書
多 III 164	学校図書 小学校 国語 三年上		学校図書
多 III 165	学校図書 小学校 国語 四年上		学校図書
多 III 166	学校図書 小学校 国語 五年上		学校図書
多 III 167	学校図書 小学校 国語 六年上		学校図書
多 III 168	学校図書 しょうがっこう こくご一ねん下		学校図書
多 III 169	学校図書 小学校 こくご 二年下		学校図書
多 III 170	学校図書 小学校 国語 三年下		学校図書
多 III 171	学校図書 小学校 国語 四年下		学校図書
多 III 172	学校図書 小学校 国語 五年下		学校図書
多 III 173	学校図書 小学校 国語 六年下		学校図書
多 III 174	学校図書 しょうがっこう しょしゃ一ねん		学校図書
多 III 175	学校図書 小学校 しょしゃ 二年		学校図書
多 III 176	学校図書 小学校 書写 三年		学校図書
多 III 177	学校図書 小学校 書写 四年		学校図書
多 III 178	学校図書 小学校 書写 五年		学校図書
多 III 179	学校図書 小学校 書写 六年		学校図書
多 III 180	開隆堂 ずがこうさく 1・2上		開隆堂
多 III 181	開隆堂 ずがこうさく 1・2下		開隆堂
多 III 182	開隆堂 図画工作 3・4上		開隆堂
多 III 183	開隆堂 図画工作 3・4下		開隆堂
多 III 184	開隆堂 図画工作 5・6上		開隆堂

多Ⅲ 185	開隆堂 図画工作 5・6下		開隆堂
多Ⅲ 186	学研 みんなのほけん 3・4年		学研教育みらい
多Ⅲ 187	学研 みんなの保健 5・6年		学研教育みらい
多Ⅲ 188	学研 新・みんなのどうとく 1		学研教育みらい
多Ⅲ 189	学研 新・みんなのどうとく 2		学研教育みらい
多Ⅲ 190	学研 新・みんなのどうとく 3		学研教育みらい
多Ⅲ 191	学研 新・みんなの道徳 4		学研教育みらい
多Ⅲ 192	学研 新・みんなの道徳 5		学研教育みらい
多Ⅲ 193	学研 新・みんなの道徳 6		学研教育みらい
多Ⅰ 226 ①～③	ひらがなカード 第2版		くもん出版
多Ⅰ 227 ①～③	カタカナカード 第2版		くもん出版
多Ⅰ 228 ①～③	反対ことばカード 第2版	本堂寛	くもん出版
多Ⅰ 229 ①～③	書きかたカードカタカナ 第2版		くもん出版
多Ⅰ 230 ①～③	書きかたカード漢字 第2版		くもん出版
多Ⅰ 231 ①～③	かずカード 第2版	公文公	くもん出版
多Ⅰ 232 ①～③	とけいカード 第3版		くもん出版
多Ⅰ 233 ①～③	こよみカード 第2版		くもん出版
多Ⅰ 234 ①～③	くだものやさいカード 2集	木庭卓人	くもん出版

## V. 日本語0プログラムと支援の実際

### 1. 「想定される日本語指導の計画案」の改訂のためのアンケート調査

本研究の昨年度報告書において、「想定される日本語指導の計画案」（以下「計画案」）の開発について述べ、特徴を説明した上で改善点を探った。運用を重ねた今年度は、実際の活用在即してさらに改善点を挙げたい。

改善点を探るにあたり、日本語支援員（以下支援員）と青森県内の2つの教育委員会にアンケート調査を行った。支援員には「計画案」と支援の実際の差を踏まえ、「計画案」で変更すべき点がないか尋ね、9名から回答を得た。2つの教育委員会には、①この「計画案」が指導の大まかな見込みを得るのに役立ったか、②記述が不十分/不正確で理解するのに不便だった、加筆修正すべき点はあるか、③「計画案」に予算が入っていないが入っていた方がいいかを尋ねた。

まず、教育委員会からの回答を述べる。①については、どちらの教育委員会からも大まかな見込みや、段階ごとに必要な指導の内容がわかるとの回答があった。②については、どちらの教育委員会からも「計画案」の見にくさを指摘された。レイアウト、記述項目の行動主体の明確化などが求められた。③については、学校には必要ないが教育委員会に向けては予算を入れた方がいいという意見と、支援の実態は個々に異なり、支援過程の状況により費用も変わるので不要であるという回答があった。これらの意見から、①については目的を果たしているが、②については変更が必要であると言え、③については現状のままにすることにした。

次に、上記②を踏まえた上で、支援員からの回答から抽出した項目を載せた「計画案」の改訂版（表1）を示したい。網掛けでマークされているのが昨年度、下線でマークされているのが今年度、支援員からの回答で提案された変更・加筆部分である。

### 2. 改訂版「計画案」の変更点

以下で、改訂版の大きな変更点を述べる。まず、学習環境作り（対応すべき事柄）において、フェーズ0での教育委員会、学校、支援員、スーパーバイザーの各主体、さらに、教育委員会と学校、学校と支援員及びスーパーバイザーといった組み合わせでの役割を明示したことである。特に、教育委員会の役割として挙げた「学校と支援員へのコンサル（知識提供）」の事項は、支援開始後に不明確だと支援員の困惑につながる事柄である。学校の役割として挙げた「支援員を全教職員に紹介」することも、それにより支援員の立場が明確にされ、教員からの理解と協力を得られることが支援のしやすさにつながるため、重要なことである。また、学校と支援員及びスーパーバイザーの役割として「情報交換を密にし、支援内容や児童生徒の状況を共有」することも明記した。日本語0来日対応プログラムは学校側と支援員の協力体制を重視するものである。口頭での情報交換や支援日報の共有など、その支援現場に合ったやり方での協力体制の機能化を促すため、あえて明記した。さらに、本事業の大きな目的である多文化共生の学校・授業づくりの実現のため、教育委員会が先進事例の紹介、スーパーバイザーが資料やアイデアの紹介を行い、学校が外国につながる子どもを受け入れるクラスの雰囲気づくりをフェーズ0で行うことを明記したことも新たな点である。

次に、日本語指導の内容、目標であるが、フェーズ0で給食や掃除、トラブル時を想定しての指導や

説明が加わった。これらは保護者ともども理解しておくべき事項であり、保護者を含めた指導ということになる。フェーズ3以降は教科学習場面を意識した項目が加わった。特に、学習参加のための日本語指導が本格化し、学級参加の程度が増加・深化するフェーズ4と5は、昨年、両者の弁別が難しいという意見が出たが、児童生徒の母学級でのふるまいに即し、改訂版ではアウトプットを中心とした記述が増え、レベルの違いが出た。

さらに、フェーズごとにその期間の特徴を示す短い説明も加えた。

### 3. 今後に向けて

最後に、今回のアンケートから、支援の開始や経過にもなつて支援員同士で確認・共有すべき事項があることがわかった。例えば、前任者からの引継ぎの手順や事項、その方法である。支援を引き継ぐにあたり、前任者やスーパーバイザーから話を聞き、それまでの日報を参照することはできるが、支援を開始するとそれだけでは不十分かもしれない。また、コロナ禍により対面支援から置き換わったオンライン指導であるが、ミーティングアプリ Zoom の使い方の講習とオンライン用指導案の必要性を指摘する意見もあった。これらは計画案の留意事項として書き示すこともできるが、定期的に支援員を集めてフォローアップ研修などで扱うべきであろう。さらに、昨年度のインタビューでも今年度のアンケートでも、支援員の取るべき態度について様々な「ビリーフ（信念）」（例えば、「子どもにとって『権威者』でなく対等な存在としてフレンドリーに接する」「個別の支援計画の中の本人・保護者の願いが学校生活を楽しむことであれば、教科学習の支援は最低限にする」など）が述べられたが、フォローアップ研修などで他の支援員の支援の様子を聞き今後の支援のヒントを得たり、様々なビリーフに触れることで自らの支援を振り返ったりすることもできる。フェーズ2と3で支援員の役割となっている教材の準備についても同様で、どんな教材がどのような場合に有効かなど、特に支援歴の浅い支援員には他の支援員と交流しながら学ぶことは多いと思われる。

日本語指導の目標は、児童生徒が学校の内外での生活や授業で困らないようにすることと同時に、多文化共生を担う主体の一人としての自己表現を可能にすることである。「計画案」にはないが、指導員にも多文化共生を視野に入れた指導への意識とアイデアが求められる。これも、今後、フォローアップ研修などで繰り返し確認し、知見を共有・蓄積していくことが必要だと思われる。

お忙しい中、アンケートにご回答くださり、貴重なご意見と様々な改善案を示して下さいました支援員、教育委員会の方々に、末筆ながら深く感謝申し上げます。

田中 真寿美（青森中央学院大学）

表1 日本語指導計画（期間の目安と内容）22年版

・週当たり4～6時間での学習対応日本語指導での例 ・2-3年のスパンで考える

学習環境作り（対応すべき事柄）	日本語指導の内容、目標
<b>フェーズ0 受け入れ決定～準備期</b>	
<p>●教育委員会の役割</p> <p>①チーム（学校運営協議会）結成と会議コーディネート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校、スーパーバイザー、支援員、通訳（+母語支援員）、保護者などに連絡</li> <li>・チームと児童生徒+保護者との顔合わせの日程調整、通訳、翻訳者の手配、多言語資料の用意</li> <li>・顔合わせの際に個人調書（調査票）の作成と保護者の日本語力の確認</li> </ul> <p>・次回以降のチーム会議日程計画</p> <p>②学校と支援員へのコンサル（知識提供）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語多文化環境を生かした学校の事例の紹介</li> <li>・翻訳を依頼する場合の手続きの説明</li> <li>・支援開始後、支援員が何を誰に確認/報告すべきかの明確化</li> </ul> <p>③保護者支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員、通訳者と連携して保護者の手続き支援</li> </ul> <p>●教育委員会と学校の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム内で学年の協議、決定</li> </ul> <p>●学校の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援員を全教職員に紹介</li> <li>・外国につながる子どもを受け入れるクラスの雰囲気づくり</li> </ul> <p>●スーパーバイザーの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語環境を生かした学校づくりやクラスの雰囲気づくりについて、学校に資料やアイデア提供</li> </ul> <p>●日本語支援員の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材や支援場所、必要な情報など学校への要望のリスト化</li> </ul> <p>●学校と支援員とスーパーバイザーの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換を密にし、支援内容や児童生徒の状況を共有</li> <li>・ケース会議の開催、次回以降の日程調整</li> </ul>	<p>●保護者と児童生徒への説明、指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要ならば多言語資料やウェブも活用し、日本の学校文化、流れなどについて説明</li> <li>・特に、給食時や掃除で求められる行動（並ぶ、片付けるなど）を指導</li> <li>・トラブル時の対応について、フローチャートなどを用いて説明（当該児童生徒が加害者になった場合の親の謝罪などを含む）</li> </ul>
<p><b>フェーズ1 学校生活への適応のための初期指導開始</b></p> <p>【日本語指導の頻度・期間の目安】低学年：受入1日目から毎日、2週間程度                      高学年：受入1日目から毎日、1～2週間程度                      中学生：受入1日目から毎日、3日～1週間程度</p>	
<p>●学校と支援員、スーパーバイザーの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換を密にし、支援内容や児童生徒の状況を共有</li> <li>・フェーズ2以降の指導計画（頻度、教科など）を作成</li> </ul> <p>●学校の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じ、母語支援員、翻訳機の手配</li> </ul> <p>●支援員の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「0パックセット」の配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の1日の流れが理解できる</li> <li>・身の回りの物や人の名前が理解できる</li> <li>・簡単な挨拶や日常よく使われる定型表現（例「待って」）を理解できる、使用できる</li> <li>・健康や安全に関する簡単な指示（例「あぶない」）を聞いて理解できる</li> </ul>
<p><b>フェーズ2 基礎的な日本語指導の開始 支援付きで部分的な学級参加</b></p> <p>【日本語指導の頻度・期間の目安】週6～15時間 ここまでで2週間～3か月かかる</p>	
<p>●学校と支援員、スーパーバイザーの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換を密にし、支援内容や児童生徒の状況を共有</li> </ul> <p>●スーパーバイザーの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DLAの実施（はじめの一步）</li> </ul> <p>●支援員の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルビ振り教材の準備</li> </ul>	<p>●基礎的な日本語指導</p> <p>●学習参加のための日本語指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらがな、カタカナが読める、書ける</li> <li>・基本動作や2語文程度の用言で、簡単な意思確認ができる</li> </ul>



学習環境作り（対応すべき事柄）	日本語指導の内容、目標
<b>フェーズ3 学習参加のための日本語指導の開始</b> 支援付きで部分的学級参加 <b>【日本語指導の頻度・期間の目安】週6～15時間</b> ここまでで1～8か月かかる	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校と支援員、スーパーバイザーの役割               <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換を密にし、支援内容や児童生徒の状況を共有</li> </ul> </li> <li>●スーパーバイザーの役割               <ul style="list-style-type: none"> <li>・DLAの実施（話す）</li> </ul> </li> </ul> <p>※DLA=外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA</p> <p>日常会話はできるが教科学習に困難を感じている児童生徒に、「導入会話」と「語彙力チェック」、「話す」「読む」「書く」「聴く」といった言語技能を、会話の流暢度、音韻や文字や文法などの言語能力、教科学習言語能力の面から測定し、児童生徒の言語能力と必要な学習支援を把握するために行う対話型の評価方法。</p> <p><a href="https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm">https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/1345413.htm</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●支援員の役割               <ul style="list-style-type: none"> <li>・リライト教材の準備</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基礎的な/技能別日本語指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・感情表現や、「わざとじゃないよ」「もうやめて」などトラブル時の表現、自分の気持ちが言える</li> </ul> </li> <li>●学習参加のための日本語指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字が少し読めて書ける</li> <li>・身近なことや自分について、モデル文に従って単文を話したり、書いたりできる</li> <li>・リライト教材が読めて、補助があれば内容も理解できる</li> <li>・理解した内容について、簡単な感想を言える</li> </ul> </li> </ul>
<b>フェーズ4 学習参加のための日本語指導の本格化（支援付での）学級参加の程度深化</b> <b>【日本語指導の頻度・期間の目安】低学年：～週6時間</b> ここまでで3か月～1年かかる <b>高学年/中学生：～週6時間</b> ここまでで4か月～1.5年かかる	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校と支援員、スーパーバイザーの役割               <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換を密にし、支援内容や児童生徒の状況を共有</li> </ul> </li> <li>●スーパーバイザーの役割               <ul style="list-style-type: none"> <li>・DLAの実施（読む）</li> </ul> </li> </ul> <p>※可能ならばDLA（聴くA）実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習参加のための日本語指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年相当より下の漢字が読める</li> <li>・補助があれば授業の言葉が聞き取れる</li> <li>・補助があれば教科書の内容が理解できる</li> <li>・視聴覚的資料や支援員の言語的援助、ジェスチャーなどがあれば、ペアワークやグループワークの中で自分の意見を話したり、ある程度決められた内容をみんなの前で話したりできる</li> </ul> </li> <li>●基礎的な/技能別日本語指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近なことについて、短い文章を書くことができる</li> </ul> </li> </ul>
<b>フェーズ5 学習参加のための日本語指導中心 支援なしでの学級参加の増加</b> <b>【日本語指導の頻度・期間の目安】低学年：週2～4時間程度</b> ここまでで1～2年かかる <b>高学年/中学生：週2～4時間程度</b> ここまでで1～3年かかる	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校と支援員、スーパーバイザーの役割               <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報交換を密にし、支援内容や児童生徒の状況を共有</li> </ul> </li> <li>●スーパーバイザーの役割               <ul style="list-style-type: none"> <li>・DLAの実施（書く/聴く）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習参加のための日本語指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年相当の漢字が読める</li> <li>・学年相応の授業内容がおおよそ理解できる</li> <li>・授業の内容について、簡単に要約して話すことができる</li> <li>・自分の意見をみんなの前で話せる</li> </ul> </li> <li>●基礎的な/技能別日本語指導               <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い生活場面で日本語を使用することができる</li> <li>・自分の体験などについて、短い作文を書くことができる</li> </ul> </li> </ul>

## VI. 地域の支援ネットワークの強化

この章では、本調査研究事業推進にあたっての、県内の連携について整理しておきたい。

なお、研究拠点校に関わる連携については第 I 章で詳しく取り上げているため、ここではそれ以外の連携について、記述する。

来年度完成予定の「多文化共生に向けた日本語指導が必要な子どもの受け入れガイドブック（仮称）」の作成においては、以下に記述する関係者の連携を踏まえて、県内の支援体制ネットワークが記載される予定である。

### VI-1 研究協議会

本年度の研究協議会は構成員<sup>1</sup>が令和 2 年度と比べて増えたため、全体会議に加え、運営会議と研究拠点校会議で構成した。

研究拠点校会議は、研究拠点校委員、所管する教育委員会委員、多文化スーパーバイザーで、主として、研究拠点校における支援の在り方や効果検証について検討した。運営会議は、ガイダンスや交流合宿（非開催）、人材育成、県内の支援ネットワーク構築等について検討した。開催回数は、全体会議 2 回（5 月 28 日、3 月 17 日）、研究拠点校会議 2 回（8 月 23 日、12 月 21 日）、運営会議 2 回（10 月 8 日、11 月 30 日）である。コロナ下であるため、いずれもオンライン開催とした。

### VI-2 教育委員会との連携

#### (1) 県教育委員会との連携

- ・ 青森県「日本語指導が必要な外国人児童生徒担当教員等連絡協議会」における連携  
令和元年度から基本的に年 2 回開催されている同連絡協議会には、本事業関係者が参加し、県内各地の状況や本事業の取組について情報共有、協議を行った。本年度はコロナのため、12 月に 1 回開催となった。
- ・ 外国につながる子どもと保護者のための高校進学ガイダンスの共催  
高校進学ガイダンスには、青森県教育委員会が共催、学校教育課高等学校指導グループ指導主事が県立高等学校入学者選抜を説明し、相談対応した。また、周知にも協力を得た。
- ・ 本事業終了後に向けた支援体制構築のため、令和 4 年度からの独自予算の確保  
青森県教育委員会は、一般社団法人自治体国際化協会の「多文化共生まちづくり促進事業」の助成を受け、令和 4 年度から「AOMORI 多文化共生推進事業」を進めることになった。同「日本語指導スタートアップパッケージ」による日本語支援の実施、中学生・高校生の進学・キャリア支援の充実のための取組、外国人保護者と学校の連携のための取組について、今後、弘前大学教育学部多文化リソースルームとしても協力していく。

---

<sup>1</sup> 研究協議会のメンバーについては、5 ページ参照。

- ・ スキルアップ研修講座等の後援及び周知への協力  
スキルアップ研修講座についても、青森県教育委員会に後援、周知等の協力を得た。

## (2) 青森市教育委員会との連携

- ・ 小学校 3 校、中学校 2 校の研究拠点校における連携  
令和 2 年度の小学校 2 校、中学校 1 校に加え、日本語指導が必要な児童生徒が入学した小学校 1 校、中学校 1 校を研究拠点校として、多文化リソースルームから、多文化スーパーバイザー、母語支援員、日本語支援員を派遣した。
- ・ 外国につながる子どもと保護者のための高校進学ガイダンスの後援  
県内全域の小中学生と保護者を対象とした高校進学ガイダンスを実施するにあたり後援を得た。

## (3) 平川市教育委員会との連携

- ・ 連携の経緯  
令和 3 年 4 月当初、アメリカから転入した兄妹の日本語指導について、青森県国際交流協会を介して、平川市教育委員会より、多文化リソースルームに相談があった。以前日本にいたことがあるため、日常会話に大きな問題はないが、保護者が学習言語の点で心配しており、何らかの支援ができないだろうかという相談であった。支援について相談するため、多文化リソースルーム代表と多文化スーパーバイザーが学校を訪問し、多文化リソースルームから支援員の派遣ができるかどうか、市教育委員会及び学校と相談した。
- ・ 市教育委員会の独自予算の確保に向けた DLA の実施と支援計画概要の作成  
本調査研究事業の研究拠点校はすでに確定し、予算も配分済みだったため、平川市としての独自予算は可能かどうかを相談したところ、予算確保の判断資料とするため、多文化リソースルームとしてどのような支援が必要か、多文化スーパーバイザーが児童二人に DLA を実施し、その結果とともに支援計画概要と支援費用の見積もりを市教育委員会に提出した。
- ・ 日本語指導支援員等派遣事業実施要綱の作成と支援の開始  
市教育委員会は予算確保の見通しがたったことから、多文化リソースルームと協議の上、令和 3 年度平川市日本語指導支援員等派遣事業実施要綱を作成し、5 月より支援開始となった。多文化リソースルームからは、多文化スーパーバイザー、教職大学院生の学校生活支援員を派遣した（支援頻度等は、第 I を参照）。
- ・ 支援の終了と事業報告会における指導主事による報告  
平川市の支援は、本人たちの学習状況を踏まえ、令和 3 年度で終了となる予定である。  
平川市の取組は、散在地域の学校に日本語指導が必要な児童生徒が急に転入してきた場合に、参考となる事例である。そのため令和 4 年 3 月 17 日に実施予定の本事業の報告会において、平川市教育委員会の担当指導主事に報告をお願いしている。

## (4) 五所川原市教育委員会との連携

- ・ 連携の経緯

1月になって、仕事のための一家転住でフィリピンから来日した日本語0(ゼロ)の児童の受入れについて、五所川原市教育委員会から多文化リソースルームに相談があった。五所川原市としては初めてのケースとのことであった。

多文化リソースルームとの相談の結果、今年度予算については五所川原市として確保できる見通しとのことで、多文化スーパーバイザーの派遣等は、多文化リソースルームが担当、支援員費用は五所川原市教育委員会が負担することで、支援員を派遣することとなった。

- ・ 学校での打合せと児童及び保護者との面談

多文化リソースルームから多文化スーパーバイザーが訪問し、市教育委員会指導主事、学校管理職、担任教諭と、多文化共生の教室づくりも含めて、児童の受け入れについて打合せを行った。また、その後、児童と保護者から状況を聞き取り、支援について説明をした。青森県国際交流協会のタガログ語通訳に、オンラインで通訳をしてもらった。なお、打合せと面談には、多文化リソースルーム代表もオンラインで同席した。

- ・ 五所川原市周辺の支援人材の確保

予算も確保され、1月下旬から支援が開始されたが、支援員の人材確保には、困難が伴った。冬季であり、地吹雪の激しいエリアなので、遠方からの支援員派遣が困難だったからである。そこで、日本語0で英語ができる児童の状況を考え、週3回は同市在住の母語支援員を確保、近隣の町に住む多文化スーパーバイザーが週2回、日本語支援員として入る体制をとった。近隣の支援員確保は、散在地域、特に冬季の東北では大きな課題といえる。いずれはオンラインも併用する可能性もあるが、小学校低学年で日本語が全くできない場合、初期段階では学校生活全般に寄り添う対応が望ましい。今後の県内全域での支援人材の確保について、考えさせられる事例であった。

#### (5) 弘前市教育委員会との連携

- ・ 教員・支援員対象の研修講座の実施

弘前市教育委員会は、独自に5名の日本語支援員を雇用している。このため、弘前市立の小中学校への支援員派遣はないが、教員研修及び支援員のブラッシュアップ研修に、多文化リソースルームとして協力している。今年度は4月と10月に弘前市教育委員会主催・弘前大学教育学部多文化リソースルーム共催で、研修会を実施した。

- ・ 外国につながる子どもと保護者のための高校進学ガイダンスの後援と協力

高校進学ガイダンスでは、後援団体となっていただいた。日本語を母語としない小中学生及びその保護者への高校進学ガイダンスの必要性について共通の認識を持ち、弘前市内の小中学生及び保護者に周知、参加の確認について協力を得た。

- ・ 日本語0の小学生児童の多文化リソースルームでの放課後支援

年度途中で弘前市立小学校に転入した日本語0の児童について、学校での支援は支援員が対応するものの、補充的な日本語指導を保護者が希望しており、教育委員会と相談の上、学校との連携支援ではなく、本人・保護者の希望による多文化リソースルームでの週2回の放課後支援を実施し、教職大学院生が中心となって対応している(詳細は、第3章を参照のこと)。

(6) おいらせ町教育委員会との連携

・ 町立小学校での支援

おいらせ町立小学校で、アフガニスタン児童2名の支援を行った。日本語指導だけでなく、イスラム圏の文化をもつ子どもたちで学校生活上の様々な配慮が必要であったこと、少数言語を話す保護者との意思疎通にも課題があったことが支援要請の大きな背景にあった。ただし、子どもたちは夏休み前に転校したため、支援自体は短期で終了した。

・ 在留資格に関する情報提供

おいらせ町立学校に通う児童の在留資格の切り替えについて、情報提供を行った。家庭の背景が複雑であったことから、専門的な情報が必要であった。外国につながる児童生徒の場合、在籍の継続や進路保障のために、在留資格の把握と、場合によっては在留資格の切り替えなどについて情報提供が必要である場合が少なくない。今後、多文化リソースルームとして県内の学校からの相談に応じていきたいと考える。(詳細は、おいらせ町教育委員会による成果と課題を参照のこと)。

(7) 八戸市教育委員会

・ 外国につながる子どもと保護者のための高校進学ガイダンスの後援

八戸市は、NPO 法人みちのく国際日本語教育センターと連携した日本語指導を実施しており、支援における直接の連携はないが、県内全域の小中学生と保護者を対象とした高校進学ガイダンスを実施するにあたり後援を得た。

VI-3 県内関係団体との連携

(1) 青森県国際交流協会

・ 青森県日本語指導サポータースキルアップ講座の共催

第三章で記したように、青森県国際交流協会は、青森県日本語指導サポーター養成講座を令和2年度～4年度に開催してきた。本事業で子どもの日本語支援に関わる内容に特化したスキルアップ講座を実施するにあたっては、サポーター養成講座の履修生・修了生が多数参加することが想定されたため、青森県国際交流協会は同講座を共催し、申込受付等を担当するなど協力して運営に当たった。

・ 日本語指導サポーター養成講座修了生リストの共有

多文化リソースルームとして広い県内に散在する日本語支援人材を把握していくため、青森県国際交流協会の日本語指導サポーター養成講座の修了生リストの共有をさせていただいた。個人情報であるため、青森県国際交流協会から修了生に対して「学校に入っている子どもへの日本語支援」「平日の午前中を中心とした支援」等の条件を伝え、共有する情報の範囲等を確認の上、ご本人から提供の同意がとれた方々について、リストの提供を受けた。今後、県内における支援に役立てる予定である。

・ 外国につながる子どもと保護者のための高校進学ガイダンスにおける後援と幅広い協力

青森県国際交流協会も後援団体となった高校進学ガイダンスについても、同団体によるさまざま

まな面での協力は、ガイダンスの成功に向けて大きな力となった。青森県国際交流協会は、今年の秋に来日し、中学校卒業資格を持つため青森県の学校に在籍していないネパール人の子どもの相談を受けていた。この子どもがオンライン・ガイダンスに参加しやすいよう、青森県国際交流協会のスペースを提供、普段から顔見知りの職員が同席する形をつくった。また、青森県国際交流協会は、中国語、タガログ語、英語等の通訳人材を有しており、高校進学ガイダンスにおいては、多文化リソースルームとして、中国語とタガログ語の通訳の紹介を受けた。

- ・ その他、通訳派遣への協力

学校での面談等での通訳派遣についても、青森県国際交流協会から通訳の紹介を得た。

## (2) 青森大学日本語教育センター

- ・ 多文化スーパーバイザー

青森大学で日本語教育センター長を務める石塚ゆかり氏に多文化スーパーバイザーをお願いしている。担当する青森市立小中学校への支援員派遣にあたっては、その事務手続きを日本語教育センターの事務局員の協力を得た。

- ・ 支援員人材の紹介

青森大学は日本語教師養成課程を有する大学であり、本年度から導入した「学校生活支援員」については、青森大学の日本語教師養成課程で学ぶ学生2名も支援員となっている。

- ・ 青森県日本語指導サポータースキルアップ講座の共催

前述の青森県国際交流協会が主催する青森県日本語指導サポーター養成講座は、青森大学の「日本語教員プログラム養成講座」の一部を青森県国際交流協会で開催しているプログラムであり、講座のメイン講師として青森大学の石塚氏が養成に当たっている。そのため、スキルアップ講座についても、青森大学共催、青森会場も青森大学の教室とするなど、開催に向け全面的に協力を得た。2日目午後のプログラムでは、石塚氏に講師をお願いした。

## (3) 青森中央学院大学

- ・ 多文化スーパーバイザー

青森中央学院大学で日本語教育を担当する田中真寿美氏に多文化スーパーバイザーをお願いしている。

- ・ サテライトキャンパスでの居場所支援

青森中央学院大学のサテライトキャンパスである新町キャンパスにおいて、同大学の学生をボランティアとする居場所支援を兼ねた学習支援教室を実施した。コロナ下であるため、活動には難しい面もあったが、通っていた研究拠点校の中学生は、楽しそうに学び、コロナ後の本格実施が期待される。

- ・ 効果検証の実施

令和3年度は、支援2年目となり、支援の効果検証が重要なテーマであった。検証にあたっては、普段直接子どもや担当教諭に接している支援員や多文化スーパーバイザーではない者が、客観的に実施することとしたため、研究拠点校に直接多文化スーパーバイザーとして入っていない田中氏は、弘前大学の桐村とともに中心となって効果検証を担当した。

(4) NPO 法人みちのく国際日本語教育センター

- ・ 多文化スーパーバイザー

副理事長の明日山幸子氏に、多文化スーパーバイザーをお願いしている。

- ・ 支援人材の紹介

MIJEC は、八戸市とその周辺地域で学校での日本語支援を担ってきた団体であり、子どもへの日本語支援の経験豊富なメンバーを複数有している。おいらせ町立小学校の支援に当たっては、MIJEC のメンバーが支援員となった。

- ・ 青森県日本語指導サポータースキルアップ講座の共催

MIJEC は青森県日本語指導サポータースキルアップ講座を共催、講師選定及びプログラム内容の企画においては、明日山氏の協力を得た。また、2 日目午後のプログラムでは、明日山氏に講師をお願いした。また、八戸地域の子どもの日本語支援関係者への広報にも協力を得た。

- ・ 外国につながる子どもと保護者のための高校進学ガイダンスでの連携

高校進学ガイダンスでは、日本の高校に進学している外国人の高校生の経験談が、重要な内容として組み込まれていた。高校生のうち 1 名は、MIJEC が学習支援を担当した、八戸地域で私立高校に進学したフィリピン出身の生徒をお願いした。また、八戸地域の日本語を母語としない子どもや保護者への周知にも協力を得た。

(5) 外国につながる子どもの教育支援研究会との連携

- ・ 事業報告会の共催

本調査研究事業受託以前から始まっていた、青森県内の外国につながる子どもの教育支援に関心を有する関係者による研究会で、弘前大学の吉田、青森大学の石塚氏、青森中央学院大学の田中氏が世話人を務める。本調査研究の展開にあたって、全般的に協力を得ており、3 月 17 日実施予定の本事業報告会は、外国につながる子どもの教育支援研究会と共催となっている。

## VII. ガイドブックの作成に向けて

本事業の今年度の取組を踏まえて、来年度には、青森県版「多文化共生に向けた日本語指導が必要な子どもの受け入れガイドブック(仮称)」を完成させる予定であり、本年度はその骨子案を作成した。ガイドブックは、文部科学省『外国人児童生徒受け入れの手引き(改訂版)』を補い、青森県における受け入れの実際を想定した情報で構成する。

第VI章に記したように、青森県教育委員会が令和4年度から「AOMORI 多文化共生推進事業」に取り組むことになったこと、平川市教育委員会、五所川原市教育委員会が多文化リソースルームと連携して独自予算による支援を行ったこと、「外国につながる子どもと保護者のための高校進学ガイダンス」や「青森県日本語指導サポータースキルアップ講座」などを通して県内の関係機関の連携が深化したこと等は、受け入れに向けた仕組みづくりの骨子を考える上で重要な要素となった。来年度は、この骨子案をもとに、研究協議会等を通して検討を進め、受け入れガイドブックを完成させたい。

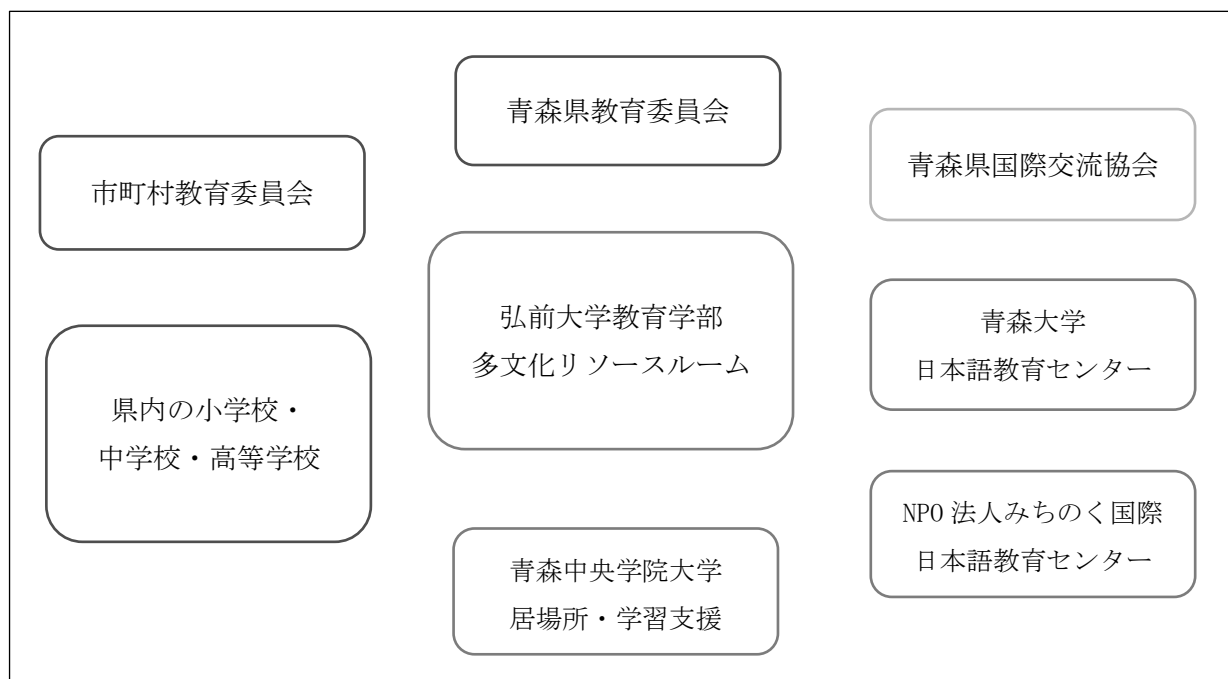
### ガイドブック骨子案

以下の骨子案は、あくまで検討中のものであり、来年度、関係機関と詳細を詰めていく。

#### (1) 日本語指導が必要な子どもが転入してきたら…

- ① 学校、市町村教育委員会、県教育委員会、大学の多文化リソースルーム、国際交流協会、NPO 法人などのそれぞれの役割とネットワーク

青森県全体としての支援体制の図(詳細は今後調整)



→最終的な図を描くにあたって、次の情報を踏まえる。



・ 県内 40 市町村の支援体制

日本語支援員を直接雇用・弘前大学教育学部多文化リソースルームと連携	弘前市
弘前大学教育学部多文化リソースルームから日本語支援員派遣実績あり	青森市・五所川原市・平川市・おいらせ町
NPO 法人みちのく国際日本語教育センターから日本語支援員派遣実績あり	八戸市・南部町・階上町
県費負担教員の加配があり、英語に特化した学校教育支援員を配置	三沢市
地域の国際交流協会と連携実績あり	十和田市
これまで日本語支援員の配置なし	他 30 市町村

\* 令和 2 年度に多文化リソースルームが市町村教育委員会を対象に実施した「日本語指導が必要な児童生徒の教育支援及び多文化共生教育に関する調査」等を参考にして作成。令和 4 年度の早い時期に、その時点の状況について再度確認する。

・ 青森県教育委員会「AOMORI 多文化共生推進事業」

「日本語指導スタートアップパッケージ」による日本語支援の実施  
 中学生・高校生の進学・キャリア支援の充実のための取組  
 外国人保護者と学校の連携のための取組

・ 青森県国際交流協会

外国人相談窓口（対面相談、三者間通話通訳等）  
 中国語、タガログ語、英語、ベトナム語、インドネシア語  
 子どものための日本語学習支援基金（日本語能力試験受験料補助、日本語学習教材給付事業）  
 不就学の子どもへの対応

・ 弘前大学教育学部多文化リソースルーム

日本語支援員・母語支援員・多文化スーパーバイザー紹介  
 （青森大学日本語教育センター、NPO 法人みちのく国際日本語教育センター等とも連携）  
 D L A の実施  
 教員研修、校内研修会の講師派遣  
 長期休暇、放課後及び不就学の子どもへの日本語支援  
 キャリア支援（高校進学ガイダンス、大学進学等）  
 日本語支援員人材育成（教職大学院科目、教養教育科目等）

・ 青森大学日本語教育センター

日本語支援員・多文化スーパーバイザー紹介  
 日本語支援員人材養成（日本語教師養成課程等）  
 弘前大学と連携協定

・ 青森中央学院大学

多文化スーパーバイザー紹介  
 新町キャンパスでの居場所・学習支援教室

・ NPO 法人みちのく国際日本語教育センター

日本語支援員・多文化スーパーバイザー紹介時の連携

② 子ども、保護者、学校、教育委員会それぞれの視点からの支援へのアクセス

新たに日本語指導が必要な児童生徒を受け入れる市町村教育委員会

(ア) 支援員派遣等の予算を持たない市町村教育委員会は、青森県教育委員会に「AOMORI 多文化共

生推進事業」の活用について相談する。

- (イ) 具体的な支援員派遣や通訳配置について、弘前大学教育学部多文化リソースルームに相談する。
- (ウ) 「AOMORI 多文化共生推進事業」終了後の予算について検討する。

※ すでに受け入れ経験があり、支援員派遣のしくみや予算を有する場合も、必要に応じて多文化リソースルームに、支援員派遣や通訳配置について相談することができる。

#### 新たに日本語指導が必要な児童生徒を受け入れる学校

- (エ) 市町村教育委員会からの連絡を受け、受け入れ体制について相談する。
- (オ) 多文化版個別の教育支援計画・個別の指導計画の様式を参考に、基本的な情報の収集に努める。
- (カ) 弘前大学多文化リソースルームに DLA の実施や支援員派遣について相談する。

※ 新たな受け入れでなくても、児童生徒の日本語指導に不安のある場合、多文化リソースルームに相談することができる。

#### 日本語を母語としない子ども・保護者

- (キ) 就学や学校での支援について、小中学校は市町村教育委員会に、高等学校は県教育委員会に相談する。

- (ク) 言語等の面でサポートが欲しい場合や、日本の教育事情などについて幅広く知りたい場合などは、青森県国際交流協会、弘前大学教育学部多文化リソースルーム、NPO 法人みちのく国際日本語教育センター等にも相談することができる。

※ 日本の学校についての情報コラムなども検討

※ 日本語を母語としない子どもと保護者を対象とした部分は多言語化を検討

### ③ 受け入れの実際

- (ア) 指導のめやすとしての日本語 0 (ゼロ) プログラム
- (イ) 教育委員会・学校・多文化リソースルーム等の連携
- (ウ) 教員と多文化スーパーバイザー・支援員の連携
- (エ) ケース会議の設置と運営
- (オ) 本人・保護者との意思疎通－通訳の活用
- (カ) 個別の教育支援計画・個別の指導計画の策定

3つの視点－学校生活支援、日本語学習・教科学習支援、多文化共生・母語母文化尊重

- (キ) 校内研修

### (2) 多文化共生に向けた日本語指導・多文化共生の学校づくりの実践例

- ・ 授業のユニバーサルデザインと多文化共生
- ・ 生活言語と学習言語の違いを意識した教室での支援
- ・ 母語・母文化を尊重し、多文化共生の要素を取り入れた授業の展開
- ・ 学校行事やホームルーム活動における多文化共生の取組

### (3) 外国につながる子どものキャリア支援のために

- ・ キャリア支援のための基本的な情報提供
- ・ 高校進学ガイダンスの開催と周知
- ・ 大学進学のためのキャリア支援事例の紹介

### (4) 地域の相談連絡先と Q&A

吉田 美穂 (弘前大学)

文部科学省委託事業

令和3年度「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」

吉田美穂（弘前大学教職大学院）  
桐村豪文（弘前大学教職大学院）  
土岐賢悟（弘前大学教職大学院）  
笹森圭子（弘前大学多文化リソースルーム）  
石塚ゆかり（青森大学）  
田中真寿美（青森中央学院大学）  
齋藤ひろみ（東京学芸大学）  
松岡洋子（岩手大学）  
淋代秀樹（青森県教育庁学校教育課）  
村元治（弘前市教育委員会教育センター）  
工藤哲也（青森市教育委員会指導課）  
坂本寛実（平川市教育委員会）  
黒滝智司（五所川原市教育委員会）

松林義一（おいらせ町教育委員会）  
藤本徹（（公財）青森県国際交流協会）  
明日山幸子（NPO 法人みちのく国際日本語教育センター）  
葛西裕美（青森県社会福祉協議会）  
高橋清樹（認定 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ）  
各拠点校 担当教員の皆様

令和3年度 文部科学省委託事業

「多文化共生に向けた日本語指導の充実に関する調査研究」報告書

令和3年3月28日 発行

編集 吉田 美穂 笹森 圭子 上遠野 沙由里  
発行者 弘前大学教育学部多文化リソースルーム  
住所 青森県弘前市文京町1番地  
電話 0172-39-3454  
印刷所 やまと印刷株式会社